V.0457

和漢雜いろは辭典

高橋五郎著

東京 小林家藏版

指南錄

題以呈日本法基

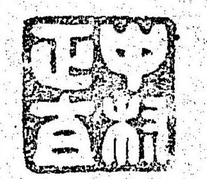
序

宅伯斯他（スタープス）作英語字書、序中有曰、余遺此書于國人、深望其修善日進、福祉增長、財貨日多、智識日富、志行敬虔、令吾邦尊榮、又深感謝

至大至仁之主、保祐吾弱體、令成就斯業於艱難勞苦之中、正宜曰此書之作者、蓋有同於宓氏之深望、感謝者其所以增長邦人之福祉、豈淺鮮哉、喜而題

明治二十一年十月

文學博士中邨正直



小序

余輩辭書ノ學ヲ振起シ、辭書ノ必要ヲ唱道セント欲シ、茲ニ大辭典ノ基礎ヲ置ヱ、先ッ漢英對照いろは辭典ト云フヲ著ハシタリ、終ニハ江湖諸君ノ贊成ニ由リ之ヲ以テ我國ノ大ウエブストルト爲スノ日アラン事ヲ期ス、然レ𪜈該辭典タル英文ノ對照有ルガ爲メ語數夥多ニシテ代價亦隨テ廉ナラズ、加フルニ未ダ英字ヲ知ラザル諸君ニハ殆ンド其用ナシト云フモ可ナリ、依テ今回英語解釋ヲ省キ、又一般ニ必要ナラザル語ヲ略シ、更ニ遺漏ニ係レル有用ノ和漢語凡三千ヲ補充シ、一層解釋ヲ精密ニメ、此書ヲ出版シ、專ラ事務鞅掌ノ諸君及和漢學ニ從事セラルヽ諸君ニ便セントス、蓋シ我國ニ於テ西洋法ニ倣ヒ著作シタル和漢字書ハ此いろは辭典ヲ以テ嚆矢トス、想フニ我國亦是ヨリシテ邦語字書ノ有用ナルヲ知ルニ至ラン

明治廿一年十一月十日

著者識

緒言

凡ソ其術ニ精巧ナラントセバ先其器械ヲ精良ナラシメザル可ラズ、辭書ハ即チ文學ノ構成ニ用フル器械タルニ外ナシ、此器械ニシテ備ハラズンハ文學ノ精華ヲ期シ難シ、此器械ニシテ有ル事ナクンバ國語ノ一半ハ既ニ死シテ屠滅ニ屬スト謂フ可シ、今日ノ如キ奎運隆盛ノ時機ニ際シテ豈之ニ隨伴スルノ好辭書ナクシテ已ム可ンヤ、支那ニハ已ニ數百年前ニ於テ字彙康熙字典ノ如キ大著アリ、是未タ完全ナラズト雖モ文字ノ定義之ニ由テ復誤ラズ、英米ニ於テハオーグルビー、ウエブストル等ノ大字典アリ、文學ニ志ス者ナシテ毫モ遺憾トスル所ナカラシム、見ル可シ辭書ノ精良ハ文化ノ進歩ト歩履ヲ等ウスル事ヲ、茲ニ近ク我邦辭書ノ情態ヲ見ルニ其昔日ニ成リシト今日ニ成リシトヲ論ゼズ、大概粗略ニシテ語數亦甚タ少ナク、加フルニ其搜字法迂遠ヲ極メテ徒ラニ搜索者ノ精神ト時間トヲ費ヤサシメ、而シテ十中八九ハ搜索シ得ザルノ徒勞ニ歸シテ止ム而已、適々幸ニシテ搜索シ得ルモ只之ニ當タル一漢字ヲ見ル而已ニシテ毫モ其何ノ意義タルヲ解釋セル者アル無シ、本辭書ハ西洋字書編輯ノ體裁ニ倣ヒいろは順ヲ追テ每語ヲ掲ゲ一々其釋義ヲ附シ漢語ノ之ニ相當スル類語ヲ多ク列記シタレバ其搜索ノ語手ニ應ジテ顯レ來リ其意義一目ニ瞭然タリ、又其解釋ニ至リテモ意義ノ沿革古代ノ用法等ヲ詳論セズ、只今日ニ有用ナル解釋ヲ簡便ニ爲シタル而已、此ノ如キ字書ニ於テハ此方却テ實益アリト信ズレバ也、然リト雖モ一國古今ノ語タル其數固ヨリ窮リナクシテ一語モ殘サズ之ヲ掲ゲントスレバ汗牛ノ大書册トナリテ便益却テ少ナシ、是ヲ以テ其全ク目今必要ナラザル者又世間ニ格別ノ用ナキ術語及ビ書册ニ見ユル事稀ナル古語ノ如キハ之ヲ省キテ載セズ是偏ニ輕便實益ヲ主トスレバナリ請フ之ヲ諒セヨ

明治廿一年十一月十日　著者識

凡例

第一凡ソ字書ノ要ハ搜字ヲシテ容易ナラシムルニ在リ故ニ此書ハ本邦慣習ノ假名數引キ十三門部類分ケ等ノ迂遠ナル法ニ從ハズ西洋字書ノ體ニ倣ヒ一ニいろは順序ニ從フ例ヘバ

い、膽　いろ、色　いは、岩　ノ如シ

第二假名同ジクシテ清音、半濁音、濁音ノ區別アル者ハ此三順序ニ從テ其位次ヲ定ム例ヘバ

はは、母　ばば、幅　ぱは、馬杷　ばば、老婆

はん、版　ばん、麵包　ぱん、鷁　ノ如シ

第三凡ソ字書ハ書籍上ニ散見シテ解讀シ難キ文字及ビ心中ニ和語又ハ漢語ヲ記憶スルモ其文字ヲ忘レタル者トヲ搜得スルニ在リ西洋ノ字書ハ一部ニテ此兩點ヲ完備スルモ本邦ニ於テハ漢字書和字書ノ二種ヲ備フルニ非ザレバ此目的ヲ達スル能ハズ故ニ此辭典ハ一部ニシテ此兩益ヲ與フルノ組織ニシテ此欲點ヲ補ヒタリ、且又本邦ノ字書ニヨルニ到底搜得スル能ハザル文字多シ例ヘバ墨魚トイフ文字有ルヲ見ンニ若シ和訓ヲ知ラザルニ於テハ如何ナル字書ニヨルモ之ヲ搜シ得ル能ハズ本書又此欲點ヲ補ヘリ是ノ如キ者ハ先ツ其音ニ循ヒテ「ぼくぎょ」ト掲ゲ出シ其下ニ之ヲ解釋セリ即チ

ぼくぎょ墨魚、いか、烏賊

ト記スルカ如シ又漢字ニ特異ノ和讀ヲ附シタル語ノ如キハ其本訓ヲ掲グルハ勿論ニシテ尙搜索ノ爲メ其漢字ノ音ニ循ヒテ掲載シ其下ニ之カ眞箇ノ讀方ヲ示セリ例ヘバ

はんきょう、斑鳩、いかるが

ノ如シ又漢語ナラズシテ只文字而已ヲ借リタル者ニシテ字音ノ如ク讀ミテハ其意ヲ成サザル者ニハ「」ノ記號ヲ附シテ之ヲ區別ス例ヘバ

「ちやうせん」長船、をさふね　ノ如シ

第四同一ノ文字ニシテ和訓漢語トモニ要用ナル者ハ各其位置ニ挿入ス例ヘバ、い或ハしノ部ニ於テ

い、膽　しみづ、清水

ト記シ、た或ハせノ部ニ於テ

たん、膽、い　せいすゐ、清水、しみづ、きよみづ

ト記スルガ如シ

第五各語ヲ區畫スルニ黒點即チ(・)ヲ以テシ意味ノ少ク異ナルニハ圈點即チ(○)ヲ以テシ又註解ニ屬スル者ハ括弧ヲ以テス例ヘバ

ねなか、田舍、鄙、ひな(都會ヲ離れたる地方をいふ)。

村落鄉村、村莊、さと　ノ如シ

第六此辭典ハ總テいろは順序ニ從フト雖モねおえノ三字ニ限リいをゑノ部ニ混入ス例ヘバ

い、膽　ゐ、井　をひ、蝣　おひ、笈　え、徨　ゑ、繪

ノ如シ但シ其假名遣ヒニ至リテハ決シテ混合セズ

第七此辭典ハ每詞ニ記號ヲ附シ其所屬ヲ示シテ用フル者ニ便ス即チ(名)ハ名詞(形)ハ形容詞(副)ハ副詞(自)ハ自動詞(他)ハ他動詞ナリ又一語ニシテ此二ヲ兼ヌル者ハ其二記號ヲ列記シ(形副)(名形)等ト爲ス此他ハ其全語ヲ記シテ之ヲ示ス例ヘバ代名詞後置詞等ノ如シ、又眞ノ連語ニアラズシテ二三語相連ナレル者及ビ二三語相合シテ句ヲ爲セル者並ニ地名姓氏等ニハ是等ノ符號ヲ附セズ

第八本邦在來ノ字書ハ假名遣ヒノ誤謬甚タ多キヲ以テ此書ハ充分ノ注意ヲ加テ之ヲ訂正セリ

第九圖畫ハ現物ヲ見ザレバ明ラカナラザル如キ者ノ實體ヲ示スヲ目的トス且又圖畫ノ內某家所藏ト記シ有ル者ノ如キ一ハ本邦ノ美術ヲ示スノ便リニトテ撰ベリ但シ是多ク古書ニヨリタルモノナレハ現今果シテ其家ノ所有ナルヤハ判然セズ

20-90

和漢雅俚 いろは辭典

高橋五郎著

類音異綴假名一覽表

| か(は) | | |

いいな[俗](副) 否いいや、いなしからず
いゐん(名) 醫員、醫者(いしや)、くすし、醫師
ゐゐん(名) 委員、そうだい(多くの人に代りて事を爲す樣に選はれたる人)
いろ(名) 素服、縗衣、ものごろも、ふぢごろも、喪衣、喪服、素服(喪中又は葬儀に着する服)
いろ(名) 倚廬(喪中に籠る家)、もや
いろ(名) 色(青赤等の性質)。また交合男女の相交る事)
いろ(名) 情人、いろをとこ。情婦、いろをんな
いろいろ(形副) 色々、種々、各樣、各種、諸般、各般、さまざま、もろもろ
いろは 伊呂波弘法大師が作れる四十七字の今樣歌)。字母、かなもじ
いろは(名) 母、ばは、たらちね(古語)、
いろばなし(名) 色話、癡話、情話、こひばなし(男女相親しむ詞)
いろと(名) 妹、いもうと、いもと。又弟、おとうと
いろどり(名) 丹青彩色(さいしき)濃淡彩飾(畵等に各種の色を施こして飾る事)
いろどる(他) 施彩色、さいしきする
いろり(名) 煎汁、にしる、にだし。かけしる
ゐろり(名) 圍爐裏、紅爐、火爐、地爐、暖爐、ひどこ(火をたく處)
いろをとこ(名) 色男、情夫、こひとをとこ。密夫、まをとこ。美男子、よきをとこ
いろをんな(名) 色女、情婦、こひをんな、かくしつま、わつこち

いろか(名) 色香、うつくしさ及よきにほひ(婦女花卉等の)
いろがみ(名) 色紙、いろつけがみ
いろづく(自) 色着、あからむ(木葉などが)。又ゆくする、うむ(菓等が)。また現色、いろあらはるる、あやめのみゐくる。また顔色、かほいろ
いろづく(自) 酡(酒に酔て赤くなるをいふ)
いろつや(名) 光澤、色艶、光彩、つや、ひかり、てり
いろね(名) 兄、このかみ、あに。又あね(古語)
いろね(名) 色音、こわね、音聲
いろなはし(名) 色直(婚禮後等の祝宴ををいふ)
いろぬろう(名) 遺漏、もれたち、たち、脫漏
いろぬろき(形) 色黑、くろきいろなる。黯(かほいろぬろき)
いろぐるひ(名) 色狂、淫亂、をんなぐるひ。又をとこぐるひ
いろくず(名) 鱗、うろくづ、魚類。又うろこ、こけ
いろまち(名) 色町、花街、女閭、遊里、北里、いろざと(遊女の居る町)、くるわ、さと
いろけ(名) 色氣、春情、春思、いろごころ、よごころ(男女相慕ふの情)
いろけづく(自) 色氣附、よごころつく、催情、思春、發情端
いろふ(他) 辭、いなむ、ことわる、こばむ、辭退
いろふ(他) 拂、處理、わつかふ。闕、かかはる
いろぶみ(名) 色文、情書、艶書、こひぶみ、ちわぶみ
いろふし(名) 榮耀、はれ、さらびやかさ、ほまれ(古語)

いろこ(名) 雲脂、ふけ、頭垢、あたまあか
いろごと(名) 情事。交合、ねやごと、みとのまぐはひ、房事(男女相交る事)
いろごのみ(名形) 好色、いろずき。をんなずき。をとこずき
いろあげ(名) 色揚、復色、そめかへし、そめなほし
いろあひ(名) 色相、いろつき、いろのさま
いろざと(名) 花街、游廓、淫肆、女閭、遊里、(いろまちを見よ)
いろさし(名) 顔色、かはいろ、れもざし。又いろあひ、いろ。
いろきちがひ(名) 色氣違、花風病、花癲(男が女と或は女が男を非常に好く病)
いろぎぬ(名) 色絹、いろつけぎぬ
いろめ(名) 色目、情眼、媚目、淫目、ほれたるめつき
いろめかしき(形) 好色、いろこのましきすきごころある
いろめつかふ 使色眼、賣弄眼目、流眄、斜視、目眺、ほれたるめつきする
いろめく(自) 呈敗色、まけいろになる、しらける
いろめく(自) 似好色、いろこのむらしくある。呈美色、はなやかよみゆる
いろゑ(名) 彩繪、にしきゑ、彩色畵、いろどれるゑ
いろも(名) 姉妹、あねいもと、あねご、いもとご(古語)
いろせ(名) 兄、あに(古語)
いろん(名) 異論、こしやう、異議、異見、異說(反對の議論)
いは(名) 礎、磐礎、礎、鎭(魚網の鎭を云ふ)、しづみ、れもり
いは(名) 岩巖、巖、磐、礁、磐石、岩石、いはいし
いば(名) 射場、ゆみいるところ
いば 伊庭或は伊場(氏)
いば(名) 意馬、こころのこま(心の奔逸を馬にたとへたる者)
いはゐ 岩井(岩間の井また氏)
ゐはい[する](自) 違背、そむく、もとる、したがはぬ
ゐはい(名) 位牌、靈璽、木主、かいみやういた
ゐはいだう(名) 位牌堂、影堂、先祖代々の位牌を置く處)
いはいてふ 唾菜、みづいてふ(植物)
いはいし(名) 磐石、れはきなるいし
いはば 言則、たとへば、いふてみれば(假設の辭)
いはばし 岩橋(氏)
いはばし(名) 懸磴、いしばし、いしだん
いはばしかみ(名) 骨碎補、石毛薑、猴姜(生姜の一種(植物)
いはは(名) 蟻(いはをみよ)
いはとがしは(名) 石帆、石迹柏、うみかや(植物)
いばり(名) 尿、溺溲、せうべん
いばりだめ(名) 溺池、せうべんつぼ
いばりぶくろ(名) 膀胱(ばうくわう)、脬、小便囊(小便の溜る機關)
ゐばる[俗](自) 威張、はびこる、たかぶる、跋扈
いはれこし(名) 岩輿(米を煎りて砂糖にてかためたる菓子)
いはれもだか(名) 石韋の一種、いはごけ(植物)
いはかがみ(名) 藤纏穗の一種ごとうづる(植物)
いはがねさう(名) 蛇眼草(植物)
いはかうじ(名) 石香需(植物)
いはがしは(名) 石韋、石蘭、石波(植物)

いはかせ(名)　醫博士、醫學者(博學なる醫者)
いはたれび(名)　纐纈、ばられび(孕婦の)
いはたけ(名)　石茸(植物)
いはれ(名)　謂、緣由、わけ、因緣、緣故、ゆゑよし、ことわり
いはれなき(形)　無謂、わけもなき(無理なるを謂ふ)
いはれんげ(名)　佛甲草、瓦松、救火草、ほとけのつめ(植物)
いはつばめ(名)　石燕(動物)
いはつば(名)　太一餘粮(鑛物みてのげんれは鉄鑛の類)
いはつつじ(名)　羊躑躅、黃杜鵑、もちつつじ(植物)
いはづす(他)　射外、いそんじる、あてそこなふ(矢を)
いはな(名)　嘉魚(動物)
いはなみ　岩並、いはならび
いはなし(名)　荊梨(植物)
いばら(名)　茨棘、荊棘、ばら、ねどろ、むばら(植物)
いばらがき(名)　荊棘垣、いばらのかきね
いばらしやうび(名)　薔薇、ばら(植物)
いはむ(自)　屯、聚居、たむろする
いはう(名)　醫方、いやすみち(治療の方)
いはう(名)　異方、他方、ことくに
ねはう(名)　草袍、かはばれり
いばう(名)　意望、のぞみ、このみ
ねばう(名)　遺忘、ものわすれ
いはく　曰「いふ」をみよ)
いはく(名)　醫伯、醫師、いはかせ

ねはく[する](他)　威迫、をどしせまる
ねばく(名)　帷幕、まく、天幕、あげはり
いはくら　岩倉、氏)
いはぐみ(名)　石葉(ひとつばに同じ)(植物)
いはくすり(名)　石斛、せくさらん、いはぎくさ(植物)
いはや(名)　窟、石竈、石室、巖洞、巖室、石洞、ほらあな
いはやなぎ(名)　石芛、はこねぐさ(植物)
いはまめ(名)　石斛(植物)
いはけなき(形)　幼稚、稺、をさなき
いはふ(他)　祝賀、慶賀、がする、よろこびいふ。祝、祝福、はぐ。鎭、祭祀、まつる
ねはふ(形)　違法、わきてみたがふ
いばふ　嘶、いななく
いはふやなぎ(名)　石芛、はこねぐさ(植物)
いはぶき(名)　虎耳巾の一種植物)
いはごけ(名)　石韋、いはひば(植物)
いはこんにやう(名)　岩絪青藥石)
いはあやめ(名)　石菖、水劒草(植物)
いはさ　岩佐氏)
いはき　岩城氏)
いはき(名)　石胡荽、はなひりぐさ(植物)
いはゆる　所謂、いふところの(人の謂ふ所と云ふ義)
いはみ　石見(山陰道の國名)
いはしろ　岩代(東山道に屬する國の名)
いはしほ(名)　岩鹽、山鹽(天然の堅鹽)
いはしのね(名)　石斛、金釵、石斛(植物)
いはしみづ(名)　石泉、いはまのしみづ

いはしみづ　石清水(大和の地名)
いはしば(名)　石長生、いはごけ、卷柏、丹沙草、鬼臼(植物)
いはしべ(名)　齋瓮(古代の祭瓶)
いはしづま(名)　愛妻、たいせつにするつま、かはゆくれもふつま
いはしうた(名)　頌(ものをほめてよむ詩歌)
いはしのさかもり　祝宴、賀筵、慶讌、よろこびのいはひ
いはしげ(名)　烏韭、鬼臼(植物)
いはしづま、いはひづま　祝女、はふりめ、かみにつかへるとんな。又はしづま、いはひづま
いはひごと(名)　祝儀、祝賀、よろこびごと
いはひざけ(名)　祝酒、慶酒、慶宴、よろこびざけ、よろこびのさかもり
いはひび(名)　祝日、よろこびのひ、祭日、まつりび
いはひも(名)　仙人鄒(植物)
いはもも(名)　岩桃(植物)
いはず(名)　瘖者、唖、れし、れふし
ねはん[する](他)　違犯、をかそ、やぶる、そむく(法律等に)
ねはん[する](自)　違反、そむく、もとる、たがふ
いはんや　況、矧、まして、なほさら
いにしへ(名副)　古、往昔、上世、わがれるよ、むかし、往古、太古、遼古、古代、往代、上古
いにしとし　往年、先年、さきのとし
ねにん(名)。—する(他)　委任、ゆだね、委托。ゆだぬる、まかす
いは(名)　庵、菴、廬、いほり
いほ　五百、ごひやく(古語)
いば(名)　朊、疣、贅肉、ふすべ、ちひさきこぶ(肉の)、瘊子、疣跰
いば　異母、ちがふはは
いほね　五百井(氏)
いばいば(名)　蜚蠊、蜚蠦、ちひさなできもの。ざらつくもの(蝦蟆の背の)
いほり(名)　庵、菴、草舍、廬、いほ、わらや、かりや
いほりする(自)　營庵、すまひする(重に假屋などよ)
いぼがへる(名)　蝦蟇、ひきがへる(動物)
いぼたらふ(名)　蟲白蠟(「いぼた」より取る蠟)
いぼたのき(名)　水蠟樹、らふのき(植物)
いばそく(名)　伊蒲塞(優婆塞「うばそく」に同じ)
いばむしり(名)　蟾蜍、かまきり(動物)
いほう(名)　異邦、いこく、とづくに、外國
いほう　移封、くにがへ(諸侯の領分を他處に移すをいふ)
いほく　伊北(氏)
いぼく(名)　衣襞、ひらつつみ
いほくさ(名)　水竹茱(植物)
いほに　五百枝、れほくのえだ(樹の)
いぼひ(名)　灸瘡、灸潰、やいとのくづれ、きうのあと
いほすき(名)　商陸、やまごぼう(植物)
いほずみ　(或いをずみ)五百棲、魚住(氏)
いへ(名)　家、宅、舍、屋、室、廈、戶(人の住む建物)
いへゐ(名)　家居、構宅、ゐどころ、居住。館、たち、宅居、舍
いへば(名)　鴿鵒、だうば、鵒飛奴(動物)
いへばに　得不言(言んとしすれば言へぬ)
いへれ(名)　兎葵、せつぶんさう(植物)

いへどころ(名)　家所、そまひ、いへ
いへとし(名)　家刀自、主母、女主人、とんなあると
いへども(後置詞)　雖、なれども、いふといへども
いへぬし(名)　家主、やぬし、ねはや
いへかり(名)　税居、借居、借住、僑居、しやくやずまひ、かり
やずまひ
いへがら(名)　家柄門地、名門、右族、華胄、閥閲、望族、門閥、
みぶんのよきこと
いへがまへ(名)　家構、いへのつくり
いへづと(名)　家裏、家土産、みやげ
いへつづき　家續、家わひつらなる事)
いへつぎ(名)　家嗣、家督人、後嗣、あととり、あとつぎ、相續
人
いへなみ(名)　家並、いへならび、又(副)いへごとよ
いへう(形)　意表、れもひのほか、意外
いへのをさ　家長、主人、いへのあるじ、いへのぬし
いへのこ(名)　家之子、家産奴(主人の家にて生れたる奴
僕)、いへうまれのしもべ
いへごと　毎家、家家、毎戸、萬戸、戸戸、かどかみ
いへで(名)　家出、出奔、失踪、かけおち、亡命
いへあと(名)　家址、やしきあと
いへあけ(名)　家明、いへをたちのくこと
いへき　家城(氏)
いへすぢ(名)　家系、ちすぢ
いへん(名)　移變、うつりかはり
いへん(名)　異變、かはり、へんじ(變事)
ゐへん(名)　違變、やくそくちがひ

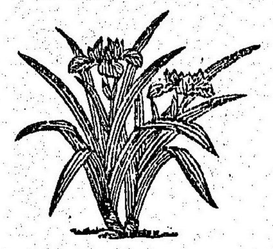
いと(名)　絲、絃、線、綸、綫、條、糸、ほそきすぢ。又生絹(きいと)
いと(名)　厚斗、ゆとり、おかくみ(舟の)
いと(副)　最、もつとも、甚、はなはだ
いぢ　異土、他邦、外國、とつくに、異域
ゐど(名)　井戸、ゐ(水汲む穴)
ゐど　緯度(東西に渉る度線)
いといり(形)　雲布、兼絲、きぬいとまじり
いといりゆふきもめん　絲入結城木綿(織物の名)
ゐどばた(名)　井傍、井側、ゐどのそば
いとはぎ(名)　絲萩、秋萩、秋芽子(植物)
ゐどばり(名)　井掘、井工、ゐどほるひと
いとはしむ(他)　愛憫、いたはる、あはれむ。かわゆくれも
ふ
いとほしき(形)　愛憐、いとほしくある、かわゆくある
いとはす(他)　射透、射穿、いぬく(矢などを以て)
いとど(名)　蟋蟀、竈馬、促織、竈雞、かうろぎ(動物)
いとど(副)　最、太、甚、はなはだ。愈彌。いよいよ
いととりなべ(名)　絲取鍋、紡績鍋(絹絲を績ぐに用ふる
鍋)
いとどしき(形)　彌甚敷、はなはだしき
いとる(他)　射取、いてとる(矢にて)。いころす
いとれり(名)　絲織(絹織物の名)
いとが　糸賀(氏)
ゐどがは(名)　井輪、井揺、ゐづつ(井筒)
ゐどがへ(名)　井浚、ゐどさらへ
いとかづら(名)　海金沙、かにくさ(植物)
いとよりだい(名)　金線魚、金絲魚(動物)

いとよりぐるま(名)　紡車、いととりぐるま、繰車、れはか、
撚線車
いとよりざを(名)　紡績竿、いととりぼう
いとたけのわそび　絲竹遊(音樂の遊をいふ)
いとそこ(名)　絲底、居底、空足、あげそこ
ゐどなは(名)　綆、つるべなは
いとなむ(他)　經營、たてつくる、しつらふ、こしらふ
いとなでしこ(名)　石竹の一種(植物)
いとなみ(名)　家業、すぎはひ、なりはひ、生計
いどむ(他)　挑擲、いひかける(戰等を)。又目眺、いざなふ、
くどく(女を)
いとう　伊東、伊藤(氏)
[いとう]　依藤、よりふぢ(氏)
いどう(名)　椅桐、しまぎり(植物)
いどう　移動、ひきうつり、ところがへ、轉居
いどう　異同、ちがひめ、ことなるれなにき
いとのふし　絲結、類、いとのむすびだま
ゐどく(名)　威德、いきほひ、威光、みいづ
いとぐち(名)　緒、端緒、こぐち。はじめ、はじまり
いとくり(名)　糸繰、繰絲梶、いとくること。又いととるう
つは
ゐどぐるま(名)　井戸車、ゐどのろくろ
いとくづ(名)　絲屑、いとのくづ、くづいと
いとぐつ(名)　絲靴、いとにてつくれるくつ
いとくてんわう　懿德天皇(八皇第四代の帝)
ゐどや[俗](名)　井戸屋、井工、ゐどほり
いとやなぎ(名)　糸柳(植物)

いとま(名)　暇、閑散、餘暇、餘間、間暇、間隙、遑、ひま、てさき、
てわき
いとまをつぐる　告辭、告別、いとまごひする
いとまぶみ(名)　辭表、じしよくをねがふふみ
いとまごひ(名)　暇請、暇乞、訣別、辭訣、告別、辭去、わかれの
あいさつ
いとまわらず　不遑、いとまなし
いとまき(名)　絲絡、絡板、絲捲、いとまくうつは
いとまじやう(名)　離婚書、さりじやう、みくだりはん、離
緣狀
ゐとげる(自)　居遂、ゐとほす、をはりまでをる(僕婢等が)
いとけなき(形)　幼稚、をさなき、孺、嬰、孩、沖
いとふ(他)　厭、斁、射嫌、忌、きらふ、いむ
いとこ(名)　從兄弟(兄弟姉妹の子女)
ゐどころ(名)　居所、住所、すまひどころ
いとこに(名)　從弟裘、最濃裘(料理法まて善く裘わはせた
る者をいふ)
いとごけ(名)　萬纈草(植物)
ゐどさらへ(名)　井浚、淘浚、ゐどがへ
いとざくら(名)　垂絲海棠、絲櫻(植物)
いときりば(名)　狗牙、きば、そるどきは
いとゆふ(名)　野馬、陽炎、遊絲、かげろふ(動物)
いとゆみ(名)　緻射弓(矢に絲をつけて射る弓)
いとみたてかふ　挑戰、ののしりたたかふ
いとみあふ　挑合、あひあらそふ
いとしば(名)　結縷子の一種、野芝(植物)
いとしご(名)　愛子、かはゆきこ、ひさうむすこ或むすめ

いとすぢ　縷、綫、線、いと
いとすげ(名)　崖櫻(植物)
いとすすき(名)　絲薄、石芒(植物)
ねとん[する](自)　委頓、すりつぶれる、やぶれる
いち(名)　市、墟、市井、いちまち、いちば
いち(形名)　一(いつ)壹、ひとつ
いち(名)　醫治、療治、やまひをいやすわざ
いぢ[俗](名)　意地、心術、性、こころね、こんどやう
ねち(名)　位置、くらゐ。ねばしよ、たちば
ねぢ(名)。—する(他)　維持、もちこたへ。だもつ、ささへる
いちい(或いちゐ)(名)　酣櫟子、水松(植物)
いちい　一意、ひとつごころ、一心
いちゐ　一位(第一の位階)。又ひとり(一人)
いちいち(副)　一一、ひとつひとつ、おのおの
いぢいぢする(自)　喑噁、ドれいかる。いやしくわる(小兒などが)
いちゐがし(名)　石櫟(植物)
いちゐん　一員、ひとり、一名
いちは　一羽(鳥一つにいふ)、いつぴき
いちは　一把、ひとたば、ひとつかね
いちば(名)　市場、墟、市井、うりかひば、あきなひばいちば
いちばい　一倍、ひとかさおほきいぢはる　意地張、いひつのる、のかたくなにふるまふ
いちはつ(名)　鳶尾、紫羅傘(植物)

(圖)



いちはやき(形)　逸揖、すみやか、てばやき
いちはし　市橋(氏)
いちばん　一番、第一、まつさき
いちばんのり　先登(戰爭の時第一に敵陣に切込む事)
いちにんたうせん　一人當千、ひとりにてせんにんまあたる、一騎當千
いちべつ　一別、わかれ、別離(朋友などに云ふ)
いちべう　一秒(時計の一セコンド)
いちど　一度、ひとたび、一次、一回
いちどかはし　一度替、いちどがはり、かはりがはり
いちどう(名副)　一同、みなみな。ことごとく、みな
いぢち　伊地知(氏)
いちちつ　一峽、ひとまき、一部(書籍にいふ)
いちぢやう[する]　一定(いつていきまる、さだまる
いちぢん　一陣、ひとしきり(雨風に云ふ)
いちり　一理、ひとつのことわり
いちり　一里(三十六丁を一里とす)
いちりよ　一旅(軍隊五百人を一旅と云ふ)
いちりつ　一律、ひとつてうし(萬篇一律など言ひて變化よろしきと謂ふ詞)
いちりづか(名)　一里塚、里堠、封堠、里數をしめす物)
いちりう　一流、ひとながれ。ひとは(一派)
いちりやう　一両(貨幣並に量目四匁に用ふる詞)
いちりやう　一輛(車を數へる詞)、くるまひとつ
いちりやう　一領(衣服鎧等を數へる詞)、きものひとつ
いちりやう[はい]　一両[雙]ひとりふたり、二[人]
いちりふ　一粒、ひとつぶ

いちりん　一厘、一厘錢又量目の名)
いちりん　一輪、ひとつわ。ひとふさ
いちりんさう(名)　雙瓶梅、いちげさう(植物)
いちる　一縷、ひとすぢ(絲にいふ)
いちるゐ　一類、なかま、つづきあひ
いちを　市尾(氏)
いちをか　市岡(氏)
いちれう　一應、ひととほり
いちれく　一億(萬萬を億といふ)
いちれんす　一ろ(量目八匁と云ふ)
いちわり　一割(十分一をいふ)、什一
いぢわる[俗](形)　意地惡、惡性、乖性、むねわるき、こころあしき
いちがい(形)　一概、ひとくくり、一樣
いちかは　市川(氏)
いちがう　一毫、ひとすぢ(毛髮にいふ)
いちがう　一鄉、ひとさと、さとぢう
いちがふ　一合(水量又田地にいふ)、十勺
いちがん　一眼、かため、隻眼
ねちよく　違勅(帝王の詔命に違ひ戻る事)
いちだ　市田(氏)
いちだ　一朶、ひとふさ(花抔の)。ひとかたまり
いちだ　一駄、ひとよ(馬一匹だけの荷にいふ)
いちだい　一代、ひとよ、一世
いちだいじ　一大事(重要なる事柄。また大危急)
いちだん　一段、ひときだ、一階
いちれつ　一列、同樣、ひとならび
いちれん　一聯(詩の對句などをいふ)、ひとつら、一連、ひとつづき
いちぞく　一族、やから、けんぞく
いちぞん　一存、おのれひとりのかんがへ、一己之思慮
いちづ(名)　一途、ひとすぢ、ひたすら
いちねふこう(名)　一捻紅(牡丹の異名)
いちねんはざめ(副)　隔年、間歲、いちねんおき
いちらん。—する　一覽、一見、ひとたびみる、ちよつとみる
いちう　一宇(家を數ふる詞)、いつけん、ひとつのいへ
いちう(名)。—する(自)　意裏、こころのうち、心中
いぢう(名)。—する(自)　移住、すまひがへ。うつりすむ(他國などに)
いちのはざま　一挾間、一迫戸(城壁の外垣を云ふ)
いちのがは　市野川(氏)
いちのかみ　市正、町奉行、府知事、いちのつかさ
いちのやれり(名)　櫟屋織(織物の名)
いちのき　櫟木(氏)
いちのみや　一宮(一國中第一等の神宮をいふ)
いちのひと　一之人(攝關太政大臣などを指て云ふ)
いちのひと　市人、町人、市儈、まちあきうど
いちぐ　一具、ひとそろへ
いちくわん　一卷、ひとまき(書冊にいふ)
いちくら(名)　肆、廓、みせ、あきなひみせ、店舖
いちぐう　一隅、ひとすみ
いちぐん　一軍、ひといくさ、一隊(兵士の)、ひと〳〵み
いちぐん　一郡、ひとこほり、こほりぐう
いちや　一夜、ひとよ、ひとばん

いちやつく〔俗〕〔自〕　狎戯、ぢやらつく、べたつく（婦女の姿態よいふ）
いちやづけ（名）　宿漬、ひとよづけのつけもの
いちやう（名）　倚廳、たちぎき
ゐぢやう（名）　遺狀（ゆゐじやう）、のこしぶみ（死人の）。かきたきぶみ
いちやうらいふく　一陽來復、十月に陽氣のかへる事）
いちやくさう（名）　鹿蹄草（植物）
いちまい　一枚、ひとひら（紙板など）。一葉（書籍の）
いちまいいれき（形）　一枚措、隔葉、いちまいとび
いちまち（名）　市町、まち
いちまた　一萬田（氏）
いちまつ（名）　間棉、べんけいがた（格子じまの如き模樣）
いちまう　一毛、けひとすぢ、一髮
いちまん　一萬（十千を萬といふ）
いちげれいん　一八疊目（一厘六毛弱を云ふ）
いちげつ　一月、正月、むつき（第一の月）
いちげさう（名）　雙瓶梅、いちりんさう（植物）
いちげんきん　一絃琴（須磨琴を云ふ、絃一本のみ）
いちぶ　一分（尺度の名にて一寸の十分一。舊貨幣の名（四朱）
いちぶ　一部、一峽、ひとまき。一部分
いちぶしじう　一部始終、始末顚末、ことのもとすゑ
いちぶん　一分、ひとつのわかち
いちこ（名）　巫女、みこ、わがたみこ、降巫、降覡、梓巫（あづさみこ。又くちよせをんな
いちご（名）　覆盆子、飯盒。苺、きいちご（植物）

（〇一）

いちこく　一斛、一石（升目の名即ち十斗をいふ）
いちごまめ（名）　学豆（植物）
いちごふ　一刧（佛書に言ふ所の年代の一紀）、—カルパ
いちごん　一言、ひとこと
いちでう　一條、一件、ことがら、ひとくだり
いちでうてんわう　一條天皇（人皇第六十六代の帝）
いちでふ　一疊、ひとかさね。一帖、ひとをり（紙など）
いちでし　一弟子、高弟、いちばんでし。高足、上足（第一の門徒）
いちわく　一握、ひとにぎり
いちわし　逸足、疾足、はやあし
いちざ　一座（一處に坐する人々）。また夥黨、なかま、くみ（藝人などの）
いちさつ　一撮、ひとつまみ（少きを謂ふ）
いちおきたな〔俗〕〔形〕　好食、ものくひたがる
いちぎやう　一行、ひとくだり（文字の）
いちぎやうわれき（形）　間行、隔行、ひとくだりおき、いちぎやうとび
いちめ（名）　市女、ものうるをんな、をんなあきうど
いちめい（名）　一命、わがいのち、生命
いちめる〔俗〕〔他〕　磨難、折磨、囉唆、なやます、くるしめる
いちめがさ（名）　市女笠、市女のかぶる中高き笠の名）
いちめん　一面、ひとおもて。また全體、そうたい
いちみ（名）　一味、なかま、みかた、黨類
いちし（名）　羊蹄、うしのした、しのね（植物）
いちじ　一寺、ひとつのてら、一箇寺
いちじ　一事、ひとこと

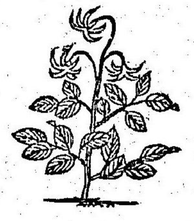
いちじるしき（或いちしるき）（形）　著、揭然、揭焉、炳然、著明、いやちこ、めだつ
いちじよう　一乘（車を數へる詞、くるまひとつ
いちじつさんしう　一日三秋（長く思ふ時間を形容する詞）
いちじく（名）　無花菓（花なくして直ぐ菓の出來る木また其菓、映日菓（植物）
いちじふ　一汁、しるひとつ（食事に云ふ）
いちじせんきん　一字千金（文字の貴き譬）
いちじん　一尋、一仞、ひとひろ
いちにふ　一葉、一枚、ひとひら（書籍にいふ）。また一艘（船の）
いちにふらん（名）　一葉蘭、はらん（植物）
いちゐん　一圓金子の名。また全體の事を謂ふ）
いちび（名）　苘麻、きりあさ、白麻（植物）
いちび（名）　赤橿（迹見氏、聖德太子の舍人）
いちび　一尾、いつぴき（魚よいふ）
いちびと（名）　市人、市郭兒、あきうど、市儈
いちびがら（名）　苘幹、いちびのから（焚きて火絨〔ほくち〕を製する物）
いちびぐさ（名）　補骨脂、はこし（植物）
いちびめ（名）　市姬、市を守護する女神）
いちもつ　逸物（鷹犬馬等の優強なるを云ふ）
いちもくれうせん　一目瞭然、ひとめよりてあきらか
いちもくさん〔俗〕〔副〕　一目散、ひともくさん、いつしやうけんめい
いちもん　一文（文字ひとつ、又は一厘の十分一）
いちもん　一門、ひとつやから、一族、親戚、縁者、しんるゐ
いちもんふつう　一文不通（文字を少しもしらぬをいふ）、無學、めがみえぬ
いちもんめ　一匁（量目の名「もんめ」をみよ）
いちせ　一畝（田地よいふ所三十歩にあたる）
いちせん　一膳、一杯（飯にいふ）
いり（名）　入、いること。いりたか（容積）
ゐり（名）　委吏、くらやくにん
いりはが（形）　回曲、ふさはぬ
いりとり（名）　煮鳥料理の名、いりたるとり
いりちがふ（自）　入違、錯簡、顚倒、いりまちがふ
いりか（名）　入費、出費、いりめ、つひに
いりかはる（自）　入代、交代、交迭、かはりてをる
いりがはら（名）　砂堝、ほうろく、ものいるつちがはらけ
いりがね（名）　入金、入銀、はいるかね、まうけ
いりかさ　入嵩、いりだか、とりだか
いりやう〔俗〕〔名形〕　入用、必要。又かかり、失費
ゐりようさい（名）　委陵菜、かはらさいこ（植物）
ゐりよく（名）　威力、威勢
ゐりつ〔する〕〔自〕　蜻立、よだつ、さかだつ
いりつける（他）　煮着、食物を油等にて）
いりなべ（名）　煮鍋、ものを煮るなべ
いりむこ（名）　入壻、入夫、入聟、贅壻、接脚夫、相續女子の家に聟となりて入る人）
いりう　夷隆、たひらか及たかき
いりうど（名）　入人、いりむこ
いりうみ（名）　入海、內海、曲海、灣、いりえ

ぬいぐるみ　ぬいぐるみ　ぬいぐるみ　

いかつい【俗】【形】雄逞、ねばりがはなる、きすきすする
いかづち(名)雷なるかみ、雷公、雷霆、かみなり
いからなご(名)王筋魚(動物)
いからせる　令怒、倹激、はらたたせる、れこらせる。又そびやかす、うへにあげる(肩を。又うごかす、ふくらす(鼻を)
いがむ(自)哮、嗥、うなる、唾、犬猫等が怒れる時又は変る時)
いがむ(自)曲ゆがむ、歪、まがる
いかう(名)衣桁、みそかけ、衣架、きものかけ
いかう　以降、已降、このかた、以来
いかう(名)意向、こころむき、志
いかう　懿行、よきおこなひ、徳行
ねかう(名)遺稿のこしたるかきもの(死人の)、遺文
いかがう　飯河、いひかは(氏)
いかのぼり(名)烏賊幟、紙鳶、鳳巾、蝦老紙、風禽、たこ(小童が凪に飛ばす玩具)
いかのかふ(名)烏賊甲、いかのせなか
いがく(名)醫學(病氣療治の學問)
いがくかう(名)醫學校(醫學を授くる所)
いかやう【俗】【形副】如何様、なにやう、いかなる。いかに
いかけお(名)沃懸地漆器に金銀の箔をおきたる者)
いかける(他)鎔補、いてわぎなふ(鍋釜等を)
いかけし(名)補鍍師、補鍍匠(釦屋)、いかけや、なべかまなほし
いかで(副)爭那、如何、何、いかよして、どうして
いかさ(名)顱笠、ねにてつくれるかさ

いをずみ　魚住(氏)
いわう(名)硫黄、黄礪砂、ゆわう
いわう　以往、さき、すぎにしかた
いわうばな(名)硫黄花、ゆばな
いわうがしま　硫黄島(薩摩潟の沖の小島をいふ)
いわうの　醫王野(氏)
いわうやま(名)硫坑、ゆわうのでるやま
いわうせんせい　醫王善逝(藥師佛を云ふ)
いわし(名)鰯、鰮魚(動物)
いか(名)紙鳶、たこ、いかのぼり、風鳶(弄具)
いか(名)烏賊、繪魚、鰞鯛、墨魚、含墨魚(動物)
いか(名)衣架、みそかけ、きものかけ、衣桁
いか　五十(氏)
いが(名)剌棘、毛毬、剌栗頭(栗等の實の針毛殻)
いが　伊賀(東海道の國名)
いかい(名)醫戒、いしやのいましめがき
いかい【する】頓解、れとがひととく、あごをはづす、れはらひする
いかい【俗】【形】大、れはきい、ふとい、でかい
ねかい(名)位階、くらゐ(正一位より從八位までの等級あり)
ねかい(名)遺誡、のこせるいましめ(死者の)
ねがい(名)遺骸、しかばね、しよがら、なきがら、
いかに(副)如何若何、云何、奈何、いかが、なよやうに、どう
いかにも　如何、いかにしても、どうも
いかほど　如何程、なにほど

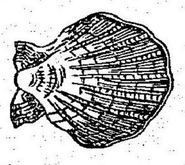
いかへす(他)射反(矢をいてかへす)
いかり(名)怒、忿怒、憤恨、恚、瞋、はらたち、いきどほり、れこり
いかり(名)錨、鉄錨(船を止め置く爲に投ずる鐵具)。いしねかり　いかり、碇
いかり　井狩(氏)
いかりがましき【俗】【形】怒箇間敷、はらたたしき
いかりづな(名)錨綱、いかりなは、錨鎖
いかりうを　渡爻魚、杜爻魚、うしぬすびと、かくぶつ、伏念魚、船矴魚(動物)
いかりさう(名)碇草、淫羊藿、
やまどりくさ、黄徳祖(植物)
いかる(名)桑鷹(動物)
いかる(自)怒、恚、忿、慍、瞋、憤怒、忿懥、赫怒、はらたつ、いきどほる
いかるが　斑鳩、つちくれば と、まめまはし、鵤鳩、鵤鳩、鵤(動物)。また地名(大和國平群郡と掃磨國揖東郡にあり)
いかが(副)若何、如何、奈何、いかみ、なにやう
いかがはしき(形)如何敷、うたがはしき。あてみならぬ
いかた(名)射法、ゆみいるしかた
いかた(名)鎔(金銀銅鐵)型(土)、模(木)。範(竹)、いこむかた(物を鎔こむ器)、模型、模
いかだ(名)桴、筏、艀、艤、(木材を編て水に浮ぶる者)
いかたや(名)鎔工、いものし
いかたし(名)筏師、いかだつくり


（圖　碇草の）

いがき(名)飯籬、飯垣、ざる、管箕
いがき(名)瑞籬、みづがき、たまがき(神宮の垣也)
いかめしき(形)巍然、ねごそか、屹然、嚴然
いかしば(名)茂穂、よくみのれるほ
いがひ(名)淡菜、東海夫人、いのかひ(動物)
ねかひ　猪飼(氏)
いかものつくり(名)咳物作、にせものつくり。又いかめしきつくりもの(刀劍にいふ)
いかものぐひ(名)如何物吃、咳物食、やたらにものくふこと又ひと
いかものずき(名)異嗜、かはりものずき、奇癖
いかす(他)令活、いきしむる、使生存、ながらへさする
いかん(名)衣竿、かけざを、きものほすさを
いかん　如何、奈何、若何、云何(「いかに」の音便)
ねかん(名)胃癌、ねのはれもの(胃中に生ずる癌の類)
ねかん(名)遺憾、くちをしさ、うらみ、のこりをしさ、殘念
いよ　伊豫　(南海道の國名)
いよいよ　彌、愈、ますます(いよ〳〵)、終、つひに【俗用】
いよかつら(名)白前(植物)
いよたつ(自)彌立、さかだつ、よだつ(毛などが)
いよう　異容、かはりたるすがた、かはりふう
いよやか(形)盛盛、森然、そびえたる、たからかなる
いよめ(名)鷸鷸、には、かいつぶり(鴈(動物)
いた(名)板(木を薄く鋸にてひきたる者)、ひきわりき。版(版木の)
ねだ　井田(氏)
いたい(名)衣帶、しやうぞく

いたい　異體、ことなるかたち
いたいたしき(形)　痛痛敷、いたましさ、おはげなる
いたいけ(名)　幼氣、稚幼、わかさ、また眞愛氣、かわいらしさ
いたはり(名)　煩、疾、いたつき、わづらひ
いたはる(他)　撫恤、勞慰、犒、勞、ねぎらふ
いたばめ(名)　板敷、板壁、はめいた
いたばし(名)　板橋(木板作りの橋)
いたはしき(形)　悼敷、惹哀、あはれむべき、かわいさうな
いたべい(名)　板屏、板塀、木板作りの牆、いたがき
いたべをか　板部岡(氏)
いたど(名)　板戸(木の戸といふ)
いたどり(名)　虎杖、酸桷草、武靴植物)
いたち(名)　鼠、鼬、鼦、黄鼠、鼠狼(動物)
いたちはトかみ(名)　蔓極、いぬさんせう(植物)
いたちうを(名)　油魚(魚動物)
いたちぐさ(名)　蓮翹、連翹(植物)
いたちさげ(名)　草決明、馬蹄決明(植物)
いたりや　以太利亞(歐羅巴洲中の國、其首府を羅馬といふ)
いたる(自)　至到、將、屆、遞、迄、造、臻、詣、抵、極、逕、達、さたるべどく、つく
いたわり(名)　板割、ひきわり
いたがね(名)　板金、鈑金、のべいた
いたがこひ(名)　板圍、いたがき(板垣)
いたがき　板垣(氏)
いたがみ(名)　板紙、わつきかみ、いた

いたがや(名)　板屋、いたぶき
いたく(副)　甚、太、劇、酷、痛、切、深、大、頗、殊、最、尤、
いたくよふ　泥酔、沈酔、潰酔、酩酊、爛酔
いたくなく　痛哭、慟哭、太泣、なげく
いたくらや(名)　板倉(氏)
いたぶきいく(名)　板屋、いたやぶき
いたねん(名)　板疣、いたのねんがは
いたびかうら(名)　蘑菰(植物)
いたびさし(名)　板庇、いたのひさし
いたす(他)　致、爲、する、なす、つくす
いたん(名)　異端、異說、邪說、外道、よこしまのみち
いたん[する](自)　思惟、たそれはばかる
いたれり(名)　衣領、いりやうこころもち
いたれり(名)　威靈、いきほひ、威德(神君等の)
いたれり(名)　違例、不例、不快(帝王等の病氣に云ふ)
いたれりせん(名)　威靈仙(植物)
いれば(名)　入齒、新齒、假齒、義齒、補齒、つくりば、こしらへば
いればくろ(名)　入黑子、新靑、刺黑子
いれちがふ(他)　入違、誤置、おやまりいれる
いれちがひ(名)　入違、誤置、おやまりいれること
いれる(他)　入、なかまにくはゝらしむる、容らけいれる、ゆるす、納、とる、をさめる
いれかへる(他)　入代、入替、入換、かへていれる
いれがみ(名)　髭、假髮、かもと、いれげ
いれつ(名)　偉烈、れはいなるてがら、大功
いれうち(名)　醫療、療治、やまひいやすわざ
いれまぜる(他)　入混、混淆、まじへいれる
いれふだ(名)　入札、投票、買物或は選舉などに己れの意と書きて出す札、また然かする事)
いれこ(名)　入子(重箱等のごとくかおはするはこ)
いれことば(名)　插詞、插話、插入語、はさみことば(文章の中へ入れる)


(圖のひがやたい)

いたやがひ(名)　板屋貝、海扇、蝶花蛤、文蛤、まだらがひ(肉美よしして食ふに宜し)
いたはしき(形)　傷敷、痛敷、忉怛悲痛、あはれなる
ねたけだか(形)　居長高(つと立ちあがりたる貌)
いたふだ(名)　板札、いたのかきふだ、方策
いたふす(他)　射斃、射倒、いこうばす、いこうす
いたづゝ(名)　板子(船板と云ふ)
いたごし(名)　壓飼、のりもの(貴人の旅行等に用ふる者)
いたこんがう(名)　板金剛、げだ、或ぎうり
いたで(名)　痛手、深疵、傷手、深傷、重傷、たもさず
いたてる(他)　射立、つづけいる(矢を)
ねだてんく(名)　韋馱天(佛法守護神の名)
いたき(形)　痛、傷、淡、いたむ
いだきつく(自)　抱着、抱附、とりつく(人に)
いだめ(名)　板目、板理、いたのすぢめ
いためがは(名)　醃皮、革、撓皮、あめしがは、柔皮、つくりがは
いたみ　伊丹(氏又地名)
いたみ(名)　疼痛、ひびらき、ひゞつき、疲、痛、哀悼
いたみいる[俗](自)　痛入、たそれいる
いたみのうた　挽歌、哀傷歌、送葬歌、とむらひうた(送葬の歌、薤露歌)
いたみのし　挽詩(送葬の支那詩)
いたもの(名)　板敷、いたのま
いたやね(名)　板葺、いたぶきやね
いたやがひ(名)　板屋貝、海扇、蝶花蛤、文蛤、まだらがひ(肉美よしして食ふに宜し)
いたはしき(形)　傷敷、痛敷、忉怛悲痛、あはれなる
ねたけだか(形)　居長高(つと立ちあがりたる貌)
いたぶだ(名)　板札、いたのかきふだ、方策
いたふす(他)　射斃、射倒、いこうばす、いこうす
いたご(名)　板子(船板と云ふ)
いたごし(名)　壓飼、のりもの(貴人の旅行等に用ふる者)
いたこんがう(名)　板金剛、げだ、或ぎうり
いたで(名)　痛手、深疵、傷手、深傷、重傷、たもさず
いたてる(他)　射立、つづけいる(矢を)
ねだてんく(名)　韋馱天(佛法守護神の名)
いたき(形)　痛、傷、淡、いたむ
いだきつく(自)　抱着、抱附、とりつく(人に)
いだめ(名)　板目、板理、いたのすぢめ
いためがは(名)　醃皮、革、撓皮、あめしがは、柔皮、つくりがは
いたみ　伊丹(氏又地名)
いたみ(名)　疼痛、ひびらき、ひゞつき、疲、痛、哀悼
いたみいる[俗](自)　痛入、たそれいる
いたみのうた　挽歌、哀傷歌、送葬歌、とむらひうた(送葬の歌、薤露歌)
いたみのし　挽詩(送葬の支那詩)
いたもの(名)　板敷、いたのま

いれこめる(他)　入籠、なかよいれる
いれこざら(名)　碟子、くみわふさら
いれめ(名)　假眼、假瞳、つくりまなこ、こしらへめ
いれもの(名)　入物、容器、ものいれるうつは
いれもじ(名)　入文字(詩歌等の中に隱伏せしむる文字を云ふ)
いれずみ(名)　鯨墨刑(肉皮に墨を刺す刑罰)
いそ　五十、ごじふ(古語)
いそ(名)　磯、磯、海濱、さし、うみばた
ねそ(名)　蹯鼠、けはりねずみ(動物)「其圖は蝟の下よ出せり」
いそいそ(形)　勇勇、忻然、うきうき、はきはき(氣のひきたつ貌)
いそはなび(名)　石蕊裳、いそまつ(植物)
いそべ(名)　磯邊、きしべ、海岸
いそがはしき(形)　忙、多忙、倥傯、憒鬧、忙忽、擾劇紛遝、雜遝、いとまなき、ことれはき、ひまなき
いそな(或いそなぐさ)(名)　磯菜海邊に生ふる草)(植物)
いその　磯野(氏)
いそぐ(自)　急、はやる。疾行、はやくわるく
ねぞく(名)　遺腹、遺言、ゆゐごん
ねぞく(名)　遺俗(昔の風俗の殘れる者)
ねぞく(名)　遺族(死者の遺れる親族をいふ)
いそや　磯谷(氏)
いそま(名)　磯間、うみべ
いそまつ(名)　磯松、いそはなび、石蕊蓉(植物)
いそふ(自他)　競、きそふ、あらそふ、爭。また叱、しかる、詞

いそさんせう(名)　石生(植物)
いそきんちやく(名)　蒐裘帒(植物)
いそじ　五十歳、五十年(古語)
いそしく(副)　懇切、ねんごろに
いそひば(名)　石柏(植物)
いそん(俗)　異存、異見、ことなるかんがへ
いつ(副)　何時、なんどき
いつ(名形)　一壹、いち、ひとつ
いづ　伊豆(東海道の國名)
いづ(名)　稜威、威光(神及び朝廷の御威光を云ふ、みいづ、尊嚴
ねづ(名)　槭、ひ(植物)
いつゐ　一圍、ひとかかへ(木等の大きさをいふ)
いついろ　五色(青黄赤白黒を云ふ)
いつい(名)　逸遊、あそび、宴樂、逸樂
いつば　一派、一宗、一流、ひとわかれ
いつば　逸馬、ときうま、はやうま、駿馬、駿足、良馬、龍馬、はしりうま(動物)
いつぱい　一敗、ひとやぶれ
いつぱい　一杯、ひとさかづき。又ひとふぶん
いつはり(名)　僞詭譎、詐僞、欺計、虚僞、佯
いつはりたはれ(名)　佯狂、そらきちがひ、えせきちがひ
いつはりごと(名)　虚言、妄語、うそ、詐僞、兩舌、妄誕、虚妄、虚誕
いつはる(自)　僞、うそつく、詐、いつはりいふ
いつぱう　一方、ひとかた
いつぱう　一抱、ひとかかへ、一圍

いつぱう　一包、ひとつつと
いつはのまつ(名)　五葉松、ごえふのまつ(植物)
いつぱく　一泊、一宿、ひととまり、ひとやどり
いつぱん　一斑、一部、たはよそ
いつぱん　一半なかば、半分
いつぱん　一般、ひととほり。また物體、なべて
いつぱん　一飯、一食(一度の食)
いつぽ　一歩、ひとあし
いつぽん　一品親王の位階の第一)
いつぽん　一本、ひともと(長き者を數る詞)
いつぽんばし(名)　獨木橋、まるきばし
いつぽんだち　一本立、ひとりだつ、孤立、獨立
いつべ(名)　齋賀、いはひべ
いつぺい　一柄(鎗長刀扇又は太鼓等を數ふる詞)
いつぺう　一俵、ひとたわら
いつぺう　一鏃、ひとはみ(轡にいふ)
いつへのあふぎ(名)　五重扇(貴婦人の用ふる者)
いつぺん　一變、ひとかはり
いつぺん　一遍、一偏、ひととほり
いつぺん　一片、ひとひら(紙布心等に云ふ)
いつぺん　一篇、ひとくさり(文章よいふ)
いつとなく　無何時、いつしか
いつとう　一刀、ひとかたな、ひとたち
いつとう(或いつと)　一斗、一斛(十升をいふ升目の名)
いつとう　一頭、ひとかしら(獸を數ふる詞)、一匹
いつとう　一等第一なるを謂ふ)
いつとう[とる]　一統、ひとつすべる
いつとうりやうだん　一刀兩斷(斷然相決するを形容する詞)
いつとうさんれい　一刀三禮(佛像の彫刻に云ふ詞即一刀をいれては三度禮拜するといふ)
いつとても　雖何時、なんどきにても
いつとき(俗)　一時、ひととき、時間。一刻
いつち(名)—する(自)　一致、ひとつになること。ひとつよあふ
いつち(俗)　最、もつとも(田舍語)
いづち　何地、何處、いづこ、何方、いづかた
いつちつ　一峽、ひとつつみ(書籍一部といふ)
いつちうぶし(名)　一中節(歌曲の一派の名)
いつちやう　一張、ひとはり(提燈等を數るよ云ふ)
いつちやう　一頂、ひとつ(褞袍座具等を數るに云ふ)
いつちやう　一町、ひとまち
いつちやう　一丁(六十間をいふ)又ひとつぢ
いつちやう　一梃(墨蠟燭等を數ふるよ云ふ)
いつちやひ　一茶匙(量目一匁と云ふ)
いつりう　一旒、ひとながれ(旗にいふ)
いづる(自)　出、でる。顯來、あらはれる
いつか　五日
いつか　一荷、ひとになひ、ひとに
いつか　一家、ひといへ、一家内。全家、いへぢう
いつか　何時、いつしか。早晩、はやかれおそかれ
いつか　一箇、一个、ひとつ
いつかい　一介、すこし
いつかい　一階家屋の一層又は等級に云ふ)

いつかい　一蓋(笠を數ふるに云ふ)
いつかど[俗](形副)　一稜、一廉、れきれき、いやしからぬ
いづかた　何方、いづく、どこ、いづち
いつかう　一行、くみ、なかま。同行、つれだつひと
いつかう(副形)　一向、まつたく、つやつや、ひともむき
いつがう　一毫、ひとすぢ(毛髪の)
いつかうしう　一向宗、淨土眞宗をいふ、門徒宗
いつかけ(名)　懸掛、ながし(金銀の)
いつかしよ　一箇所、ひとところ
いつかんばり　一開張、一貫張、かみはりぬき、かみはりうつは
いつよ[する](自)　逸豫、たのしむ、逸樂
いつたい　一隊、ひとくみ(兵士等にいふ)
いつたい　一體、ひとつからだ。又(副)全體、そうたい
いつたい　一帶、ひとそだ(地などに云ふ)
いつたう(形)　佚蕩、放逸、ほしいまま、わがまま
いつたくしゆはん　一塗手半(塗擘に同じ)一尺二寸と云ふ)
いつたん(副)　一旦、ひとたび、いちど。かつて
いつだん　逸彈、それだま、まぐれだま
いつたんし　一彈指(瞬間をいふ)、またたくひま
いづれ(代名詞)　何那、孰、どちら、どれ。なに、甚麼、什麼。又不論爲何、なににもせよ
いつれい　揖禮(いふれいに)、あいさつ(支那人のする如き)
いつそ[俗](副)　寧、むしろ、かへつて
いつそう　一層、一階(樓臺城櫓塔等の段階に云ふ)。又ひとかさ、ひときは

いつそう　一噌(氏)
いつそく　逸足(「いちあし」をみよ)
いつそく　一足(足袋、沓等を數ふるに用ふる詞よして一對の義あり)
いつそく　一則、一篇文章にいふ)
いつぞや(副)日外、他日、さるころ、かつて、他時、異時
いつそん　一尊、ひとつほとけ(佛像等を數ふるに云ふ)
いつそん　一村、ひとつむら。又ひともむら
いつそん　一樽、ひとたる
ねづつ(名)　井筒、ねどがは
いつつい　一對、ひとくみ
いつつかさねのきぬ　五重衣(十二單を云ふ)
いつつつう　一通、ひとつ(書狀等を數へるに云ふ)
いつつのをしへ　五教(君臣、父子、夫婦、昆弟、朋友の道を謂ふ)
いつつのもじ　五文字(清、貞、美、譜、貽の五婦德をいふ)。又をんな
いつづけ(名)　居續、流連、あそびつづけてかへらぬこと(娼家等に)
いづな(名)　飯繩、呪人(小魔獸にて魔法師に使はるる者)
いづなつかひ(名)　飯繩使(いづなつかふひと)、役鬼者、幻術者
いつらく(名)　逸樂、たのしみ、をごり、逸遊
いつう　一羽、ひとは(鳥の)
ねつう(名)　胃痛、ねのふのいたみ
いつく　一堰、一身、からだ
いつく　一句、ひとつもんく

いつく(他)　齋、奉事、かしづく、あがめまつる、つかへる(古語)
いつく　一口、ひとふり(太刀、剃刀、鍾磬釜鍋等を數ふるに云ふ)
ねつく(自)　居着、ねさだまる、ねすわる
いづく　何處、どこ、いづれのところ
いつくち　一俱胝、一拘致(俱胝は天竺語にして億と翻す其實は一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇にあたる)
いつくわ　一顆、ひとつぶ(珠數等の)
いつくわ(名)—する(自)　一和、一致、やはらぎわふこと、協同
いつくわ　一夥、ひとくみ(多くの人の)
いつくわ[する]　一過、ひとたびすぎさる
いつくわい(副)　一回、ひとたび、一度、一次
いつくわい　一塊、ひとかたまり(土などの)
いつくわいき　一回忌、一周忌
いつくわん　一管、ひとくだ(笛などを數るに云ふ)
いつくわん　一串、ひとさし。ひとくし
いつくわん　一貫、ひとつら、ひとつらぬき(鐵などの)。又十鐶
いつくわんめ　一貫匁(一千匁をいふ)
いつくわんむ(他)　愛、うつくしむ、あいする、かわいがる。あはれむ
いつくしき(形)　嚴、れごそか、いかめしき、りりしき、凛凛、有威嚴
いつくしき(形)　可愛、うつくしき、あいらしき、かわいい
いつくしみ(名)　慈仁、あはれみ、惠、めぐみ、寵、恩、仁愛、慈仁、慈愛、恩愛、恩寵、恩惠、寵愛
いつぐん　一群、ひとむれ(人畜禽獸などの)
いつぐん(形)　逸群、ぬきんでたる、ひいでたる
いづくんぞ(副)　惡、安、焉、胡、奚、いかで、いかんぞ
いつまで　何時迄、なんどきまで
いつまでぐさ(名)　壁生草(植物)
いつけ　一家、ひとついへのもの。同宗、同族、ひとつやから
いつけつ[する](自)　一決、さだまる、きまる
いつけつ[する](自)　一結、ひとつにまとまる
いつけん　一間(六尺をいふ)
いつけん　一軒、ひとつ(家屋を數るに云ふ)、一棟、ひとむね
いつけん　一見、ひとめみること、一目
いづこ　何處、那邊、いづく、いづち、どこ
いつこ　何時頃、なんどきごろ
いつこく　一刻、かたとき(一時の半をいふ)、しばし
いつこく　一國、ひとつのくに。くにぢう
いつこくもの[俗](名)　頑固者、かたくなもの、執拗者(粹ならぬ人)

いつこくせんきん　一刻千金(時刻の貴きをいふ)
いつこくせんしう　一刻千秋(待どほしきを謂ふ譬)
いつこじん　一箇人、ひとりのひと
いつこん　一献、ひとさし(酒杯にいふ)
いつてい[する][自他]　一定、さだまる。さだむる
いつてつ　一轍、ひとつみち、同様
いつてつもの(名)　頑固漢、いつこくもの
いつてう　一兆(萬億を兆といふ)
いつてう(名)　乙鳥、つばめ(動物)
いつてういつせき　一朝一夕、ひとあさひとゆふ(暫くの間を形容する文句)
いつてふ　一貼、ひとつつみ、ひとはり(藥膏藥等にいふ)
いつてき　一滴、ひとたらし、ひとしづく
いつでも[俗]　於何時なんどきでも
いつてん　一天、そらいちめん
いつてん　一點、ひとほし、ぽつちり
いつてん　一纏、ひとまとひ、一圓坐
いつてんのきみ　天皇(天下の主を謂ふ)
いつとく　一攫、ひとにぎり
いつない　逸才、すぐれたるちゑのひと
いつさい(形副)　一切、すべて
いつさいたふ　一妻多夫、女が夫を同時に多くもつ風)
いつさいきやう　一切經(佛經の全體)
いつさいしゆじやう　一切衆生、すべてのいきもの(佛語)
いつさつ　一冊、ひととぢ、ひとつ(書籍を數るに云ふ)、一本
いつさつ　一撮、ひとつまみ

いつさう　一雙、ひとつがひ(屏風よ云ふ)
いつさう　一壯、ひとひ(灸治を數ふるに云ふ)
いつさう　一抓、ひとつかみ
いつさくねん　一昨年、おととし
いつさくじつ　一昨日、おととひ、おとつひ
いつさん　一盞、ひとさかづき、一杯、一巡
いつさん[に][副]　獣參、逸散(疾く奔馳する貌)
いつさん　一山、ひとやま、やまでら(寺にも適用す)
いつき　一紀(十二年を云ふ)
いつき　一騎、ひとり(騎馬武者にいふ)
いつき　一期(一年を云ふ)
いつき　一已、いつこ、ひとり
いつき　一跬、一趾半歩をいふ)
いつき　一基、ひともとの塔婆石塔等をかぞふる詞)
いつき　一楑、土寇、土賊
いつきわらは(名)　齋童(住吉の神事にあづかる童男)
いつきかしづく(自)　齋曹、つかへる、奉仕
いつきよ　一炬、ひとひ(たいまつ等にいふ)
いつきよ[する][自]　逸居(はたらかずして居るを云ふ)、樂居
いつきよ　一擧、ひとはたらき
いつきよ　一筥、ひとはこ
いつきよに(副)　一擧、ただちに、いちどよて
いつきよう(名)　逸興、なぐさみ
いつきよう　一興、ひとたのしろさ、ひとなぐさみ
いつきよう　一拱、ひとかかへ、一圍
いつきたうせん　一騎當千(一人にて多くの敵をあたる

べきを云ふ)
いつきむすめ(名)　齋女、いはひこ、かみにつかへるをんなご、をんなはふり
いつきむすめ(名)　愛女、いつくしむむすめ、かわいがるむすめ、たいせつにするむすめ
いつきう　一弓(間數七尺に用ふる詞)
いつきうち　一騎撃、單騎戰鬪
いつきのみや(名)　齋宮(伊勢に在り)。齋院(山城加茂に在り)、いつきのみこのすまひたまふみや。又いつきのみこ(皇女が身を獻げて神前に事ふる者といふ)
いつきのみこ(名)　齋王、いつきのみや、さいぐう。さいねん
いつきく　一掬、ひとすくひ
いつきやう　一頃(田百畝を頃と云ふ)
いつきやく　一脚、ひとつ(卓机床机を數ふる詞)
いつきふ　一級、ひときだ、一階、一等、一段
いつきめ(名)　齋女、かみまつりするをんな、かみよつかへるをんなをんなはふり
いつきん　一鈞(量目三拾斤を云ふ)
いつきん　一斤(量目、日本は百六十匁、西洋は百二十匁)
いつゆ　一庾(十六斗を云ふ)
いつゆう(名形)　逸雄、はやりを
いづみ(名)　泉、泉水、湧泉、しみづ
いづみ　和泉五畿内の國名)
いづみ(名)　籫竹器よて小兒を息ましむる者)
いつみん(名)　逸民、隱者、いんとんじや。よすてびと
いつし[する]　一視、ひとつにみる。又ひとめみる

いつし　一咫(八寸を咫と云ふ)
いつし　一紙(いちまいがみを云ふ)
いつし　一枝、ひとえだ
いつし　一子、ひとりのこ、一男
いつし　一師(二千五百人の軍兵をいへり)
いつし　一蔵、ひときれ(肉にいふ)
いつし(名)　逸矢、それや、ながれや
いつじ　逸字、ぬけじ、脫字
いつしはんせん　一紙半錢(わづかの事をたとふる詞)
いつしどうじん　一視同仁(誰彼の差別なく同じ樣よめぐみわはれむを云ふ)
いつしか(副)　何時、いつとなく、早晩
いつしよ(形名)　一緒、ひとくるめ、ひとつもの
いつしよ　一所、一處、ひとところ
いつしよふぢう(形)　一所不住(家を定めぬを云ふ)、ところさだめぬ(天下を家とする)
いつしつ　一室、ひとへや、ひとま。ひといへ
いつしう　一宗、一派、一宗派、ひとわかれ(教法の)
いつしう　一週、ひとまはり、一七日。一周
いつしう　一襲、ひとかさね(衣服にいふ)
いつしうかん　一週間、ひとまはりのあひだ
いつしうねん　一周年、としひとまはり
いつしうき　一周忌、一年忌(人の死にて一年めの時をいふ)
いつしく　一宿、ひとやどり、一泊
いつしや　一舍(支那にて三十五里を云ふ)、一日路(行軍の)

いつしやう　一生、生涯、よにあるかぎり
いつしやう　一章書籍の一段落をいふ）
いつしやう　一唱ひとゝなへ
いつしやう　一升（一合を十わはせたる者）
いつしやう　逸性、氣樂、のんき、さらくのたち
いつしやうがい　一生涯、いのちのかぎり、よにあるかぎり
いつしやうけんめい　一生懸命、いのちがけ。ちからをつくして
いつしやうふばん（形）一生不犯（生涯交合せぬをいふ）
いつしやうさんたん　一唱三嘆、ひとたびとなへみたびなげく（詩文章をほむる詞）
いつしやく　一尺、ひとさし（十寸をいふ）
いつしやく　一灼、ひとひ（一火）
いつしやく　一勺（十抄をいふ）
いつしやく　一酌、ひとつぎ（酒にいふ）
いつしき　一色（氏）
いつしゆ　一首、ひとうた（歌一つ）
いつしゆ　一株、ひとかぶ
いつしゆ　一銖（一朱に同じ六錢二厘五毛）
いつしゆ　一種、ひとくさ。ひとつのたぐひ
［いつしゆ］　一手、ひとて
いつしゆん　一瞬、ひとまばたき
いつじゆん　一旬（十日を云ふ）
いつしん　一新醴をそゝて新らしくするをいふ）
いつしん　一心、ひとつごころ
いつしん　一身、ひとつみ、わがみ
いつじん　一尋、ひとひろ
いつじん　逸人（世をさけて隱れたる人）逸士、いんし
いつしんふらん　一心不亂、こりかたまりて、わきめもふらず、ひとむき
いつせい　一英、ひとふさ（花にいふ）
いつそつ（形）汨越（ひかりかがやく貌）
いつにう（形）汨遙（はげしく流るる貌）
いつにふ　一葉、ひとひら。ひとは
いつひ　一匕、ひとそくひ、ひとさじ
いつび（名）溢美、ほめすぎ、過譽
いつぴやく　一百（十をいふ）
いつぴき　一匹（牛馬等の一箇をいふ。一疋（布帛二反を云ふ）
いつひんこう（名）一品紅、せうせう（植物）
いつも（副）何時、居常、毎常、毎毎、毎度、つねに
いづも　出雲（山陰道の國名）
いつもながら　乍毎度、乍例
いつせ　一畝（三十歩を云ふ）
いつせい　一世、一代、ひとよ
いつせい［に］（副）一齊、ひとしく、うちそろひて
いつせいき　一世紀（一百年を云ふ）
いつせつ（副）一切、そこしも、一向、とんと、さらに
いつせつ　一說、あるはおし。ひとつのせつ
いつせう　一笑、ひとわらひ
いつせき　一昔、ひとむかし
いつせき　一石（圍碁のあそびに云ふ）

いつせき　一夕、ひとよ、いちや
いつせん［する］　一洗、ひとあらひする
いつせん　一戰、ひといくさ
いつせん　一錢（十厘をいふ。又いちもんめ
いつせん　一千（十百をいふ）
いつする（自）逸、にげさる、かけいだす（馬などの走りさるを謂ふ。又ひきたつ
いつすん　一寸、ひとき（十分をいふ）
いつすんぼし［俗］（名）侏儒、せびく、ひき、ちさご
いね（名）稻、こめのなるくさ、しね、せちごめ、稱、嘉穀、嘉禾、嘉蔬（植物）
いねばたけ（名）稻畦、た（田）、いねつくるはたけ
いねる（自）寢、寐、いぬる、ねる（床にいる或は臥するを謂ふ）
いねかは（名）稃、いなは（稻穗）
いねかり　稻刈、納稼、穫稻
いねかぬる　雛寐、ねられぬ、ねむられぬ
いねかけ（名）喬杆
いねがてぬ　雛寐、いねがたし（古語）
いねつきむし（名）蠻蝥、蝗蠓（動物）
いねつきうた（名）稻舂歌（大嘗會などに稻をつくとき唱へし歌）
いねつきこまろ（名）蚣蝑、はたをりむし蜇螽、蠐螬（動物）
いねむり（名）居眠、坐睡、坐寢、居睡、すわりながらねむること
ねねう［する］（他）圍繞、めぐりかこむ
ねねう（名）遺尿、いばりたれ、遺溺、ねせうべん、よつばり
いねうちば（名）打禾場、穀場、こくうちば
いねん　意念、おもひ、こころ
いねん（名）遺念、おもひのこし
いな　伊奈（氏）
いな（名）鮒魚、ぼらのこ、撥尾魚、鯔（動物）
いな（副）否不、しからず。不諾、不肯
ねな　維那（氏）
いない（副）以內、これよりうち、このうち
いなば　因幡（山陰道の國名）
いなば　稻葉（氏）
いなにを（名）稻堆、いなむら」をみよ）
いなぼ（名）薫稗、禾穗、いねのは
ねなほる（自）居直、すわりなほる
いなとみ　稻富（氏）
いなり　稻荷、狐神（宇賀の御魂を祭る）
いなれはせどり（名）稻負鳥、にはくなぶり（動物）
ねなか（名）田舍、ひな、鄙。村落、鄉村、むらざと
ねなかばば　村嫗、ねなかのとしより、をんな
ねなかぢぢ　村翁、ねなかのとしより、をとこ
いなかぶ（名）稻株、いねのかぶ
ねなかふう　田舍風、野樣、ひなぶり、ねなかざま
ねなかことば　田舍語、鄉談、ひなことば
ねなかざけ　村醪、野釀、ねなかづくりのさけ
いながき　稻垣（氏）
ねなかにゆしや　村儒、村夫子、ねなかがくしや
ねなかもの（名）田舍人、村裏人、田舍漢、鄙人、ねなかうど、田夫、偸夫

いなだ　稲田、いねうゑたる田、いなばたけ。又(氏)
いなだ(名)　鰍、海鰌魚(動物)
いなたば(名)　稲束、穂稲、稲把、いねのたば
いなだね(名)　稲種、いねのたね
いなだま(名)　電(「いなづま」に同じ)
いなだき(名)　頂、いただき(頭の上の方)
ゐなれる(自)　居馴、居昵、すみなれる
ゐなれる(自)　去、さりゆく、はなれる
いなづ　朴津、になづ(氏)
いなつるび(名)　稲交、いなづま(稲の實る頃光る電)
いなつか(名)　稲堆、いなつみ、いなむら
いなづか(名)　稲束、いなたば、いねのつかねたば
いなづま(名)　稲妻、電、列缺、霆電、いなびかり
いなづまがた(名)　列缺形、いなびかりのかたち
いなつぶ(名)　稲粒、米粒
いなつきがに(名)　蟛蜞、ちひさきかに(動物)
いななく(自)　嘶、喝、馬鳴、うまがなく、いばふ
ゐならぶ(自)　居列、列坐、ならびすわる
いなむ(他)　固辞、推辞、辞謝、謝絶、辞退、ことわる
いなむら(名)　稲邑、稲村、いなつか、わらつか、いなにを(稲を高く積たる者)
いなむし(名)　稲蟲、螟蝗、いなご、蠾、蛸蟷(動物)
いなう　諸否、いやねう
いなう(名)　衣嚢、かくし(衣服の)、ものいれどころ
いなのめ(名)　凌晨、しののめ、あけぼの、ひきわけ、曙、天明、早晨
いなくら(名)　稲廩、いねぐら。又禾堆、いなむら

いなや(名)　諸否、いやねう。又(副)ひとしく、ただちに
いなげ　稲毛(氏)
いなふ　稲生(氏)
いなぶち　南淵、みなぶち(氏)
いなぶね(名)　稲舟、いねつむふね
いなご(名)　蝗、蚱蜢、いねにつくむし(動物)
いなごまろ(名)　蚱蜢(「いなご」の別名)(動物)
いなさ(名)　巽風、たつみかぜ(東南風)
いなき　稲置、いねかけぎ(稲を掛て乾す爲に設けたる組たて木。たま(氏)
いなみ　印南、井南(氏)
いなみばし(名)　牽牛星、いぬかひぼし
ゐなじむ(自)　居染馴、ゐなれる
いなびかり(名)　稲光、電霆、霆、紫電、電鞭、天閃、電光、列缺、閃電、電火、いなづま、電氣の發して光る者)
いなせ(名)　否應、いやねう、諸否
[いなん]　伊南、いなみ(氏)
いら(名)　莿、とげ、ばら、刺(植物)
ゐら(名)　緯羅、かやぢ
ゐら(名)　飾、あめ
いらい[する](自)　依頼、倚頼、よりたのむ、たのむ
いらい(副)　已來、以來、このかた、已降
いらいら[俗](形)　苛苛、ちくちく(痛む貌)
いらへ(名)　應、唯、答、唯諾、こたへ、へんじ
いらか(名)　甍(屋上の瓦を云ふ)、かはらやね
いらたか(形)　高平高厥、たかくたひらかなる
いらだつ(他自)　苛立、刻急、いらつ、いからせる(氣を)、いらめび、聖浄火

いらする
いらつ(他自)　苛焦燥、いらだつ、ぢらす。ぢれる
いらつく(自)　苛着、ちくちくする
いらつご(名)　郎子、年わかきをとこの美稱(古語)
いらつめ(名)　郎女、年わかき女の美稱(古語)
いらつひめ(名)　郎女、いらつめ(古語)
いらいらぐ(自)　荒立、ざらつく、ざらざらする。ひくひくする　皸瘃、あれる(寒さ等にて皮膚が)
いらいらぐさ(名)　鬼桃草、羊蹄、萇楚、楊桃(植物)
いらむし(名)　蛞蝓、毛蟲、けむし(その巣房を雀蠆即ち「すずめのもたひ」と云ふ)楊痴子
ゐらう(名)。—する(他)　慰勞、いたはり。ねぎらひ。いたはる。ねぎらふ
いらくさ(名)　蕁麻、苛草(「からむし」の類の植物)
いらくされり(形名)　蕁麻織、いらくさにてれりたるぬの
いらひどい[俗]形)　苛酷、刻急、きびしき、こくなる
いむ(他)　禁、忌、あしとする。避嫌、きらふ。諱、かくす
いむべ　忌部、いみべ(氏)
いむけのそで(名)　射向袖(鎧の左の袖。是圖なるは山城國鞍馬寺所藏にて義經の所用)
ゐむしろ(名)　閾席(備後より製するたたみれもて等をいふ)びんごれもて
いむび(名)　齋火、きよ

(圖のでそのけむい)

いらつ(或しう)(名)　莠、あのころぐさ、はぐさ(植物)
いらいら(名)　幽憂、きのむすぼれ、うれへ
いらいら(名)　優遊、たのしみあそび、なぐさみあそび
いらいら(副)　猶悠、ゆつたり、ながながと
いらいら(副形)　悠悠、ゆるゆる、のどやか、融融。又うれはしき、かなしき
いらいうふだん　優遊不斷、いづれともさだめずためらふこと、てきはきせぬこと
いらいん[する](他)　誘引、さそふ、いざなふ、そびく
いらば(名)　汕馬、かすげうま(動物)
いらばつ(名)　由跋、れはばんげ、むさしあぶみ(植物)
いらばく(形)　悠邈、はるばる、とはき、遼遠
いらは(名)。—する(自)　遊歩、あそびあるき。散歩、散策、なぐさみあるきする
いらばう(名)　猷謀、はかりごと
いらばう(名)　蟾蜍、がまみ(動物)
いらばく[する]　遊牧(牧畜を業とする人民の如く水草を追て移るを謂ふ)
いらへい[する](他)　幽閉、れしこむる(人を室内等よ)
いらへい(名)　遊兵、てあきのぐんせい、ひかへのつはもの、豫備兵
いらべい(名)　釉米、たいとうごめ
いうとう(名)　游冬、にがむ(植物)
いうとく(形)　有德、とくある(德行或善德を具ふる)
いうち[する](他)　誘致、さそふ、いざなふ
いうぢよ(名)　遊女、たはれめ、うかれめ、娼妓、遊君、婦子、あ

そびめ
いうおよや(名)　遊女屋、青樓、女郎屋
いうちやう(形)　優長、ながたらしきさまなが(氣長)
いうぢやう(名)　遊場、あそびば、あそびどころ
いうり(名)　遊里、いろまち、いろざと、女郎町、くるわ、北里
いうりよ[する](自)　憂慮、れもひわづらふ、きをもむ、うれふる
いうりよう(名)　遊龍けたで(植物)
いうりきしや(名)　有力者、ちからあるもの(富る者權勢ある者などを謂ふ)
いうりん　幽林、しづかなるはやし(山間等の)
いうれん(名)　憂恩、あつきめぐみ
いうかい[する](自)　誘拐、かどわかす、おざむきてつれゆく
いうかりじゆ(名)　有加利樹(其成長迅速にして薪木材木に適かするのみならず又蜜蜂をもゆ飼ひ得べき樹のなり)

いうかう(名)。—する(自)　遊行、あそびあるき。遊歷、たびあるき。ゆきめぐる
いうがう[する]　遊遨、なぐさみにあるく、散策、つゑをひくあそぶ。をごる
いうかく(名)　遊客、たびあるきするひと、へんれきしや、遊行者。又あそびて
いうがく(名)　幽寂、ふかきたにに
いうがく[する]　遊學、ゆきてまなぶ。つきてまなぶ(師等に)
いうかん(形)　幽閑、ものしづか、幽靜
いうがん(名)　疣眼、うをのめ、いぼ
いうがん　優顏、みやびがほ、やさしきかほ
いうよ(形名)　有餘、あまり。のこり
いうよ(名)。—する(他)　猶豫、うらみもひ、ためらひ。又のばし。又ためらふ。のばす、ゆるやかにする
いうよく(名)。—する(他)　右翼、みぎつばさ。又たすくる
いうだ(形)　遊惰、なまけ、れこたる、懶惰
いうたい(名)。—する(他)　優待、てあつきあしらひ、厚待。てあつくあしらふ
いうたう(名)　遊蕩、みもちわしきこと、あそび、放蕩
いうだう(名)。—する(他)　誘導、みちびき、案內。すすめみちびく
いうだう(形)　有道、みちある、ただしき(君王に云ふ)
いうたうじ(名)　遊蕩兒、うはきもの、だらしくもの
いうたん　優譚、うちとけたるものがたり、懇話
いうれい(名)　幽靈、亡靈、死靈、ひとだま、幽鬼(死人の魂)。ばけもの
いうれい　優禮、てあつきもてなし
いうれつ(名)　優劣、まさりおとり、贏輸勝敗
いうれふ(名)。—する(自)　遊獵、かりあそび。あそびがりする

いうれふち(名)　遊獵地、かりば(貴人等の)
いうれき(名)。—する(自)　遊歷、へあるき、へめぐり(國等を)。たびあるきする
いうれきしや(名)　遊歷者、遊客、へめぐるもの、たびあるきびと
いうそう[する](他)　郵送(郵便にて送くる)
いうそく　右側、みぎのかたはら、みぎのかた
いうそく[する](自)　游息、いこひやすむ
いうづう(名)。—する(自他)　融通(金子の)、流通、めぐり。まにわはせる(金子を)。又かよはせもちふる。轉用
いうねん　有年、としわり(豐年なるを謂ふ)
いうなん(名)　憂難、うれへなやみ、わづらひ
いうらく　憂樂、うれへ及たのしみ
いうらく(名)　遊樂、ゆさん、あそびあるき(山野等の)、行樂
いうらん[する](他)　遊覽、あるきみる(名所等を)
いうらん(名)　幽蘭、美き花さく木(植物)
いううつ(名形)　幽欝、きふさぎ、うれへ。又しげれる、繁茂
いううん(名)　油雲、あまぐも、あめをもてるくも、こきくも
いうく(名)　憂懼、うれひれそれ、きづかひ
いうく(名)　憂苦、うれひくるしみ
いうくわ(形自)　融和、のどか、はるめきたる。とけわふ。まじりあふ
いうくわ　宥過、とがをゆるす
いうくわい(名)　幽怪、ばけもの、幽靈
いうくわう(名形)　幽荒、ゑびすぐに。あれたる
いうくわく(名)　遊郭、いろざと、くるわ

いうかん(名)　遊女屋、青樓、女郎屋
いうぐわん(名)　憂患、うれひ
いうくわん(形)　優寬、ゆるやか、寬大
いうくわん[する]　遊觀、あるきみる(遊覽に同じ)
いうくん(名)　遊君、あそびめ、女郎
いうぐん(名)　遊軍、豫備の軍兵といふ、ておきのつはもの(遊兵と同じ)
いうや(形)　遊冶、みもちわるき、放蕩
いうやらう(名)　遊冶郎、うはきもの、どうらくもの、をんなぐるひし
いうまい(形)　幽昧、くらき、かすか
いうまう(形)　雄猛、つよくたけき
いうげ(或いうぎ)(名)　遊戲、あそびたはむれ
いうげい(名)　遊藝(琴三弦等の如きを善くする藝)
いうけふ(名)　遊俠、うでだて、をとこだて
いうげき(形)　有隙、なかわるき
いうげき(形)　幽閑、しづか、閑靜
いうげきたい(名)　遊擊隊(援軍に豫備したる兵)、遊軍
いうげん(形)　幽玄、れくふかき、しりがたき、隱微
いうふ[する](自)　游浮、れよぎうかぶ
いうふ(或うむ)　有無、あるなし
いうふかん(名)　有夫姦(夫ありて他の男に通ずるを云ふ)。まをとこ
いうぶつ(名)　尤物、すぐれもの、なかなかもの
いうふく(形)　有福、かねもちなる、ふところのあたたかき
いうふん(名)　憂憤、うれひいきどほり
いうこう(形)　優厚、てあつき
いうこく(形)　憂國、くにをうれふる(國の爲に心を勞す

る)愛國
いうこく　幽谷、ふかきたに
いうこん(名)　幽魂、なきたま、亡靈(死者の魂魄)
いうこんしょく(名)　油紺色、びろうどいろ
いうてい[する](他)　遊偵、しのびうかがふ
いうてい(名)　游艇、はしぶね、あそびぶね
いうてい(名)　郵亭、しくば驛亭
いうてい(名)　郵程、しくつぎのみちのり、驛程
いうてう(名)　遊鳥、をとり、雜鳥
いうてん(名)　幽靈、げぢげぢむし、やまむかで(動物)
いうでん(名)　郵傳、しくつぎ、驛傳
いうでん(名)。—する(自)　游田、けものがり
いうあい(名)　友愛、とものよしみ、友誼
いうあう(形)　幽奥、たくまりたる、幽深、たくふかき、幽玄
いうあく(形)　優渥、ゆたかにあつき(恩惠等の)
いうわく　誘惑、わしきみちにいざなふ
いうわん(形)　幽暗、くらき、黒暗
いうざい　有罪、つみをゆるす
いうさつ(名)　幽殺、かげばし、ひかげばし
いうさう(名)　悠想、はるけきおもひ
いうき　有機、鳥獸の如く身體の構造に機關と具ふるをいふ)
いうき　憂喜、うれひとよろこび
いうき(名)　遊戲、あそびたはむれ
いうき(名)。—する(自)　游嬉、あそびたのしむこと。たはむれあそびする
いうきとけい(名)　有期徒刑(年月の定めあるつみの名)
いうきよ(形)　幽虛、かすか、むなしき
いうきよ(名)　幽居、わびずまひ。閑居、しづかのすまひ
いうきよう(名)　遊興、あそぶたのしみ、あそび、をごり
いうきたい(名)　有機體、有機の身體、鳥獸等の如く機關を具ふる身体)
いうきくわがく　有機化學(有機物を分析する學)
いうきぶつ　有機物(機關を具ふる生物)
いうぎん(名)　遊銀、あそびがね、ねかしがね、ねがね
いうゆ(形)　優裕、ゆたか、ゆつたりしたる
いうめい(形)　有名、なだかき、なある
いうめい(名形)　幽冥、やみ。くらさ。陰府、よみ。くらき
いうめいむじつ　有名無實、なありてじつなき。なばかりの
いうめん(名)。—する(他)　宥免、宥恕、寬恕、ゆるし(過罪等の)、赦免
いうみん(名)　遊民、あそぶひと、のらくらもの(職業に從事せぬ人をいふ)
いうし(形名)　有志、こころざしある。また志士
いうし(名)　有司、やくにん、つかさびと、官吏
いうし　優姿、やさしきすがた(優美の容貌)
いうし　幽姿、たをやかなるすがた、けだかきすがた
いうし(名)　憂思、うきおもひ、うれへ、しんぱい
いうし(名)　遊士、たはれを、あそびをとこ(女郎買等に耽る人)、嫖客[又遊子に同じ、下を見よ]
いうし(名)　遊子、たびびと、たびするひと、旅客
いうし(名)　猶子、をひ(甥)
いうし(名)　郵子(宿次の人足)
いうし(名)　遊絲、かげろふ、いとゆふ
いうじょ[する](他)　宥恕、ゆるす(過失等を憐察して)
いうじょ[する](他)　優恕、みのがす(過失等を)
いうしようれつぱい　優勝劣敗、まされるはかちれとれるはまける(適種生存の理)
いうじょうやすり(名)　葛乘鑑(工具)
いうしょく(名)　黝色、ねずみいろ
いうしょく(名)。—する(自)　遊食、あそびぐひ(無職業にて生活をるを謂ふ)
いうしう(名)。—する(他)　幽囚、れしこめ。れしこめる(牢獄等にとらへれく
いうしう(名)　憂愁、うれひ、なげき
いうじう(形)　優柔、ものやはらか。はきはきせぬ、ぐづぐづ
いうじうふだん(形)　優柔不斷、ぐづぐづしてきめぬ(不決斷を謂ふ)
いうしゃう[する](他)　遊賞(山水にあそびてその景色をよろこびほむる事)
いうしゃう　優賞、あつきはうび、厚賞
いうじゃう(形名)　有情、こころあるもの(草木等の無情に對す)
いうしき(形名)　有識、ものしり、有學
いうしゅ(名)　右手、めて、みぎのて。たすけて、助手
いうしゅ(名)　遊手、あそぶもの、のらくらもの、遊民
いうじゅ(名)　遊樹、ついはり、ささへ、つつぱり、つつかひぼう
いうしゅつ[する](他)　誘出、さそひだす

いうしん(名)　憂心、うれへごころ
いうしん(形名)　有身、はらめる。みもち
いうじん(名)　遊人、あそぶひと、遊士
いうじん(名)　友人、とも、朋友、ともだち
いうじん(名)　幽人、隱者、かくれびと、いんとんどや
いうしんし(名)　宥心柿、ふでがき(植物)
いうない(名)。—する(自)　游泳、およぎ。およぐ
いうないぢやう(名)　游泳場、すねれんば、およぎば
いうにき(名)　郵驛、うまつぎ、しゅくつぎ
いうにき(形)　有益、ためになる、にきある、やくにたつ(無益に對す)
いうにん(名)　遊宴、あそびざかもり
いうにん(形)　有緣(うにん)、にしある、ちなみある
いうにん(名)　油絲、みるちや(染色)
いうにん(形)　優艷、やさしき、たをやか、優美
いうにん(形)　幽艷、ものしづかにみやびたる
いうえん(名)　游園、公園、あそびその
いうび(形)　優美、みやびやか、やさしき
いうひつ(名)　右筆、ものかきやく、書記
いうひつこんがう　右彌金剛、にわう(寺門の)
いうひん(名)。—する(自)　遊牝、つるみ(獸が牝牡相つがふ事をいふ。つがふ
いうびん(名)　郵便、驛傳、書信等を速に運ぶ組織の名)
いうびんはいたつにん(名)　郵便配達人、帶信脚夫、てがみくばり
いうびんきょく(名)　郵便局(書信等を郵送する官署)
いうせい(形)　幽靜、ものしづか、幽閑、しんとしたる

ものゝ　もとのかはつた見識の狭き者にたとふ（井底蛙）
ものゝ　井口邊草植物（名）
ものゝ　薄雪つゝじ草木（名）
ものゝ　行往ゆくめくよみる（俗）（自）
ものゝ　生ひきる（自）
ものゝ　腸炎ふくれる飯等が（自）
ものゝ　異々あきらかやく（形）
ものゝ　数字植物（名）
ものゝ　闕買ひなさうる殺買ひ（他）
ものゝ　幾許（副）幾多幾何なにほどばくもなく無幾もあるまいばくもなく（副）
ものゝ　幾程なにほどばくも（副）
ものゝ　幾重にもたゞら（副）
ものゝ　異口同音もろともに均しく言を殺をる
ものゝ　幾年いくねんのことゝも（名）
ものゝ　意氣地きちがいぢやうねく（俗）
ものゝ　黄蜀葵黄蜀葵きらのきのこ黄蜀葵植物（名）
ものゝ　俄雨夏雲みつくちの（名）
ものゝ　身勢者よりもし氣力なき人（俗）
ものゝ　自生ものをだつて育長成育する（自）
ものゝ　都会にはうめなすもの植物（名）
ものゝ　海底石海の中にある岩石（名）
ものゝ　自生活存きるながらへる、ものを（自）
ものゝ　数鉢数でし鳥をとる事（名）
ものゝ　荒花こぶし植物（名）

ものゝ　幽閑しづかなるやうれよる憂世よを憂國を同じ（形）
ものゝ　獄獄卒の切手牌（名）
ものゝ　遊戯ものをあるく、ねんごろにする（自）
ものゝ　樹青岡樹こなる植物（名）
ものゝ　優訓あつきみこのり
ものゝ　脚海くるをかす（他）
ものゝ　憂成うれしかなしみ（名）
ものゝ　郵船ひやくせん飛脚船定期航海船（名）
ものゝ　遊船ゆさんぶねあそびぶねゆさんぶね（名）
ものゝ　悠然のどかゆたりさなが（形）
ものゝ　友禅縮緬西京にて織出を業はとする（名）
ものゝ　友禅染京都にて染出す諸模様の染物（名）
ものゝ　遊船宿ゆさんぶねやどを云ふ（名）
ものゝ　友禅扇の数にて書工友禅の製出せる扇（俗）
ものゝ　幽邃ものしづかな山間の景色等の如きを（形）
ものゝ　水鳥ものをる（名）
ものゝ　生野氏（氏）
ものゝ　活産靈神の名（名）
ものゝ　幾何いくばくなにほどいくばく（副）
ものゝ　幾月いくつきいくばくのつきを
ものゝ　幾陣いくつらなるいくばくの陣等に謂ふ
ものゝ　幾個いくつなにほどいくつも（副）
ものゝ　幾何いくばくなにほどいくばく（副）
ものゝ　幾度幾回幾番たび（副）
ものゝ　幾世いくよ
ものゝ　幾夜いくよ
ものゝ　幾日いくかいくにち
ものゝ　幾人いくたり
ものゝ　太冠之會冨貴の人の會合（わかんのくわんのくわい）
ものゝ　胃管胃腑ものふのくわんだ（名）
ものゝ　胃脈ものぶのくわんみやく（名）
ものゝ　位官くらゐかたつらゐ階と官職（名）
ものゝ　以遠以來そのかたつのち（副）
ものゝ　移官やくがうつり轉任（名）
ものゝ　衣冠いしやうかんむり冠帯（名）
ものゝ　醫官在官の醫者（名）
ものゝ　威光いきほひたふとさありさま威嚴（名）
ものゝ　意外かもくはかおもひのほか意表（形）
ものゝ　以外もつてのほかこのほか（副）
ものゝ　醫官醫者の集會をいふ（名）

ものゝ　憂世よをうれふる憂國を同じ（形）
ものゝ　幽閑しづかなるやうれよる（形）
ものゝ　獄獄卒の切手牌（名）
ものゝ　遊戯ものをあるく、ねんごろにする（自）
ものゝ　樹青岡樹こなる植物（名）
ものゝ　優訓あつきみこのり
ものゝ　脚海くるをかす（他）
ものゝ　憂成うれしかなしみ（名）
ものゝ　郵船ひやくせん飛脚船定期航海船（名）
ものゝ　遊船ゆさんぶねあそびぶねゆさんぶね（名）
ものゝ　悠然のどかゆたりさなが（形）
ものゝ　友禅縮緬西京にて織出を業はとする（名）
ものゝ　友禅染京都にて染出す諸模様の染物（名）
ものゝ　遊船宿ゆさんぶねやどを云ふ（名）
ものゝ　友禅扇の数にて書工友禅の製出せる扇（俗）
ものゝ　幽邃ものしづかな山間の景色等の如きを（形）
ものゝ　水鳥ものをる（名）
ものゝ　遊水鳥ものをるづくりとり
ものゝ　芝時人定時にものをるとき夜の十時
ものゝ　生命寿命、ものをはひいのち（名）
ものゝ　瀕命必死沈死昧死、犯しぬるかくごにてかゝるのちがけ（形）
ものゝ　生睡ものをりうちのうちに生をらふ（一生）
ものゝ　命代、賠命銀死刑をものがなよう金（名）
ものゝ　存命ながらへる（名）
ものゝ　長命遅齢壽齢長生壽考長壽ながく（形）
ものゝ　命を願ふこと（名）
ものゝ　短折短命夭折はやくしぬる（形）
ものゝ　呪殺のろひころすのろふ（他）
ものゝ　祈禱、れがふまた呪詛のろふ（他）
ものゝ　飯尾、をいひ（名）
ものゝ　漂業がいにたりがひ、文鳴東海夫人動物（名）
ものゝ　伸能（氏）
ものゝ　井上（氏）
ものゝ　井口（氏）
ものゝ　猪股（氏）
ものゝ　豚ぶた家畜動物（名）
ものゝ　亥猪醫暦十月の刻亥の日を云ふ（名）
ものゝ　猪子（氏）
ものゝ　牛膝草牛蒡植物（名）
ものゝ　蔵せんまい毛氈紫茸遠藤植物（名）
ものゝ　猪牙むかしの（名）
ものゝ　伊目（氏）
ものゝ　天名精やぶたばこ虻核活脚草はな植物（名）
ものゝ　猪家のぶた野猪ふたいらなすのいなお動物（名）
ものゝ　猪武者ぶたやしなひ、猪武者猪突猛進のいなお（名）

いくさ(名) 戰闘、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさ(名) 荒れる爐心草、碧玉草(植物)
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくじし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら
いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさ(名) 荒れる爐心草、碧玉草(植物)
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさのてがら 軍功、たたかひのかうみやう
いくさのきみ(名) 將軍、將帥、たいしやう
いくさぐるま(名) 戰車、我車、革車、兵車、臨衝轒轀、いくさにつかふくるま
いくさぶね(名) 軍艦、艨艟、舳艫、艫、たたかひぶね
いくさびと(名) 軍人、軍卒、士卒、つはもの
いくし(名) 郁子、むべ、かつら、さるもゝ(植物)
いくし(名) 齧子、やしなひご、養子
いくとし(名) 五十串(神前にそなふる幣帛の榊)
いくとるん(名) 育兒院、貧困人の小兒をやしなふ所の公館)
いくしま 生島(氏)
いくび(名) 猪頸、短頂、みじかきくび
いくひたるひ 生日足日(めでたきたとくにいふ)
いくひさしく(副) 幾久、とこしなが〳〵、ながらく
いくせ 一宮尊(氏)
いくん(名) 偉勳、たぐひあるいさをし、たぐひなるてがら

いくさ(名) 戰鬪、戰爭、交干戈、兵革之事、また軍勢、軍師
いくさば(名) 軍場、戰場、たたかひば、戰地、戰爭地
いくさばた(名) 軍旗(軍隊の立る旗)
いくさをかくす 班軍(兵をしりぞくる也)
いくさをひきうく 奉師(兵士を奉ねる也)
いくさがみ(名) 軍神、鬪戰神、ゆみやがみ
いくさなばひ(名) 鯢、ときのこゑ、鯨波
いくさのつづみ(名) 鼗鼓、金鼓、せめつづみ
いくさのつかさ(名) 軍將、將帥、たいしやう
いくさ

ける。また叱責、せめる、しかる。又しばる
ねます(自)　居、在、をる」の尊語)
いますこし(副)　今少、なほそこしばかり
ねまん(名)　帷幔、まく、たれぬの
いけ(名)　池、沼、陂、みづためぼり
いげ(名)　荊棘、いばら(植物)
いげ(副)　以下(いか)、した
いげ(名)　飯氣、めしのいき、餾
いけい(名)　縊刑(絞罪をいふ)、くびりころすしおき
ねけい[する](他)　畏敬、たそれうやまふ
ねけいざい(名)　違警罪(警察規則を犯せる罪)
いけばな(名)　活花、挿花、器にいけたる花)
いけはぎ(名)　生剝(牛馬等を活るまゝ皮はぐをいふ)、いきはぎ
いけにへ(名)　生贄、犧牲(生物を殺して神に獻ぐるをいふ)
いけべ　池部(氏)
いけどる(他)　虜俘、擒、とりこにする、活捉、生得、活捉、生捕、生擒、生俘、いかしとらへる。捕、逮捕、捕掌、からめとる(罪人などを)
いける(他)　埋物並に火等を埋る、うづめる。又さす(花を花活に)、挿
いける(形)　活生、いきてをる、いのちある
いけるもの(名)　生物、生類、いけるたぐひ、含靈
いけがき(名)　生籬、垂籬、生垣(生る樹をもて作れる垣をいふ)

いけん(名)　意見、みこみ、ぶんしより
ねけん(名)　威權、いきほひ、ちから、けんぺい、權威、威力
ねげん(名)　遺言、死者がのこせることば、ゆゐごん
いけんがましき[俗](形)　異見ヶ間敷、いさめだてする、いけんだてそる
いけんだて[俗](名)　異見立、いさめだて
いふ[する](自)　依附、よりつく(君長などに)、歸向
いふ(名)　姨夫、はゝかたのねばむこ
いふ　異父、たねがはり(母が同うして父に異るをいふ)
いふ(他自)　言、道、云、曰、謂、いひあらはす、かたる
ねふ[する](他)　威怖、をどす、おびやかす
ねぶ(名)　威武、いきほひ、權勢
いふいふ(形)　邑邑(憂ふる貌)
いふぼ(名)　邑籠(憂ふるのちやうめん)
いふちやう(名)　邑長、むらをさ、村長
いふり(名)　邑里、さと、むら、むらざと
いぶり　臍振(北海道の國名)
いぶり(名)　不忍、安忍、なさけなきさま、無情
いふりよ(名)　邑閭、むらざと
いぶる(自)　燻、けぶる
いぶかる(自)　訝、怪訝、訝疑、あやしむ、ふしぎよおもふ
いぶかしき(形)　髣髴、いぶせき、きがふさく、こころはれやかならぬ
いぶかしき(形)　不審、わやしきげせぬ、わからぬ
いふれい(名)　摂禮、禮儀、あいさつ、いや
いふれう(名)　疫癘、みづうみ(腫物の)

いぶつ　異物、めづらしきもの又しぬるひと、死者
ねぶつ(名)　遺物、かたみ、ゆゐもつ
ねぶつろん(名)　唯物論(宇宙の萬有は皆物質にて成るといふ說)
いふならく　說道(言ふなりの轉)、いはく
いふらう(名)　邑老、むらとしより、村老
いふう(名)　異風、かはりたるふうつき
ねふう(名)　遺風、のこれるならはし、遺俗
いふく(名)　衣服、ころも、きるもの
いふく(形)　異腹、はらがはり、ことはら(父が同うして母が異るを謂ふ)
ねふく[する](自)　畏伏、畏服、れそれしたがふ
ねふく(名)　威福、威勢、威權、いきほひ、けんぺい
ねふく[する](他)　威逼、ねどしせまる、ねどしつける
ねぶくろ(名)　胃腑、ねのふ
ねふくし(名)　遺腹子、わすれがたみのこ
いふさい(名)　邑宰、むらをさ、庄屋
いぶき(名)　伊吹木、柏槇、柏頭、檜柏、圓柏、栝、びやくしん(植物)
いぶき(名)　氣吹、いきふくこと、呼吸
いぶきばうふう(名)　邪蒿(植物)
いぶきとらのを(名)　拳參(植物)
いぶきよもぎ(名)　九牛草、蔓蒿(植物)
いふきやう(名)　邑鄉、むらざと
いふきやうだい　異父兄弟、たねがはりきやうだい
いふきふ[する](他)　挹汲、くみとる(水などを)
いぶきじやかうさう(名)　唇形の一種、ひやくしんかう(植

いぶしぐすり(名)　燻藥、むしぐすり
いふしふ(名)　邑聚、むら(多人數が集て村落を成すといふ)部落
いふじん(名)　邑人、さとびと、村人
いふねう(形)　燿燿、かがやく、ひかる
いふせい(名)　邑正、むらをさ、なぬし、しやうや
いぶせき(形)　鬱悒、悒憤、わびしき、きがひらけぬ
いぶす(名)　草烏頭、鶯鶯菊、とりかぶと(植物)
いぶん(そる)(他)　以聞、きこにあげる(君王等に)
いぶん(名)　異聞、かはりたるはなし。又めづらしきはなし
いぶん(名)　移文、回文、まはしぶみ
いぶん　遺文(死者の)のこせるふみ、遺稿
いご(副)　以後、已後、こののち
いご(名)　圍碁、碁をかこむ事、ごうつわざ
いころす(他)　射殺、いとめる
いこり(名)　坐行、ねざり、ねざること
いこつ(名)　遺骨、のこせるほね(死人をやきたる骨)
いこう　偉功、にはいなるてがら
いこく(名)　異國、異邦、外國、ことくに、とつくに
いこく(名)　夷國、にびすくに
いこやか(副)　岐巍、いこよか、たけたかし
いこま　生駒(氏)
いこふ(自)　憩休息、休憩、歇息、やすむ、こやすみする
いこき(名)　石胡荽、鶏不食草(植物)
いごもり(名)　齋籠、ものいみごもり
いこん(名)　遺恨、うらみ、よくしみ

いて(名)　射手、弓手、ゆみいるつはもの。ゆみいるひと
いて(名)　洫、たみぞ(田の溝間をいふ)
いで　去來、いざ、率(發語の詞)
いで(名)　井出(氏)
いでい　異體、かはれるかたち、ことやうのいでたち
いでいり(名)　出入、出納、ではいり
いでばね(名)　出葉、いでてはなばなしきこと
いてとけ(名)　凍解、こほりぞけ
いてる(自)　氷結、凍、堅凍、沍寒、こほる(冬は水が)
いでたち(名)　服裝、みなり、よそほひ、扮裝、發裝、打扮
いでたつ(自)　出立、發足、でかける、しゆつたつする
いでそよ　爾乃、いざ。又いかで
いてう　異朝、ことぐにのみかど。又ことくに
いでや　率(發語の詞)。いざ、いで
いてふ(名)　銀杏、鴨脚、ぎんなんのき(公孫樹(植物)
いでおふ(自)　出逢、ふとあふ。又きたりあふ(「いでおひ」をみよ)
いでおひ(名)　邂逅、出逢、ふとであふこと。きたりあふこと、會合。密會、しのびあひ
いてき(名)　噫慨、なげきうれへ
いてき(名)　夷狄、にびすびと
いでゆ(名)　温泉、をんせん、わきいづるくすりゆ
いでしほ(名)　滿潮、みちしほ
いてん(名)—する(自)　移轉、やうつり、すまひがへ。ひきうつる
いてん(名)　遺典、むかしのこりぶみ

いでん(名)　位田(位に隨つて領する田地といふ)
いでん(名)—する(自)　遺傳(子孫に遺りつたはる事をいふ)
いとい(名)　遺愛(死者が生前に愛したる人)
いとあはせる　居合、おちあふ、ともよあふ
いとおく(名)　帷幄、まく、たれぬの
いとてる(他)　射中、的中、いてあてる(矢などを)
いとひぬき(名)　居合扱刀劍はやぬきの術をいふ)
いとん(名)　醫案、診斷書、診察書、しんさつがき)
いさ[する](自)　猶嗟、あげく
いざ　去來、率、率、いで、いでや、いでいで(發語の詞)
いさい(形副)　委細、つまびらか、こまやか。くはしく、委曲、逐一、詳細、委詳
いさいそく[俗](名)　居催促(立さらずしてはたるを謂ふ)
いざいざ　去來去來(「いざ」にれなじ)
いさは(名)　彩葉、しぼりのは、しまのは
いさば(名)　魚市、うをいち
いさはし(名)　功、いさを、勳功、忠勳、忠節、功績、てがら
いさり(名)　犂底、とこ、のきり(農具)
いさり(名)　漁獵、すなどり、潛水、かつぎ、もぐること(水に)
いざり(形名)　蹇、あしなへ、臀行、坐行、膝行(足たたぬ事また人)
いさりぶね(名)　漁舟、あまをぶね、漁船、れうせん
いさりび(名)　漁火、漁舟、漁燈、回島火、あさりび、れふしのたくひ

いさを(名)　勇夫、いさましきをとこ、ますらを
いさを(或いさをし)(名)　功績(「いさはし」をみよ)
いさをし(名)　豪傑、そぐれたるひと。てがらあるひと
いさかひ(名)　諠譁、諍、鬪、鬪諍、爭論、口論、あらそひ
いざよふ(自)　猶豫、ためらふ、うらむ
いざよふなみ(名)　徘徊浪(潮の滿干にて浪の狂ひあるくを云ふ)
いざよひ(名)　十六夜、既望、哉生魄(十六日の夜をいふ)
いさつ[する](他)　縊殺、くびりころす
いさな(名)　鯨、くじら、勇魚(動物)(古語)
いざなふ(他)　誘、誘引、さそふ、倡引。をびく
いさなご(名)　鮣(動物)
いざなぎのかみ　伊弉諾尊(天神第七代の男神)
いざなみのかみ　伊弉册尊(天神第七代の女神)
いささか(形)　些細、いささかなる、わづかの、すこしの、ささやか
いさらなみ(名)　小波、細波、さざなみ、こなみ
いさらひ(名)　臀髖、しり、ゐしき、れいど
いさう　異相、かはりたるそがた(仙人などの如き)異體
いさう(名)　意想、れもひ、思想、ねん
いさう(名)　衣箱、からひつ、簞笥、たんす)
いさうらう(或いさらふ)(名)　食客、寄食兒、かかりうど、やくかいもの
いさうぐわい　意想外、れもひのほか
いさく(名)　造作、不作、凶作、ふしきでき(農產物の)
いさく(名)　遺策(死者ののこせし計策)
いさく(名)　謹賀、よしず

いさくさ(名)　口舌、舌論、いさかひ、ごたごた
いさふ(他)　叱、しかる、ののしる
いさふ(自)　競爭、きそふ、わらそふ
いさご(名)　沙、砂、すな、纖沙、細沙、磧、まさご
いさぎ(名)　魦(鱚魚、動物)
いささか(副)　聊、漸、少許、すこしばかり
いささめ[に](副)　只暫、假、かりそめ、かりに。いささか。
　又白地、あからさまに
いさぎよき(形)　潔清、淨明廉潔白、清淨、清潔、廉潔、雪白、
　　綱屑淨的潔心、佰、きよき、わだかまりなき
いさめる(他)　諫諷、諍、いけんする(重に目上の人に)
いさみ(形名)　俠客風、市虎、俠者、をとこだて
いさみたける(形自)　勇悍、勇武、勇猛、いさましくつよき
いさん(名)　衣傘、きぬがさ
ねさん(名)　遺産、死者の遺せる財産)
ねさん(名)　違算、誤算、さんちがへ、かぞへあやまり
いさんばい(名)　易産具、こやすがひ(動物)
いさ[する](自)　依歸、よる、よりたのむ、依附
いさ(名)　氣息、呼吸、いぶき
いさ(名)　意氣、こころばへ、こころだて
いき(名)　噫氣、あくび
いき(形)　依痴、さもよたる、彷彿。ぼんやりしたる
いき　伊吉(氏)
いき　壹岐(西海道の國名)
いき(名)　衣櫃、たんす、きものいれ
ねき[する](他)　遺棄、すてる、うちすてる
ねき(名)　位記、くらゐがき

ねき[する](他)　委棄、そてる
ねき(名)　畏悸、をじけ、をそれ
いぎ(名)　異議、異論、故障、さはり
ねぎ(名)　居木園木、瓪瓦(馬の鞍の前後の木を云ふ)
ねぎ(名)　威儀、禮儀、儀式、さはふ、いやのみち
いきいき(形)　活活、活潑、はきはき、いのちある
いきぼとけ　活佛(有德の高僧を稱す)
いきほひ(名)　勢、威、威權、威勢、威熾、勢威、勢力、權勢、けん
　　ねけんぺい
いきどほる(自)　憤慍、憑懣慨、於邑、はらたつ
いきとしいけるもの　一切衆生、あらゆるいのちあるもの
いきな(名)　意氣地、意地、いくぢ、こんじやう
いきちがへ(自)　行交(ゆきちがふの俗)
いきりやう(名)　生靈(いきてをる人の怨靈)
いぎりす(名形)　英吉利斯(歐羅巴の强國の名)
いきる(他)　射切、いてきる
いきわかれ(名)　生別、いきながらわかれること(夫婦などが)
いきかへる(自)　蘇生、甦、よみがへる、更生
いきかへす(他)　還生、いのちにかへす
いきがけ[俗]　行掛、ゆきみちにて
いきよ[する](自)　夷踞、あぐらかく
いきよ(名)　移居、やどがへ、轉居、やうつり
いぎよ(名)　衣魚、しみ、きものにたかるむし(動物)
いきよく(名)　夷曲、にびすうた、ひあぶり
ねきよく(副形)　委曲、とほまはしに、つまびらかに、こま

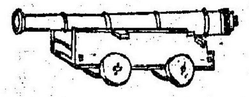
やか、くはしき(名)　なやみ、屈辱(他)まげる(道理などと)、拄
いきた　井北(氏)
いきだはしき(形)　氣迫、喘息煩悶、いきぐるしき
いきたなき(形)　貪眠、ねむがる、ねぎたなき、ねねむりする
いきたうたう　威儀堂堂、尊嚴ある模樣をいふ)
いきたえる　息絶、絶命、こときれる
いきたれ(名)　爛、煩暑、熱熾、むしあつさ
いきれる(自)　煩熱、むす、むしあつくある
いきづかひ(名)　息遣、呼吸、いきざし
いきづゑ(名)　息杖(重荷を擔ふ時に支へにする棒)
いきな[俗](形)　治風雅、いなせな。あつさりした
いきなり[俗](形)　粗忽、なげやり、そさう
いきながらへる(自)　生存、存命、生活する
いきむ(自)　裏急、ちからをこむる
いきうつし(名)　生寫、活寫、眞寫、そのままのかたち、いけるままのかたち
いきうめ(名)　生埋(いかしれきながらうづむること)、いきうづめ
いきぐるしき(形)　煩悶、いきづかひくるしき
いきくさ(名)　景天草、延命草、一本草、べんけいさう、ちどめくさ、むらだち、ひきれこし、救火草、愼火草、火母草(植物)
いきくされ(名)　息腐、口臭、くちくさ、いきくさきこと
いきくさき(形)　息臭、くちくさき
いきやう　異香、にならぬにはひ、よきかをり
いきやう(名)　意向、こころざし、こころひき
いきやう　異境、異國、ことなるくに
いきやう(名)　異鄉、他鄉、ことなるくにどころ
いぎやう　異形、ことやうなるなりかたち
いきやうやう　意氣揚揚、ほこりか(得意の貌)
いきやく[する](他)　遺却、わすれはてる、忘却
いきやく[する](自)　畏却、れそれいる
いきまく(自)　敦圖、せきこむ、いかる、いきせく、怒、恚、嗔、
　　慍、最發憤
いきふく(自)　嘘、いきはく。うそふく、嘯
いきふきがひ(名)　車螯、かひのな(動物)
いきごみ[俗](名)　意氣籠、氣象、こころざし、いきほひ(心の)
いきごもる(自)　氣鬱、さがふさぐ
いきざし(名)　呼吸、氣調、いきするさま、いきつくこと、氣息
いききる(自)　息絶、いきたえる。又いきせく
いきぎれ(名)　息切、喘息、いきせわしさ
いきぎも(名)　生肝、活膽、とりたてのきも
いきみたま(名)　生御魂(活る人の魂殊に己か父母の魂をいふ)
ねぎし(名)　威儀師、禮儀を主る人)、しよれいのし
いきしに　生死、しやうし、いけるとしぬるとのふたつ
いきもの(名)　生物、氣形、活物、いけるもの。動物
いきせく(自)　喉急、息急、いきづかひはやる
いぎす(名)　海髮、おご、海菜、龍鬚菜、植物)
いきすだま(名)　窮鬼、生靈(いきりやう)、いけるひとのれ

いしはら　名　石原、礫砂小石の多くある地を謂ふ
いしはし　名　石橋、懸磵、礫砂、石祖石、宝塔等に築き、又は造りつけのはし
いしかみ　名　骨神祠築、石毛氈猩猩美植物
いしはじき　名　禅堂、僧堂、禅板、石盤、石聖、石灰石炭石灰、硫化鉄の酸化したる物
いしばひ　名　石灰石灰の出来る石
いしやきび　名　石灰焼者、焼灰焼者、石灰焼者
いしはなぞ　名　石像、石佛、石燈籠、石燈籠、燈籠、石燈籠、燈籠、石燈籠、

いしうら　石占、氏
いしうす(名)　石臼、石磨、石碓、磨臼、礦磑、すりうす
いしのち(名)　石鍾乳、つららいし
いしのわび(名)　石帶、裝束に用ふる飾帶)
いしのきざはし(名)　石階、いしだん
いしのみ(名)　鑿、いしきりのみ、たがね
いしく(名)　石工、いしきり、いしや
ゐしく[そる]〔自〕　畏縮、畏懾、たぢろぎ、ちぢむ、しじまる
ゐしく[する]〔自〕　萎縮、ちぢむ、しじまる
いしぐるま(名)　石車、礮車、いしのくるま
いしくれ(名)　礫、こいし、つぶて
いしぐら(名)　石倉、石庫、いしづくりのくら
いしくも(副)　善、よくも
いしや(名)　醫者、醫師、醫官、醫伯、醫生、醫員、くすし、やまひなほすひと
ゐしや(他)　遺寫、かきおとす
いしやう(名)　意匠、こころづもり、こころだくみ、經營
いしやう(名)　衣裳、ころも、衣服
いしやう(名)　異象、ことなるあらはれ、まぼろし(夢などに見る不思議の示現)
ゐしやう(形副)　委詳、委細、くはしき。つまびらかに
いじやう(形)　異常、よのつねならぬ、非常
いじやう　以上、これよりかみ(書簡の結語にも用ふ然る時は上の人に奉るといふ意味となる)
ゐじやう　圍城、しろをとりかこむ
ゐじやく(名)　胃弱、胃のよわきやまひを云ふ、不消化、こなれぬやまひ

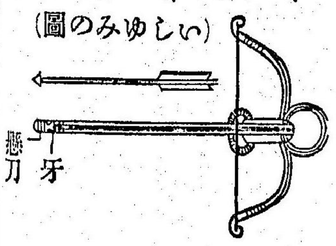
いしやま(名)　石山、いはやま
いしまる　石丸(氏)
いしまき　石卷(氏)
いじける(自)　小縮、のびられぬ、のびぬ
ゐしふ[する]〔自〕　蝟集、よりあつまる
いじふゐん　伊集院(氏)
いしぶみ(名)　碑、碣、石碑、墓碑、墓碣、墓誌、碑誌、墓表(石の表に文字を彫刻して紀念の爲に立たる者)
いしぶし(名)　石斑魚、鯎、やまめ(動物)
いしこ(名)　石子、礫、こいし、つぶて
いしこづめ(名)　石子瘞(石にて押し殺す事)
いしごひ(名)　石鱗、鯷鯉(穿山甲「せんざんかふ」の下に圖わり)(動物)
いしあやめ(名)　石菖(せきしやう)(植物)
いしざか　石坂(氏)
いしざか(名)　石坂(磴路、「いしだん」を見よ)
ゐしき(形)　違式(法則に背く)
ゐしき(名)　臀、ゐさらひ、しり
ゐしきばす(名)　懸甕、臀癰、しりばす、しりばれもの
いしきり(名)　石工、石匠、いしく、いしや
いしゆ(名)　意趣、おもむき。又うらみ、いこん
いじゆつ(名)　醫術、醫道、いしやのみち
ゐしゆく(名)　胃宿、ゐきへぼし(胃を見よ)
いしゆみ(名)　弩、いしはじくゆみ(往古の戰に用ひしもの)
いしめ(名)　石目、いしのわや(彫刻物に云ふ)
いじめる[俗]〔他〕　磨折、なやます、いびる
いじめて[俗]〔名〕　磨折者、いじめるもの
いしみ(名)　笥籠、かご、かたま(古語)
いしみ(名)　鹽ゆがみ
いしみかは(名)　杠板飯(植物)
いしびや(名)　石火矢、石炮、銅發煩、大發炮、礮子、れはづつのたぐひ
いしもち(名)　石首魚、鱭水魚、鰉鰋鰦(動物)
いしもちさう(名)　茅膏菜、石龍牙草(植物)
いしずり(名)　石摺、摺本、墨本、石刻、石刊(石に刻して紙に印したる者)
いしずみ(名)　石炭(地中より掘出す堅き炭)
いしづゑ(名)　礎、礎礎、石礎、どだい、もとゐ、基礎

(圖のやびしい)



ゐしん　委身、みをゆだぬ
ゐしん　維新(百事面目を一新するを謂ふ)
いじん(名)　夷人、にびす
いじん(名)　異人、ことざまなるひと(仙人の如き者をいふ)
いしんでんしん　以心傳心(心より心に傳ふる)、いはずにしらせる
いえる(自)　愈、痊、なほる(病が)、本復、全快、平愈、痊癒、よくなる
いにかねる　難愈、難治、なほりがたくわる(重病にいふ)
いにつ[する]〔自〕　怡悅、よろこぶ、歡喜

いにき[する]〔自〕　移易、うつりかはる、變易
いにき[する]〔自〕　怡懌、よろこぶ、たのしむ
ゐにき(名)　胃液(胃中の汁にして消化を助くる者)
いにすけう　耶蘇教、基督教(キリストけう)
いひ(名)　飯、めし、食物、粢、饌、飧、餉、かて、れもの
ゐひ[する]〔自〕　慈庇、れとろへる、ちからなくわる、ふるはぬ、しぼむ、なゐる
いび　揖斐(氏)
いひいれる(他)　言入、まうしこむ、いひこむ
いひはる(他)　言張、强言、いひつのる、主張
いひはづす(他)　言外、いひあてぬ
いひはなす(他)　言放、いひきる、はつきりいふ。ことわる、斷言する
いひはぐらす(他自)　言他、轉言、いひまぎらそ、でまかす
いひはやす(他)　言囃、ほめそやす。いひふらす
いひにくい(形)　言惡、いふにかたき。いふよわしき
いひば(名)　飯粒、めしつぶ
いひぼ(名)　朊、うをのめ(「いぼ」の古体)
いひほどく(他)　言解、いひとく、辨解、いひひらく
いひとほす(他)　言透、いひつらぬく
いひとよ(名)　鵂鶹、茅鴟、怪鴟(動物)
いひとよてんわう　飯豐天皇(清寧天皇の後に即位し給ふ女帝)
いひとげる　言遂、いひれはせる
ゐひとみ　飯窩、れぐ(氏)
いひちがひ(名)　言違、いひそこない、失言
いひちらす(他)　言散、みだりにいふ、放言



(圖のやびしい)

いいひぬける(他自)　言脱、言漏、いひのがれる
いいひを　飯尾(氏)
いいひわはせる　言果、いひとげる
いいひわく(他)　言遣、いひのこす、ことばをのこしておく
いいひわたす(他)　言渡、宣告、いひきかせる
いいひわけ(名)　一する(自)　言譯、辨解、ときあかし、分説、分解、説解、ときひらく
いいひかはす(他)　言交、ことばをつがくる、やくそくする
いいひかへる(他)　言替、いひなほす、改言
いいひかへす(他)　言反、ことばをかへす
いいひかぬる(他)　言兼、いひえぬ
いいひかたな(名)　辞法、語路、ことばづかひ
いいひかたむる(他)　言塞、かたくいふがたくやくそくする
いいひかたき(形)　言難、いひにくき
いいひかかつ(他)　言喋、説伏、いひふせる
いいひかかくす(他)　言隠、いひつつむ
いいひかかけ(名)　証、いひがかり、難題
いいひかかける(他)　証、しゆる、言始、いひはじむる
いいひかかひな(名)　仮髭、しやくし、飯杓子、めしもるもの
いいひかかひなき(形)　無云甲斐、ただのもしからぬ、無益
いいひかすめる(他)　言掠、いひあざむく
いいひよる(自)　言寄、くどく
いいひよら[する](自)　依怙、たよる、もとづく
いいひだ　飯田(氏)
いいひたよす(他)　言倒、いひまかす、辨倒
いひだこ　(名)　鯊、溺魚、飯喰、蛸、蚫、くもだこ(動物)

（七四）　こいい

いいひこらす(他)　懲戒、しかる、いましめる、叱責
いいひこめる(他)　言籠、説服、いひふせる、いひやぶる
いいひおはせる(自)　言合、おひはかる、かたらふ、協議、通謀、共謀、句結、句営
いいひおり(名)　赤蟻、おかあり(小き赤き蟻)(動物)
いいひおかす(他)　言明、かたりあかす(夜をぴ又いひおらはす(心の中を)
いいひおやまる(他)　言誤、いひそこなふ、失言
いいひおてる(他)　言営、言中、いひてさす、いひておはせる
いいひおひ[俗](名)　言合、ことばおらそひ、いさかひ、辨争
いいひざま(名)　言様、いひやう、語法、いひかた、ことばつき
いいひさまたげる(他)　言妨、いひさまくる
いいひさます(他)　言冷、くさす、ときしめる
いいひさす(他)　言差、いひかける、なかばいふ
いびき(名)　鼾、鼾、鼻息、睡息、ねとたかき、はないき(睡りの)
いいひさはめる(他)　言究、詳究、いひしらべる
いいひさる(他)　断言、いひはなつ、きつぱりいふ、確言
いびきかく(自)　鼾、鼻息、ねとたかく、はないきする(睡眠中に)
いいひさかせる(他)　諭、ときしめす、教誡、説諭、訓諭
いいひしづめる(他)　言鎮、いひなだめる(怒れる人等を)
いいひびつ(名)　飯櫃、めしびつ、めしつぎ、はち
いいひひらく(他)　言開、いひときひらく、辨解、いひわけする
いいひひらき(名)　言啓、辯解、ときひらき、訴白、いひわけ
いいひすごす(他)　言過、過言、いひすぎる、おほくにいふ
いひすてる(他)　言捨、いひはなしにする、いひてさる(只言ひて而してまるを謂ふ)
いいひすぎる(他)　言過、いひすごす、過言
いいも(名)　芋、土芝、ときいもゝ紫芋、たらのいも(植物)
いいも(名)　瘡瘢、おばた、はうさうのあと瘡痕、ドやんこ
いいも(名)　妹、いもと、いもうと、はしうな(情婦)、こひをん

な

いいもばたけ(名)　芋畑、芋田、芋圃、いもつくるはたけ
いいもと(名)　妹、舎弟、女弟、いもうと、いろと
いいもとむこ(名)　妹婿、いもとのをつと、妹の夫
いいもとぶん(名)　義妹、(真の妹に非ずして妹と呼ぶ者、ざりおるいもと)
いいもとんぐり(名)　薯蕷(植物)
いいもり(名)　井守、蜥蜴、龍蟠魚、みづとかげ(動物)
いいもがり(名)　妹許、をんなのもと(情婦の處)
いいもがらら(名)　芋梗、芋莖、ずいき、茎、いものくきがら
いいもがさ(名)　瘡瘡、はうさう、まめがさ、もがさ
いいもがゆ(名)　薯蕷粥(芋と米にてつくれる粥)
いいもがしら(名)　芋魁、芋渠、いものねやたうのいも
いいもむし(名)　芋蠹、鳥蠋、おをむし(動物)
いいものな(名)　鏥物、いたるものゝいでつくるれるかなもの
いいものくさ　芋莖、芋莖ずいき
いいものこ(名)　芋子、芋苗、劉子、露根、いものこね(植物)
いいものし(名)　鏥物師、鏥工、冶工、鏥工、いもじ、いものする
ひと
いいもじ(名)　鏥、鏥者、いものし、冶金者(「いものし」をみよ)
いいもじ(名)　禔、ゆもじ(婦人の下帯、をんなのこしまき)
いいもじる(名)　薯蕷汁、とろろ

言ひて而してまるを謂ふ)
いいひすぎる(他)　言過、いひすごす、過言
いいも(名)　芋、土芝、ときいもゝ紫芋、たらのいも(植物)
いいも(名)　瘡瘢、おばた、はうさうのあと瘡痕、ドやんこ
いいも(名)　妹、いもと、いもうと、はしうな(情婦)、こひをん

な

いいもばたけ(名)　芋畑、芋田、芋圃、いもつくるはたけ
いいもと(名)　妹、舎弟、女弟、いもうと、いろと
いいもとむこ(名)　妹婿、いもとのをつと、妹の夫
いいもとぶん(名)　義妹、(真の妹に非ずして妹と呼ぶ者、ざりおるいもと)
いいもとんぐり(名)　薯蕷(植物)
いいもり(名)　井守、蜥蜴、龍蟠魚、みづとかげ(動物)
いいもがり(名)　妹許、をんなのもと(情婦の處)
いいもがらら(名)　芋梗、芋莖、ずいき、茎、いものくきがら
いいもがさ(名)　瘡瘡、はうさう、まめがさ、もがさ
いいもがゆ(名)　薯蕷粥(芋と米にてつくれる粥)
いいもがしら(名)　芋魁、芋渠、いものねやたうのいも
いいもむし(名)　芋蠹、鳥蠋、おをむし(動物)
いいものな(名)　鏥物、いたるものゝいでつくるれるかなもの
いいものくさ　芋莖、芋莖ずいき
いいものこ(名)　芋子、芋苗、劉子、露根、いものこね(植物)
いいものし(名)　鏥物師、鏥工、冶工、鏥工、いもじ、いものする
ひと
いいもじ(名)　鏥、鏥者、いものし、冶金者(「いものし」をみよ)
いいもじ(名)　禔、ゆもじ(婦人の下帯、をんなのこしまき)
いいもじる(名)　薯蕷汁、とろろ

いいひぬける(他自)　言脱、推譲、いひのがれる
いいひを　飯尾(氏)
いいひわはせる　言果、いひとげる
いいひわく(他)　言遣、いひのこす、ことばをのこしておく
いいひわたす(他)　言渡、宣告、いひきかせる
いいひわけ(名)　一する(自)　言譯、辨解、ときあかし、分説、分解、説解、ときひらく
いいひかはす(他)　言交、ことばをつがくる、やくそくする
いいひかへる(他)　言替、いひなほす、改言
いいひかへす(他)　言反、ことばをかへす
いいひかぬる(他)　言兼、いひえぬ
いいひかたな(名)　辞法、語路、ことばづかひ
いいひかたむる(他)　言塞、かたくいふがたくやくそくする
いいひかたき(形)　言難、いひにくき
いいひかかつ(他)　言喋、説伏、いひふせる
いいひかかくす(他)　言隠、いひつつむ
いいひかかけ(名)　証、いひがかり、難題
いいひかかける(他)　証、しゆる、言始、いひはじむる
いいひかかひな(名)　仮髭、しやくし、飯杓子、めしもるもの
いいひかかひなき(形)　無云甲斐、ただのもしからぬ、無益
いいひかすめる(他)　言掠、いひあざむく
いいひよる(自)　言寄、くどく
いいひよら[する](自)　依怙、たよる、もとづく
いいひだ　飯田(氏)
いいひたよす(他)　言倒、いひまかす、辨倒
いひだこ　(名)　鯊、溺魚、飯喰、蛸、蚫、くもだこ(動物)

（七四）　こいい

いいひこらす(他)　懲戒、しかる、いましめる、叱責
いいひこめる(他)　言籠、説服、いひふせる、いひやぶる
いいひおはせる(自)　言合、おひはかる、かたらふ、協議、通謀、共謀、句結、句営
いいひおり(名)　赤蟻、おかあり(小き赤き蟻)(動物)
いいひおかす(他)　言明、かたりあかす(夜をぴ又いひおらはす(心の中を)
いいひおやまる(他)　言誤、いひそこなふ、失言
いいひおてる(他)　言営、言中、いひてさす、いひておはせる
いいひおひ[俗](名)　言合、ことばおらそひ、いさかひ、辨争
いいひざま(名)　言様、いひやう、語法、いひかた、ことばつき
いいひさまたげる(他)　言妨、いひさまくる
いいひさます(他)　言冷、くさす、ときしめる
いいひさす(他)　言差、いひかける、なかばいふ
いびき(名)　鼾、鼾、鼻息、睡息、ねとたかき、はないき(睡りの)
いいひさはめる(他)　言究、詳究、いひしらべる
いいひさる(他)　断言、いひはなつ、きつぱりいふ、確言
いびきかく(自)　鼾、鼻息、ねとたかく、はないきする(睡眠中に)
いいひさかせる(他)　諭、ときしめす、教誡、説諭、訓諭
いいひしづめる(他)　言鎮、いひなだめる(怒れる人等を)
いいひびつ(名)　飯櫃、めしびつ、めしつぎ、はち
いいひひらく(他)　言開、いひときひらく、辨解、いひわけする
いいひひらき(名)　言啓、辯解、ときひらき、訴白、いひわけ
いいひすごす(他)　言過、過言、いひすぎる、おほくにいふ
いひすてる(他)　言捨、いひはなしにする、いひてさる(只

いもひ(名)　齋忌、ものいみ。精進(しやうとん)
いもひのには(名)　齋場、ものいみばまつりのには
いもせ(名)　妹脊、妹兄、つまといふ、夫婦、とつとつま
いもせどり(名)　杜鵑、ほととぎす(動物)
いもん(名)　衣紋(えもん)、きもの、いしやう
ねもん(名)。—する(他)　慰問、とむらひ。なぐさめ(人を訪ひ慰むる事)。とぶらふ
いせ　伊勢(東海道の國名)
いせい　異聲、つくりごゑ、ことなるこゑ
いせい(名)　醫生、醫者、くすし、い
ねせい(名)　威勢、威權、いきほひ、げんぺい
ねせい(名)　遺制、遺法、のこれるおきて、のこれるのり(前代の法の遺れる者)
ねせい(名)　遺精、まうぎう、夢遺(夢中に精液を洩らす事)
いせい　異姓(姓氏の異なる人また事)
いせばうふう(名)　防葵(植物)
いせる(他)　顯、ぬひちぢめる、ひだとる
いせれんぎう(名)　伊勢音頭(又伊勢躍と云ふ伊勢にはやる歌舞の名)
いせつ　異說、ことなるかんがへ、異議。又ことなるはなし
いせつばき(名)　石榴(茎植物)
いせな(名)　水菜、みづな(植物)
ねせう(名)　遺詔(天子の御遺言をいふ)
いせごひ(名)　鰯魚、はらぶと、くちめ、なよし(動物)
いせざらし(名)　伊勢晒(織麻布の名)
いせき(名)　醫籍(醫者の人別帳)。いしやのなかま
ねせき(名)　遺跡、のこれるあと。古迹

ねずまひ(名)　居住、すまひ、ねどころ
いすぶとん(名)　椅子蒲團、いすにしくふとん
いん(名)　印、はん、いんぎやう、いんぎやう、れしで(甲圖はの天平勝寶八年七月八日及天平寶字四年七月廿三日勅書に用ひし者。乙圖は天平元年七月廿八日敎王護國寺牓に用ひし者。丙圖は豊臣秀吉公の用ひし者)

いん(名)　印、ゐん(する)(他)　印、ゐす(判をゐす也)。又いんさつする(板木活版などを以て)
ねん(名)　韻、韵(詩脚の音の一致をいふ)韻脚
いんね(名)　因位(佛書より出る詞、もとのくらゐ、もとのさま
いんね(名)　陰莖、なへ(陰莖の勃起せざるをいふ)
いんいつ(名)　淫佚、淫逸、たのしみ、そこり、遊興
いんいつ(する)(自)　隱逸(世をのがるるを謂ふ)隱遯
いんいう(名)　寅酉、あけくれ、朝夕
いんいう(する)(他)　引誘、さそう、いざなふ、つれだす
いんいう(名)　淫遊、たはれあそび、淫樂
いんろ(名)　引路、みちびくこと、みちしるべ
いんろう(名)　印籠、藥瓢、くすりさげ(印藥などを入れて帶る具)
いんば(名)　駟馬、かすげうま(動物
いんば　印塲(氏)
いんばい(名)　隱賣、かくしあきなひ、密賣、ばばん
いんばいぢよ(名)　隱賣女、かくしばいぢよ、ぢごく、みつばいぢよ
いんばつ(する)(他)　引拔、ひきぬく、ぬきとる
いんばう(形)　淫放、ほしいまま、みだりなる、いろにくるふ
いんばう(名)　闔堡、城の升形(ますがた)といふ)
いんばう(名)　音貌、こわいろ、こわね
いんばく(名)　陰幕、かつらをとこ(月を謂ふ)
いんばこ(名)　印筥、はんばこ
いんばん(名)　印板、印版、板木(木版をいふ)(わりいた、はりいた
いんばんや(名)　印板屋、はんぎや、いんばんし(下を見よ)
いんばんし(名)　印板師、彫刻師、鐫工、篆刻師、印工、はりもの し、はんぎや
いんにく(名)　印肉(印形の肉をいふ)、はんのすみ
いんにくいれ(名)　印池、池盞、にくつぼ、はんのよくいれ
いんにふ(他)　引入、ひきいれる。注入
ねんぼつ(する)(自)　殞沒、湮沒、ほろびうせる、しようせるぼつらくする
いんぼう(名)　隱謀、密謀、ひそかなるはかりごと。むはん
いんぼく(名)　印牧、かねまき(氏)
いんぽん(名)　印本、板本(版でれしたる書物といふ)
いんぽん(形名)　淫奔、いたづら、しりがるなる。みだらなること(重ね女子の)

いんべ　齋部、忌部(氏)(「いみべ」の轉)
いんぺい[する](他)　隱蔽、かくしおほふ、つつみかくす
いんぺい　印度(亞西亞の大古國即ち天竺をいふ)、身毒、西域
いんどう　印東(氏)
いんとく(名)　陰德(密かに爲す善行をいふ)
いんとく[する](他)　隱匿、かくす
いんとく(名)　隱慝、かくれたるあしきこと、隱惡
いんとくやうはう　陰德陽報(密かに爲せる善行には明かに善き報あり)
いんぎやう(名)　印度洋(印度國の南面の大なる海をいふ)
いんとん[する](自)　隱遁、よをのがれる、よをすてる
いんとんじや(名)　隱遁者、よすてびと、隱者
いんち[する](他)　引致、つれゆく、こういん[拘引]する
　(警察署などに)
いんち(名)　因地(因位に同じ)
ゐんち(名)　韻致、おもむき、風韻、みやびたるさま
いんぢ(名)　印地(印地打を見よ)
いんちう(名)　隱衷、心中、こころのうち
ゐんちう(名)　胤胄、苗裔、たねすゑ、しそん
いんぢうち(名)　印地打(端午の日小兒の遊戲よする石投といふ、いしなげわそび)
いんちやう(名)　隱聽、ぬすみぎき、たちぎき
いんちけつ(名)　印地蹶、はなわらび、なつのはなわらび、ふゆわらび、ひかげわらび(植物)
いんちん(名)　茵蔯、ねずみよもぎ、よがぐさ(植物)
いんちんかう(名)　茵蔯蒿、いぬよもぎ、かはらよもぎ(植物)
いんりよ(名)　隱侶、隱者、よすてびと、いんとんじや
いんりやく(名)　引力、ひくちから、重力(地球などの)
いんりつ(名)　音律(音樂の調子を云ふ)
いんりやう(名)　隱梁、下水樋、うめみぞ
ゐんをふむ　押韻(詩脚に同韻の字を列するをいふ、いんをわはせる
ゐんをさぐる　探韻(詩を作らんとするを言ふ)
いんか(名)　淫歌、みだりがはしきうた、こうた、淫聲、鄭聲
いんか[する](他)　允可、ゆるす、よしとする、許可
いんかう(名)　咽吭、のどぶえ
いんかう(名)　音耗、息耗、音信、たより、れとづれ
いんかう(名)　咽頭、むせかへり(泣くに云ふ)、むせび
いんかう(名)　淫行、みだらなるれこなひ(色事にいふ)
いんかう(名)　蟫蝗、げじげじ(動物)
いんかく(名)　飲客、のみて、酒客、さけのみ
いんかく(名)　陰核、きんたま(陰囊中の堅き物)、又さね
いんがく(名)　淫學、無用華浮の學文をいふ)
いんかん(名)　印鑑、鑑札、しるしのふだ、ゆるしふだ
いんかん(名形)　陰乾、かげぼし、ひかげぼし
いんよう[する](他)　引用、ひきもちふ、古語等を我文中に挿入するをいふ、ひく、徵引、ひきごとにする
いんよう(名形)　飲用、のむにもちふること、のむための(水など)
いんよう(名)　音容、こゑかたち、人の音聲と容貌、すがた
いんよう[する](他)　允容、許容、ゆるす、よしとする、かとする

いんよく(名)　淫欲、淫念、いろごころ、いろのよく(男女の相慕ふ心)、色情
いんたい[する](自)　隱退、かくれしりぞく
いんたい(自)　引退、ひきしりぞく
いんだい(名)　隱題、かくしだい(詩歌の其句の中に題の語を入れてよむ事に云ふ)
いんだり(名)　引足、すどつかへ
いんたう(形)　允當、穩當、だやか、よろしき、妥貼
いんだう(名)　陰道、ぬけみち、かくれみち
いんだう(名)　引導、みちびき、みちびくこと(死者埋葬の時に和尚が宣る語を常にしか言ふ)、はうむるわざ
いんたく(名)　隱宅、いんきよや、かくれが
いんたん[する](自)　淫耽、すぎふける、こりすぎる
いんたん(名)　般嘆、浩嘆、太息、れはなげき、れはいき、といき
いんれう(名)　飲料、のみもの、のみれう
いんそつ[する](他)　引率、ひきゐる(軍兵にいふ)、率
いんそく[する](他)　湮塞、うづめる、ふさぐ(穴川等を)
いんそく(名)　音息、消息、たより、れとづれ
いんそく(名)　姻戚、いんじや、にんるゐ、みより
いんそん(名)　胤孫、子孫、すゑ、ばつそん
いんねん(名)　淫念、いろごころ、いろけ、春心、春情
いんなう(名)　陰囊、ふぐり、きんたま
いんなみ　印南、いなみ(氏)
いんらい(名)　般雷、ごろつくいかづち、ごろごろがみなり、れはいかづち
いんらく(名)　婬樂、みだらなるたのしみ(酒色の樂)
いんらく[する](自)　隕落、れつる、墜落、墮落
いんらん(形)　婬亂、いろぐるひ、いろずき
いんう(名)　淫雨、霪雨、ながあめ、にたにたわめ
いんう(名)　茵芋、みやましきみ、につつじ、もんたちばな(植物)
いんうつ(形)　陰鬱、きのふさぐ、しげる
いんうん(名形)　氤氳、めでたきさ(天地の和氣にして萬物を發生せしむる者)、また靄然(和氣の充る貌)
いんのつまみ　印鈕、いんぎやうのとつて、鼻鈕
ゐんのごしよ(名)　院御所、仙洞(太上皇の御殿をいふ)
[いんぐ]　印具、れしかみ(氏)
いんぐ(名)　飲具(盃茶碗の類を云ふ、のむうつは、のみだうぐ
いんくわ(名)　引火、ひくち、又ひをうちだす
いんくわ(名)　印顆、いん、いんぎやう
いんくわ(名)　陰火、鬼火(れにび)、きつねび
いんぐわ　因果(源因と結果)、また[俗](名)結果、むくい、應報
いんくわつ(他)　引括、ひきくくる、ひとまとめにする
いんくわふ(名)　印華布、さらさ、織物の名、はなれしぬの
いんくわし(名)　印華紙、さらさがみ、はなれしがみ
いんぐらんど(名)　英蘭(大英國をいふ)
いんやう(名)　陰陽(男性と女性の二氣を云ふ)、めを
いんやうかく(名)　淫羊藿、いかりさう(植物)
いんやうのにじん　陰陽二神(伊非諾伊非册の二尊を云ふ)
ゐんげ(名)　院家(官の名)、

いんけい　隠計、ひそかなるはかりごと、密計
いんけい(名)　氣鑿、よきかとり、よきにほひ
いんけつ(名)　殷血のり(刀よりしたたる)
いんげつ(名)　隠月琵琶の納撥の所をいふ
いんけん(名)[する]〔他〕　引見、ひきみる(帝王等が外臣等を)
いんけん(形)　陰険、わるがしこき
いんけん　陰顯、かくれたりあらはれたり。みにがくれ
いんげん(名)　陰言、かげごと、かげぐしり
いんげんは　隠元派(隠元和尚の弘めたる法教)
いんげんまめ(名)　隠元豆、菜豆、眉兒豆、藊豆、まめのな(植物)
いんこ(名)　陰符、まじなひがき。まよけふだ
いんこ(名)　陰府、よみ、よもつくに、黄泉、冥府(死人の靈魂の行く地)
いんこ(形)　殷富、とみさかえたる、豊富
いんこ(名)　印譜印を押たる書をいふ)
いんこ(名)　淫婦、婬婦、たはれめ、いたづらをんな、しりのはやいをんな。みだらなをんな
いんこ(名)　陰部、かくしどころ(男女の陰物をいふ)
いんこ[する]〔自〕　隠伏、かくれふす。まちぶせする
いんこ(名)　鸚哥、鸚鵡(動物)
いんこ(名)　陰戸、陰門、まへ(婦人の前陰を謂ふ、をんなのかくしどころ)
いんこ[する]〔他〕　淫蟲、だましこむ、蠱惑
いんご(名)　隠語、かくしことば、なぞ。ふてふ
いんこう(名)　陰口、玉門(女陰をいふ)
いんこく[する]〔他〕　印刻、彫鏤、ほりものする、ちりばめる
いんごふ(名)　因業、因果、果報、むくい(前世の業の)
いんてい(名)　陰挺、角、なすび(婦人生殖器の變相)、なすびつぴ、まへだれつぴ
いんわ(名)　姻婭(兄弟姉妹の妻夫を云ふ)、わひむこ、わひよめ
いんわい(形)　隠曲、かすみこめたる、くもれる
いんわく(名)　隠惑、かくれたるわくに、いんとく
いんわしや(名)　瘖啞者、れし、れふし、ものいへぬひと
いんさ(名)　隠唆、かげしやくり、しりれし、ひそかにそそのかすこと
いんさい(名)　允裁、裁可、よしとすること、ゆるし(官府などの)
いんざい　印材(印をほる材料)、印石
いんさつ(名)。—する(他)　印刷、印行、すりたてる(活版などに云ふ)、はんにする
いんさつきかい(名)　印刷器械(活版すりたての器)
いんさき(名副)　往時、むかし、さきのひ
いんざん[する]〔自〕　隠竄、にげかくれる、ひそむ
いんき(名)　墨汁、そみ、墨詩、
いんき[俗](名形)　陰氣、きふさぐかたち、うすぐらくある。ものしづか
いんき[する]〔他〕　隠諱、かくしいむ、あらはにいはぬ
いんき(名)　隠几、脇息(けふそく)、よりかかるだい
いんき(名)　婬戯、ちわぐるひ(男女の相戯る事)
いんきよ(名)。—する(自)　隠居、告老、退隠、よをしりぞくこと、よをゆづる(子などに)

いんきよ(名)　隠渠、かげみぞ、うめみぞ、げすゐひ
いんきよ(名)　允許、許可、ゆるし、免許
いんぎよ(名)　印魚、こばんぎよ(動物)
いんぎようてんわう　允恭天皇(人皇第二十代の帝)
いんきよくわどう　陰虚火動(心經衰へて逆上するを云ふ)
いんきよや(名)　隠居屋、いんたく、いんきよじよ(下を見よ)
いんきよじよ(名)　隠居處、よをのがれをるところ、いんきよや
いんきう(名)　陰疚、こかげ、ひかげ
いんきやう(名)　婬狂、いろぐるひ、婬亂
いんきやう(名)　隠郷、かくれざと
いんきやう(名)　陰莖、男根、そばしら(男の生殖器)、まら
いんぎやう(名)　印形、しるしのかた、印、はんれしで
いんぎやく(名)　婬虐、淫亂、いろぐるひ
いんきてう(名)　隠起彫、れきあげぼり、うきあげぼり(少しく高く彫り上げたる彫物)
いんきん(名)　印金(織布の名)
いんぎん(形)　慇懃、ねんごろ、ていねい
ゐんめい　殞命、いのちをうしなふ
いんめつ[する]〔自〕　湮滅、ほろぶる、きにうせる、滅亡
いんみつ(形)　隠密(れんみつ)、ひそか
いんし(名形)　淫肆、いろざと。又はしいまま、みだらな
いんし(名)　印紙(賣買貸借等に貼用する政府の印税紙)
いんし(名)　歯芝、つりがねくさ(植物)
いんし(名)　淫祀、みだりにかみをまつること(祀るべき理由なき神を祀る事)
いんし(名)　禋祀、まつり(神をまつる事)
いんし(名)　隠士、かくれびと、逸士、よをのがれたるひと
いんし(形)　隠私、ひそやか、かくし
ゐんし[する]〔自〕　殞死、たふれしぬる
いんじ(名)　隠事、かくしごと、密事、ひみつ
いんじ(名)　印璽、れしで、いんぎやう、いん
いんじ(名)　淫辭、たはれことば、みだらなことば
ゐんじ(名)　韻字(詩脚に用ふる押韻の字)
いんじとし　往年、さきのとし、むかし
いんしよ(名)　音書、信書、てがみ、れとづれぶみ
いんしよ(名)　淫書、いろぶみ、ちわぶみ
いんしよ(名)　陰所、かくしどころ(男女の)
いんしよう(名)　陰松、めまつ(植物)
いんしよう[する]〔他〕　允承、かしこまる、うけたまはる、承知
いんしよう[する]〔他〕　引證、ひきておかしそる(古語他書などを引て證據をたつるを謂ふ)
いんじよう(名)　因乘、かけざん
いんじよう[する]〔自〕　因仍、よりもとづく(從前の事に、よる)
いんしよく　淫色、いろにねぼれる
いんしよく(名)。—する　飲食、のみくひ。のみくひする
いんしよくてん(名)　飲食店、れうりや。めしや、にうりや
いんしよくさう(名)　陰蝕瘡、らやく、下疳瘡(げかんさう)、いんきやうのくさるやまひ
いんしつ(名)　陰疾、かくれやまひ(外部に見ぬ病と云

ふ)

いんしつ(名)　陰隲、陰徳(密かにする善き行ひ)、かくれたるよきわざ

いんしつ(形)　淫濕、しめりたる、しめりけある、ぬれたる

いんしゃ(名)　瘖者、いはず、れし、たふし

いんしゃ(名)　闉闍(城の升形を謂ふ)

いんじゃ(名)　淫者、いたづらもの、いろごのみするひと

いんじゃ(名)　隠者、逸民、幽人高士、いんとんじや、よすてびと

いんしゃう(名)　隠償、うちはでつくのふこと、内濟

いんしゃう(名)　陰症、内攻(病が内に籠るをいふ)

いんしゃう(名)　印章、しるし、いんぎやう。こつくい(刻印)

いんしふ[する](自)　因襲、よりつぐ、因循(従前の事に従ひ來るをいふ)

いんしゆ(名)　般朱、あかきすみ、うづみしゆ

いんしゆ(名)　飲酒、さけのむこと

ゐんしゆ(名)　院主(一寺の住職を云ふ)、てらのをしやう

いんじゆん[する]　因循(従前の事によりしたがふて改め進まぬをいふ)、因襲

いんしん(形)　胭脂顰、しもざけ(植物)

いんしん(形)　般賑、さかんににぎはふ、にぎやか(都會等が)

いんしん(名)　音信、たとづれ、しらせ、たより、息耗

いんしん(名)　印信、しるし、いんぎやう。符節

いんない(名)　陰影、かげ、うつるかげ

いんにい(名形)　陰曀、くもり。くもれる(天氣が)

いんねい(名)　印影、いんぎやうのかた、いんぎやうのあと

いんにう(形)　婬妖、みめよき、うつくしき、ひとをまよはす(美女に云ふ)

いんにき(名)　陰液、つゆ(露)

いんにん[する](自)　賃縁、はひまとふ、まとひつく。よりすがる

いんにん(名)　因縁、ちなみ、にんにし。かかはり、つなぎ、むすび

いんにん(名)　飲宴、さかもり、ふるまひ、ちさう

いんび(名)　陰誹、かげそしり、かげごと

いんび(形)　隠微、しりがたき、げしよくき、れくふかき、幽玄、幽微

いんもつ(名)　音物、れくりもの、禮物、つかひもの

いんもく(名)　淫目、いろめ、いろめくまなこ

いんもん(名)　音問、たとづれ、とひたづね(訪問)

いんもん(名)　陰門、牝戸(女陰をいふ)、つび、をんなのかくしどころ

いんせ(名)　印施(書物を印行して廣く施すを謂ふ)

いんせい　淫聲、みだらなるうた、いろをすすめるなりもの、鄭聲

いんせい　陰痙、くもるはれる(天氣が)

いんせい　音聲(ねんじやう或ねんせい)、こゑ

いんせい(名)　印税(印紙に由て取たつる税金)

いんせいじゆ(名)　音聲樹、ゑんじゆ(植物)

いんせつ[する](他)　引接、あひしらふ(客を)、接待

いんせき(名)　姻戚、にんるゐ、ねんじや、えんびき(婚嫁上の親類)

ゐんせき(名)　隕石(天より降る石。ながれぼし

ろ

ロ、呂、路　「る」の父音と「れ」の母韻を合して生ずる音にして、五十韻の中にては第九行第五段に位す。此音は純粋の日本語の語首に冠する事なし、「らりるれ」も亦しかり。古へは歌などよて語數の足らぬ時などに之を挿みて其不足を補ひし事あり、例へば「かなしきろかも」の如し

ろ(名)　艫(船の後部)、とも、船尾、ふねのしりへ

ろ(名)　櫓、艪、艫、かひ(船をこぐ具)

ろ(名)　廬(小さき家)、いほり

ろ(名)　廬(酒肆なり)、ねざかや、當廬

ろ(名)　爐、鑪、いろり、ひどこ(牀を切り火を焚く所)、又かまど

ろ(名)　瘻(病の名)、くびばれ

ろ(名)　羅紗(絹の紗の類)

ろ(名)　驢、うさぎうま、驢馬(動物)

ろい(名)　蘆衣、あしのかは

ろゐ(名)　蘆葦、あし(植物)

ろゐ(名)　賂遺、わいろ、まひなひ

ろいろ(名)　蠟色(漆塗の色にて青黒くして光澤ある者)

ろいん[する](他)　路引(あんないする)、みちびく

ろば(名)　驢馬(驢を見よ)

ろばう(名)　路傍、みちばた、みちのかたはら

ろばうせつけう　路傍説教、つじせつけう(路傍に立て説教する事)

ろばん(名)　露盤、承露盤、つゆうけ

ろぼ(名)　鹵簿(天子の行列儀仗を云ふ)

ろぼそ(名)　艫櫓柱、ろべそ(艫を承るもの、形臍に似たる故にしか名く)、ろぐひ

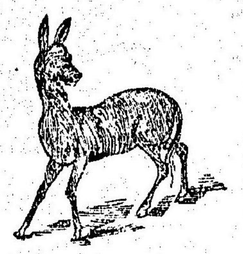
ろべそ(名)　櫓臍(ろぼそ)を見よ)、ろぐひ

ろへん(名)　瘻邊、いろりのそば

ろへん(名)　路邊、みちばた、路傍、みちのそば

ろど(名)　壚土、ほけつち、ぼろぼろするつち

ろとちう(名)　蘆蟲、あしのむし(動物)


（圖の驢）

ろとう(名)　路頭、みちべ、みちのほとり、途上
ろとう(名)　櫓豆、くろまめ(植物)
ろとう[或ろづ](名)　蘆頭(葦のさきを謂ふ)
ろとうくわ(名)　露兜花、たこのき、さきあだん(植物)
ろどこ(名)　艫箱(艫をかくに用る臺)
ろとし(名)　盧都子、ぐみ(植物)
ろどん(形)　魯鈍、にぶき、れろか愚鈍
ろち(名)　廬地、露地、あらはのち
ろぢ(名)　小門、閤門、小閤、ちひさきでいりぐち
ろちりめん(名)　絽縮緬(縮みたる絹の紗)、ちぢめるろ
ろちう　路中、たびぢのうち、途中
ろちく(名)　盧竹、なよたけ、たけのな(植物)
ろちやうかん(名)　驢腸羹(食品の名)
ろちやうこつ(名)　顱頂骨、あたまのほね、あたまのさら、頭骨
ろちん[する](他)　艫陳、ならべつらねる、艫列
ろりやう(名)　路糧、旅するに携ふる食物、たびいひ
ろりやく[する](他)　鹵掠、うばひとる、かそめる
ろをれす　盪櫓輪艫、かひをもつてこぐ(船を)
ろをかこむ　圍爐擁爐、いろりのまはりよすわる
ろをく(名)　露屋(屋根のなき家又あばらや)
ろか(名)　櫓歌、ふなうた(水手の歌)、ろをれすときのうた
ろかく(名形)　鹵墝、あれちあれたる(田地にいふ)
ろかす(名)　密陀僧(みつだそう)(薬材)
ろかん(名)　鹵鹹、しほのかたまり、かたしほ
ろがんのゑ(名)　蘆雁繪(蘆中より雁の飛たつ畫)
ろよう[俗](名)　路用、たびのいりよう、たびのつひえ、旅費、路銀、盤纏
ろだい(名)　露臺(屋根を設けざる建物)、うてな(昔し禁裏に此の名を負へる處あり)
ろたつ[する](自)　漏達、もれきこゆる
ろだつ(名)(一する(自))　漏脫、もれたつること、たつる(遺漏)、ぬける
ろだふたい(名)　駱駝布袋、ろだはてい、うぐひすかぐら(植物)
ろたん(名)　鑪炭、ねろりのすみび、ろのすみ
ろれつ[する](他自)　臚列、臚陳、つらねる、ならべる、ならぶ
ろれつ[俗](名)　呂律(音聲の調子)、くち
ろぞく(名)　蘆粟(砂糖を製出する草)(植物)
ろそん(名)　呂宋、るそん(馬來由群島の一島)
ろづ(名)　蘆頭(ろとう)を見よ)
ろつぶ　六腑、むつのはらわた[ろくふ]をみよ)
ろなは(名)　艫繩(艫を繫ぐ繩)、ろづな
ろう(名)　樓、たかどの二階
ろう(名)　櫳、とり(獸をいれおく所)、又をばしま、らんかん
ろう[する](他)　弄、もてあそぶ、哄あざける、からかふ
ろう(名)　漏、みづどけい(水時計)
ろう(形)　聾、つんぼ、みみしひ
ろう[或りよう](名)　艣、をかつ、か(高き所)

(圖の葉)

ろう(名)　婁(二十八宿の一にして南方に在り)
ろうろ(名)　漏盧、くろくさ、さばてんのたぐひ(植物)
ろうろう(形副)　朧朧、ぼろ、うすぐらき
ろうは(名)　綠鬢、皂鬢(鐵の酸化物にて臭氣を止む)
ろうはい　弄牌、かるたをもてあそぶ
ろうはた(名)　壟圃、はたけ、田圃
ろうばた(名)　朧畝、たのうね。又はたけ
ろうはう[する](自)　漏崩、もりくづれる(堤等が)
ろうべい(名)　籠餅(饅頭の一名)
ろうとう(形)　儱侗、れろか愚昧
ろうとう(名)　漏斗、じやうご(桶などの)
ろうとさい(名)　穢斗菜、をだまき(植物)
ろうをく　陋屋、いやしきいへ、みぐるしきいへ(重に謙辭に用ふ)
ろうがい(名)　聾礙、もみすりうす
ろうかう　陋巷、せまきよこまち、びんぼふまち、ちまた
ろうかう　哄吭、さひづる、さべつる
ろうかく(名)　樓閣、たかどの、高き家屋、たかきや
ろうかん(名)　櫳檻、をり
ろうたい　陋態、いやしきさま、みぐるしきありさま
ろうたい(名)　樓臺、たかきいへ、にかいざしき
ろうだつ(名)(一する(自))　漏脫、脫漏、もれぬけ。ぬけもれる
ろうたく　陋宅、いやしきいへ、陋屋
ろうだん[する](他)　壟斷、かひしめる、ひとりじめする(又「りようだん」と讀む)
ろうれい(形副)　瓏玲、ちりんちりん(玉の鳴る音)、又すきとほるさまよらか(月等に謂ふ)
ろうれつ(形)　傴劣、れとれる、まける
ろうそう(名)　櫳窓、れんじまど、かうしまど
ろうぞく(名)　陋俗、いやしきならはし、卑俗。いやしきひとびと
ろうつう(名)　弄痛、あそびはら(病名)
ろうら(形)　僂儸、事に堪へる、又膽略あるをいふ)
ろうらく[する](他)　籠絡、いひくるめる。とりこめる、ひきこむ
[ろうく](形)　陋苦、むさくるしい、きたない
ろうぐわ　弄瓦(女子を生むを謂ふ)
ろうくわい[する](自)　漏潰、もりくづれる(堤等が)
ろうくわん(名)　樓觀、たかどの、樓閣二階屋
ろうくつ[する](自他)　僂屈、かがむ。又かがめる
ろうや　牖夜、ねぼろよ、うすわかるきよる
ろうま　羅馬(伊太利の首府、又古代の一大國都)
ろうまけう　羅馬敎(天主敎の一名)
ろうまじ(名)　羅馬字、よこもじ、いぎりすもじ
ろうまじくわい　羅馬字會(羅馬字を以て日本語を書く事を弘むる會)
ろうますうじ　羅馬數字(I一、II二、III三、IV四、V五、VI六、VII七、VIII八、IX九、X十、XI十一、XII十二、L五十、C百、D五百、M千)
ろうけつ(名)　漏缺、もれかけること、ろだつ
ろうけつ(名)　漏血(血の漏る病)。ちろう
ろうげつ　牖月、ねぼろづき、うすぐらきつき、淡月
ろうけう(名)　朦曉、いぶきよもぎ(植物)

ろうけふ(形)　陋狭、いやしくせまき、いぶせき(家よ云ふ)
ろうげん　弄絃、ひきならす(琴等を)
ろうげん(名)　呀言、しやべること、多言
ろうふう　陋風、いやしきならはし、陋俗
ろうぶん[する](自)　漏聞、もれきこゆる
ろうこ(名)　螻蛄、けら(動物)
ろうこうさう(名)　龍荳草、れほけたで(植物)
ろうこく(名)　漏刻、刻漏、浮漏、更漏、みづどけい(水を盛りて其乖れ下るに因りて時を量る具)
ろうこく(名)　螻蟈、蛙、かへる(動物)
ろうこくはかせ(名)　漏刻博士(時を主りし舊官の名)、とけいばかせ
ろうてい(名)　樓梯、にかいばしご
ろうてう　籠鳥、かごのとり、かごよいれたるとり
ろうてふ(名)　艓蝶、こぶね
ろうでん(名)　隴田、たはた(田畑)、はたけ
ろうさいばら(名)　茶蘼花、繅絲花、れんだいばら(植物)
ろうさう(名)　綠袴、六位(六位の人等の着たる袍の名)、うはぎのたぐひ
ろうさん　隴産、みにくきをんな、醜女
ろうぎ(名)　螻蟻、ありのたぐひ(動物)
ろうきよ　陋居、いやしきそまひ、陋屋
ろうきよ[俗](自)　籠居、ひきこみをる、こもりをる、蟄居
ろうめん(名)　縷綿、さうめん
ろうし　陋姿、いやしきすがた
ろうじ　聾耳、つんぼみみ
ろうしつ　陋質、いやしきうまれつき

ろうしつ　陋室、せまきいへ、陋屋、いぶせきいへ
ろうしつ(名)　漏失、遺精、妄想(夢に精を洩す事)
ろうしう(名)　樓舟、樓船、やかたぶね。やねぶね
ろうしく(名)　舊宿、たたらぼし(二十八宿の一)[星]を見よ)
ろうしや(名)　聾者、つんぼのひと、みみしひ
ろうしや[する](自)　籠舍、こもりをる
ろうしやう　弄璋(男子を生むを謂ふ)
ろうじやう(名)　籠城、しろよたてこもる、守城、嬰城
ろうしふ(名)　陋習、いやしきならはし、弊習、悪風
ろうしさう(名)　樓子窓、てんじやうねぶと(植物)
ろうしゆつ[する](自)　漏出、もりいづる、もる
ろうしん(名)　弄臣、そばつかひ、さんじゆ
ろうしん(名)　僂身、ねこせ、せむし、駝背、曲背、僂背
ろうすい[する](他自)　漏泄、漏洩、もらす。もれいづる
ろうもう(形)　朧朦、たぼろ、おきらかならぬ
ろうもん(名)　樓門(二階ある門)、よかいもん
ろうせい(名)　漏聲(水時計の音)
ろうせい　弄晴(好天氣の日に遊びにでかける事)
ろうせつ(名)。—する(自他)　漏泄、もり。もる。もらす(「ろうえい」を見よ)
ろうせつ　呀舌、したをもてあそぶ、しやべる
ろうせん(形)　陋賤、いやしき、みぶんあしき
ろうせん　漏箭(水時計の量器)
ろうせん(名)　樓船、にかいぶね、やかたぶね、樓舟
ろうす(名)　羅斯(病名)
ろうすもの(名)　玷貨、滯貨、むだよなれるしなもの
ろうは(名)　艓葉、漿葉、ろのさき、ろのひらたきところ

ろのまと(名)　艫間(茶の湯座敷を云ふ)
ろく(名)　祿、扶持てあて、俸祿(君主などより賜はる)
ろく(名)　肋、あばら
ろく(形)　平、たひら、ひらたき
ろく(名)　平座录、したにすわること、ひらたくすわること
ろく(名)　平坐安坐するを云ふ、すわること
ろく[する](他)　錄、しるす、かきしるす。記錄
ろくね　六位(正從六階の位を云ふ)
ろくろ(名)　轆轤、絞車、旋車、輪車、陶車、陶鈞、運鈞、規車、旋盤、旋牀。又せみ、井車、くるまぎり
ろくろ(名)　轜轤(車の名)
ろくろばん(名)　轆轤盤、ろくろのしかけ
ろくろがんな(名)　轆轤鉋(工匠の器械)
ろくろく(形)　漉漉(血流るる貌)
ろくろく(形)　碌碌(無智の貌また爲そこと無き貌)
ろくろく(形)　轆轤(斷にざる貌、ひきつづく)
ろくろくぎよ(名)　六六魚鯉の一名)
ろくろくび(名)　轆轤頭、飛頭。また飛頭蠻、飛頭瘦、戸頭蠻、落頭民、飛頭老子、ぬけくび
ろくろざいくにん(名)　轆轤細工人、旋盤匠、ろくろし
ろくろぎり(名)　轆轤鑽、まひぎり、牽鑽、車鑽
ろくろみ(名)　九足八鳥(伊勢三重郡にある地の名)
ろくろば　六婆(牙婆、媒婆、師婆、藥婆、虔婆、穩婆、むつのたぐひのをんな
ろくはらみつ　六波羅密(布施、持戒、忍辱、精進、靜慮、智惠、六度、むつのすくひのみち(佛語)

ろくばう(名)　鹿蚌、うしばひ(動物)
ろくはく(名)　六駁、こがのき(植物)
ろくはん(名)　六博、さいのめ
ろくにをる　直居(安坐するを云ふ)、平臥(ひらたくふす)
ろくにふす　直臥(安臥を云ふ)、平臥、ひらたくふす
ろくばう(名)　六毋(嫡、繼慈、養、庶、乳)、むつのたぐひのはは
ろくほう(名)　祿俸、扶持、俸給、食祿(又俸祿とも云ふ)
ろくほん　六本(身を立るには孝を以て本と爲す、喪紀には哀を以て本と爲す、戰陣には勇を以て本と爲す、政治には農を以て本と爲す、國に居ては嗣を以て本と爲す、財と生するには力を以て本と爲す)
ろくへい　六柄(生、殺、富、貴、貧、賤)
ろくど　六度(布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智惠)、六波羅密(佛語)
ろくとうなは(名)　絡頭繩(馬具の名)
ろくとく　六德(自在、熾盛、端嚴、名稱、吉祥、尊智)
ろくときん(名)　勅壯巾、はらおび(馬などの)
ろくぢ(名)　平地、ひらち、たひらち
ろくちく　六畜、むつのけだもの(馬、牛、羊、鷄、犬、豕)
ろくぢざう　六地藏(延命、寶處、寶手、持地、寶印、堅固意の六菩薩)
ろくぢん　六塵(色、聲、香、味、觸、法)、六法(佛語)
ろくぢり(名)　鹿梨、ありのみ、なし(植物)
ろくぬすびと(名)　祿盜、戸位(職務を盡さずして徒に素飡する輩を云ふ)
ろくわ[する](他)　濾過、こし、こしとほす(水等を)

ろくでなし　勘師兵士を募るをいふ
ろくでなし　六藝諸侯は度尚、卿は半、大夫は雉、士は雌、庶人は鶉
ろくでなし　農工商は鶏の六種の雑物をいふ
ろくでなし　晝夜の六時（晨朝の日中、日沒初夜中夜後夜、つごもりの晝夜）
ろくでなし　言ふに足らぬ
ろくでなし　六味（六味に塩水を加へて云ふ）
ろくでなし　六味浮沈通塞、虚實の六脉の動動を
ろくでなし　六喩釋教中に云ふ所の夢幻泡影電露
ろくでなし　六禽（鴛鴦、鵁鶄、鳧、雁、鵝、鶩）
ろくでなし　六獣（鹿、麞、兎、狐、狸、猿）
ろくでなし　六山（鹿蹊、かしま、笠山、千の類なり）
ろくでなし　六草（鹿葱、鹿韮、鹿蘭、鹿衛、鹿藿、鹿角菜）
ろくでなし　六魚（鱖魚、氷魚、時魚に似たる魚）
ろくでなし　六蔵（六蔵とは肺ちくを見よ）
ろくでなし　六魚（鰯、鱚、鯊、鯔、鯛、鱸）
ろくでなし　六蟲（勒記、かまきりする他）
ろくでなし　六魚（鱸魚、鯊魚、ちんちろ金魚の名）
ろくでなし　六魚（鱖魚、氷魚、時魚に似たる魚）
ろくでなし　六蔵（六蔵とは肺ちくを見よ）
ろくでなし　六草（鹿葱、鹿韮、鹿蘭、鹿衛、鹿藿、鹿角菜）
ろくでなし　六獣（鹿、麞、兎、狐、狸、猿）
ろくでなし　六山（鹿蹊、かしま、笠山、千の類なり）
ろくでなし　六禽（鴛鴦、鵁鶄、鳧、雁、鵝、鶩）
ろくでなし　六喩釋教中に云ふ所の夢幻泡影電露
ろくでなし　六味（六味に塩水を加へて云ふ）
ろくでなし　六味浮沈通塞、虚實の六脉の動動を
ろくでなし　六獣（鹿、麞、兎、狐、狸、猿）
ろくでなし　六草（鹿葱、鹿韮、鹿蘭、鹿衛、鹿藿、鹿角菜）
ろくでなし　六魚（鱖魚、氷魚、時魚に似たる魚）
ろくでなし　六蟲（勒記、かまきりする他）
ろくでなし　六魚（鱸魚、鯊魚、ちんちろ金魚の名）
ろくでなし　六蔵（六蔵とは肺ちくを見よ）
ろくでなし　六禽（鴛鴦、鵁鶄、鳧、雁、鵝、鶩）
ろくでなし　六山（鹿蹊、かしま、笠山、千の類なり）
ろくでなし　六獣（鹿、麞、兎、狐、狸、猿）
ろくでなし　六草（鹿葱、鹿韮、鹿蘭、鹿衛、鹿藿、鹿角菜）
ろくでなし　六魚（鱖魚、氷魚、時魚に似たる魚

右兵衛)

ろぐひ(名)　櫓臍(ろばぞ)に同ト)

ろくびさう(名)　鹿尾草、鹿角菜、ひトき(植物)

ろくも(名)　勒母(貝母に同ト)(植物)

ろくせき　六感(父、母、兄、弟、妻、子)

ろくせん　六膳(牛、羊、豕、犬、鴈、魚)、むつのうまきもの

ろくすねなう(名)　漉水囊(水こす囊)、みづこしぶくろ

ろくずみ(名)　直線墨、すみなは(大工が用ふる)

ろや(名)　艫屋(船の艫つくる人)

ろまう(形)　肉雑、やりばなしなげやり、みだりなる

ろげ(名)　露芽(茶の若芽を然か呼ぶ)

ろけい(名)　魯鶏、たうまる(動物)

ろげき(名)　露機、むきだしのつげぶみ、ふうせぬしらせぶみ

ろけん[する](自)　露顯、あらはる、しれる、發覺、發露

ろけん(名)　顱巻、はちまき、かしらづつみ

ろふ(名)　蘿蔔(らふく)、れはね、だいこん(植物)

ろふ(名)　艫梢、ろべそ、ろほぞ、ろぐひ

ろふ[する](他)　露布、しらせる、ふれる、れはやけにする

ろぶち(名)　廬縁、廬廓、ねろりのふち

ろこ(名)　蘆虎、さざき、黄脚鳥(動物)

ろこつ(名)　顱骨、かしらぼね、あたまのほね、頭骨

ろこう(名)　鑪缸、るつぼ、かねとかすうつは

ろこんらん(名)　露根闌、ねざらしらん(植物)

ろてい(名)　路程、みちのり、みち、里程

ろてい[する](他)　露呈、あらはす、しめす

ろてん(名)　露店、はしみせ、干店、てんとばし

(圖のよぎろ)

ろぎ[する](名)　露坐、そとにすわる、つちのうへにすわる

ろさい(名)　囉嚫、ものもらひ、ろうさ

ろさう(名)　魯桑(本清國の産にして我邦に傳へしは明治八年なり蠶兒を飼養するに最も利有りと云ふ)(圖のうさ)

ろぎょ(名)　鱸魚、すずき(動物)

ろぎょ　魯魚(相似たる文字の例に用ふ下を見よ)

ろぎょのわやまり　魯魚、誤(文字を寫す時の書誤りを謂ふ)

ろきつ(名)　廬橘、たちばな、枇杷菓(植物)

ろぎつう(名)　路岐痛、いぬご(筋をひきて他處が傷む事)

ろきう(名)　廬弓、くろぬりのゆみ

ろきじゅん(名)　露葵莼、ぬなは(植物)

ろぎん(名)　路銀、路用、たびのつひえ、路錢、路費、たびのいりよう

ろきんれう(名)　絽金織織物の名)

ろめい(名)　露命、つゆのいのち、はかなきいのち、わづかのいのち

ろし(名)　鑪子、せいご(動物)

ろし(名)　露菌、でば(突出たる前齒)

ろし(名)　鷺鷥、う、うのとり(動物)

ろし(名)　鷺鷥、しまつぎり(動物)

ろじ(名)　露次、のトく(野宿)

ろじ(名副)　路次、道次、みちのついで。みちすがら、途上、路上

ろしう(名)　蘆洲、あしのはにたるす、あしはら

ろしゃ(名)　纑車、かせぐるま、いととるくるまのな

ろしゃう(名)　鑪匠、いものし、いもト

ろしあ　露西亞(歐羅巴亞西亞ト跨れる大國の名)

ろしゅ(名)　魯酒、うすきさけ(疎悪酒)

ろしゅつ[する](自)　露出、あらはれでる、あらはになる

ろじゅん(名)　蘆荀、あしのわかばに

ろしん(名)　路寢(天子の居室を謂ふ)正寢

ろじん(名)　露刃、ぬきみ、しらは(白刃)

ろじん(名)　路人、みちゆくひと(行路人)、行人

ろにい(名)　露營、のぢん(野陣)

ろひ(名)　路費(路銀と見よ)、たびのいりよう

ろひさう(名)　鷺飛草、さぎさう(植物)

ろせい　櫓聲、ろのおと、かぢおと

ろせい　盧生(唐の開元中邯鄲の里に旅枕して人間の虚榮を夢みし人の名)

ろせき(形)　肉瘠、いしぢなる、やせたる(土地にいふ)

ろせん(名)　廬船、やかたぶね

ろすゐ(名)　露水、つゆ

ろん(名)—する(他自)　論、あらそひ、あげつらひ。議論、いひあらそひ

ろんぱ[する](名)　論破、いひやぶる、いひふせる

ろんばく[する](他)　論駁、いひなトる、排駁(人の説を)

ろんぱふ(名)　論法(論理法を云ふ)、あげつらひかた、ろんトかた

ろんぱん[する](他)　論判(論トー判つを謂ふ)。また議論、いひあらそふ

ろんべん(名)—する(他)　論辯、いひあらそふこと。ぎろんする

ろんどん　倫敦(英國の首府の名又龍敦と書く)

ろんり(名)　論理(議論の法則を謂ふ)

ろんりがく(名)　論理學(議論の法則を論ずる學)

ろんかく(名)　論客、ろんするひと、いひあらそふひと、論者

ろんだん[する](他)　論斷、ろんトさだめる、論定、いひきめる

ろんだん(名)　論壇(議論する場所)。また文壇

ろんだん(名)—する(他)　論談、いひあらそふこと、議論。あげつらふ

ろんそう[する](他)　論奏(帝王に意見を吐露するを謂ふ)

ろんなく(副)　無論、いふまでもなく、むろん

ろんなん[する](他)　論難(議論をもて言詰る)、いひとがめる

ろんけつ[する](他)　論決(議り定むる)、あげつらひさだめる

ろんぶん(名)　論文(議論の文章)

ろんご　論語(四書の一まて孔子の語錄)

ろんさう[する](自)　論爭、いひあらそふ、ぎろんする、議論

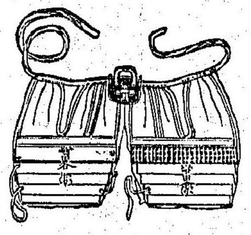
ろんぎ[する](他)　議論、ろんトわらそふ

ばいばいにん　名　買入りて又人に売ること
はいえい　名　拝賀はかにまうりをはかまうりをする儀
ばいえき　名　陪軸[する]助
ばいえき　自　敗北[する]やぶれる戦争に
ばいかい　他　排斥[する]うちたたきをおしのけること
ばいかん　名　買下、うらなひ占考
ばいかん　名　買下者うらなひ占考をする人
ばいかん　他　配官、つはものをくばること
ばいかん　他　買辦かひととのへること
ばいかん　名　隼人だけびと古隼人の子孫より出し制定の成
ばいかん　名　衛兵はやとひとも古隼人の子孫より出し制定の成
ばいき　名　培土つちかふつちをもる木の根よ
ばいきょう　名　桔梗ふかみなたぶ植物
ばいく　名　梅豆なつまめ植物
ばいく[する]　拝讀つとんでよむ
ばいけい　名　買得かひとりけい利分をうけり
ばいけい　名　黴毒かんびやう病名
ばいこ　名　黴毒検査かんびやうしらべ娼妓の
ばいこ　名　取毒薬とりのぞく植物
ばいこ　他　賣奴小屋奴僕やつこや
ばいこ　他　配置くばりたるをわけとおく

ばいしゃ　名　兵卒なぎを
ばいしゅん　名　賣女娼妓あそびめたやもち
ばいしょう　名　販家ふるつかやぶればかりもの
ばいしょう　名　賠償はらひくさもの
ばいしょう[する]　他　賠償[する]
ばいしょう[する]　自　敗亡[する]やぶれほろびる
ばいしょう[する]　他　賠償[する]つぐなひ
ばいしょう[する]　他　賠償[する]はらひやうする
ばいしょう[する]　他　賠償[する]はらひやうする
ばいしょう[する]　他　賠償[する]はらひやうする

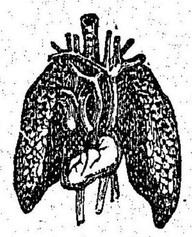
ばいしょう[する]　他　賠償[する]はらひやうする
ばいしょう[する]　他　賠償[する]はらひやうする
ばいしょう[する]　他　賠償[する]はらひやうする

はいがん　拝顔、ためよかかる、拝謁、まみにる
[ばいかん](名)　梅干、うめぼし、乾梅
はいかんをくだく　摧肺肝、こころをこらす、こころをくだく、きをもむ
はいよう[する](他)　佩用、たびる、みにつける
はいよう(名)―する(他)　胚孕、はらむこと、みもち。はらむ、こをやどす
はいよう(名)　肺癰(肺の中に生ずる悪腫物)
ばいた(名)　賣女、娼妓、おようろ、れやま
はいたい(名)―する(他)　胚胎、はらごもり。はらむ
はいたい[する]　拝戴、いただく、れしいただく
はいだい　敗第、ふるいへ、やぶれいへ、敗宅
はいだい(名)　盃臺、さかづきだい
はいたか(名)　鷂食雀、めだか(雄を「このり」といふ)(動物)
はいたつ(名)―する(他)　配達、くばり。くばる(新聞紙郵便等を)
はいたつにん(名)　配達人、くばりて(郵便物などの)
はいたう(名)―する(他)　配當、わりあたへること。わりあたへる、配賦
ばいたう(名)　梅桃、桃櫻樹、ゆすらうめ(植物)
はいたく　敗宅、やぶれいへ、ふるいへ
はいたく(名)　配謫、くだしうつすこと(官吏を罰する爲に他處へ)又しまながし
はいたて(名)　佩楯、脛楯(前に垂れて脛を覆ふ武具、大坂の商家大森三郎兵衛藏大森盛長所用)


(圖の楯佩)

はいたん　齒痛、はのいたみ、むしばのやまひ
はいたん　敗端、やぶれのはし、やぶれのいとぐち
はいたん(名)　廢炭、ガス(石炭の屑より取る者)
はいだん(名)　俳談、れとしばなし
ばいだん(名)　賠談、つくのひばなし、償金談
ばいたんのれきな　賣炭翁、すみやきのれきな。すみうりのれきな
はいれい(名)　拝禮、をがみ。又じぎ、おいさつ
はいれい[する](自)　悖戻、さからふ、そむく、もとる
ばいれい(名)　陪隷、しもべ、こもの、とも
はいれつ[する](他)　排列、つらねる、ならべる、羅列
ばいれう(名)　黴瘡、かさかされうに、かさのてあて
はいそ　敗訴、まけくじ、まけそしょう(訴訟に負ける事)
ばいそつ(名)　陪卒、またもの、けらい
はいそう[する](自)　敗走、まけにげる、つひにはしる、敗北
はいそう[する]　拝送、うやまひれくる(歸り行く人などを)
はいそう[する](自)　拝趨、まかりいでる(伺候する)
ばいそう(名)　賣僧、まいす
ばいぞく[する](自)　買贖(金を出してたのみいるを謂ふ)
ばいつう[する](自)　買通、かねにてとりいる
はいなう(名)　佩嚢、どうらん、こしさげ
はいなふ[する]　拝納、つつしんでうけをさめる
ばいらい(名)　倍蓰、つぱみ(花の)
はいらう(名)　肺癆(癆症の類)、はいのやまひ

はいらん[する]　拝覧、拝見、つつしんでみる
はいう　沛雨、にはあめ、大雨
ばいう(名)　黴雨、梅雨、つゆ、さみだれ(五六月の交ふ降る長雨)
ばいのふた(名)　臀、へたなり
はいのぎう(名)　肺臓、ふくふくし(左右兩部に分れて互に空氣の呼吸を主とる機關)
ばいくわ(名)　賣貨、うりもの、賣品、うるしなもの


(圖の臟肺)

ばいくわ　梅花、うめのはな
はいくわい(名)　俳諧、落語(れとしばなし)。奇談
はいくわい[する](自)　徘徊、あるきまはる、たちもとほる、徜徉、彷徉
はいくわい[する](自)　廢潰、あれすたれる、やぶれる
ばいくわうつぎ(名)　山梅花、さつまうつぎ(植物)
ばいくわじやく(名)　梅花雀、べにすずめ(動物)
はいくわん(名)　稗官、卑き官職をいふ、又小説家などに當用ふ、小説家
はいぐう(名)―する(自)　配偶、つれあひ、夫婦(配耦とも書く)。つれそふ
はいぐん(名)―する(自)　敗軍、まけいくさ。いくさにまける
ばいやう[する](自)　培養、つちかふ、やしなふ、そだてる(重ょ卅水を)
ばいやく(名)　賣藥、うりぐすり(調成して發賣する藥)
はいば(名)　驛馬、はゆま、つぎたてうま、しゅくうま
はいはち(名)　驛路、うまやぢ、はゆまぢ、れほどほり、れはぢ
ばいまし　倍增、二倍、ひとかされはき
はいけい　拝啓、つつしみてまうす(書狀の冒頭に用ふ)
はいけい(名)　排擠、ゆだめ、ゆみだめ(弓をためる器)
ばいけいさう(名)　蒜藜蘆(百合科に屬す)(植物)
はいけうしや(名)　背教者(最初信仰したる教法を棄る者)。また不信者
はいげふ(名)―する　廢業(家業をやめるを謂ふ)
はいげき[する](他)　排撃、攻撃、うつ、ひなんする
はいけん[する]　拝見、つつしんでみる、拝觀
はいけん(名)　佩劍、帶刀、こしがたな
ばいけん(名)　梅嫌、うめもどき、落霜紅(植物)
はいけんきん(名)　拝見金、拝見料、はいけんだい
ばいけんじやう(名)　賣券狀、うりてがた、うりしようもん、沽券
はいこ(名)　肺腑、はいざう(衷心に譬ふ)、こころのそこ
はいふ(名)　配符、わりふ
はいふ[する](他)　配賦、くばる、わりわたす、分配
ばいふ[する](自)　黴腐、かびくさる
はいぶ[する]　拝舞、よろこびまふ(物を拝受せし時等に)
ばいぶる(名)　聖書(耶蘇教の聖經)[洋語]
はいぶつ(名)　廢物、すたりもの、やくにたたぬもの
はいふう(名)　背風、うしろかぜ、れひかせ、れひてかせ
はいふく[する](自)　敗覆、やぶれくつがへる
はいふく[する](他)　佩服、みにれぶる(感銘するを謂ふ)
はいぶん[する](他)　配分、くばる、わりふる

はいふん[する]　培養、こやしする
はいこ(名)　癈痼、かたはやまひ、からだのきかぬやまひ
ばいご(名)　賠語(賠談をみよ)
はいこう(名)　廢滅、ふるぼり、つぶれみち、すたりたるほり
はいこう　廢興、そたりれこり、盛衰
ばいこく(名)　貝殻、かひがら、かひがち
はいこん[する](自)　胚渾、くぐもる、淈る、ささげる
はいてう(名)　廢朝、曠朝(不幸の事によりて暫く朝政を執る事を止るを謂ふ)
ばいてう(名)　媒鳥、をとり
はいてん　廢典、すたれおきて、すたりたるれきて
はいでん(名)　拜殿(神宮の前殿をいふ)
ばいてん(名)　梅天、さみだれのそら、さつきそら
はいわう(名)　杯盌、さかづき、さけのもうつは
はいざい(名)。—する(他)　配剤、もりわはせ(藥品の。もる(藥を)
はいさつ　廢札、ふだくばり。くばりふだ
ばいさう(名)　黴瘡、かさ、ばいどく
はいさん(名)　杯盞、さかづき、酒盃
はいき[する](自他)　敗壞、やぶれる。やぶりこぼつ
はいき(名)　俳戯、たはむれ、れどけ。しばゐ
はいき[する]　廢棄、すてる、のぞく、しりぞける
はいき[する](自)　拜跪、ひざまづく、をがむ
ばいき(名)　黴氣、かさけ、かさのきみ

（八九）　はいし　はいは　は

ばいし[する](自)　倍蓰(二つ増を倍といひ、五つ増を蓰と云ふ)
ばいし(名)　蓓芝、をみなへし(植物)
ばいし(名)　賣子、まいもの
ばいし(名)　貝子、貝歯、こやすがひ、からがひ(動物)
ばいしばく(名)　賣子木、さんだんくわ(植物)
はいじょ(名)　配所、るざいしよ、謫所、しまながしにせられたるところ
ばいじょ[する](他)　媒助、たすけなす、なかだちする
はいしょう[する](他)　拜承、つつしみうけたまはる
ばいじょう(名)。—する(自)　陪乗(貴人の馬車に同乗するを謂ふ)
はいしょく(名)　敗色、まけいろ
ばいしょく(名)。—する(自)　陪食(貴人の食事に相伴するを謂ふ)
はいしつ(名)　癈疾、かたは(破鞭醬などの不具をいふ)
ばいじう(名)。—する(自)　陪從、したがふ、扈從、ともする者)
はいしや(名)　齒醫、齒醫、齒科醫、(齒の療治をする醫
はいしや(名)　廢舍、すたれや、廢屋、あばらや
はいしや[する]　拜謝、つつしみてありかたさをいふれいをまうす
はいしやう(名)　俳倡、狂言師(じやうるりさくしや)
はいじやう[する]　拜上、つつしんでたてまつる、拜呈
ばいしやう(名)。—する(他)　賠償、つくのひ。つくのふ(金を出して)
はいしやく(名)　杯酌、さかもり、酒宴

はいしよく[する]　拜借、かりる(丁寧の語)
ばいしやく(名)。—する(他)　媒妁、なかだち、なかうど。なかだちする、とりもつ
はいしき(名)　拜式(禮拜の法式)
はいじゅ[する](他)　配授、わりわたす
はいじゅ[する]　拜誦、つつしみよむ、拜讀
はいじゅ[する]　拜受、つつしみてうける
ばいしゅ(名)　賣主、かひぬし、かひて
ばいしゅ(名)　買主、かひとる、かひうける
ばいしゅ[する](他)　買取、かひとる、かひうける
はいしゅつ[する](他)　擺出、ふりだす、はらひいだす
はいしゅつ[する]　輩出、つづきでる、たはくれこる(人物などが)
ばいしゆけい(名)　梅首鶏、ばん、とりのな(動物)
はいじん　拜神、かみををがむ、かみをまつる
はいじん(名)　癈人、すたれびと、かたはもの
ばいしん(名)　陪臣、またもの、またげらい
[ばいしんぢょ](名)　賣薪女、くろぎうりめ、たきぎうりめ
ばいしんくわん(名)　陪審官、たちあひしらべやく(裁判にたちあふ人々)
はいす[する](自)　敗壞、やぶれる、こはれる
はいすい[する](自)　排泄(「はいせつ」をみよ)
はいすつ　拜謁、れめみね。まみゆる、れめにかかる(人にあふよ云ふ)
はいにん(名)　肺炎、肺蛾衝(病名)、はいのやまひ
はいにん　廢樓、やぶれびさし(敗宅にいふ)
はいにん(形動)　沛焉、れはいなる。ゆたかに(雨等にいふ)、

沛然
はいひ[する]　拝披、つつしみひらく(人の書簡等を)
はいひつ(名)　敗筆、ふるふで、ちびふで
ばいも(名)　貝母、はは(植物)
はいもん[する]　拝聞(拝聴よ同じ)
はいせい(名)孛星、はははきぼし、彗星、蓬星(光芒大にして長ぐ尾をひく星)
はいせつ[する](他)　擺設、擺布、つらねならぶる、排設
はいせつ[する](自)　敗折、まけくじける、やぶれる、敗衄(戦争に)
はいせつ[する](自他)　排泄(はいにい)、くだる、もれいづる、排洩。くだす(吐瀉病の人などが身より物を出すなどに云ふ)
はいせつ(名)　稗説、小説(せうせつ)、くさざうしばなし
はいせつ[する](自他)　廃絶、やみすたる。やめすてる、たつ
はいせき[する](自)　敗績、敗軍、まけつひにる(戦争よ)敗北
はいせき[する](他)　排斥、しりぞける。ひなんする、うつ
ばいせきはんと(名)　陪席判事、たちあひさいばんくわん
はいせん(名)　盃洗、さかづきあらひ(飲酒の具)
はいせん(名)　廃塹、ふるぼり、からぼり。つぶれぼり(城の)
はいせん(形副)　沛然、ゆたか、れはいなる(大雨のふる貌また大なる貌)
ばいせん[する](他)　買占、かひしめる、ひとりにてかふ
ばいせん[俗]　賣舶、うりふね、うるふね
はいせんにん(名)　配膳人、せんをくばるひと、給仕人
はいすゐ[する](自)　陪随、ともする、したがふ

はいすゐはふ　排水法、みづはき(水を流し落す法)
はいすゐのぢん　背水之陣、みづをうしろにしたるそなへ(必死を期して勝利を僥倖する陣法)
はいする(他)　廃、やめる、すてる、よす
はいすう[する]　拝趨(長者の處に參るなどに言ふ)、うかがふ
ばいん(名)　馬陰(馬の陰莖)
はろう[する](他)　簸弄、もてあそぶ、なぶる、ちやかす
はろうさう(名)　菠蘿草、はうれんさう(植物)
ばろく(名)　馬勒、くつわ、馬銜(馬具)
はは(名)　母、北堂、母堂、をんなをや、たらちね、いろね、はびと
はば(名)　幅、よこのひろさ。幅員、ひろさ
ばは(名)　馬耙、まぐわ、まんぐわ
ばば(名)　祖母、れやのはは。また老婆、としよりをんなばあさん
ばば(名)　馬場、うまかけば。乗馬場、うまのりば、調馬場
ははばはき(名)　羽箒(鳥の羽にて作れるははき)
ははとじ(名)　母刀自、家慈、ははぎみ、ははびと、慈母
はばり(名)　刃針(醫者が用ふる小刀の類)
ははれや(名)　母親、をんなれや
ははか(名)　朱櫻、櫻桃、にはざくら(植物)
ははかべ　伯伯部(氏)
ははかへす(自)　再發、瘥(病の重ねて發するをいふ)、ぶりかへす
はばかる(自)　憚、れそれる、いむ、忌憚
ははかた　母方、外祖、ははれやのみより

ははかたのばば　母方祖母、外祖母、ははおやのかたのばば
ははかたのをば　母方叔伯母、姨(母の姉妹)
ははかたのをぢ　母方叔伯父、外舅(母の兄弟をいふ)
ははた　馬喰田(氏)
ははたき(名)。—する(自)　鼓翼、はうつこと(鳥の)。はねをたたく
ははそ(名)　柞櫟才。こならがしは(植物)
ははそたけ(名)　柳葺(植物)
ははなふ(名)　婆婆納、いぬふぐり(植物)
ははむ(他)　沮、こばむ、おしとどめる
ばばう(名)　馬房、うまや、廐
ははくろ(名)　黒子、痣、ほくろ、あざ(古語)
ははくり(名)　貝母(ばいも)(植物)
ははくひどり(名)　梟、ふくろ(動物)
ははやき(形)　剣、かがやく
ははふ(名)　覇法(覇王の政をいふ)。武断政治
ははご(名)　母公、ははれや、ははぎみ(「はは」をみよ)
ははこくさ(名)　母子草、鼠麹草、鼠耳香茅、茅窩菜、米麹、曲節草(植物)
ははそう(名)　唧唧鳥、鶺鴒、八哥、寒皐、鴒鴒(動物)
ははき　帚箒、はうき、はくうつは
ははき(名)　脛巾、裹脚、行縢、脛衣、繳脚布、脚袢
ははら(名)　鍋(刀剣の鍔元に巻きたる環)
ははきぼし(名)　彗星、帚星、機槍、長尾星、わざはひぼし(「はいせいをみよ)
ははがさ(名)　脛瘢、瘡ずねがさ(俗に脛瘡「かんがさ」と

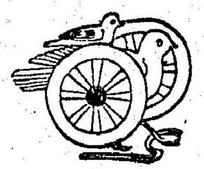
(箒草)

はははきたけ(名)　箒茸(箒の形の菌)
ははきぐさ(名)　地膚、白地草、涎衣草、地麥、掃帚草、藜藿、玉蜀黍、はははきぎ、よはくさ(植物)
ははきぎ(名)　箒木(植物)
ははじやひと(名)　母者人、ははご、ははれや、ははびと(名)　母、ははたや、ははご、ははばばはん(名)　八幡、蕃帆、海賊(昔し海賊を然か呼べり)
ばばはん(名)。—する(他)　密輸入出、かくしつみいれ或つみだし(海關税を出さずにする)、潜商、密商、かくしあきなひそる
ばばはん(名)　馬盤ばだらひ、うまわらふたらひ
ばばはんもの(名)　密輸入出物、かくしつみいれ或つみだしもの
はに(名)　埴、黏土、へなつち、ねばつち
ばにとうふう　馬耳東風、きさてもわからぬたとへ。又きさてにすること
はにわ(名)　埴輪、土偶、土人形、つちにてつくれるひとがた
はにわり(名)　半月、ふたなり、をとこをんな、半陰陽
はにかむ(自)　羞恥、はづかしがる
はにつち(名)　埴土、ねばつち、はに
はにく(名)　齒肉、はのにく、齦肉
ばにく(名)　馬肉、うまのにく

はにやま(名)　岷、はげやま、禿山
はにふ(名)　埴生、はにつちぐこ、はよつちのあるところ
はにふのこや(名)　黄土小屋、赤土小屋、埴生小屋(賤民の居る小さ家にて埴などを以て塗れる者)
はにし(名)　土師、にんぎやうつくり。また(氏)
はばたん(名)　甘藍、包菜キャベツの類にて人の食料となる)
はばそ(名)　膽八樹、しいとぎ、づくのき(植物)
ばばつ(名)　馬勃、みみつぶし、つちかせ、きつねのちゃぶくろ、まぐそだけ、まぐそかつら、はこりたけ、めつぶれだけ、にんにふすべ、牛屎菰、南星。又まぐそ、馬糞
ばはう(名)　馬蜂、くまばち(動物)
はばく(名)　貘、ひらづさん、かしらづつみ
ばばく(名)　馬僕、べつたう、うまかひ
はほん(名)　端本、零本、はしたぼん、欠本
はへ[或はひ](名)　蠅、うじよりなるはむし(動物)
はべる(自)　侍、つかへる。さぶらふ
はへのこ(名)　蚓、はひのこ、うじ(動物)
はへき(形)　頗僻、ひがめる、かたよりたる、偏頗
ばべんさう(名)　馬鞭草、くまつづら、鳳頸草(植物)
ばべんぎよ(名)　馬鞭魚、むちうを、やからうを(動物)
はと(名)　鳩、鴿、鵓飛奴(いへばとだうはと等あり)(動物)
ばと(名)　馬奴、まご、うまかた
はとば(名)　波止場、埠頭、ふながかりば、みなと、ものあげ

（圖）はばたばのんた

はとり(名)　服部、はたれり。又はたれるわざ(古語)
はとむね(名)　鳩胸、鳩胸、でむね、つきいでたるむね
はとむぎ(名)　鳩麥(薏苡仁の如き者或は云ふ同一物なりと、肺病に功ありと云ふ)
[はとう]はと(名)　巴豆、はづ(植物)
ばとう(名)　馬刀、まて、からすがひ、みづがひ(動物)
ばとう(名)　馬鋮、あぶみ
ばとうおやう(名)　馬頭娘、蠶、かひこ、おこさま(動物)
ばとうれい(名)　馬鈴、うまのすずくさ、うまのそずかけ(植物)
はとうこん(名)　烏藥(植物)
ばとうさう(名)　馬刀蒼瘡癆病の一種)
はとのつゑ　鳩杖、鳩の形をきざみたる杖)
はとのくるま(名)　鳩車(小兒の戲具)
はとのふん(名)　鳩糞、左盤龍、鴿の糞は左盤するが故にいふ)

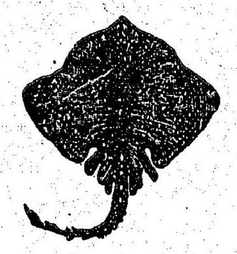

（圖）鳩の車

はとのみね　鴿峯(山城の男山の一名)
はとくさ(名)　大青(植物)
はち(名)　顱頭、顱腦蓋、わたまのはち
はち(名)　鉢(僧徒の用ふる糧器、または通例の皿碟、並に大なる水盤をいふ)
はち(名)　蜂(くまばち、トがばち、みつばち等あり、夫夫の語に就て見よ)蜚蠊(動物)

はち(名)　恥、耻辱、羞悪、慚愧、かはをかからむるごときこと
ばち(名)　撥、桴、枹、枹(大鼓などを打つ棒また三絃琴などを彈く具)
ばち(名)　罰(天の刑罰をいふ)
はちいん　八音(金、石、絲、竹、匏、土、革、木の八音樂をいふ)
ばちばち(副)　剝剝(物の火に燒けなどする音)
はちばん　八蠻(八種の外夷をいふ)
はちにんげい(名)　八人藝、象聲(多人數の眞似を一人にてする藝また之をする人)
はちへいじ　八平氏(坂東の八平千葉、上總、三浦、土肥、秩父、大庭、梶原、長尾の八姓なり)
はちぢやうつむぎ(名)　八丈紬(絹織物の名)
はちぢやうぎぬ　八丈絹(美濃尾張より出る上品絹をいふ又八丈島より出るをもいふ)
はちぢやうじま(名)　八丈縞絹織物の名)
はちぢやうじま　八丈嶋(伊豆の沖の大洋にあり)
はちぢん　八陣(天地、風、雲、龍、虎、鳥、蛇よして陣法にいふ)
はぢをすすぐ　雪恥、おだとかへす。又おかりとたてる
はぢかみ(名)　生薑、生姜、しやうが(植物)
はちだい(名)　鉢盂、盆架、はちをのそるだい
はちだいぢごく　八大地獄(等活、黒繩、衆合、叫喚、大叫喚、焦熱、大焦熱、無間の八地獄をいふ)
はちだいりうわう　八大龍王(難陀、跋難陀、娑蝎羅、和修吉、徳叉迦、阿那婆達多、摩那斯、優鉢羅の八龍をいふ)
はちだいし　八代史(晋書、宋書、齊書、梁書、陳書、周書、隋書、唐書)
はちだいしふ　八代集(古今、後撰、拾遺、後拾遺、詞花、金葉、千載、新古今の歌集をいふ)
はちたたき(名)　鉢敲(鉢を叩いてもらひあるく乞食僧をいふ)
はちだう　八道(五畿内の外、東海、東山、北陸、北海、山陰、山陽、南海、西海の八道をいふ。朝鮮にも亦八道あり)
はちつけのいた(自)　顱附板(兜の頭につけたる具)
はぢらふ(自)　含羞、はづかしがる、はづる
はちのき(名)　鉢之樹、盆樹、はちうゑのき、盆栽樹
はちのす(名)　蜂巣、露蜂房、蜂窠、蜂房、はちのいへ
はちく(名)　淡竹、ごまだけ、まだけ、くろだけ(植物)
はちく　破竹、たけをわる。たけわり(勢の銳きにたとふ)
はぢく(他)　彈、打、ゆびにてはねる。とばす
はちぐわつ(名)　八月、はづき第八の月)
はちくま(名)　鴿(鳶の類)(動物)
はちまき(名)　鉢巻、顱巻、髮帽、髮帽、抹額、かしらにまけるぬの
はちまんぐ(名)　八幡座、神宿兜の頂をいふ)
はぢける(自)　皺發、破裂、われる、ゑみわれる
はちふく(自)　蜂吹、いみさくる、れつぱらふ(好まぬ人を)
はちでう　八條(氏)
はちめん　八面、やも、八方
ばちめん(名)　撥面、ばちのわたるところ(琵琶などに云ふ)
はちみつ(名)　蜂蜜
はぢしらふ(自)　羞、潮紅、はづかしがる、はにかむ

はちじのまゆ　八字眉、愁眉、うれへのまゆ
はぢしめる(他)　令羞、辱、誣辱、凌辱、羞殺、はぢかかせる、はづかしめる
はちにふぐるま(名)　八葉車(車駕の名)
はちひらき(名)　鉢披(乞食をいふ)
はちびやう　八病(和歌の八病即ち同心、亂思、爛蹊、緒鴻、花橘老楓、中絕、後悔)
はちもらひ(名)　化飯道人、はちばうず、ものもらひ、ばうず
はちもじ　八文字(八といふ字の形をいふ)
はちす　蜂巢(氏)
はちす(名)　蓮、はす、莢蒾、芙蓉。また蓮花(植物)
はちすばな(名)　蓮花、はすのはな
はちすか　蜂須賀(氏)
はちすのつばみ　蓮萼、蒲萄、まだひらかぬはすのはな
はちすのうてな(名)　蓮臺、はとけのすはるざ
はちすぎ(名)　蓮樹、はすのき、蓮の如き樹の名)
はり(名)　針、鍼(いとつけてぬふもの)
はり(名)　梱、梁、樑、うつばり
はり(名)　玻瓈、玻璃、頗梨、からすざやまん、びいどろ
はり(名)　荊、刺、とげ(草木の刺をいふ)、そら
はり(名)　刺蟲、蜂、針蜂等の尻にある針狀の者)
ばり(名)。—する(他)　罵詈、ののしり。ののしる、わるくいふ
ばり(名)　尿、小便、いばり
はりい(名)　針醫、はりくすし
はりいた(名)　張板(洗ひたる布帛をはりつくる板)
はりいれ(名)　針入、はりばこ(針箱)

だそ
はりあふ(自)　張合、競爭、きそふ、せりあふ
はりさは　榛澤、はんざは(氏)
はりさける(自)　脹裂、ふくれやぶれる
はりさし(名)　針床、針簀、はりさすうつは
ばりき(名)　馬力(馬一匹の力を以て一馬力となす即ち一分時間に二萬四千九百五十六斤以上の重量を一尺ばかり地より上ぐる力と謂ふ)
はりきやう(名)　玻璃鏡、びいどろかがみ、がらすかがみ
はりゆみ(名)　張弓、はりたるゆみ。また雖弩、ゆみはるうつは
はりめ(名)　貼目(紙布等の)
はりめ(名)　針女、裁縫女、れはり、きぬぬひめ
はりめ(名)　針目、綜絖、ぬひめ、いとめ
はりめぎぬ(名)　針目衣、つぎきぬ、ぬひつぎぎぬ
はりみち(名)　墾道、新道、あらたにひらけるみち
はりし(名)　針工、はりつくり、はりすり、はりや
はりにし(名)　剌鰕爪、きのな(植物)
はりにひ(名)　鯆魚、うをのな
(動物)
はりひぢ(名)　攘臂、ひぢをいからそること
はりもの(名)　張物、はるものの又はること
はりせんぼん(名)　魚虎、から
だにはりれはきう(動物)
ばりす(名)　巴黎斯(佛蘭西の首府)


(圖のひれ)

はりすだ(名)　針筋、針歩、ぬひすだ、はりめ
はりすひいし(名)　吸針石、磁石、じしやく
ばりん(名)　馬藺、かきつばた、ねじわやめ、旱蒲、馬薤(植物)
はぬけ(形)　齒脫、はのぬけたる、はかけ
はぬけどり(名)　羽扳鳥(はねのぬけたる雞などをいふ)、羽脫鳥(動物)
はぬき(名)　齒扳、齒鉗、鉗牙者(齒をぬく醫者)
はる(他)　墾、新開、あらたにひらく、きりひらく(新地などを)
はる(他)　貼(物をのりにて)張、號(弓を)扳、擾(拳を)
はる(名)　春、華節、淑節、陽春(二三四月といふ)
はる(自)　氷、凍氷が水の上に生ずるを謂ふ)
はるぬ[する](自)　波累、かかりあふ、まきだへになる
はるばる(副)　遙遙、はるかに、とほどほ(はるかをみよ)
はるか(形副)　遼、杳、貌、曠、遙、眇、悠、迢、緬、遼遠、渺渺、邈乎悠悠、緬邈、とほき、はるけき。はるばる
はるかぜ(名)　春風、陽風、惠風、和風、柔風、條風、谷風、東風、薰風、はるふくかぜ
はるがすみ(名)　春霞、はるたつかすみ
はるたつひ　春立日、立春、はるのとつつき
はるな　榛名(氏また上野の高山の名)
はるのかみ(名)　東君、はるをつかさどるかみ、青皇
はるのよ　春夜、春宵、はるのゆふべ
はるのうぐひす　春鶯、新鶯、はるくるうぐひす
はるのあけぼの　春曉、春曙、はるのよあけ
はるのみや(名)　春宮、東宮、みこのみや(皇太子をいふ)
はるのひ　春日、春晷、遲日

はるけき(形)　遥、遠、とほき、はるか
はるげしき(名)　春景色。春光、春色、はるのいろ、はるのありさま、韶光
はるさめ(名)　春雨、育花雨、楡莢雨、はるのあめ、やよひあめ、霖雨
はるぎ(名)　春衣、春服、はるきるきもの
はるめく(自)　發春色、有春光、はるらしくある
はるび(名)　鞋、纏腹帯、はらおび(馬の)
はるひ(名)　春日(『はるのひ』をみよ)
はるせみ(名)　蜩螗、蟪蛄、せみのたぐひ(動物)
はたと(名)　羽音、はたたきするおと(鳥の)
はたり(名)　羽織、表衣
はたる(他)　羽織、うちかける、うへにきる
はをむく　歯剝、顯歯、はをむきだす。いがむ(犬にいふ)
はをく　破屋、あばらや、こはれや
はをくひしばる　切歯、はをかたくくはせる。又はがみする
はれしろい(名)　輕粉、はらや、水銀粉
はわいぼし(名)　室宿(二十八宿の一)をして西方にあり)
はわいこく　布哇國、哈維國、さんどいちじま(大平洋中の島名)
はわかれ(名)　歴歯、はなみ、はならび、はのならべるさま
はわうべん(名)　覇王鞭、きりんかく(植物)
はわうじゅ(名)　覇王樹、しやぼてん、ささらざつぼう(植物)
はわけ(名)　粟分(草木の粟の分かるる事)
はわけ(名)　派分、わだわかれ、分派

はか(名)　進歩、はかどり、そすみ、捗
はか(名)　墓、墳墓、玄廬、長夜室、冢塋、塋域、永宅、九原、つか、はうむりどころ
はが　芳賀(氏)
はが(名)　挾(鳥を捕る具)
ばか[俗]形)　馬鹿、おろか、白痴、痴漢、愚人、痴愚、呆痴、阿獃、かしこからぬ、ちゑたらぬ
はかい(名)　破戒、いましめをやぶる(佛法に云ふ)
ばかい(名)　馬介、うまつかひ、べつたう
ばかい(名)　馬芥、からし(植物)
ばかいさう(名)　馬蹏草、にしきぐさ(植物)
はかば(名)　墓場、墓所、墓地、はかどころ、はうむりどころ
ばかばかしい[俗]形)　馬鹿馬鹿敷、おろかなる、くだらぬ
はかはら(名)　墓原、九原、墜隧、はかみち
ばかばやし(名)　馬鹿囃(祭禮の時の囃にする音樂をいふ)
ばかどり(名)　信天翁、あはうどり(動物)
はかどる(自)　捗取、進歩、はやくはこぶ、はやくすすむ
はかどころ(名)　墓所、はかはら、居所、九原
はかり(名)　秤、稱、銓、等子、衡平、權衡、度量衡、ものをはかるうつは、めかたはかり
はかりべり(他)　秤耗、めり、めかたのへり
はかりなはす　復測、再測、ふたたびはかる
はかりむし(名)　尺蠖、しやくとりむし、虹(動物)
はかりのを　秤索、秤繩、はかりのひも、さげを
はかりのわもり　稱錘、秤鉈、はかりにつけたるおもきもの、ふんどう
はかりのかぎ　秤鉤、はかりにつけるかぎ

はかりくさ(名)　泰艽、くさのな(植物)
はかりや(名)　秤匠、はかりつくり、はかりつくるひと。又はかりうるひと
はかりごと(名)　謀、謀畧、計畧、謀計、計策、籌策、たくみ、ひととはかるてだて
はかりざを(名)　秤杠、ちぎ、はかりのぼう
はかりざら(名)　天秤盤、はかりのさらはかりにつけるさら
はかりめ(名)　秤目、はかりのそぢ。又めかた
はかりすごす(他)　秤過、あまりにはくはかる、はかりこす
はかる(他)　計量、圖、謀、はかりごとをめぐらす。度、謨、揆、測、忖度、思量、揣摩、ふもひはかる、れしはかる
ばかわらひ[俗]名)　痴笑、おほわらひ、しまりなきわらひざま
ばかがひ(名)　馬鹿蛤、痴蛤、かひのな(動物)
はかた(名)　八角田、八角島(氏)
はかた(名)　博多(筑前の地名、また同處より織出を絹の帯地の名)
はかたおり(名)　博多織(筑前國博多より織出す帯地をいふ、ばかたぎぬ
はかたゆり(名)　天香、ながきはなのゆり(植物)
はがためもち(名)　歯固餅(正月の雑煮餅をいふ)
はかたじま(名)　博多縞(博多織の縞地をいふ)
はがね(名)　鋼鐵(切物の刃となる堅き鐵)
はがねば(名)　鋼刃、はがねのは
はかなく(副)　無墓、無果敢、脆弱、もろく、たわいなく。あはれに

はかなき(形)　墓無、無果敢、もろき、よわき。あはれなる
ばから(名)　馬珂螺、くつはがひ(動物)
はからふ(自)　謀議、量、計畫、はかる、かんがへまはそ。又處辦、とりまかなふ、とりさばく
ばからしい[俗]形)　馬鹿敷、おろからしき、くだらぬ
はからず(副)　不圖、不慮(不意ふ)、おもひもよらず
ばからざよ(名)　馬鮫魚、さはら、うをのな(動物)
はかく(名)　破格(詩文の法に拘はぬを謂ふ)
ばかやつこ　癡奚頭、愚物、鈍物、おろかなるやつ
はかま(名)　袴(腰下にはく廣き裳、褌。紈袴
はかま(名)　莖、莖衣、白膜、うすかは(花や種等の周圍に蒙れる薄き皮)
はがま(名)　釜、へりあるかま(周邊に)
はかまぬり(名)　墓參、拝墓、詣塋、はかまうで
はかまぢ(名)　袴地。はかまにつくるべきれりもの
はかまかつら(名)　鬼見愁(鱗甲花、つるぐさのな(植物)
はかまのまち　袴襠、はかまよいれるまち(「まち」をみよ)
はかまのひだ　袴辟、袴襉、はかまのをりかさね(「ひだ」を見よ)
はかまぎ(名)　袴着(小兒が三歳か五歳に成りし時に始て袴と着する祝の名)
はがける　歯落、歯脫、はがぬける、はがおちる
ばかげた[俗]形)　馬鹿氣、おろかな、ばからしい
ばかされる　被嗤(狐狸等に)、わざむかれる(「ばかす」を見よ)
はがき(名)　葉書、端書(一片の書信紙を謂ふ)
はがゆき(形)　歯癢、もどかしき、じれつたい
はがみ(名)　歯咬、切歯(怒つて歯をかむを云ふ)。齘歯、はぎ

しり(唾りぬて歯を咬み鳴らすをいふ)
はかみち(名)　墓道、はかばへゆくみち
はかじるし(名)　墓標、墓表、墓誌、墓碣、墓碑、はかいし、つかいし、はかのうへにたつるもの
はがひ(名)　羽翼、つばさ、はね
はがひをのばす　展翅、伸翼、はねをのす。こころざしをえる
はかもり(名)　墓守、はかばのばんにん、はかまもり
はかせ(名)　博士(學者の尊稱の一)、はくし
はかせ(名)　帶刀、佩刀、こしがたな、おびたるたち
はかせ(名)　羽風、はたたきのかぜ(鳥の)又いきほひ
はがす(他)　剝、めくる(金箔等を)
ばかす(他)　化、魅、たぶらかす(重ね狐狸等にいふ)、おざむく
はがすみ(名)　齒屐、齒迹、はくそ、はのうへにたまるしろきもの
はかん　波間、なみま、なみのあひだ
はがん　破顏、わらひをふくむ微笑
ばがん(名)　馬銜、くつばみ、くつわ(馬の)
はた(名)　邊(水の邊)、畔(田の畔)、傍(物のわき)、かたはら、そば、わき
はた(名)　畑、圃、田園、陸田、圃場、はたけ
はた(接)　將、抑、あるひは、また
はた(名)　旗、旌、旛、旆、幡、纛、旗章、旌旗、はたじるし、のぼりじるしにあぐるぬの
はた　畑(氏)
はた(名)　機、機杼、はりものきかい、ものをたるうつは
はたほこ(名)　橦、寶憧(祭禮の時に建ある(鉾旗といふ)
はたへ　二十重(二十かさね)
はだへ(名)　肌、膚、膚膜、はだ、からだのかは、み
はたと(副)　磕、撲地、擽(手を拍つ音、また物よ衝當る貌)
はたち　廿歲、はたとせ、二十歲
はだぬぐ　袒、肉袒、袒裼、かたぬぐ、かたをあらはす
はたる(他)　催促、せつく、督促、うながす、せまる
はたれり(名)　機織、はたおるもの(「はたれりめ」をみよ)又むしのな(「はたれりむし」を見よ)
はたれりむし(名)　機織虫、紡絲虫、斯螽、促織、むしのな動物)
はたれりめ(名)　機織女、機女、紅女、機婦、工女、織婦、れりめ、はたれるをんな
はたか(形名)　稞、猥、僕、赤身、きものをつけぬ、はだあらはなる

はだかほほづき(名)　龍珠、くさのな(植物)
はだかる(自)　跋扈、ねばる、ほしいままにする、いきほひをふるふ
はだかむぎ(名)　裸麥、むぎのたぐひ(植物)
はだかむし(名)　裸蟲、蝛蜴、あとむし(動物)。また人類、ひと
はだかうま(名)　裸馬、鞍なき馬、はだせうま
はだかやま(名)　裸山、禿山、童山、岵、岵、峐、峱、はげやま、樹木のなき山
はたかざり(名)　旌飾、旗旌、はたのふさなど
はたがしら(名)　旗頭、盟主(一國諸侯の中の最も權勢ある者)、覇者、覇王
はたたがみ(名)　雷電、霹靂(雷の急激なる者、かんどき、かんだち、霆(雷の餘聲)
はたたき(名)　鼓翼、鼓翅、はばたき、はうつこと
はだれゆき(名)　斑雪、ちらちらゆき、まばらよふるゆき
はだれしも(名)　斑霜、ちらちらしも、まばらにふれるしも
はたそり(名)　圃橇、はたけにもちふるそりぐるま
はたそで(名)　鰭袖、端袖(直衣の長袖をいふ)
はだつけ(名)　膚附、鞍屜脊、くらしたぎぬ(馬の)
はだつけ(名)　襦、襦袢、襯衣、あせとり。また財布、かねいれ
はたつもり(名)　枡搔、りやうぶ、ひさかき、きのな(植物)
はたつもの(名)　陸田種子、たなつもの(畑地の作物)
はたなか　畑中(氏)
はたらく(自)　働、動作、力作、つとめかせぐ、しごとする。活動、運動、うごく。矚目はたらく。蠶(虫はたらく)
はたらき(名)　働、工作、力行、勞役、かせぐこと。動作、つとめ、わざ。活川、活動、活機、運動
はたらきばち(名)　働蜂、工蜂、奴蜂(蜂の中にて食物を採取するを事とする者)(動物)
はたらきことば(名)　動詞(文法の語也ゆく、きたる、たつ之類は皆動詞と云ふ是ゆく、ゆかん等と働けば也、わざことば、用言
はだらゆき(名)　泳雪、はだれゆき、まばらにふるゆき
はだらひ(名)　馬盤、うまをけ、うまたらひ
はたう[する](自)　波盪、ゆりうごく、ゆれる
はたう(名)　波濤、なみ、おほなみ、波濤
はたう(名)　馬唐、ひめしば(植物)
はたの　波多野、幡野(氏)
はたのをさ(名)　機織、蛮笠子(「をさ」をみよ)(織具)
はたのをみ　波太臣(氏)
はたのだいこん(名)　水蘿蔔(大根の一種)(植物)
はたのふまへぎ(名)　踏機、牽綜(機の踏木)、はたおるときにふむき
はたのひ(名)　杼梭(「ひ」をみよ)
はたく(他)　拂、はらふ、敲、叩、たたく
はたくさび(名)　機楔、はたのくさび
はたぐも(名)　旗雲、たなびくくも
はたまた(接)　將復、あるひはまた、もしくは
はたけ(名)　畠、畑、圃、陸田、墟圃、阡陌、蔬地、みづなきた、をかよあるものつくりば(「はた」をみよ)
はたけ(名)　癩、疥、かつたいびやう、はたけがさ(悪病の名)
はたけいね(名)　畑稻、早稜、をかぼ陸田稻(植物)
はだける(他)　開張、ひろげる。哆、嗤(口とひろげる)

はたけがさ(名)　狩癩(はたけ)に同じ
はたけつくり(名)　圃人、畦丁、作男、たつくるをもこ
はたけな(名)　菘、なのたぐひ(植物)
はたけむしろ(名)　半邊蓮、くさのな(植物)
はたけやま　畠山(氏)
はたけもの(名)　陸田作物、をかもの、はたけよつくるうゑもの
はたけせり(名)　旱芹菜、せりのたぐひ(植物)
はたご(名)　廄(馬に草飼ふ籠)
はたごや(名)　旅籠屋、旅館、旅舎、歇、たびや、やどや
はたて(名)　漲、はて、はし(雲などの)、又旗手(雲の棚引る有様なりとも云ふ)
はたわし(名)　旗脚、旒、はたのすゑのかた
はたぎを(名)　南芥菜、くさのな(植物)
はたざを(名)　旗竿、幡柱、幡竿、はたたてるぼう
はたさく(名)　畑作、陸田産、はたけのつくりもの、をかもの
はたさし(名)　旗差、旗手、はたもち
はだぎ(名)　肌着、膚衫、汗衫、中單、襯衣、羞袒、汗襦、汗衣、あせとり、じゆばん、はだつけ
はためく(自)　碾礰、礧礰(ごろごろ音するをいふ)ごろつく、なりとどろく
はだみ(名)　肌身、からだ、身体、み
はたし(名)　旗尻、はたこしらへ、はたつくり
はだし(名形)　徒跣、すあし、たびはかぬ
はたとるし(名)　旗號(旗の文をいふ)。又旗幟、幟、幖、のぼりはた、さしもの

はたした(名)　旗下、幕下(服從して下風に立つ人)
はだしまゐり(名)　赤脚參(跣足にて宮寺へ參詣する事)
はたして(副)　果、たもひしごとく。まことよ、たがはず
はたしあひ(名)　果合、決死、決鬪、比鬪、ころしあひ、眞劍勝負
はだじゆばん(名)　肌襦半、はだき、はだつけ
はたそ(名)　書稿、したがきのそ
はたひろ　廿尋(二十ひろ)
はたもと(名)　旗本、旗下、掘奇(將軍家直參の臣をいふ、其祿は一萬石以下に定まれり)
はたもち(名)　旗手、はたさし(戰場等にて旗を持つ人)
はだせうま(名)　裸脊馬、騍、はだかうま、くらおかぬうま
はたす(他)　果、成就、しとげる、しおほせる
はだん[俗](名)　破談(相談のまとまらぬ事)、はなしのやぶれ
はだんきやう(名)　巴旦杏、あめんどうそ(植物)
はれ(名形)　晴、澄朗、晃朗、鮮晴、開朗、牢晴、晴霽(以上天氣にいふ。華美、壯飾、きかざり、はなやか、りつば(衣服にいふ)
ばれいしよ(名)　馬鈴薯、じやがたらいも、じやがいも(植物)
はれがましい(形)　晴々敷、ほまれある。りつばある、はなやかなる、盛壯
はれる(自)　腫、ふくれる、脹、隆起、もちあがる
はれる(自)　晴、くもきりをさまる、きよくある(天氣が)。霽あめやむ

はれがましく(副)　晴間敷(はればれしき貌)
はれつ[する](自)　破裂、やぶれさける。さけいづる
はれつだま(名)　破裂丸、破裂彈(爆裂する鐵砲丸)
はれうま(名)　馬褒、いぬのはなひげ、おつたで ねまりたで、はなたで、いぬたで、莊草、水製(植物)
はれやか(形)　晴、晴明、快爽、はればれしき、はなやか
はれやまひ(名)　水腫、みづぶくれ(病にいふ)
はれま(名)　晴間、とぎれま(雨の)、をやみ
ばれふしよう(名)　馬鼠松、うなひまつ(植物)
はれわがる(自)　腫起、ふくれわがる(腫物等が)
はれぎ(名)　公服、はれのきもの、はれいしやう。又、うるはしきもの、よききもの、はれぎぬ
はれぎぬ(名)　禮服、公服、公衣、はれのきもの。美服、よきもの
ばれきとん(名)　馬櫪神、うまやのかみ
はれもの(名)　腫物(しゆもつ)、腫瘍、癤、できもの
はれん[する](自)　波連、かかりあひになる、まきぞひになる、連累
ばれん(名)　幡連、芭蕉　幡連(馬印の類にして火消人等の持歩く者)

(圖の)

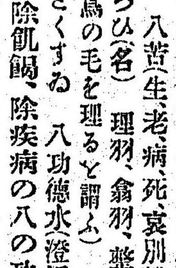
はれんち(名)　破廉耻、はづべきわざ、ふさはしからぬしわざ
はそく(名)　把束、たば、つかね、束
はそく[する](自)　頗側、かたよる、よこになる
はそめこ(名)　齒染粉、ふし、ばぐろのこな
はそん(名)。—する(自)　破損、やぶれ、いたみ。やぶれる、いたむ、こはれる
はつ(名形)　初、はな、はじめ。はつめての、第一
はつ(自)　果、はてる、をはる
はづ(名)　巴豆、巴菽、老陽子(植物)
はづ　箟「はず」と見よ)
ばつ(名)　跋(書籍の後に題する文)、後序。れくがき
ばつ(形名)　末、すゑ、をはり
ばつ(名)。—する(他)　罰、刑罰、つみなふこと、うちこらし。つみそる
ばづ(名)　馬爪、うまのつめ(鼈甲の代りに用ふ)
はつい(名)　發意(ほつい)、おもひたち、もくろみ
ばづいた(名)　馬爪板、ばづにてつくれるいた
はついつのまひ(名)　八倡舞、やつらのまひ、はちにんをどり(孔子の故事にて論語に見ゆ)
はついく(名)。—する(自)　發育、そだち、そだつこと。成長おほきくなる、そだつ
はついん　八音、はつちん(金、石、絲、竹、匏、土、革、木の八音樂)
はついん(名)。—する　發音、よびこゑ、おん。よびごゑだす、よむ、ひびかす
ばついん(名)　末胤、末裔、すゑ、たね、後胤、子孫、末葉
はつろ[する](自)　發露、あらはれる、ろけんする、しれる
はつばい(名)。—する(他)　發賣、うること、うりいだすこと。うりだす、うりさばく
ばつばい(名)　罰盃(宴席にて負たる者よ强ふる盃)
はつはる(名)　初春、早春、孟春、發春、はるのはじめ

はつはつ(副)　鱗鱗、びちびち(魚のはねる貌)
はつはつ(副)　端端、いつぱいに、わづかに、かすかに、僅
はつばう[する]　發砲、てつぱうをはなつ
はつばう(名)　八方(東西南北と其間の四維をいふ)、やも
はつぱう(名)　發泡(身體に貼りて膨れしむる膏藥)
はつぱん[する](自)　髪帽、はちまき、ばうし
はつはん[する](自)　發熱、ほめく、ほとぼる、煩熱
はつは(名)　初穂、初實、初果、新米、はじめておれるいねのは。又はじめてむすべるくだものなど
はつはうちん(名)　八峯椿、やつをのつばき(植物)
ばつぼく[する]　伐木、きをきる
はつぺう[する](自他)　發表、あらはる。あせいづる。又しめす、表示布告(ふこくする)
ばつぺう[する]　抜錨、いかりをぬく、ともづなをとく、解纜、ふなでする
はつぺうざい(名)　發表劑、發汗藥、あせとるくすり、かぜぐすり(藥)
はつと(名)　法度、法律、法令、禁制、制度
はつと(名)　發途、たびだち、かどで、かしまだち、發足
ばつと[俗](副)　漠然、曠漠、とりとめなく、かぎりめなく、おいまいと
はつとり　服部(氏)
はつとがき(名)　法度書、教條、おきてがき
はつどう[する](自)　發動、うごく、運動。又れこる
ばつとう[する](他)　罰討、つみしうつ、征伐、征討、うちきためる、せめうつ

はつかう[する](自)　醱酵、むれる、わきわがる、わわだつ(酒類等にいふ)、醸熟
はつかう[する](俗)(自)　發向、いでむかふ、おもむく
はつかう[する](自)　發航、出帆、ふなでする、はしりだす
はつかう[する](他)　發行、れはやけにする、發兌、出板(新聞などを)
はつかうゑ　八講會(法華經を講ずる集會をいふ)
はつかく[する](自)　發覺、あらはれる、露顯(罪惡などか)
はつがくばい(名)　八萼梅、やつぶさのうめ(植物)
はつかくふう(名)　八角楓、うりのき(植物)
はつかぐさ(名)　廿日草、牡丹、なとりぐさ、ふかみぐさ(植物)
はつかくじ(名)　八角兒、おにむし、つのむし(動物)
はづかしがる(自)　羞恥、含羞、はぢらふ、はづかしくれもふ
はづかしき(形)　耻辱、忸怩、可羞、塵垢、愧(「はづる」をみよ)
はづかしめる(他)　辱侮辱、凌辱、譏讒、はぢしめる、はぢかかせる
はづかひ(名)　振羽(鳥の羽を振ふ事)、はたたき
はつかん[する](自)　發汗、あせがでる、あせかく
はつかん(名)。—する(他)　發刊、出板、上梓、上木。すりだす、はつだする書物などを)
はつかん　發緘、ふうじをひらく、ふうをきる
はつた　八田(氏)
はつだ(名)。—する(他)　發兌(出板して發賣するを謂ふ)。うりだす、發行

はつたつ(名)　鰾魚、蝮蛇、はたはた、蝮蛇(動物)
はつたつ[する](自)　發達、ひらける、發育、開發(智力などが)
はつだけ(名)　初茸、青頭菌、松毛菌、きのこのな(植物)
はつたんれう(名)　八端織(布帛の名)、れうものののたぐひ
はつたんがけ　八端掛(布帛四疋程をいふ)
はづれ(名)　端、極、はし、をはり
はづれる(自)　外、不中、そげる、あたらぬ
はつれゆき　斑雪、はだれゆき
はつれん　發輦(天子のれでまし)を謂ふ、おなり
はつぞく　撥賊、わるものをたひらげる
ばつそく(名)　罰則(刑罰の規則)
ばつそん(名)　末孫、後胤、すゑ、子孫
はつね(名)　初音、鶯などの新聲といふ、はつこゑ
はつねつ　發熱、ねつのいづること。ねついづる
はづな(名)　絆繩、絆綱、羈絆、韁、靼、轡、牛などを引く繩)
はつなり(名)　初生菓、初熟果、はじめにむすべるこのみ、はつのくだもの
はつなん　八難(飢、渇、寒、暑、水、火、刀兵)
はつらんはんせい　撥亂反正(世の亂れを平らけて平和を復するをいふ)
はづむ(自)　跳、はねかへる、御舍、はしりてとどまらぬ(蹴鞠などにも用ふ)。御利(奔馬ゑ用ふ)、しきりにはしる、とまらずはしる
はつうままつり　初午祭(二月の初の馬の日に稲荷を祭る事)
はつうん　發運、うんがひらける、うんにむかふ

はつく　八區(四方四隅をいふ)八方
はつく　八苦(生、老、病、死、哀別離、怨憎會、求不得、五盛陰)
はづくろひ(名)　理羽、翕羽、整羽、はねをかいつくろふこと(鳥の毛を理るを謂ふ)
はつくどくすゐ　八功德水(澄淨、清冷、甘美、輕香、柔輭、安和、除飢渴、除疾病の八の功ある水よて極樂に在りとぞ)
はつくわ　發火、ひもといづる、ひをはなつ。又(名)ほくち
はつくわう　八荒(東、西、南、北、乾、坤、艮、巽の八方をいふ)
はつくつ[する](他)　發掘、おばく(墓等を)。ほりいたす(石炭等を)
ばつくん(形)　拔萃、すぐれたる、ぬきんでたる
はつやり(名)　最初鎗、一番鎗、先登(最初よ敵陣にきりこむ事)
ばつま(名)　扱麻、ぬさ、ごへい
はつけ　八卦、易の乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤といふ。又うらなひわざ
はつけい　八景、やつのすぐれたるけしき(近江、明石、南都、金澤、嵯峨、伏見等皆八景の勝地あり)
はつけん[する](自)　發顯、あらはれる、露顯、しれる
はつけん[する](他)　發遣、やる、つかはす、おくりやる、派遣
はつけん[する](他)　發見、みいだす、みつける、發明
はつけん(名)　法眷、僧家の弟子をいふ
はつげん(名)。—する　發言、ことばをいだすこと。いひだす
はつふ　髮膚、かみのけ及はだへ

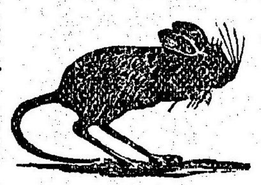

(圖)
搏拊

はつぷ(名)　搏拊(樂器)
はつぷ[する](他)　發布、ふれしく、發表、ふれいだす
はつぷ(名)　撥附、まいばか、せ、わく
ばつぷ(名)　晒布(柔かき膏藥、敷藥、わたにのべたるかうやく
はつぷり(名)　廻鐵(額にあつる鐵板)、ひたひがね
はつぷう　八風(炎風、條風、景風、亘風、京風、膠風、麗風、寒風)
はつふくでん　八福田(曠路の義井、水路の橋梁、險路の平治、父母に孝順、沙門に供養、病人よ給事、危厄の救助、無遮會の設立をいふ)
はつぷん[する](自)　發憤、舊發、やつきとなる、いきどほりをおこす、はげむ
ばつぷん(名)　跋文(書物の終に書そへる文)、ばつ、しりがき
はつご(名)　初子、首生兒、うひご、はゝめてのこ
ばつこ[する](自)　跋扈、ほしいままにする、ねばる、強梁。ふみはだかる
はつこう　八紘、わめがした、天下
はつこう(名)　髮工、かみゆひ、とこや、理髮者
はつこく　八穀(黍、稷、稻、粱、禾、麻、菽、麥をいふ)
ばつこくらん(名)　雀觜斛、とさらん(植物)
ばつてい　末弟、すゑのおとうと。すゑのでし
[はつてう]　八鳥、うみ(勢州三重郡にある地の名)
はつでう(名)　發條、せんまい(時計などの)

はつてつうし(名)　撥掉子、かざめ(動物)
はつてき[する](他)　扱擢、ぬきあげる、登庸、採用(官吏などに)
はつてんぐ　八天狗(愛宕、比良、大山、大峯、鞍馬、飯縄、彦山、白峯にある八箇の天狗)
はつあき(名)　初秋、はじめのあき、あきのはじめ、孟秋
はつあん(名)　發案、動議、まうしだし、はつぎ
ばつざ　末座、末席、すゑのざ
ばつさい[する](他)　伐採、きりとる(樹木を)
はつさつ(名)　髮厥、かみさし、かうがい
ばつさつ(名)　罰札(罪狀をしるしたる札)
はつさう　八相(住胎、嬰孩、愛欲、樂苦行、降魔、成道、轉法輪、入滅よて釋迦の生涯の變遷をいふ)
はつさく　八朔(舊曆八月朔日をいふ)
はつさく[する](自)　發作(はつさ、れこる。又れこす
ばつざん[する](自)　伐斬、きる、きりとる(木などを)
はつさんけんいち　八算見一(和算の詞にして十位已下の除算を八算といひ、十位以上を見一といふ)
はつき(名)　發軔、はじきがね
はつき[する](自他)　發起、れこる。れこす(「はつき」をもみよ)
はつき[する](他)　發揮、あらはす(蘊奧などを)。はげます、ひきれこす、ふるはす
はづき(名)　葉月、八月(陰曆八月の異名)
はつぎ(名)。—する　發議(はつき)、動議、まうしだし。いひたてる(議場などよて)
はつきり[俗](副)　判然、明瞭、あきらか、了然、較著、明白、分明
はつきよく　八極(北、艮、東、巽、南、坤、西、乾の八方をいふ)
はつきやう　發京、みやこをいでたつ
はつきやう(名)。—する(自)　發狂、ものぐるひ、きがちがふ
はつきやうかい　八境界(抑揚、褒、貶、擒縱、與、奪)(文辭の法にいふ)
ばつきん(名)　罰金(罪の贖ひ金)、罰銀、くわれう
はづゆ(名)　巴豆油(巴豆よりとりたる油)
はつゆり(名)　初百合、早藕惠貝(植物)
はつゆき(名)　初雪、早雪、新雪、はじめてふるゆき
はつゆめ(名)　初夢(新年初めてみる夢)
はつめい[する](他)　發明、かんがへだす、さとる。(また俗よ形容詞よ用ふ即ち利口、聰明、敏敏の意)
はづみ(名)　機、をり、きくわい(機會)
はづみ(名)　跳躍、はねかへること。又御利(馬の)却舍、はづむこと(「はづむ」をみよ)
ばつし　末子、すゑこ、季子、末男、れとご
はつしよのごりやう　八所御靈(早良親王、伊豫親王、藤原吉子、吉備大臣、文室宮田丸、橘逸勢、藤原廣嗣、火雷天神をいふ)
はつしよく(名)　發燭、つけぎ(下を見よ)
はつしよくじ(名)　發燭兒、ゆわうぎ、つけぎ
はつしう　八宗(律、俱舍、成實、法相、三論、天台、花嚴、眞言の八宗)
[はつしら](名)　八咫烏、やたがらす(古事記に見ゆる大鳥)
はつしう　八州(關東八州武藏、相摸、安房、上總、下總、常陸、上野、下野)

はつしや(名)　發車、出車、くるまのでること。又でぐるま
ばつしや(他)　拔捨、ぬきすてる
はつしやう　八省、やつのつかさ(即ち中務、式部、兵部、治部、刑部、民部、大藏、宮内の八官署)
ばつしやう(名)—する(他)　祓禳、はらひ(厄難惡鬼を逐はらふこと)。はらひのぞく、をはらふ
はつしやうまめ(名)　黎豆、てんぢくまめ(植物)
はつしやうじん　八將神(太歲神、太陰神、歲破神、黃幡神、大將軍、歲刑神、歲殺神、豹尾神の八神)
ばつしゆ(名)　罰酒(罰盃に同じ)
はつしゆつ[する](自)　發出、いできたる、あらはれくる
ばつしゆつ(自他)　拔出、ひいづる。ぬきだす
はつしも(名)　初霜、早霜、霰、はじめてふるしも
はつしん形自)　發疹、ふきでする(はしか等の如くに)
はつしん　發信、たよりをいだす、たづれをする(音信と發するを謂ふ)
はつしん(名)　發軔、いでたち、いでまし(貴人にいふ)、かどで
はつしんちぶす　發疹窒扶私(六種傳染病の一、ふきでするねつびやう
はつしんさう(名)　發疹瘡、ふきでもの、ふきでがさ(病名)
はつすぎ(名)　早枝(草木の枝の初めて出たるをいふ)
ばつすつ(名)　閥閱、門閥、いへがら、たふときいへすぢ
ばつすつ(他)　拔萃、かきぬき、ぬきがき、拔萃
ばつすふ(名)　末葉、末胤、子孫、末孫、すゑ、のち
はつする[する](自)　發、いづる。いだす、はなす
はつぴ(名)　法被、半臂(仲元小者の着る短き布衣)、かんばつぴやう(名)　魃病、ねとみづはり(再妊の徵候)、繼病
はつぴぎよ(名)　撥尾魚、ねぼこ、いな(動物)
はつもの(名)　初物、はじめてのもの、きはめてめづらしきもの(果實產物等に云ふ)
はつもん　撥問、うれへをはらふ、きばらしする
はつせ　初瀨(地名)、はせ
はつせい　八姓(眞人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置)
はつせい[する]　發生、はえいづる、そだちいづる
はつせつ　八節(立春、立夏、立秋、立冬、春分、夏至、秋分、冬至)
ばつせふ[する](自)　跋涉、ふみわたる、わたりあるく(山川等を)
はつせき(名)　撥疾、みの、かつぱ
ばつせき(名)　末席、末座、しもざ、するのざ
はつせん(名自)　發船、でふね、ふなで。ふねがでる
はつせん　八專(曆に於て夏時丑辰午戌の日を除きて十二日間つづく凶日をいふ)
はつす(名)　法嗣(佛宗の傳嗣をいふ)、傳燈僧
はづす(他)　弛弦(弓の弦を)、とりはづす
はづす(他)　外、とりはらふ(戶等を)、躲、さける、まく(人を)。退、たちさる
ばつする(名)—する(他)　拔萃、かきぬき。ぬきがきする
はつする(自他)　發、いづる。いだす、はなす
ばつする(他)　罰、つみする、しれきする
はね(名)　羽翼、翎、翅、つばさ、は(鳥の)

はね(名)　泥穢、泥の飛ぶ者を云ふ、潑水、みづのとばしり
はね(名)　羽子、はご(弄具)
はね(名)　撥文字のはねたる處(書法に云ふ)
はね(名)　鎖鐮、鎖鎌、鎖簪、さしがね、じやうにさしこむもの
ばね(名)　鋼墊、車の下に施こせる張弛自在の鐵
はねばし(名)　翻橋、吊橋、はねのけられるはし、つりばし
はねに(名)　投貨、はねのけられたるしなもの、くづに
はねぢぐさ(名)　石蒜、くさのお(植物)
はねる(他)　剔、刻、首をはねる、きりおとす
はねる[俗](自)　終、をはる(演劇あどが)
はねる(自)　鮫、鰄魚が、騏、驥、跳躍(馬等が)、とぶ、とびあがる。蟬(虫が)
はねる(他)　除却、はねのける(惡品等を)、とりのぞく
はねる(他)　撥、捶文字を、はねかす、をどらす
はねおきる(自)　跳起、とびおきる、躍起
はねがは　羽川(氏)
はねかへる(自)　跳反、倒跳、とびかへる
はねかける(他)　跳掛、撥掛、潑掛、とばしかける(泥等を)
はねよけ(名)　泥水板、どろよけ(車に施せる泥潑を防ぐ鐵板)
はねだ　羽根田(武藏國荏原郡にある地名)
はねだ　羽田(氏)
はねつち(名)　埴(「はにつち」の轉訛なり)
はねつるべ(名)　桔槹、桔橰、玉皐(大なる木の端に附て片端に石を施したるつるべ)
はねつくろひ(名)　翕、翕翼、はづくろひ(鳥が嘴にて羽翼をとさむるを謂ふ)
はねねずみ　跳鼠(鼠類の一にて圖の如く前足極めて短く後足極めて長し)
はねうま　騑馬、はねるうま(動物)
はねのける(他)　撥除、わしのける、はねとばす
はねぐき(名)　翅管(鳥の羽翼の軸をいふ)、はねぢく



(圖の跳鼠)

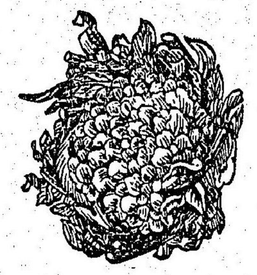
はねやうじ(名)　羽楊枝、羽毛齒刷(鳥羽にて作れる楊枝)
はねまはる(自)　跳廻、とびまはる、躍奔、奔踔
はねあがる(自)　跳揚、撥揚、反起、をどりあがる、躍起
はねあげる(他)　跳揚、うへへつきあぐる、とばしあげる
はねざいく(名形)　羽工、鳥毛にて造りたるをいふ)
はねひろげる　張翼、鼓翼、毬翹(鳥の羽を張るを云ふ)
はねず(名)　唐棣、にはうめ(植物)
はな(名)　鼻(面上の呼吸官)、肺竅。また象鼻、ざうのはな
はな(名)　花、華、榮、はなぶさ、をもみよ)、葩、紅紫、くさきに
さくもの。又うるはしきもの
はな(名)　初はじめ、最初
はないろ(名)　纈頭(藝妓其他に與ふる金をいふ)、かづけもの
はないろ(名)　花色、縹色、はなだいろ、こきそらいろ
はないかだ(名)　青葱葉、雞腸草、くさのお(植物)
はないけ(名)　花活、花瓶、花筒、花斗、花瓶(花をいけるもの)、挿花器、くわびん
はないき(名)　鼻息、鼾、鼾鼾、はなにてするいき

はなろくしやう(名)　花緑青(染料の名)
はなは　塙(氏)
はなはぼたん(名)　花韮菜、花柳菜、なのたぐひ(植物)
はなばかま(名)　裏包、かかく(花の下部を包める皮)
はなはだ(副)　甚、太、太甚、孔、酷、頗甚、れはいに、いたく、いと
はなばたけ(名)　花園、花塢(花卉を作り養ふ所)、花塢、はなのには
はなはだしき(形)　甚敷、頗甚、非常(「はなはだ」をみよ)、れはいなる
はなばなしき(形)　花花敷華麗、煥然、有光榮、はにある、かがやく、りつぱ、てがらなる
はなばさみ(名)　花鋏、花剪、はなをきるはさみ。又いけばなのはさみ
はなばしら(名)　鼻柱、鼻梁骨、鼻莖、鼻濯頗、はあすぢ、はなのみね
はなにくづく(名)　萱蔓花、にくづくのはな(植物)
はなぢ(名)　鼻血、衄、はなよりいづるち
はなぢわう(名)　胡面蕊、せんりこ(植物)
はなちたぶさ(名)　放髪(俗にいふ茶筌髷なり)
はなり(名)　放髪、ふりわけがみのをんな(髪を左右へ振り分けたる童女をいふ)
はなるる(自)　離離別、離隔、班、訣別、わかれる、分解、脫、とれる
はなを(名)　鼻緒、向緋(下駄等の緒を謂ふ)
はなれち(名)　花落所、花跡、瓊(菓實の花のつきたる處)、へた

はなわ(名)　鼻輪(鼻にとほす飾り物)。又はながい(牛の)
はなわらび(名)　陰地蕨、ひかげわらび、ふゆわらび(植物)
はながい(名)　鼻繩、牛鼻環(牛の鼻に通す綱)、はなぎ
はながは(名)　靶、鞅、鞦、紲革(馬の鼻にわつる皮具)
はながへり(名)　痘痕、あばた、もがさあと、いも、にやんこ
はながた(名)　花返(花色のさめたるを謂ふ)
はながたみ(名)　花籠、はなかご、はなをいれるかご、花籃
はながつら(名)　花繋、花冠、はなのかぶりもの
はながつみ(名)　浦黄、菰米、はなあやめ、がまのはな、かつみ(植物)
はなかむ　擤擤(はなをかむ)、はあをふきてさる
はなかうじ(名)　花柑子、みかんのたぐひ(植物)
はなかご(名)　花籃、はながたみ、花籠
はながさ(名)　花繖花を粧ひたる傘。また(植物)
はながき(名)　花墻花にて作れる垣根
はながめ(名)　花瓶、くわびん、はないけびん
はながみ(名)　鼻紙(鼻かむ紙、または懐中用紙を謂ふ)
はながみいれ(名)　鼻紙入、算袋、算牌、方便嚢、かねいれ、財布
はながみぶくろ(名)　鼻紙袋、挾嚢、はながみいれ
はなかせ(名)　鼻邪、はなみづのいづるひきかぜ
はなよめ(名)　花婦、新嫁娘、にひよめ
はなだ(形名)　縹、はなだいろなるぱはないろ
はなだいろ(名)　縹色、はないろ、こきそらいろ

はなたば(名)　鼻烟、かぎたばこ、はなにてかぐたばこ
はなたちばな(名)　百両金、硃砂根、ひめたちばな(植物)
はなたか(形)　鼻高、はなのたかき
はなたか(名)　鼻高靴、とかりばなのくつ、さきのたかきくつ
はなたかき(形)　鼻高、隆準、はなたかくある。又はこらしきほまれなる
はなたれ(形)　涕垂(鼻汁の流るるを云ふ)
はなたけ(名)　鼻茸、はなのできもの、はなのはれもの
はなたで(名)　馬蓼、くさのな(植物)
はなれる(名)　離、わかれる、そばをさる。分離、べつになる
はなれうま　班馬、わそびうま、つるみうま(遊牝の馬)
はなれうま(名)　放馬綱を切たる馬)
はなれうし　風牛、わそびうし、つるみうし(交尾の牛)
はなれや(名)　離屋、孤屋、孤家、ひとつや
はなれごま(名)　放駒、つなきりたるこま、つなつけぬこま
はなれしま(名)　離島、孤島、孤立島、ひとつしま
はなぞの(名)　花園、花苑、はなをうえたるその。には、庭、庭園、はなばたけ
はなそぐ　鼻殺、はなをきりそぐ、劓(支那往古の刑罰)
はなつ(他)　廃舎(矢をはなつ)。縦、放(牛馬又は火等を)、はなす(開放、釋籠囚と釋す)にがす
はなづな(名)　鼻拳、牛鼈(牛の鼻を穿つ所の繩)、はながいとはなづら(俗)(名)　鼻面、端面、めさき、眼前(めのまへ)
はなづの(名)　奴角(犀の鼻の上の角)
はなつくり(名)　花師、花人、はなをこしらへるもの。又にはつくり、にはし、うゑきや

はなづま(名)　花妻、いろとんな、かりのつま
はなな　花椰菜(此圖は食用に供すべき部分なる花莖を示す)
はなむけ(名)　餞(酒食を以て旅行く人を送ること)。贐(財貨を以て同上を送ること)。餞別、祖餞、祖宴、送別會

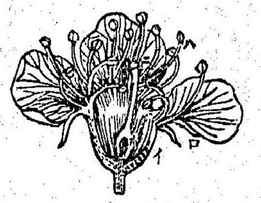


はなむこ(名)　花婿、新郎、にひむこ、あたらしくつまをむかへたるひと
はなむしろ(名)　花席、花蓙、はなござ、かたおるねむしろ
はなうた(名)　鼻歌、こうた、はなにてうたふうた(卑俗の謡歌)
はなうそやぐ(自)　鼻動、はなうごく(喜笑の時などに)
はなのほぞわた(名)　花胎衣、はなばかま、はなのもとのうすかは
はなのちまた(名)　花街、花柵、くるわ、いろざと、北里
はなのかほばせ　花顔(美人の面をいふ)
はなのつぼみ　花蕾、蕚、まだひらかぬはな
はなのつゆ(名)　花露(香水の名)
はなのくわい(名)　花會、花宴、花筵、觀花之宴、はなみざかもり
はなのくさとか(名)　花塢、花壇(花卉を植たる一段高き地)花畦
はなのくさむら　花叢、はなやぶ、はなのうゑごみ

はなのぐき　花蒂、花跗、へた、はなたち
はなのころ　花時、はなのとき、はなさくころ、花辰
はなのさき(名)　鼻頭、はなのあたま。また鼻前、目前、めのまへ
はなのゆふばえ　花夕榮(晩景に諸花の一層美色を呈するをいふ)
はなのみやこ(名)　花洛、洛陽、帝都、みやこ、きやう
はなのしべ　蘂(花の外を萼といひ內を蘂といふ)、蘂、蕊、おしべ　はなのしん
はなのしやうじ　鼻孔隔、鼻障子、はなのなかのへだて
はなのに　花枝(花みちたる枝)
はなのもとのかうし(名)　花下好士(連歌師を云ふ)
はなのすがた　花姿、美容、美貌、艶姿、うつくしきすがた
はなくだし(名)　花廻(繪の具)
はなくそ(名)　鼻垢、鼻滓、はなのあか
はなくぎ(名)　花釘、かざりびやう、びやうくぎのたぐひ
はなぐき(名)　鼻莖、はなばしら、鼻梁
はなぐもり(名)　花曇、輕雲、養花天(陽春百花の候の曇天を然か名く)
はなや(名)　賣花商、はなうり、はなうるあきうど
はなやり(名)　最初鎗、一番鎗、先登、さきがけにいるるやり
はなやか(形)　華美、美麗、華麗、うるはしき、めだたしき、りつぱ
はなやしき(名)　花屋敷、花荘、花園、はなその、はなをつくれるには
はなやすり(名)　瓶爾小草、くさのな(植物)
はなげ(名)　鼻毛、はなのなかのけ

はなげぬき(名)　鼻鑷、鑷子(鼻毛をぬく器)
はなぶさ　花房(氏)
はなぶさ(名)　英、萼、榮、はあのりん、はな
はなふさがり(名)　鼻塞、鼽、鼽、鼻孔閉塞、はなのあなのとほらぬこと
はなふさぎ(名)　鼻拭地、はあふさぎぬ、はんけち
はなごころ(名)　花心、春心、いろけ、あだごころ、いろごころ
はなござ(名)　花蓙、花筵、花紋席、佳文席、模様蓆、もやうござ、はなむしろ
はなこんじやう(名)　花紺青(染料)
はなわかす　脫空だしぬく(人を)
はなわらし(名)　鼻嵐(鼻息を強く吹くこと、馬等にいふ)
はなわやめ(名)　蓀蓀、玉蟬花、あやめ(植物)
はなわふひ(名)　蜀葵、たちあふひ(植物)
はなざと(名)　芳郊、花郊、芳村、花の多くあるひらざと)
はなざる(名)　鼻猴、はなながざる(動物)
はなざかり(名)　花盛、滿開(百花咲き亂れたる時をいふ)
はなざくろ(名)　石榴榴(花のみにて實のらざるもの)(植物)
はなさき(名)　鼻前、鼻頭(「はなのさき」をみよ)
はなぎ(名)　鼻木、はななはをとばすき(牛などの)
はなぎぬ(名)　花布(花形を染たる織物)、印花布、さらさ
はなゆ(名)　香橙、邏柚、はなかうじ(植物)
はなみ(名)　花見、觀花、はなをながむること
はなみ(名)　葉並、はならび、葉列、きのはのならびかた
はなみ(名)　齒並、はならび、齒列、はわけ

はなみがてら　花見隨、はなみついで、はなみるとともに
はなみぞ(名)　鼻溝、人中(鼻の下の溝筋をいふ)
はなみづ(名)　鼻涕、はなしる、うすきはな
はなみね(名)　鼻梁、はなばしら、はなぐき、はなのあたま
はなみやうが(名)　山薑(植物)
はなし(名)　噺、咄話、談、說話、ものがたり。談合、かたらひ、さうだん
はなしろむ(自)　愧羞愧、赧、されくれする、れくする、はづる
はなしべ　花蘂(植物は多く一花にて雌雄の兩蘂を備ふ。此圖は櫻花を具中より切斷し太く畫き(イ)は花の外萼を示し(ロ)は花瓣、蘂を顯し(ハ)は數多の雄蘂(ニ)は一個の雌蘂にて(ホ)を子宮と云ふ)



はなしべた(形)　話下手、拙談、訥辯(談話に巧ならぬ)
はなしる(名)　鼻洟、洟、鼻水、はなみづ、涕、涕泗
はなしか[俗](名)　落語家(講談師の類)、はなしをなりはひとするひと
はなしかめる　鼻蹙、齇(鼻に縐よせる)
はなしがひ(名)　放牧(牛馬等を山野に放ちて畜ふこと)、のがひ
はなしくち(名)　言緒、談緒、はなしかた、はなしぶり
はなしわふ　談合、さうだんする、かたりわふ
はなしじやうづ(形)　話上手、善談、能辯(談話に巧なる)
はなしずき(形)　話好、好話、好談(談話を好む)
はなぢみ(名)　花咲、はなさくこと、はなわらふこと
はなび(名)　花火、花炮、煙火、揚火、火戲、浪火、そらにうちあげるひ
はなびりのき(名)　木黍薑、きのな(植物)
はなびりぐさ(名)　石胡荽、鷄不食草、いはきぐさ(植物)
はなひる(自)　嚏、噴鼻、くさめする、嚔
はなびら(名)　花片、葩、花瓣、花葩(花の組立つ所の片片をいふ)、はなのひとひらひとひら
はなひゆ(名)　五色莧(植物)
はなひしげ(形)　鼻低下、鼻扁平、はなつぶれ、しし鼻
はなもとゆひ(名)　花元結、いろつけもとゆひ
はなもり(名)　花守、にはもり、はなのばんにん
はなもつやく(名)　紫鉚、くさのな(植物)
はなす(他)　放、脫、開放、はなちやる。また弛、弦(弓の弦にいふ)
はなす(他自)　咄、噺、談、談話、說、かたる、いひのぶる
はなすわう(名)　紫荊、滿條香、くさのな(植物)
はなすげ(名)　知母、莎蕷、婕薩(植物)
はなすすき(名)　花芒、くさのな(植物)
はら(名)　原、平原、曠原、原野、のはら、のら
はら(名)　原(氏)
はら(名)　腹、肚腹、腹部(臟腑の在る處)、腔、丹田、氣海、かな
ばら[俗](名)　零亂、雜、ばらせん、ばらばらせに、はしたせに
ばら(名)　薔薇、うるはしきはなさくき。茨、荊棘、いばら、れどろ(植物)

ばら　曹儕、等(人稱の複數を作る語)、ども、ら

はらいたみ(名)　腹痛、肚痛腹疾、肚脾痛、はらのいたむこと

はらいっぱい　滿腹(食物が腹に滿るなどを云ふ)

はらはる　腹脹、膨脖、はらかたくふくれる

はらはら(副)　潸然、潜然(涙の流るる貌)、さめざめ、ぽろぽろ

ばらばら(副)　瀲漉、霑湿、班班(雨雫等の落る音)、また扶疏、まばら、ばらり、踈鬆(踈なる貌)

はらばふ(自)　腹這。匍匐(腹にてはひあるく)、腹行、跌行、爬行、匍匐(此は動物にのみ用ふ)

ばらり(副)　破落戸、陸離、ばらばら

はらをかかへる(他)　捧腹(大笑する事)

はらをび(名)　勒肚巾、はらまき、腹帯、いはたをび

はらわた(名)　腸、大小腸(腹内の臓腑)

はらわたをたつ　斷腸(かなしき又あはれなる體)、はらわたをさく、きをもみくだく。又こころとろける

はらか(名)　鰌、ます、又にきつだひ(動物)

はらがはり(形)　異腹、異母(母異に父同き兄弟姉妹をいふ)

はらから(名)　同胞、兄弟姉妹、同父同産(古語)

はらかのうを(名)　腹赤魚、はらか、鱒、ます(動物)

はらかけ(名)　腹掛、腹懸、両當衫(腹部にかくる布片をいふ)

はらかん(名)　叭喇唬佛狠機(鳥銃の一種)

はらだ　原田(氏)

はらたかき(形)　腹高、はられはきある。はらみたる

はらたつ〔俗〕(自)　腹立、いかる、憤怒、發怒、發憤、むつかる

はらつづみ(名)　鼓腹、はらをならすこと(太平の象、また狸の業にいふ)

はらご(名)　魚鮭子、甘子、筋子、魚卵、魚子、うをのたまご

はらむ(他自)　孕、腰妊、妊娠、有身、腹胎、胎胞、みもちになる、こができる

はらむし(名)　腹蟲、蛕蟲(腹中にたかる虫)(動物)

はらう　破牢、らうやぶり、破獄

はらう(名)　波浪、なみ。はなみ、波濤、波瀾

はらうぎょ(名)　破浪魚、すばしり、鯔、撒尾魚、いな、ぼら(動物)

はらうじん(名)　波浪神、ふねの魔れどし、ふねのかみ

はらのうち　腹中、腹内。心中、心内、胸間、胸中、胸裏、むねのうち、こころのうち

はらおび(名)　腹帯、孕帯、勒肚巾(凡て腹にしむるおびをいふ)。(はるび)をもみよ)

はらぐろ(形)　腹黒(悪心なるをいふ)、むねわるき

はらくろき(形)　腹黒(「はらぐろ」をみよ)

はらくだり(名)　腹下、瀉下、泄瀉、下痢、くだりはら

はらや(名)　輕粉、汞粉、はれしろい、水銀粉(藥材)

はらまき(名)　腹巻、温腹布、勒肚、はらにまくぬの

はらふ(他)　拂、掃、はきのぞく。禳祓(悪魔等を祈り除く)。斟撒、ふるひたす

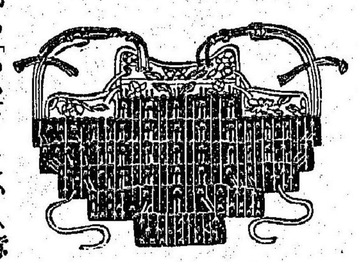
はらふと(名)　鰷、いせごひ、なよし、くちぬ、ぼら(動物)

はらふくれ(名)　痕、脹滿、鼓脹、膵腹、膨脖、はらはり(病名)

はらこなし〔俗〕(名)　腹消化、消食、はらへらし

はらごもり(形名)　胎、孕、はらみ、妊娠、有身、胚胎、はらみご、孕兒、胎兒

はらあて(名)　腹當、心衣、袜社(腹を覆ふ武具。此圖なるは松浦家藏足利義敎公所賜といふ者)



(はらあてのこと)

はらきり(名)　切腹、劃腹、屠腹、はらきりてしぬること

はらみをんな(名)　孕婦、妊婦、みもちをんな、こもちをんな

はらみつ(名)　波羅蜜、(梵語にて度即ち「わたす」といふ意なりと云ふ、度とは佛果に到らするを謂ふ也)

はらみつ(名)　波羅蜜(椰子に似て甘き果を結ぶ木)(植)

はらみご(名)　胎兒、はらごもりのこ

はらじゅ(名)　婆羅樹、たらにふ(天竺の樹の名)(植物)

はらひ(名)　拂、支出、償還、償却(債金借財等をはらひかへす事)

はらひ(名)　祓(禳(悪氣妖魔等を祈り除くこと)

はらひどのかみ　祓戸神(瀬織津姫、氣吹戸主、速秋津姫、速佐須良姫の四柱の神をいふ)

はらひだす(他)　拂出、攘除、排出、れひいだす、はらひのぞく

はらひのには(名)　修禊場、祈禱道場、つみはらふには、いのりのば、きたうじょ

はらひのとの(名)　秡殿、解除舎、はらひするいへ(神道の)

はらたつ〔俗〕(自)　腹立、いかる、憤怒、發怒、發憤、むつかる

はらつづみ(名)　鼓腹、はらをならすこと(太平の象、また狸の業にいふ)

はらご(名)　魚鮭子、甘子、筋子、魚卵、魚子、うをのたまご

はらむ(他自)　孕、腰妊、妊娠、有身、腹胎、胎胞、みもちになる、こができる

はらむし(名)　腹蟲、蛕蟲(腹中にたかる虫)(動物)

はらう　破牢、らうやぶり、破獄

はらう(名)　波浪、なみ。はなみ、波濤、波瀾

はらうぎょ(名)　破浪魚、すばしり、鯔、撒尾魚、いな、ぼら(動物)

はらうじん(名)　波浪神、ふねの魔れどし、ふねのかみ

はらのうち　腹中、腹内。心中、心内、胸間、胸中、胸裏、むねのうち、こころのうち

はらおび(名)　腹帯、孕帯、勒肚巾(凡て腹にしむるおびをいふ)。(はるび)をもみよ)

はらぐろ(形)　腹黒(悪心なるをいふ)、むねわるき

はらくろき(形)　腹黒(「はらぐろ」をみよ)

はらくだり(名)　腹下、瀉下、泄瀉、下痢、くだりはら

はらや(名)　輕粉、汞粉、はれしろい、水銀粉(藥材)

はらまき(名)　腹巻、温腹布、勒肚、はらにまくぬの

はらふ(他)　拂、掃、はきのぞく。禳祓(悪魔等を祈り除く)。斟撒、ふるひたす

はらふと(名)　鰷、いせごひ、なよし、くちぬ、ぼら(動物)

はらふくれ(名)　痕、脹滿、鼓脹、膵腹、膨脖、はらはり(病名)

はらこなし〔俗〕(名)　腹消化、消食、はらへらし

はらひぶそく　拂不足、未還清、はらひたらぬところ、かんぢやうのこり

はらひてがた(名)　拂手形、償却券、かねはらふきつて

はらひきる〔俗〕　拂切、みなはらふ、はらひすます、還清、完濟

はらひずみ(名形)　拂濟、還清、償却、完濟、みなはらひたること

ばらもん(名)　婆羅門(天竺の宗教を主とりし種族の名)

ばらもんけう(名)　婆羅門教(印度最古れ宗教の名)

ばらせん(名)　零乱錢(「ばら」をみよ)、ばらばらせに

はらす(他)　晴癖、はれさする。(又怨恨等にいふ)、もらす、洩

はらすぢ(名)　腹筋、はらのなかのすぢ

はらすぢをよる　搓腹筋(大笑するをいふ)、絶倒

はらすみ(名)　爆炭、はしりずみ、ばちばちはねるすみ

はらん(名)　波瀾、なみ、にはなみ、波浪

ばらん(名)　馬蘭、鳥葵、紫蘭、一葉蘭、らんのたぐひ(植物)

はむ(他)　食、くらふ。齕(馬等にいふ)、嗑、啄(鳥にいふ)

はむ〔或はも〕(名)　鱧、鰡、鱒、海鰻、文魚、うをのな(動物)

はむろ　葉室(氏)

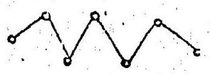
はむべる(自)　侍(「はべる」の轉)

はむかふ(自)　刃向、立向、抵抗、敵對、抗衡、抗敵、たちむかふ、むかひかかる

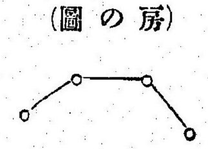
はむし(名)　羽蟲(家鶏の皮膚に寄生する　昇の　芥癬蟲の一種なり)

はむしや(名)　端武者、ひくきつはもの、雑兵、足輕

ばう(名)　昴(二十八宿の一にして南方に



ばう(名)　房(二十八宿の一にして東方に位す)
ばう(名)　帽、かぶりもの（西洋風の）
しやつぱ
ばう(名)　房、へや、ねや、室、間(ま)
ばう(名)　耄(八十九十の老人をいふ)
ばう(名)　望、もちづき(舊十五夜の月)、滿月
ばう(名)　錐、しのぎ、きつさき、とがり、ばり(虫の)
はうい(名)　芳意(他人の心意を美稱する詞)
はうい(名)　胞衣、えな(小兒の蒙りて生るる者)
はうゐ(名)　寶位(天子の位をいふ)、寶祚
はうゐ(名)　方位、方角(四方八方などの)
ばうい(名)　暴夷、あらにびす、やばんじん
ばうい(名)　防已、あらつつら、はすかつら(植物)
ばうゐ(名)　暴威(暴虐の威權)、あらあらしきいきほひ
はういつ(形)　放逸、放佚、ほしいまま、あそびたのしむ
はういつのたたかひ　蚌鷸之鬪、はまぐりとしぎのたたかひ(諺)
はういう[する](他)　保有、たもつ、もつ、とる
はういう[する](他)　包有、ふくむ、かねる、つつむ、包含、包括
ばういうさう(名)　忘憂草、萱草、うれへわすれぐさ(植物)
はうろく(名)　砂鍋(土製のいりなべ)、つちなべ
はうば(名)　搗馬、かすげうま(動物)
はうはい(名)　疱背、えびごし、まがりごし
はうはい(名)　褒牌、はうびのしるし、賞牌


（房の圖）

はうはい(形副)　滂沛、ゆたか(雨又恩澤にいふ)、たくさん
はうはい(名)　澎湃(水漲ぎり逆まく貌)
はうばう(名)　傍輩、ともだち、朋輩、なかま
ばうはち(名)　忘八、くつは、ぢょうろやのぬし。ぜげん
はうばり(名)　方針、羅經、羅針盤(海上滋石)
はうはつ(名)—する(自)　砲發、はつぱう(發砲)、うちだし。うちだす
はうはつ[する](自)　萌發、めざす、めぐむ(草木が春に芽を出すをいふ)、又きざす
ばうはつ(名)—する(自)　爆發(ばくはつ)、破裂(彈丸等の)やぶれさける
ばうはつ[する](自)　暴發、あれにこる、みだれにこる
はうはう(自)　砰磅、なりひびく(音響にいふ)
[はうはう](名)　膨烹、ふくらに(割烹の語)、ふくらかにになること
はうばう(名)　寶坊(寺宇を云ふ)、てら
はうばう(名)　魴鮙、竹筴魚、うをのな(動物)
はうばう[俗](副)　方方、諸方、ところどころ、あまねく
ばうばう(形副)　咾咾(言葉亂雜にしてかまびすしき貌)
はうばう(形副)　茫々(廣大無邊の貌、海洋山野等にいふ)
はうはうのてい　敗衂體、はふはふのてい(敗北屈辱せられし貌、よわりきつたるすがた
はうばうしや(名)　放蔪者、ほどけもの、しやれもの
はうはく(形副)—する(自)　旁礴(充塞の貌)。みちみちる、みちわたる
はうはく(名)　邦伯、くにのかみ、知事、府君、つかさ
はうばく[する](他)　綁縛、しばる、ゆはひる

ばうばく(形副)　茫邈、とほくはるかなる、ばつとしてをる
はうはふ(名)　方法、しかた、てだて、手段
ばうはん(名)　忙煩、いそがはしさ
ばうにやくむにん(形)　傍若無人(人の前を憚らず我が思ふ事をいひ又することをいふ)、遠慮會釋なき
はうにん(名)　保人、保證人、うけにん
はうにん[する](他)　放任、かけかまはぬ、すてておく、うちまかする
ばうにん(名)　防人、さきもり、うみべをかためたるつはもの
ばうにん[する]　冒認、人の物を我が物とする)
はうにんしゆぎ　放任主義、かかはらぬしゆぎ、かんせふせぬまつりごと
ばうぼ　亡母、なきはは(死たる母)
はうぼく(名)　芳墨(人より來れる手紙を尊びいふ語)
はうぼん(名)　方盆、しかくのぼん。折敷をしき)
はうへい(名)　炮兵(大砲方の軍兵)、大砲方、砲手
ばうへい(名)　防兵、ふせぎのつはもの
はうへいほんしやう　砲兵本廠(陸軍砲兵の官署)
はうへいくわ　炮兵科(陸軍分科大砲手)
はうへう(名)　榜標、たかふだ、牓示、ふだじるし
ばうへき(名)　防壁、かべしろ
ほうへん　褒貶、ほめ及けとしめ、毀譽
はうべん(名)　方便、てだて、手段、方署、權道
はうと(名)　蚌蠶、さくひむし(動物)
はうと(名)　方料、ますがた
はうと(名)　邦土、くに、國土
はうと(名)　報土、むくいによりてうまるるところ(佛語)、ごくらく
ばうと(名)　暴徒(亂暴なる者ども)、亂賊、亂暴者、亂逆人、一揆
ばうど[する](自)　暴怒、はげしくいかる
はうとう(名)　雹突、れいはね(植物)
ばうとう(名)　冒頭、かさはじめ、發端、起首、開卷、はじめ
ばうどう(名)　暴動、亂、一揆、騷擾、騷動、あれみだれ
はうとうぎよ(名)　方頭魚、かながしら、あまだひ(動物)
ばうとく[する](他)　謗讀、ののしりけがす(神等を)
ばうとく[する](他)　冒瀆、けがす、をかす(貴人に對して卑下して言ふ詞)
はうとん(名)　礮墩、だいば、砲臺
はうち(名)。—する(他)　報知、さた、しらせ。しらせる、報道
はうち[する](他)　放置、すてておく、かまはずにおく
はうぢ[する](他)　保持、たもつ、ささへる、保守
はうぢ[する](他)　抱持、いだきもつ。たもつ
はうちわ(名)　羽團扇(鳥の翅にて造りたるうちは)
はうぢよ(名)　榜女、をんなのかこ(女水手)、ふねこぐをんな
はうちう(名)　庖厨、くりや、だいどころ、にたきどころ
はうちう(名)　方柱(四角の柱、かくばしら
はうちうじん(名)　庖厨人、くりやびと、れうりにん
はうちく(名)　爆竹(ばくちく)、ばちばちはなび(支那人が好む)
はうちく[する](他)　放逐、れひはらふ
はうちやう(名)　庖丁(料理に用ふるきれもの)

はうぢやう(名)　方丈(佛寺職住の居室を云ふ又寺の長たる僧)
ばうちやう(名)。—する(他)　傍聽、はたぎき。はたぎきする、かたはらにてきく
ばうちやう(名)。—する(自)　膨脹、ふくれ。ふくれる
ばうちやう[する](自)　暴漲、みなぎる(水が)、さかんにます
ばうちやうにん(名)　傍聽人、はたぎきするひと、かたはらにてきくひと
はうちやうし(名)　庖丁子、にやきかた、膳夫料理人
[はうちやく](他)　抱着、いだきつく
はうちん(名)　方鎭(一方の總督府)鎭臺
はうり(名)　方里(一里四方を云ふ)
はうり(名)　萱屨、わしきはきもの、やれぐつ
はうり(名)　旁里、近在、ちかゐなか
はうりよ(名)　芳慮(人の思想を尊稱する詞)、ねんれもんばかり
はうりよ　放慮、かけかまはぬ、きにかけぬ
はうりうしう(名)　汎龍舟(水調の樂の名)
はうりやう(名)　方量、いりかた
はうりやく(名)　方畧、てだて、しかた、方便
はうをく(名)　棚屋、こやみせものごや。さじきばうをく(名)　茅屋、蓬戸、蝸廬、桑戸、蓬廬、かややくづや、くさや、いほり
はうねん　報恩、めぐみにむくゆる、ねんをかへす
はうれん(名)　芳恩、にかげ、ねめぐみ(他人に對していふ)
はうか(名)　棚架、たな。とだな

はうか[する](他)　放下、なげすてる。うちすてにく
はうが(名)。—する(自)　萌芽、めざし。きざす、めざす、めぐむ(草木に重にいふ)
はうがい(名)　寶蓋(天蓋をいふ)
はうがい(形副)　砰礙、なりひびく、がらがらなる
ばうがい(名)。—する(他)　妨害、さまたげ。さまたげる
はうかう(名形)　芳香、かうばしさ、かぐはしさ、よきにはひ、馨香。かうばしき
はうかう(名)　方向、むき。めあて、目的、目途
はうかう(名)　芳郊、はなざと
ばうかう(名)。—する(自)　膨脹、はらふくれ。はらはる
ばうかう(名)　暴行、てあらきしわざ(亂暴の行)
はうかうてつしゆ(名)　芳香鐵酒(藥名)
ばうかうさい(名)　茅膏菜、いしもちそう(植物)
はうかうせい(名)　芳香精(藥名)
はうがく(名)　方角、方位(四方の方角をいふ)、よも
ばうかく(名)　芒角、はり。のぎ。つのぐみ、めざし
ばうかく(名)　暴客、亂暴人、わばれもの
はうかふ(名)　蚌蛤、はまぐり(動物)
はうがふ(名)。—する(自他)　抱合、混和、和合(化學上に重に言ふ)。くみあふ。くみあはせる
はうがき(名)　方書(藥方書をいふ)
はうかじつ(名)　放暇日、休日、やすみび
はうかん(名)　方鑑(藥方類聚、調劑の書)
はうかん(名)　寶鑑、かがみ(書物の表題等にいふ)
はうかん(名)　芳翰(人より遣せる書狀を尊びていふ)
はうかん(名)　幇間、幇間(俗にいふ太鼓持)、たいこもち

はうがん[する](他)　包含、ふくむ、こめる、いれる、含有、包括
はうがん　芳顏、はなのかほばせ、うるはしきかほ
ばうかん(名)　望竿、めじるしだけ、はたざを
ばうかん(形)　暴悍、わるき、惡逆
はうよ(名)　褒譽、ほめ。ほまれ、賞美
はうよう　芳容、うるはしきかたち
はうよう(名)　放鷹、たかがり、たかをつかふこと
はうようば(名)　放鷹場、たかはなしば
はうた(名)　端唄(俗間に謠ふ今樣風の歌)
はうた(形)　滂沱、ゆたか(大雨又は涙の多く降るにいふ)
はうだい(名)　砲臺、臺場(だいば)、礮臺、たいはううちば
はうだい(形)　放題、ほしいまま、きまかせ
ばうたい(名)　亡體、なきがら、死體、しかばね
ばうだい(名)　傍題(詩歌の作にいふ即ち本題に循がはざる作をいふ)
はうたう(形)　放蕩、ほしいまま、だらく、うはきなる、みもちわるき、放逸、無賴
はうだう(名)。—する(他)　報道、しらせ。しらせる、報知
はうたふ(名)　寶塔(佛塔をいふ)
はうたふ　奉答、こたへたてまつる
はうたふ(名)　報答、へんじ、こたへ
はうだて(名)　方立、棖(門の両方の柱、門柱、はこだて、はこたち
はうたん(名)　寶丹(有名の眞藥)
はうだん(名)　芳談、うるはしきものがたり
ばうたん(形名)　妄誕、ねなしごと、うそ、いつはり

ばうたん(名)　冒貪、むさぼり、どんよく
はうれい(名)　邦令、くにのさだめ、國法
ばうれい(名)　亡靈、なきたま亡魂
ばうれい(形)　暴戾、そむきもとる、みちならぬ、よこしま、らんばう
ばうれつ(形)　暴烈、てあらき、あらあらしき
ばうれつ[する](自)　膨裂、はりさける
ばうれう(形)　亡聊、無聊、たのしみなき、にもしろからぬ
ばうれう(名)　坊寮、れう、庵室、てら
はうれんさう(名)　菠薐草、菠菜、赤根菜、波斯草(植物)
はうそ(名)　寶祚、みくらゐ、あまつひつぎ、寶位
ばうそつ(副)　暴卒、やにはに
はうそう[する](自)　跑走、かけはしる
はうそく[する](自)　飽足、あきたる
ばうそく　亡息、なきむすこ、死子、しにたるこ
ばうぞく(名)　望族、いへがらのひと、門閥家
はうそん[する](他)　保存(ほそん)、たくはへたもつ
はうつ(自)　羽擊、鼓翼、軒翥、はばたきする、はたたきする(鳥が)
はうつゐ(名)　方椎、さいづち
はうづがない[俗](形)　無際限、はてしがない、わこぎな
はうねん　放念、かけかまはぬ、きにかけぬ
はうら[する](他)　包羅、つつむ、くるむ
ばうらい　暴雷、迅雷、ときかみなり、はげしきいかづち
はうらつ(形)　放埒、ふみもち、ほしいままにする、ふしだら

はうらう(名)　芳醪、よきさけ、かうばしきさけ
ばうらう　暴浪、あらなみ、狂浪、激浪
はうらん(名)　傑鑑、たまよけ(竹束の類)
はうむる(或はうぶる)(他)　葬、うづめる(死人を)、理葬、のべれくりする
ばうう　暴雨、はやさめ、よわかあめ、あらし
はうくわ[する](他)　包裹、つつむ、くるむ、にほふ
はうくわ(名)。—する(他)　放火、つけび、ひつけ。ひをはなつ、ひをつける
はうくわ(名)　匏瓜、すみとりふくべ、ひさご、ふくべ(植物)
はうくわ[する](他)　放過、ささながす、きにとめぬ
ばうくわ(名)　茅花、つばな、かやのはな
ばうぐわ[する]　旁臥、よこにふす、ねころぶ
はうぐわい　方外、世外(世間の外をいふ)、外物
はうくわにん(名)　放火人、ひつけ、ひをはなてるひと
はうくわつ[する](他)　包括、かねいるる、ひきくるめる
ばうくわつ(形)　嘸聒、かまびすしき、やかましい
はうくわう[する](自)　彷徨、たちもとほる、たちやすらふ、徘徊
はうくわう(形)　放曠、しまりなき、ひろくむなしき
[はうくわう](名形)　萌黄、もえぎ、もよぎ(色の名)
ばうくわう(名)　膀胱、ゆばりぶくろ(小便嚢)
はうくわん(名)　抱關、もんばん、ばんにん、看門
はうくわん(名)　傍官、わひやく、同僚
はうぐわん(名)　砲丸、鐵砲のたま、銃丸弾
はうぐわん(名)　判官(はんぐわん)、檢非違使の官名)
ばうくわん[する](他)　傍観、はたでみる、かたはらよりみてみるひと
ばうくわんげきたく　抱關擊柝(もんばんよまはり即ち看門夜警者)
ばうくわんざし　傍観坐視、かたはらよりすわりてみてをる(貪着せぬをいふ)
はうくん(名)　傍訓(漢文の傍に施せる訓)、ふりがな
ばうくん(名)　暴君、わしききみ、虐主
ばうくん(名)　亡君、なききみ、先君、しにたるきみ
はうやう[する](他)　褒揚、ほめる、ほめそやす、讃美
はうやう(名)。—する(他)　保養、なぐさみ、やしなひ。やしなふ(身体を)
はうやう[する](自)　彷徉、たちやすらふ、たちもとほる、徘徊
ばうやう(形副)　茫洋(大洋の廣きが如きにいふ)、漂渺
ばうまい[する](自)　胃味(死を冒す)、味死、いのちをかける(君を諫るなどに)
はうまつ(名)　泡沫、あわ(水の)、わわつぶ
はうまじゆ(名)　報馬樹、はせのき(植物)
はうまん[する](自)　飽滿、わきたる、わきみちる
ばうげ(名)　妨礙(はうがい)、さまたげ、さはり
はうけい(名)　方計、てだて、はかりごと、計畧
はうけい(名)　旁系、わきのすぢ、にだわかれ、分支(系譜にいふ)

はうけい　芳契、よきまじはり
はうけい(名)　芳惠、めぐみ、なさけ(人の)
はうけい(名)　方形、かく(四角の形)
はうけいし(名)　保惠師、なかとりもち、とりなして、仲人
はうけつ　放血、ちをとる、ちをいだす
はうげつ(名)　萌蘖、めばえ、ひこばえ(木の)
ばうげつ(名)　望月、もちづき、滿月(陰暦十五夜の月をいふ)
はうけつき(名)　放血器、ちをとるうつは、すひふくべ
ばうけう(名)　芒屨草履、または草鞋の類)
はうげき(名)。—する(他)　砲擊(大砲にてうつ事)、うつ
はうけん(名)　邦憲、くにののり、國法
はうけん(名)　寶劍、たからのつるぎ、たふときたち
はうけん[する](他)　奉獻、ささげる、をさめたてまつる(神に)
はうげん(名)。—する(自)　放言、大言、おほいなることをいふ
はうげん(名)　方言、くになまり、くにことば
ばうけん(名形)　冒險、あやうきをかすこと、行險
ばうげん(名)　妄言、みだりなることば、いつはり、妄語
ばうげん(名)　暴言(亂暴不禮の言語)、なめげなることば
はうふ(名)　抱負(知識學問などをいふ)
[はうふ](自)　抱附、だきつく、いだきつく
はうふ(名)　抱傅、だきもり、だきうば
はうふ(名)　傍夫、そばを、まをとこ、密夫
はうふ(名)　傍婦、そばめ、めかけ、侍妾
ばうふ　亡父、なきちち(死たる父)、先考
ばうふ(名)　暴富、暴富者、できぶげん、にはかがねもち
はうふつ[する](自)　泡沸、あわだつ、つぶだつ
はうふつ(形)　髣髴、彷彿、ほのか、ほのめく、それかあらぬかさもにたり
はうぶつ(名)　方物、くにのなりいでもの、國産
ばうぶら(名)　南瓜、かぼちや、たうなす(植物)
ばうふう(名)　防風、はまあふひ(植物)
ばうふう(名)　暴風、にはかかぜ、大風、狂風、あらきかぜ、はやて
はうふく[する]　抱腹、はらをかかへる、はらをよる(大笑の貌)
はうふく(名)　包袱、ふくさ、風呂敷、ふろしき
ばうふやく(名)　防腐藥、くさりどめ(藥品)
はうふん(形名)　芳芬、かうばしき、よきほひよき。かぐはしさ
はうぶん(名)　榜文、たかふだ(布告文などをいふ)
はうこ　咆虎、ほゆるとら
はうこ(名)　抱鼓、たいこのばち
はうご[する](他)　保護(ほご)、まもる、かばふ、守護
はうご(形)　旁午、いりみだれたる、たてよこなる
ばうご(名)　妄語(まうご)、いつはり、うそ
はうこつ(名)　蟛蜞、蟛蚔、どろがに、あしはらがに(動物)
ばうこつ(形副)　忙忽(いそがはしき貌)
はうこう(名)　蚌虹、いしがに(動物)
はうこう(名)　傍卷、よこまち、ちまた、しんみち
はうこう[する](他)　望候、まちうくる、まちのぞむ
ばうこうなん(名)　望江南、はぶさう(植物)

はうこく(名)。—する(他)　報告、しらせ、報道、つげる、報知
はうこく　報國(國の恩に報ゆる)、愛國
はうこく(名)　邦國、くに
ばうこく　亡國、くにをほろぼす
はうこくじんちふ　報國盡忠(國恩に報い君王に忠義を盡す)
ばうこひようか　暴虎馮河、むかふみずのわざ、いのちしらずのわざ
はうこん(名副)　方今、ただいま、目今、現今
はうこん　報恨、うらみをむくいる
ばうこん(名)　暴很、あれもとること、よこしま
ばうこん(名)　亡魂、なきたま(死人の靈魂)
ばうてい(名)　妄聽、そらぎき、そらみみ
はうてい(名)　房幄、やかたぶね
はうてう(名)　萌兆、きざし、めぐみ。しるし
ばうてう(名)　茅蜩、ひぐらし(動物)
ばうてう(名)　貌鳥、かほどり(動物)
はうてうぎよ(名)　望潮魚、いひだこ(動物)
はうてき[する](他)　放擲、なげうつ、すてゝおく、放下
はうでん(名)　寶殿、拜殿、神殿、やしろのをがみどころ、みや
ばうあい(名)　芒鞋、わらじ、ざうり
ばうわつ[する](他)　防遏、ふせぎとどめる、防止
はうわう(名)　保媼、うば、かしづきめ、だきうば
ばうわく(名)　暴惑、わらび、いとおしきわざ
はうあん　保安(國の安寧を保つ)
はうあん(名)　方案、しくみ、かんがへ、もくろみ

はうあんでうれい(名)　保安條例(國安を害すると思ふ者を退去せしむる法律)
ばうざ(名)　病者(びやうしや)、病人(古語)、患者
はうさい(名)　優裝、とりで、だいば、堡壘
はうさい(名)　報賽、れいまゐり、ぐわんほどき、還願
はうさい(名)　庖宰、れうりにん、くりやびと
はうさい(名)　傍妻、めかけ、そばめ、妾
はうざい(名)　泡劑、ふりだしぐすり
はうざい(名)　方劑、調合藥、わはせぐすり。また藥方
ばうさい　亡妻、なきつま、しにたるつま、先妻
はうさう(名)　疱瘡、もがさ、皰瘡、痘瘡(病名)
はうさう(名)　砲箭、つつばうき(大砲を掃除する具)
はうさう[する](他)　包裝、つつむ、くるむ
はうざう(名)　寶藏、かねぐら、寶庫、たからのくら
ばうさう(名)　貌裝、よそほひ、みなり
はうさうのあと　疱瘡痕、痘痕、いも、あばた
はうさく(名)　方策、はかりごと、方畧、また記錄
はうさん[する]　謗訕、そしる、わるくいふ
はうさん(名)　寶算(天子の御年齡)、聖壽、敬算、萬壽
はうさん(名)　硼酸、硼沙酸(藥材)
はうき[する](他)　抱起、だきおこす
はうき(名)　箒、はゝき(はゝきぼしをみよ)
はうき(名)　寶器、たからもの、たつときうつはもの
はうき(名)　放氣、のんき、氣樂(きらく)
はうき[する](他)　拋棄、すてる、なげうつ
ばうき(名)　耄期、おいぼれどき
ばうき(名)　防葵、いせばうふう、ぼたんにんじん(植物)

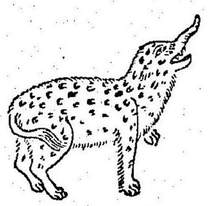
はうきぼし(名)　彗星、ははきぼし(ははきぼしをみよ)
はうぎよ(名)　鮑魚、ほしうを、ひもの、くさやのひもの
はうぎよ(名)　杉魚、鳥頬魚、くろだひ(動物)
はうぎよ(名)　方魚、こみねのいへ(棟を小さくして家の四方を等分に割て屋根を造り下げたる家を謂ふ)
ばうきよ(名)　暴擧、騷動、暴發、いつき、らん
ばうぎよ(名)　望魚、たちうを(動物)
ばうぎよ(名)。—する(他)　防禦、ふせぎ。ふせぐ(外敵を)
はうきつ(名)　包橘、かうじ、みかんのたぐひ(植物)
ばうぎう(名)　牦牛、はぐま(動物)
はうきぐさ(名)　地膚、はゝきぐさ、まきくさ(植物)
はうきやう(名)　包莖、かはかぶり(龜頭よ皮ありて開けぬ者)
はうきやうねふ(名)　抱莖葉、くきをいだくは(草などの)
ばうきやく[する](他)　忘却、わすれる、わすれはてる
ばうぎやく(名)　暴逆、暴虐、あくぎやく(惡逆)。むほん
はうきざや(名)　等鞘、しりざや(刀の)
はうきぎく(名)　彭蜞菊、くまのぎく(植物)
はうめい　芳名、かうばしきな、よきな、美名
はうめいしゆ(名)　保命酒(さけの名)
はうめん(名)。—する(他)　放免、ゆるし。ゆるす(罪人などと)
はうし(形)　放恣、放肆、ほしいまま、きまま、放肆、恣
はうし(名)　芳志、他人の親切心を尊稱する詞)
はうし(名)　方士、方術を行ふ人、仙家。また魔術士
はうじ(名)　寶璽(天子の御印章をいふ)
ばうし(名)　茅蜩、いひとよ、とりのな(動物)

ばうし(名)　帽子、かぶりもの
ばうし(名)　茅茨、かやじり、かやのさき
ばうし(名)　芒刺、のぎ、とげ(草木の)
ばうし(名)　亡子(死にたる子)、なきこ
ばうし[する](自)　望視、のぞみみる、ながめる
ばうじ(名)　牓示、榜示、制札、掲示、たかふだ、はりだし
ばうじ(名)　房事、ねやごと、いろごと、交合
ばうしばな(名)　鴨跖草、つゆくさ(植物)
ばうしはらひ(名)　帽子刷(帽子をはらふブラシの類)
はうしはく(名)　旁死魄(死魄に同じ)
はうしちう(名)　紡絲虫、はたおりむし(動物)
ばうしかけ(名)　帽子架、ぼうしかけるもの、シャツポかけ
はうしよ(名)　芻莧、にへ、れくりもの、まひなひ
はうしよ(名)　芳書、かうばしきてがみ(他人の書狀を尊稱する詞)
はうしよ(名)　方諸、みづとるたま(月に向て水をよぶ玉)、するしやう
はうしよ(名)　方所(東西南北などの方を謂ふ)
ばうしよ(名)　胃翠、わたばうし
はうしよう(或はしよう)(名)。—する(他)　保證、うけあひ。うけあふ
はうしよう(形)　放縱、ほしいまま、きまま、放肆、恣
ばうしよう(名)　芒種(二十四節の一にして六月にあり)
ばうしよう　妄證、いつはりのあかし、僞證
ばうしよく[する](他)　飽食、あくまでくらふ、くらひあく
ばうしよく(名)。—する(自)　暴食、たはぐひ。たはぐらひす

る
ばうしつ[する](他)　忘失、わすれる、失念、遺忘
ばうじつ(名)　望日(陰暦の十五日をいふ)
はうしう(名)。—する(他)　報酬、むくい。むくいる(善き意に用ふ)
はうしう(名)　舫舟、もやひぶね
はうしう　放囚(罪人をゆるしはなつ)
はうしう(名)　報讎、あだがへし、いしゆがへし、復讎、かたきうち
はうじぐひ(名)　牓示杭、ふだぐひ(各處に設けて宿より宿の里程を書し又は掲示をなしなどしたる者)、たかふだ
はうしや(名)　紡車、いととりぐるま
はうしや(名)　棚車、屋臺祭禮の
はうしや(名)　報謝、むくい、禮謝
はうしや(名)　硼砂(藥材)硼酸曹達
ばうしや(名)　暴瀉、たてくだし、れはくだし(腹の)
ばうしや(名)　亡者(まうじや)、なきひと、死者、黄泉客
ばうしや(名)　坊舍、てら、いはり、わん、僧庵
ばうしや[する](他)　防遮、ふせぐ、さへぎる
ばうしや(名)　茅舍、芒舍、かやや、かやぶきや、いほり、こや
はうしやう[する](他)　褒賞、はうびをあたへる、ほめる
はうしやう(名)　堡障、こじろ、とりで、要害
はうじやう(名)　芳憤(他人の親切を尊稱する詞)
ばうしやう(名)　帽章、ばうしのしるし、かぶりものじるし
ばうじやう(名)　坊城(氏)
はうじやうゑ(名)　放生會、いきものをたすけはなすあつまり(佛法の會)
はうしやく(名)　保釋(ほしやく)、やどあづけ(保證金を取て未決囚をやどあづけにする事)
[はうじやく](名)　膨雀、ふくらすずめ
ばうじやくぶじん　傍若無人、かたはらにひとなきがごとき、ほしいままなる
はうしふ[する](他)　倣習、ならひまねる
はうじふ(名)　烹汁、つゆ、にしる
はうしきかい(名)　紡絲機械、いととるしかけ、いととるうつは
はうしゆ(名)　寶珠、たふときたま
はうしゆ(名)　鮑珠(眞珠をいふ)、あはびだま
はうしゆ(名)　霊酒、あられざけ、さけのたぐひ
はうしゆ[する](他)　保守、たもちまもる(重に舊法古風等をいふ)
ばうしゆ[する](他)　防守、ふせぎまもる
ばうしゆ(名)　芒種(「ばうしよう」をみよ)
はうしゆたう(名)　保守黨舊風を保持する政黨、守舊黨
はうじゆつ(名)　砲術、鉄砲を用ふる術
ばうしゆん(形)　髦俊、すぐれたる、ぬきんでたる
ばうじゆん(名)。—する(自)　矛楯(むじゆん)、前後撞着。あとさきあはぬ
はうしん(名)　抱罕、ならたけ、きのこのたぐひ(植物)
はうしん(名)　放心、うしなひたるこころ(放逸の心)。また亂心、きちがひ
はうしん(名)　芳信、はなのたより、はなだより
はうしん(名)　傍親、にだしんるゐ

はうしん[する](他)　報親、ひいきする、たすける、愛顧
はうじん[する](他)　訪尋、とひたづねる(人を)
はうじん(名)　榜人、さをとり(船の)、ふなびと、ふねこぐひと
はうじん　方人、ひとをくらべみる、ひとをたくらべる
はうじん(名)　庖人、れうりにん、くりやびと
ばうしん(名)　茅蓭、かはたけ、きのこのな(植物)
ばうしん(名)　茅針、つばな、かやのはな(植物)
ばうしん　亡親、おさなれや、しにたるおやご
ばうしん[する]　暴進、むかふみずよすすむ
ばうじん(名)　亡人、なきひと、死人
ばうじん(名)　防人、さきもり
ばうじん(名)　暴人、らんぼうもの
はうにい　泡影(水のあわ物のかげの義にして世間のはかなきにたとふ)
ばうねい[する](他)　防衛、ふせぎまもる
はうねん(名)　芳園、はなばたけ、はなぞの
はうねん　方圓(四角と丸きと。また碁をいふ)
ばうえん(名)　茅檐、かやがのきば、わらぶきやね
ばうゑん(名)　茅莚、かやむしろ
ばうゑん(形)　荘遠、はるかにとほき
はうえんくわう(名)　方鉛鑛、りうくわにん
ばうゑんきやう(名)　望遠鏡、とほめがね、千里鏡
はうひ(形)　芳非、かうばしき、よはひよき
はうひ(名)　放屁、へひること
はうび(形)　澎濞はげしく水の鳴る貌)澎湃
はうび(名)　褒美、むくいのたまもの、ほめてたまふもの、賞賜物
はうひそく(名)　旁皮鯽、まるぶな、ふなのたぐひ(動物)
はうびきん(名)　褒美金、賞金、賞譽金、はうびにあたふるかね
はうびせう(名)　鳳尾蕉、蘇鐵(そてつ)(植物)
ばうもり(名)　坊守、てらまもるひと、てらもり
はうもつ(名)　寶物、たからもの
はうもく(名)　方目、ばんぎり(魚)(動物)
はうもん(名)　砲門、大砲を打出す口。又たいはう
はうもん[する](他)　訪問、とひたづねる(人を)
はうもん　芳問(他人の來訪をいふ詞)
ばうもん　坊門(氏)
はうせい(形)　方正、ただしき、正直
はうせい(名)　邦政、くにのまつりごと
はうせい(名)　邦制、くにのしくみ、くにのなりたち、國體
はうせい[する](自)　萌生、きざす、めざす
ばうせい　暴政、あしきまつりごと、苛政、虐政
はうせう(名)　保哨、ものみのつはものをるところ、とはみばんしよ
ばうせう(名)　芒硝(天然の硝石)
はうせき(名)。—する(他)　紡績、うみつむぎ。つむぐ、うむ(絲と)
はうせき(名)　礮石、いしびや
ばうせき　亡迹、なきあと(人の死後をいふ)
はうせきじやう(名)　紡織娘、くつわむし(動物)
はうせん(名)　滂泉、はしりゐ

はうせん(名)　鞘鞘、はやふね
はうせん(名)　寶前(神の前をいふ)、ひろまへ
はうせん[する](他)　保全、まつたくしてたもつ、保存
はうせん[する](自)　防戰、ふせぎたたかふ
はうせん(名)　房錢、やちん(屋賃)、たなちん
はうせん(副形)　忙然、わきまへたる、呆然瞠若、わつけにとられたる
はうせん(副形)　惘然、きぬけして、ほれぼれしたる(志を失ふたる貌)
はうず(他)　報、しらせる、報知、報道、また報酬、むくゆる
はうず(名)　坊主、僧、法師、よすてびと
はうすい(名)　紡錘、つむ、いととるうつは
はうすい(名)　方錐、よつめぎり
はうすゐ(名)　滂水、はしりゐ、わきみづ
はうすゐかふ(名)　放水間、みづぬきのひ、せき
はうすゐこう(名)　放水溝、みづはき、みづおとし
はうずれち(名)　反初僧、げんぞくそう、げんぞくしたるばうず
はうずうを(名)　和尚魚(動物)
ばうずふで(名)　禿筆、ちびふで、きれふで、やれふで
はうすん(名)　方寸(心をいふ)
はうすんのうち　方寸之中(むねのうち)、心中
はく(名)　伯、つかさ、をさ(長官をいふ)(また五等爵の第三等をいふ)
はくする(他)　駁、うつ(人の言論と)、辯駁、攻撃、なんずる
はく(名)　帛、きぬもの、きぬ
はく(他)　歎、いきふく(氣吹)、噴(水などを吐き出す)
はく(他)　吐、嘔、嘔吐、吐露(食物を口より吐く、また言を發する)
はく(他)　撮塵等と箒にてはく、きよむる、はらふ
はく(他)　着履、穿つける、きる、うがつ(沓などを)
はく(他)　佩、帶、れぶる(刀を)、こしにつける
はく(名)　箔(金箔銀箔等を云ふ)
はぐ(他)　剝、撮、禿、むく、うばふ、禿奪官位等に重に用ふ)
はぐ(他)　矧、矯矢を作るといふ)
はぐ(他)　補綴(衣服等の破れたるにつぎたしをするといふ)つぎたす、つくろふ
はぐ(他)　作(板を)、けづる
ばく(名)　貘、白豹、しろなかつかみ(動物)[俗よ夢食ふ獣といふ]
ばく(名)　麥、むぎ、こむぎ、ねばむぎ(植物)
ばぐ　馬具、うまのうつは
はくい(名)　白衣、棉衣、ぬのこ、もめんぎもの(賤人の稱)
はくいう(形)　薄祿、ふしあはせ、不運
ばくいう(名)　幕友(地方官などの私しの秘書官)、幕賓
はくいん(名)　白飲、さゆ、ただのゆ
はくろ(名)　白鷺、しらさぎ(動物)
はくろ(名)　白露、しらつゆ、しろくみゆるつゆ、つゆのたま
はくろ(名)　櫨爐、ひぢぎ
はぐろ(名)　齒黑、鐵漿、かね(齒をそむる料)


(圖のくばめ)

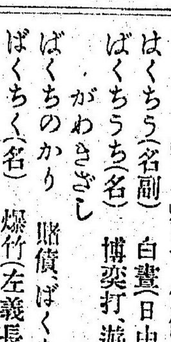
はくろう(名)　伯樂、うまいしや、又うまあきびと
はぐろのくに　黑齒國(國人の齒を染る國)
はぐろさう(名)　九頭師子草、植物)
はくは(名)　白波、しらなみ、又ぬすびと
はくば(名)　白馬、しろうま(動物)
はくば(名)　駁馬、まだらうま、ぶちうま(動物)
はくばい(名)　白梅、しらむめ(植物)
はくはつ(名)　白髮、しらが、鶴髮
はくばう(名)　白牝、はぐま(動物)
はくばう(名)　白旄、ざい(大將の指揮に用ふる者)
はくばのせちゑ　白馬節會、おほうまのせちゑ(古へにあり)し正月七日の宴會にて此日天子白馬を御覽せり因てかくいふ)
ばくばく(副形)　寞寞、しづか、ものしづか、寂寂
はくはん(名)　白飯、さめし(某肴なしの飯)、すめし
はくはん(名)　白鑾(藥品)
はくはん(名)　拍板、へうしぎ(拍子木)
ばくはん(名)　麥飯、むぎめし
はくはんふう(名)　白斑風、白癜、しろなまづ(病名)
はくぼ(名)　伯母、をば、叔母
はくぼ(名)　薄暮、ゆふぐれ、くれがた、たそがれ、ひぐれ、いりあひ、黃昏、昏暮
はくほう　薄俸、薄給(俸給の少きをいふ)
はくぼく(名)　白墨、しらすみ、又しけし
ばくぼく(名)　驀漠、こさめ、きりさめ、細雨
ばくぼく(名)　檗木、きはだ、黃檗(植物)
はくへい(名)　白萍、かはくさのたぐひ(植物)
はくべら(名)　鷺腸菜、繁縷、はこべら(植物)
ばくへう(名)　幕標、まくぐし
はくへんとう(名)　白蒿豆、かきまめ(植物)
はくと(名)　白兎、なんきんうさぎ(動物)
ばくと(名)　博徒、ばくちうち、ごろつき
ばくと(名)　麥斗、むぎとろ(麥のとろろ飯をいふ)
ばくど(名)　麥奴、むぎのくろぼ(麥の黑穗)
はくとう(名)　柏頭、いぶき、檜柏、びやくしん(植物)
はくとう[する](自)　搏鬪、うちたたかふ
はくとう(名)　白豆、しろまめ(植物)
はくとう(名)　白藤、しらふじ(植物)
はくどう(名)　白銅、さはり(銅鑼の類)、又かねのな
はくとうを(名)　白頭翁、おきなぐさ、ねこぐさ、しやぐささいこ(植物)
はくとうを(名)　白頭翁、むくどり、しじうから(動物)
はくとうてう(名)　白頭鳥、ひよどり、こむく(動物)
はくとうきういん(名)　白頭蚯蚓、かぶらみみず(動物)
はくとく　薄德、德行の少きをいふ)、非德
はくち(名)　白雉、しらさぎ(狀ち雉よりも美麗なる鳥)

(圖白雉の)

はくち(形副)　白地、おからさま
はくち(形名)　白痴、ふぬけ、たらず、ばか、阿房
ばくち(名)　博奕、賽攴道、とばく、かけごと
ばくちば(名)　博奕場、賭場、どば、ばくちうつところ

はくちりつ(名)　白地栗、くわゐ(植物)
はくちょ　白猪白紙をいふ)
はくちょ(名)　白猪、しらかし、かしのたぐひ(植物)
はくちう[する](自)　伯仲、まけずおとらずにある
はくちう(名副)　白晝(日中をいふ)、まひるなか
ばくちうち(名)　博奕打、遊賭子、かげごとし、ごろつき、なかまのかり
ばくちのかり　賭償、ばくちにてかりたるかね
ばくちく(名)　爆竹(左義長と同し、正月十五日に焚きて遊ぶもの又今支那人が祝日にわぐるばちばち烟花をいふ)
ばくちやど(名)　博奕宿、賭房、かけごとやど
はくちやう(名)　白張、しろはり(公卿の奴僕などの服また葬式の時などに奴僕の着る者)
はくちやうかう(名)　白丁香、ずゐめのふん
はくちやうげ(名)　白頂花、白頭花、天満星(植物)
はくちごね(名)　葉朽肥(樹木の落葉の朽て肥料となる者)
はくちさう(名)　白地草、にはくさ(植物)
はくぢざう(名)　白地藏、かくれあそび、かくれんぼ
はくり(名)　白痢、なめはら、くだりはら(病名)
ばくり(名)　麥李、さもも(植物)
ばくり(名)　幕吏(將軍家の官人)
ばくりう　瀑流(はやきながれ)、急流、激流
はくりく(名)　博陸、舊關白を然か稱ふ)
はくをう(名)　白鷗、しろかもめ(動物)
はくをく(名)　白屋、いやしきいへ、陋室
はくわい[する](自)　破潰、つひえる、やぶれる

はくわい[する](他)　破壞、うちやぶる、こぼつ
ばくわい(名)　馬薤、馬薊(植物)
ばくわう(名)　馬蟥、むしのな(動物)
はくわのとし　破瓜年(女子可嫁の年即ち十五六歳)
はくか(名)　白瓜、しろなすび(植物)


(圖　の　荷)

はくか(名)　白蝦、しらにび(動物)
はくか(名)　湖荷、蕸蔺、みづたばこ(植物また其草より取れる精にして辛き者)
はくが(形)　博雅(廣く諸學に通じたるをいふ)、博識、博覽
ばくか(名)　幕下、旗下、はたした。また將軍の尊號
はくかい(名)　白芥、たうがらし(植物)
はくがい(名)。—する(他)　迫害、せめなやますこと。くるしめる(宗教上に重にいふ)、窘迫
はくかう(名)　白蒿、あさぎりさう、のらよもぎ(植物)
はくかう　湖行(不貞の行爲をいふ)
はくかう　湖幸、ふしあはせ、薄命
はくかうぼく(名)　白膠木、ぬるで(植物)
はくかうぼく(名)　栢香木、にはひよきのな(植物)
はくかうこう(名)　白降汞(水銀製の藥品)
はくがく(形名)　博學、ひろくまなびたる、博識、博通
はくかくづ(名)　白角豆、しろささげ(植物)
はくかくせん(名)　白鶴仙、きばうし(植物)
はくかふ(形)　博洽、ひろくゆきわたれる、ひろくまなびたる

はくかゑん　薄荷圓(藥品)、はくかのけつしやうせるもの
はくかすゐ　薄荷水(藥品)、みづばくか
はくかん(名)　白鵬、白鵰、かのこ
り、しらさじ(毛色殊に麗しく肉頗る美味なる鳥)
はくかん　薄寒、うすさむ(春寒の如きをいふ)
はくがん(名)　白雁、しろかり(動物)
はくがん　白眼、しろまなこ、にらまへるめつき。又とんちやくせぬまなこ
ばくかん[する](他)　縛繩、しばる、からげる
ばくかん[する](自)　暴乾、ひからびる、かわく
ばくかん(名)　麥稈、むぎわら、むぎのから
はくかんくわ(名)　白甜瓜、ぼんでんうり(植物)
ばぐだ　馬喰田(氏)
はくたい(名)　白帶(直衣の類)
はくたい[する](他)　薄待、ふわしらひする、あしくわつかふ
はくたい(名)　白苔、しらごけ(植物)
はくたい(名)　白癩、しらち(婦人病)
ばくたい(形)　莫大、はなはだれはいなる。いとれはき
はくだつ[する](他)　剝奪、はぎとる、褫奪、うばふ
はくたう(名)　薄刀、うすば
はくたう(名)　白湯、さゆ、だだのゆ
はくたう(名)　白桃、しらもも(植物)

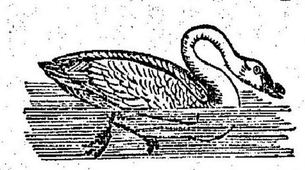
ばくたう(名)　麥湯、むぎゆ
ばくたう(名)　麥桃、さもも、ももの一たぐひ(植物)
はくたうとう(名)　白刀豆、なたまめ(植物)
はくたく(名副)　剝啄、はとはと(門を叩くれと等をいふ)
はくだく(名)　白濁、淋病、りんしつ
はくだん(名)　白團、にはとりのたまご
ばくだん(名)　爆彈、はせだま、破裂丸(大砲の)
はくれい(名)　白鼯、しろざけ
はぐれる(自)　逸、相失、みうしなふ、うせる
ばくれつ[する](自)　爆裂、破裂、われる、はせる、ぼんとわれる
ばくれつだん(名)　爆裂彈、破裂する砲丸、はせだま
ばくれつやく(名)　爆裂藥、破裂する合藥、はせぐすり
はくそ(名)　齒屎(齒にたまるかす)、はがすみ
はくそ(名)　白鼠、しろねずみ(動物)
ばくそう(名)　麥蔥、あさづき(植物)
はくそさう(名)　白蘇草、徑胡麻、にごま(植物)
はくないしやう(名)　白內障、しろそこひ(眼病)、青盲
はくらい(名)　白癩、しろがつたい、しらはたけ
はくらい(形)　舶來、わたりきたれる(外國より)、輸入
はぐらかす(他)　令逸、みうしなはせる、まく(人を)
はくらう(名)　白醪、ねりざけ、しろざけ
はくらう(名)　白浪、しらなみ
はくらう(名)　伯勞、もず、鵙、とりのな(動物)
ばくらう(名)　博勞、伯樂、うまおさうど、又うまいしや
はくらく(名)　伯樂(馬を見るに名人なりし漢土の人)。また馬醫

はくらふ(名)　白鑞(びやくらふ)、しろみ
はくらん(形)　博覽、ひろくみたる、博學
はくらんくわい(名)　博覽會(物品を陳列して縱覽に供する處)
はくう(名)　白羽、しらは、しろきはね
はくう　白羽、しらは、しろきはね
はくう(名)　白雨、むらさめ、ゆふだち、にはかめ
ばくう(名)　霹雨、こさめ、きりさめ
ばくう(名)　麥雨、さみだれ、さつきあめ、五月雨
はくうち(名)　箔打、はくや(金銀を打延す工人)
はくうん　薄雲、うすぐも
はくうん　白雲、しらくも、むらくも
はくうんぼく(名)　白雲木、玉鈴花(植物)
はくうんせき(名)　白雲石(鑛物)
はくのう　薄濃、うすきこき、濃淡、厚薄
はくく(名)　**狛狗**、こまいぬ(動物)
はくく　白駒、しろこま、日にたとふ、光陰、ひかげ
はくくわ(名)　舶貨、たうぶつ、わたりもの、外國品、舶來品
はくくわべい(名)　白花米、はせごめ、はせ
はくくわかう(名)　白花香、をとこめし(植物)
はくくわよう(名)　白花鷹、しらふだか(動物)
はくくわだ(名)　白花蛇、よこわへび(動物)
はくくわうねつ(名)　發黃熱體の黃色になる病)
はくくわうま(名)　白黃麻(天子の御綸旨)
はくくわさい(名)　白花菜、やうかくさう(植物)
はくくわんさう(名)　白環草、かがみくさ、白鮫(植物)
はくくつさい(名)　白屈菜、くさのわう(植物)

はくぐむ(他)　育養育、やしなひそだてる
はくや(名)　箔匠(金銀等の箔を作り賣る者)
ばくや(名)　莫邪(漢土の名劍の名、又その作者)
ばぐや(名)　馬具屋、ばぐつくるいへ
はくやなぎ(名)　白楊はくやう、をかやなぎ、はこやなぎ(植物)
はくやうくわ(名)　白蝶花、さるすべり(植物)
はくやうぎよ(名)　白楊魚、かはぎす(動物)
はくやく(名)　白藥、かたくり(植物)
はくま(名)　白麻、いちび(植物)
はぐま(名)　白牲、牲牛、犢牛、騙牛、うしのたぐひ、白熊、しろくま(動物)
はくまい(名)　白米、つきごめ、しらげよね
ばくげ(名)　麥芽、もやし、むぎもやし(植物)
はくけい(名)　伯兄、あに、それはあに
ばくけい[する](他)　縛繫、しばりつなぐ
はくけつ(名)　白鰹、むしくひたか(動物)
はくげき[する](他)　駁擊、うつ(他人の論說を非難するをいふ)
はくげき[する](他)　搏擊、うつ、たたく
ばくげき(形)　莫逆、ねんごろ、懇親
ばくげきのまじはり　莫逆交(格別懇親なる交際をいふ)
はくげん(名)　白莧、まひゆ、ひゆ(植物)
はくふ(名)　伯父、をぢ
はくふ(名)　白布、さらさ、しろぬの
ばくふ[する](他)　搏拊、なでる、撫
ばくふ(名)　瀑布、たき、瀧水

ばくふ(名)　幕府(本は將軍の陣營を云ふ)、柳營、將軍家
はくぶだうしゅ　白耑菊酒、しろぶだうざけ
はくぶつがく(名)　博物學(鳥獸等を研究する學を云ふ)
はくぶつくわん(名)　博物館(各種の物を陳列して縱覽せしむる建物)
はくふく　薄福、ふしわはせ、薄命
はくふん(名)　白粉、しろこ、れしろい
はくぶん(名)　白文(無點の漢文をいふ)
はくぶん(形名)　博聞、ひろくきたる、博識。ものしり
はくぶんいん　白文印、ほりこみのいん(文字をほり鑄めたる印)
ばくこ(副)　邈乎、はるか、とほざかる、邈焉
はくこつ(名)　白骨、されこうべ(雨にさらしたる骨)
ばくこつ(副)　驀忽、たちまち、忽然
はくこう　薄厚、うすきあつき
はくこく　白黑、しろくろ、又あやめ
はくこてい(名)　白皷丁、つづみぐさ(植物)
ばくてい(名)　幕庭(天幕の前庭を云ふ)
はくてつ(名)　白鐵、ブリキ(舶來の薄金物板)
はくてう(名)　白鳥、鵠、こうのとり、くぐね(動物)

(圖の白鳥)



はくでん　薄田、下田(みのりわしき田地)
はくわ(名)　白堊、しらつち、白土
はくわい　博愛、汎く人を愛すること)
はくさ(名)　牙痒、はぐき、がさ(齦齒)
はくさ　白沙、しらすな、しろきすな。又しらす(名)　菱、雜草、あしきくさ(植物)
はくさい(名)　白菜、にがな(植物)
はくさい　薄才(才智のたらぬ事)、うすきちゑ
はくさをみなへし(名)　地花菜、きんれいくわ(植物)
はくさつ[する](他)　迫殺、せめころす
はくざつ(形)　駁雜、ごたませ、いろいろまじりたる
ばくさつ[する](他)　縛紮、くくる、しばる、ゆはひる
はくさぎよ(名)　白沙魚、しらふか、さめのたぐひ(動物)
はくさんぼく(名)　堅莢樹(植物)
はくさんよもぎ(名)　白蒿、わさぎりさう(植物)
はくぎ(名)　白蟻、しらあり(動物)
はくぎ　博議、ひろくぎろんすること
はぐき(名)　齦(齒根の肉)、齦肉
はぐき(名)　毛管鳥翼の羽莖)、はねぐき
ばくき(名)　博戲、博奕、ばくち、かけごと
はくきよ(名)　白莒、おまおさ、たうちさ(植物)
はくぎよ(名)　白魚、しらうを、たちがうを、にこびしみ、ましか(動物)
ばくぎよ(名)　麥魚、めだか(動物)
はくぎよかん(名)　白魚羹、やうかんのたぐひ(菓子の名)
はくぎよく(名)　璞玉、あらたま、未だ琢磨せざる寶石)
はくぎう(名)　駁牛、まだらうし(動物)
はくぎふ(名)　白及、甘根、連及草(植物)
はくきん(名)　白金(至て堅き金の名)、プラチナム
はくきん(名)　膊巾、かたかけ、肩巾
はくぎん(名)　白銀、しろかね、ぎん

ばくきん(名)　麥菌、しょうろ、きのこのな(植物)
はくゆう(名)　白熊、はぐま(動物)
はくめい(形名)　薄命、ふしあはせ、薄福
はくめい(名)　薄明、うすあかるさ、よあけ、あけぼの
[ばくめいさい](名)　莫鳴菜、なのりそ、神馬藻(植物)
はくめん(形)　白面(年わかく經驗なきをいふ)
はくめんしょせい　白面書生(未熟なる學生をいふ)
はくし　白紙、しらかみ、しろきたちのかみのな
はくし(名)　白柿、あまぼし、くしがき、ころがき
はくし　薄施、うすで、うすきず微傷
[はくし](名)　拍子、へうし
はくし(名)　博士、はかせ(學位の名)
はくし(名)　白芷、よろひぐさ、澤芬(植物)
はくし(名)　白砥、かすがと(砥石の名)
ばくじ(名)　馬駒兒、馬爰兒、すすめうり(植物)
ばぐし(名)　馬具師、馬の道具を造る人)
はくしょ(名)　博奏、うぐひす(動物)
はくじつ(名)　白日、まひる、白晝、ひるなか
はくしつり(名)　白薤菜、くさね(植物)
はくしう(名)　白萩、しらはぎ(植物)
はくじのいん　白字印(文字の白く寫る印章)
はくじゃ(名)　白蛇、しろへび(動物)
はくしゃう(名)　船商、ふなあきんど
はくしゃう[する]　拍掌、たなごころをうつ、てをならす、拍手
はくじゃう(形)　薄情、なさけなき、つれなき、輕薄、浮薄
はくじゃう[する][俗](他)　白狀(罪狀等を申しのぶる)、い

ひわかす
はくしゃうけん(名)　白生絹、きぎぬ、ねらぬきぬ
はくしゃく(名)　伯爵(爵位の第三等)
はくじゃく(形)　薄弱、うすき、よわき、よわよわしき
はくしお(名)　白鱚魚、みやまがらす(動物)
はくじさう(名)　白慈草、すまひぐさ、またぶりぐさ(植物)
はくしき(形名)　博識、ものしり、博學
はくしゅ(名)　白酒、ねりざけ、しろざけ
はくしゅ(名)　船首、ふねのかしら、みよし
はくしゅ[する]　拍手、てをうちならす(人を讃る時等に)
[はくしゅ](名)　薄手、うすで、薄疵(「はくし」を見よ)
ばくしゅ(名)　麥酒、むぎざけ、ビール
はくじゅつ(名)　白朮(びゃくじゅつ)、をけら(植物)
はくしゅく(名)　伯叔、をぢ
はくしん(名)　柏槇、いぶき、きのな(植物)
[はくじん](名)　狛人、こまびと、朝鮮人
はくじん　白刃、しらは、ぬきみ、やいば
ばくしん(名)　麥蘞、しょうろ(植物)
はくしんじゅ(名)　白辛樹、あさがら(植物)
はくにい(名)　白鷴、わきめくら、しろそこひ
はくにい(名)　白英、排風草、ほろし、くさぐこ、まるばのほろし(植物)
ばくにう[する](他)　踰越、のりこす、とびこえる
ばくにう(形副)　邈遙、はるばる、はるか
はくにふてつ(名)　白葉鉄、ブリキ(舶來金物板)
はくにん(名)　白鹽、わわしほ
ばくにん(副形)　邈焉、はるか、いとど、はく邈平

ばくねん(副形)　邈遠、はるか、とほざは、とほき
はくひ(形)　薄非、うすき(徳の薄きあやまちをいふ)
はくび(形)　薄媚、そつけもなき、つんとしたる、わいそなき
はくび(名)　白薇、薇草、ふなはらさう、ねばうさう(植物)
はくひょう　薄氷、うすごほり
はくひょうをふむ　履薄氷(怖れ殆ぶむの譬)
はくひしばる　切齒類齕、はがみする、はをかむ
はくひん　薄品、粗品、そまつなるしな
はくひん[する]　白禀、まうしあぐる、上申
はくもくらん(名)　白木蘭玉蘭(植物)
はくもくらん(名)　白木槿、しろむくげ(植物)
ばくもんどう(名)　麥門冬、禹韭、せうがひげ、ますげ(植物)
はくやい[する][自]　拇囈、かみあふ(犬などが)
はくやせつ　白雪、しらゆき、ゆき
はくやせつかう(名)　白雪糕、菓子の名)
ばくやう(名)　麥麩、むぎのこ(麥粉)
はくやき(形)　薄焼、やせたる(田地にいふ)、つちあしき
はくやき(形)　白脊、しろき(面色にいふ)
はくやきじん　白皙人(歐米の白人種をいふ)
はくやく(名)　白蘚、しろぐけ、白羊鮮(植物)
はくやく(名)　白戰、からてにてたたかふ(徒手而戰)
はくやく[する][自]　拇戰、たたきあふ、うちあふ
はくやく(名)　白前、つるもうりんくわ、すめのをとげ、いよかづら、かもめつる(植物)
ばくやく(形副)　邈然、はるか、とほざは
ばくやく(副)　漠然、ぼんやり、おいまい、模糊

ばくやく(名)　白鴨、はぐま(動物)
はくやく(名)　薄命、ふしあはせ、薄福
はくやく(形名)　薄明、うすあかるさ、よあけ、あけぼの
[ばくやくさい](名)　莫鳴菜、なのりそ、神馬藻(植物)
はくやくめん(形)　白面(年わかく經驗なきをいふ)
はくやくめんしょせい　白面書生(未熟なる學生をいふ)
はくやし　白紙、しらかみ、しろきたちのかみのな
はくやし(名)　白柿、あまぼし、くしがき、ころがき
はくやし　薄疵、うすで、うすきず微傷
[はくやし](名)　拍子、へうし
はくやし(名)　博士、はかせ(學位の名)
はくやし(名)　白芷、よろひぐさ、澤芬(植物)
はくやし(名)　白砥、かすがと(砥石の名)
ばくやじ(名)　馬駒兒、馬爰兒、すすめうり(植物)
ばぐやし(名)　馬具師、馬の道具を造る人)
はくやしょ(名)　博奏、うぐひす(動物)
はくやじつ(名)　白日、まひる、白晝、ひるなか
はくやしつり(名)　白薤菜、くさね(植物)
はくやしう(名)　白萩、しらはぎ(植物)
はくやじのいん　白字印(文字の白く寫る印章)
はくやじゃ(名)　白蛇、しろへび(動物)
はくやしゃう(名)　船商、ふなあきんど
はくやしゃう[する]　拍掌、たなごころをうつ、てをならす、拍手
はくやじゃう(形)　薄情、なさけなき、つれなき、輕薄、浮薄
はくやじゃう[する][俗](他)　白狀(罪狀等を申しのぶる)、い

ひわかす
はくやうけん(名)　白生絹、きぎぬ、ねらぬきぬ
はくやく(名)　伯爵(爵位の第三等)
はくやく(形)　薄弱、うすき、よわき、よわよわしき
はくやお(名)　白鱚魚、みやまがらす(動物)
はくやさう(名)　白慈草、すまひぐさ、またぶりぐさ(植物)
はくやき(形名)　博識、ものしり、博學
はくやし(名)　白酒、ねりざけ、しろざけ
はくやし(名)　船首、ふねのかしら、みよし
はくやし[する]　拍手、てをうちならす(人を讃る時等に)
[はくやし](名)　薄手、うすで、薄疵(「はくし」を見よ)
ばくやし(名)　麥酒、むぎざけ、ビール
はくやじゅつ(名)　白朮(びゃくじゅつ)、をけら(植物)
はくやしゅく(名)　伯叔、をぢ
はくやしん(名)　柏槇、いぶき、きのな(植物)
[はくやじん](名)　狛人、こまびと、朝鮮人
はくやじん　白刃、しらは、ぬきみ、やいば
ばくやしん(名)　麥蘞、しょうろ(植物)
はくやしんじゅ(名)　白辛樹、あさがら(植物)
はくやにい(名)　白鷴、わきめくら、しろそこひ
はくやにい(名)　白英、排風草、ほろし、くさぐこ、まるばのほろし(植物)
ばくやにう[する](他)　踰越、のりこす、とびこえる
ばくやにう(形副)　邈遙、はるばる、はるか
はくやにふてつ(名)　白葉鉄、ブリキ(舶來金物板)
はくやにん(名)　白鹽、わわしほ
ばくやにん(副形)　邈焉、はるか、いとど、はく邈平

ばくやん(副形)　邈遠、はるか、とほざは、とほき
はくやひ(形)　薄非、うすき(徳の薄きあやまちをいふ)
はくやび(形)　薄媚、そつけもなき、つんとしたる、わいそなき
はくやひょう　薄氷、うすごほり
はくやひょうをふむ　履薄氷(怖れ殆ぶむの譬)
はくやひしばる　切齒類齕、はがみする、はをかむ
はくやひん　薄品、粗品、そまつなるしな
はくやひん[する]　白禀、まうしあぐる、上申
はくやもくらん(名)　白木蘭玉蘭(植物)
はくやもくらん(名)　白木槿、しろむくげ(植物)
ばくやもんどう(名)　麥門冬、禹韭、せうがひげ、ますげ(植物)
はくややい[する][自]　拇囈、かみあふ(犬などが)
はくやせつ　白雪、しらゆき、ゆき
はくやせつかう(名)　白雪糕、菓子の名)
ばくやう(名)　麥麩、むぎのこ(麥粉)
はくやき(形)　薄焼、やせたる(田地にいふ)、つちあしき
はくやき(形)　白脊、しろき(面色にいふ)
はくやきじん　白皙人(歐米の白人種をいふ)
はくやく(名)　白蘚、しろぐけ、白羊鮮(植物)
はくやく(名)　白戰、からてにてたたかふ(徒手而戰)
はくやく[する][自]　拇戰、たたきあふ、うちあふ
はくやく(名)　白前、つるもうりんくわ、すめのをとげ、いよかづら、かもめつる(植物)
ばくやく(形副)　邈然、はるか、とほざは
ばくやく(副)　漠然、ぼんやり、おいまい、模糊

ばくやく(名)　白鴨、はぐま(動物)
はくやく(名)　薄命、ふしあはせ、薄福
はくやく(形名)　薄明、うすあかるさ、よあけ、あけぼの
[ばくやくさい](名)　莫鳴菜、なのりそ、神馬藻(植物)
はくやくめん(形)　白面(年わかく經驗なきをいふ)
はくやくめんしょせい　白面書生(未熟なる學生をいふ)
はくやし　白紙、しらかみ、しろきたちのかみのな
はくやし(名)　白柿、あまぼし、くしがき、ころがき
はくやし　薄疵、うすで、うすきず微傷
[はくやし](名)　拍子、へうし
はくやし(名)　博士、はかせ(學位の名)
はくやし(名)　白芷、よろひぐさ、澤芬(植物)
はくやし(名)　白砥、かすがと(砥石の名)
ばくやじ(名)　馬駒兒、馬爰兒、すすめうり(植物)
ばぐやし(名)　馬具師、馬の道具を造る人)
はくやしょ(名)　博奏、うぐひす(動物)
はくやじつ(名)　白日、まひる、白晝、ひるなか
はくやしつり(名)　白薤菜、くさね(植物)
はくやしう(名)　白萩、しらはぎ(植物)
はくやじのいん　白字印(文字の白く寫る印章)
はくやじゃ(名)　白蛇、しろへび(動物)
はくやしゃう(名)　船商、ふなあきんど
はくやしゃう[する]　拍掌、たなごころをうつ、てをならす、拍手
はくやじゃう(形)　薄情、なさけなき、つれなき、輕薄、浮薄
はくやじゃう[する][俗](他)　白狀(罪狀等を申しのぶる)、い

ひわかす
はくやうけん(名)　白生絹、きぎぬ、ねらぬきぬ
はくやく(名)　伯爵(爵位の第三等)
はくやく(形)　薄弱、うすき、よわき、よわよわしき
はくやお(名)　白鱚魚、みやまがらす(動物)
はくやさう(名)　白慈草、すまひぐさ、またぶりぐさ(植物)
はくやき(形名)　博識、ものしり、博學
はくやし(名)　白酒、ねりざけ、しろざけ
はくやし(名)　船首、ふねのかしら、みよし
はくやし[する]　拍手、てをうちならす(人を讃る時等に)
[はくやし](名)　薄手、うすで、薄疵(「はくし」を見よ)
ばくやし(名)　麥酒、むぎざけ、ビール
はくやじゅつ(名)　白朮(びゃくじゅつ)、をけら(植物)
はくやしゅく(名)　伯叔、をぢ
はくやしん(名)　柏槇、いぶき、きのな(植物)
[はくやじん](名)　狛人、こまびと、朝鮮人
はくやじん　白刃、しらは、ぬきみ、やいば
ばくやしん(名)　麥蘞、しょうろ(植物)
はくやしんじゅ(名)　白辛樹、あさがら(植物)
はくやにい(名)　白鷴、わきめくら、しろそこひ
はくやにい(名)　白英、排風草、ほろし、くさぐこ、まるばのほろし(植物)
ばくやにう[する](他)　踰越、のりこす、とびこえる
ばくやにう(形副)　邈遙、はるばる、はるか
はくやにふてつ(名)　白葉鉄、ブリキ(舶來金物板)
はくやにん(名)　白鹽、わわしほ
ばくやにん(副形)　邈焉、はるか、いとど、はく邈平

ばくやん(副形)　邈遠、はるか、とほざは、とほき
はくやひ(形)　薄非、うすき(徳の薄きあやまちをいふ)
はくやび(形)　薄媚、そつけもなき、つんとしたる、わいそなき
はくやひょう　薄氷、うすごほり
はくやひょうをふむ　履薄氷(怖れ殆ぶむの譬)
はくやひしばる　切齒類齕、はがみする、はをかむ
はくやひん　薄品、粗品、そまつなるしな
はくやひん[する]　白禀、まうしあぐる、上申
はくやもくらん(名)　白木蘭玉蘭(植物)
はくやもくらん(名)　白木槿、しろむくげ(植物)
ばくやもんどう(名)　麥門冬、禹韭、せうがひげ、ますげ(植物)
はくややい[する][自]　拇囈、かみあふ(犬などが)
はくやせつ　白雪、しらゆき、ゆき
はくやせつかう(名)　白雪糕、菓子の名)
ばくやう(名)　麥麩、むぎのこ(麥粉)
はくやき(形)　薄焼、やせたる(田地にいふ)、つちあしき
はくやき(形)　白脊、しろき(面色にいふ)
はくやきじん　白皙人(歐米の白人種をいふ)
はくやく(名)　白蘚、しろぐけ、白羊鮮(植物)
はくやく(名)　白戰、からてにてたたかふ(徒手而戰)
はくやく[する][自]　拇戰、たたきあふ、うちあふ
はくやく(名)　白前、つるもうりんくわ、すめのをとげ、いよかづら、かもめつる(植物)
ばくやく(形副)　邈然、はるか、とほざは
ばくやく(副)　漠然、ぼんやり、おいまい、模糊

はやる(自)　速逸、いそぐ、せく
はやを(名)　早緒鵜網、ろづな(船の櫓にくくる繩)
はやれけ(名)　早桶、棺桶(死人をいるる櫃)
はやれき　早起蚤起、晨起(はやくおくること)
はやわざ(名)　早業、手練、叱法、弄法、弄把戯
はやかは　早川(氏)
はやがね(名)　早鐘、警鐘(出火其他の時の急を告る鐘の聲)
はやがけ(名)　疾走、はやばしり
はやがき(名)　早書、疾書、はしりがき
はやだより(名)　早便、はやきたより。急便、いそぎのたより
はやなは(名)　早繩(犯罪者を縛る捕繩)、とりなは
はやなみ(名)　急波、激浪、鯨波、怒浪、怒濤、奔濤、奔潮、れはなみ
はやうち(名)　馹馬、はやびきやく、急使、はや
はやうちかた(名)　急撃屓病名、痙癖の強き如き者)
はやうた(名)　早歌、はやくうたふうた
はやうま(名)　逸馬、駿馬、驊騮、ときうま(動物)
はやうま(名)　急馬、はやびきやく、はや
はやくち(名)　快口、快喙、はやくものいふこと。辯口、くちまめ、くちたつしや
はやくさ(名)　丹毒(病名)
はやま(名)　端山、ふもとのやま
はやまる(自)　失急、爲大早計、いそぎてあやまつ、いそぎすぎる
はやますみれ(名)　起頭英(植物)
はやふね(名)　早舟、快船、快艇、軽船、舸、いそぎぶね
はやぶさ(名)　鶻鷂、隼、晨鳧(たかの一種(動物)
はやぶさとし(名)　鶻撃、たかのごとくうつこと
はやでう(名)　紙筒、砲嚢(銃砲の彈藥の一宛の包)
はやて(名)　暴風、疾風、迅風、はやち
はやわし(名)　疾足、快歩、はやあるき
はやさめ(名)　急雨、暴雨にはかあめ、ゆふだち、驟雨
はやき(形)　早、速、快、疾、蚤、捷、迅、すみやかなる、神速、迅速
はやきれそき　遄速、駛徐、緩急
はやめ(名)　催産、出産を促がすこと又その藥
はやめる(他)　早、疾、はやくする。驅(馬を)、かる
はやめぐすり(名)　催生藥、出産を促がす藥
はやみ　早見、速見、速水、順宮(氏)
はやみち(名)　捷徑、ちかみち
はやし(名)　林、密林、山林、林落、樹木の叢生する所、もり、森、森林、また(氏)
はやし(名)　囃、拍子(音樂にてにぎはすこと)
はやひと(名)　隼人、はやと(「はいと」をみよ)
はやひとぐさ(名)　鼓子花、天劍草、ひるがほ(植物)
はやひなは(名)　急火引、ひなはのたぐひ
はやびきやく(名)　早飛脚、傳騎、急使、はや、馹
はやせ(名)　急瀬、迅瀬、急流、激流、急湍、湍川水の流れ早き所)
はやす(他)　令生、はやしむる
はやす(他)　細割、細切、片割、こまかにきる
はやす(他)　囃、にぎはす、はやしする(「はやし」をみよ。ほ

はまうど(名)　濱菜(其味獨活に似て其色白し西洋よりは日常の食用に供す、のれにうど(植物)

はまうつぼ(名)　列當(圖植物)
はまぐり(名)　蛤、蚌、蠣、含漿(動物)
はまくく(名)　鹹蒿(植物)
はまくさぎ(名)　腐婢(植物)
はままつ(名)　濱松(地名)
はままつ(名)　黒珊瑚(黒き珊瑚にて即ち動物の作る所の者)
はまて(名)　濱手、はまべ、うみべ
はまあかざ(名)　野灰菜(植物)
はまおふひ(名)　防風、ばうふう(植物)
はまささげ(名)　雲實、天豆、羊石子、粘刺草(植物)
はまぎく(名)　佛頭菊(植物)
はまゆり(名)　文珠蘭(植物)
はまゆふ(名)　濱木綿、はまをもと、文珠蘭(植物)
はまゆみ(名)　破魔弓(悪魔を逐ふ弓、また年始に小兒の用る遊戯の具)
はましをん(名)　金盞菜、うらぎく(植物)
はましきみ(名)　濱樒、法實、はまがう(植物)
はまえんどう(名)　野豌豆(植物)
はまひとくさ(名)　大戟草(植物)
はまひるがほ(名)　旋花(植物)
はまむぎ(名)　蓧草、こうばふむぎ(植物)
はまなす(名)　玫瑰、枚瑰、あかばら(植物)
はまな(名)　濱菜(氏また地名)
はまな(名)　蕃杏、つるな(植物)
はまなつとう(名)　濱納豆(食品)
はまなし(名)　疾梨(植物)
はまのき(名)　濱木綿、はまをもと、文珠蘭(植物)
はまたかな(名)　天名精、活鹿草、地菘、ねのしりぐさ(植物)
はまつばき(名)　蔓荊、はまがう(植物)

はまひさき(名)　梓、あづさ(植物)
はまびし(名)　蕨藜、旱草、升推草、ひるがほ(植物)
はまもつこく(名)　指甲花(植物)
はまをり(名)　蛇狀子、はまにんじん(植物)
はます(名)　香附子(植物)
はけ(名)　消流、みづはけ
はけ(名)　刷毛、刷子、平筆、髹筆、糊刷、髹筆
はけい[する](自)　頗倜、かたぶく、かたよる
はげいとう(名)　藥雞頭、雁來紅、十樣錦、錦布袱(植物)
はける(自)　消流、流去(水の流れ去るをいふ)
はける　得穿、得履(はきうる)、はかれる
はげる(自)　禿頼、兀頭等が、かぶろになる
はげる(自)　露剝、脫(物にいふ)、褪、失色、退色(色にいふ)、とれる、さめる
ばける(自)　妖化、幻化、變形、かたちをかへる
はけかた(名)　捌方、消售、うれかた
はげがみ(名)　禿髪、鬚翁、はげあたま
はげむ(名)　勵、勉勵、黽勉、淬勵、みとれる、きをこめる
はけくち(名)　售口、うれくち
はげやま(名)　禿山、屹、嶢兒(樹なし山)、童山、かぶろやま、赭山
はげます(他)　奬誘、奬勵、勸誘、刺激、いきほひつける
ばけぶし(名)　馬隔兒、つるはぼづき(植物)
はげあと(名)　禿痕、赭痕、赭蹟、はげたるところ)
はげあたま(名)　禿頭、童頭、かみなきあたま、やくわんあたま、かぶろあたま
ばげき(名)　馬鷂、げじげじ(動物)
はげきてん(名)　巴戟天、かきのはぐさ、しゆすねのき、不凋草(植物)
はげみわひ(名)　勵爭、競爭、きそひあらそふこと
はげしき(形)　勵、烈、激、烈嚴、きびしき、あらき、てひどき
はげしきかはり　劇變、急變、れはがはり
ばけもの(名)　化物、妖怪、老魅、魑魅、天魔、妖精、幽靈、あやしきもの
ばけものやしき　化物屋敷、妖怪宅地、ばけもののいづるいへ
はけん(形)　破綻、いざり、あしなし
はけん[する](自)　派遣、つかはす、おくる
ばけん(名)　馬莧、まひゆ(醬辨草、五行草(植物)
ばげん(名)　馬蛟、くさむし、にんざむし(動物)
ばけんじよ(名)　馬見所(競馬を觀る建物をいふ)
はこ(名)　法、のり、おきて、しかた、みち
はこ(名)　破風、搏風(家根の橫側なる棟下の三角形なる處)、はふづくりのいへのみぎひだりのむねした
はこ(名)　覇府(旗頭の城邑)、武將の都府(朝廷が鎌倉を開きし如きをいふ)
はこ(自)　這、跂、匍匐、爬行、腹行、はらばふ、はひあるく、蹣延(蔓草が地にのびる)
はこ[する](他)　播布、まきちらす、ひろめる
はぶ(或はぶじや)(名)　飯匕蛇(琉球八丈嶋などに居る海蛇よて頭を尺餘もあげて人を打つに十中八九は死すといふ)

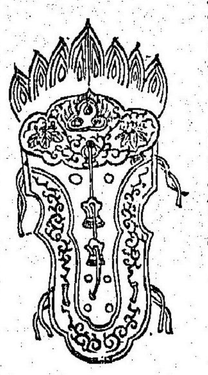
はぶ　土生(氏)
ばふ(名)　馬夫、うまかた、まご
はふい(名)　法衣(僧服をいふ)
はふいん(名)　法印(秘密の印)、また山伏(やまぶし)修驗者
はふろん(名)　法論(僧徒彼此の佛法に付ての議論)
はふど(名)　法度、おきて、はつと
はふど(名)　法度、のり、法律(はつと、をみよ)
はふと(名)　羽太(氏)
はふちこく　法治國(法律に由て治めらるる國よて擅制ならぬ者)
はふり(名)　祝、神主、神官、かんぬし、戸祝
はふり(名)　葉形、はなみ(木葉の形)
はふり(名)　羽振、はねふるひ(鳥の)、いきほひ、權勢
はふりべ　祝部(氏)
はふりその　祝園(氏)
はふりつ(名)　法律、おきて、さだめ、律法
はふりつはかせ　法律博士(學位の最も貴き者)
はふりう(名)　法流(佛法の宗派を謂ふ)
はふりうじ　法隆寺(法相宗大和國平群郡なる古刹斑鳩寺をいふ)
はふりこ(名)　祝子、かんぬし
はふりもの(名)　葬具、はふりつもの(古語)、はうむりのうつは
はふる(自)　零落、おちぶれる(古語)
はふわう(名)　法王(僧にして王權を有する者即ち羅馬法王の如きをいふ)
はふわう(名)　法皇(天子位を退きて薙髪せられたるを稱し奉る語)
はぶかれる　被省、見除、のぞかれる。りやくせらる
はふがう(名)　法號(佛教者の附する稱號)
はふがく(名)　法學(法律學をいふ)
はふがくし(名)　法學士(法律學卒業生の學位)
はふよう(名)　法用(佛事に用ふる事)
はぶたへ(名)　羽二重(光澤ある滑かなる絹の織物)、光絹、素光綢
はふだん(名)　法談、說法、をしへをとくこと、說教(佛家よいふ)
はふれい(名)　法令、法例、おきて、法律(政府の立たる規則)
はふれる(自)　零落、たちぶれる
はふそく(名)　法則、おきて、規則、さだめ
はふづくり(名)　破風造(人字の形よ棟を作りて左右よ破風を設けし家を謂ふ)
はふねん　法然(淨土宗の始祖元空の贈號)
はふら(名)　法螺(貝をいふ)
はふらかす(他)　放棄、うちすてゝく
はふらく　法樂(神佛に奉る音樂)
はふらくのまひ　法樂舞(神佛に奉る舞樂)
はふむ(名)　法務(教法上の事務をいふ)
はぶく(他)　省、減、除、のぞく、のける
はふくわ(名)　法貨(法律を以て負債償還おぎに用ふる事と許したる貨幣)
はふぐわい[俗]形)　法外、無法、むやみ、むてつぱう、あこぎ
はふくわん(名)　法官、裁判官、さばきびと、判官、判事

はぶくら(名)　剃刀、はるこがたな
はふまう(名)　法網(法律の網)、れきてのあみ
はふけい(名)　法兄、あにでし(僧徒よいふ)
はふげん(名)　法眼(僧都相當の僧位)
はふげん(名)　法言、のりのことば、道話
はふふく(名)　法服(僧侶の衣を云ふ)
はふこ(名)　這兒(這ふ形せる人形をいふ)、はひこ、又只はふごとも
はふご(名)　法語(佛法の言語)、法話、また法律語
はふてい(名)　法庭、裁判所、しらす、さばきどころ
はふでう　法條、れきて、のり、法例
はぶてこぶら(名)　梓、あづさ、ささげ(植物)
ばぷてすま(名)　洗禮、浸禮(耶蘇信者が受る洗淨の禮式)
ばふさう(名)　婆婦草、ほぎづら(植物)
はふき(名)　法規、のり、れきて、法則、さだめ
はふき(名)　法諱、戒名、法名(釋氏の諱名)
はふき(名)　法規、法則、のり、さだめ
はふぎ(名)　法義、法理、れきてのすぢ
はふみやう(名)　法名、法號、戒號、戒名(かいみやう)
はふみやく(名)　法脈(佛祖の道の相續をいふ)
はふし(名)　法師、のりのし(佛僧の稱)
はふじ(名)　法事(祖先を弔ふ佛事)
はふじ(名)　八分字(書法に言ふ)
はぶし(名)　翿(羽莖の本)
はぶし(名)　齒節、はのね
はふじろ　喰代(氏)
はふじつ　法實(除算の除する者と除せらるる者)、わるもの
はふじやう　剔成(氏)
はふしき(名)　法式、儀式、作法、さだめ、しかた
はふしゆ　法主(佛宗の主管、本願寺の主の如き者)
はふじゆつ(名)　法術、方術、魔術、まはふ
はふしん(名)　法身(佛陀の體をいふ)、のりのみ
はふじん(名)　法人(市府會社など凡て法律にて一箇人と見做したる者)
[はふじん](俗)(名)　方人、かたうど、かせい
はふしんわう(名)　法親王(落髪入道の皇子をいふ)
はふゑ(名)　法會(佛事供養の會)
はふゑのしちそう　法會七僧(講師、讀師、呪願師、三禮、唄師、散花、堂達)
はふもの(名)　昆蟲、はひあるくむし、爬蟲
はふもん(名)　法文(佛經の文句)
はふもん(名)　法問(佛法の疑問)
はふせい(名)　法制、れきて、法則
ばふん(名)　馬糞、うまのくそ
はこ(名)　箱笥、匣、函、篋、籠、いれもの
はご(名)　羽子、羽子板、胡鬼板、はねつくいた
はごいた(名)　羽子板、胡鬼板、はねつくいた
はごろも(名)　羽衣(天人等の服をいふ)、はねのころも
はごろもさう(名)　地楡、蒼草、のこぎりぐさ(植物)
はこばぬ　遲延、とどこほる、滯滯、澁滯
はこばしご(名)　箱梯子、胡梯(箱の如くに作りし梯子)
はこばせる　令運、令運搬、もちゆかする、もちさたらする。又令進歩、すすめさする

はこべ(或はこべら)(名)　蘩蔞、蘩縷、蔌、鷄腸菜、藩菜、腸斯、はくべら(植物)
はごたへ(名)　齒應(齒に當る事をいふ)、はざはり
はこだて　箱館(渡島國龜田郡にある港にして五港の一あり)
はこね　函嶺(相撲國にある上下八里の峠)
はこねいばら(名)　佛桑花、ぶつせうけ(植物)
はこねうつぎ(名)　十姉妹、錦帶花(植物)
はこねぐさ(名)　箱根草、石竟、石長生、いはふやなぎ(相州箱根山に多く產する草)(植物)
ばこうてつ(名)　馬口鐵(ブリキ)
はごく(名)　破獄、らうやぶり、破牢
はごくむ(他)　育、はぐくむ、やしなひそだてる、養育
はこや　覿姑射(仙人の居るといふ山の名)
はこや(名)　妓夫、回箱、はこまはし(絃妓に從ひて樂器を携帶する僕)
はこやなぎ(名)　白楊、やなぎのたぐひ、れはやなぎ(植物)
はこまはし(名)　回箱、はこや、妓夫
はこぶ(他)　運漕、運輸、運搬、もちかよはす、れぐる(貨物等を)
はこぶ(自)　運步、あゆむ、あるく
はこびいくし(名)　箱匠、さしものしばこづくり
はこびさう(名)　石長生(「はこねぐさ」をみよ)(植物)
はこびき(名)　箱崎(筑前粕屋郡にあり)
はこびめ(名)　鰯沙魚、さめのたぐひ(動物)
はこみ(名)　箱笥、はこがたちのみのわられるもの
はこや　法成(氏)
はふしき(名)　法式、儀式、作法、さだめ、しかた
はふしゆ　法主(佛宗の主管、本願寺の主の如き者)
はふじゆつ(名)　法術、方術、魔術、まはふ
はふしん(名)　法身(佛陀の體をいふ)、のりのみ
はふじん(名)　法人(市府會社など凡て法律にて一箇人と見做したる者)
[はふじん](俗)(名)　方人、かたうど、かせい
はふしんわう(名)　法親王(落髪入道の皇子をいふ)
はふゑ(名)　法會(佛事供養の會)
はふゑのしちそう　法會七僧(講師、讀師、呪願師、三禮、唄師、散花、堂達)
はふもの(名)　昆蟲、はひあるくむし、爬蟲
はふもん(名)　法文(佛經の文句)
はふもん(名)　法問(佛法の疑問)
はふせい(名)　法制、れきて、法則
ばふん(名)　馬糞、うまのくそ
はこ(名)　箱笥、匣、函、篋、籠、いれもの
はご(名)　羽子、羽子板、胡鬼板、はねつくいた
はごいた(名)　羽子板、胡鬼板、はねつくいた
はごろも(名)　羽衣(天人等の服をいふ)、はねのころも
はごろもさう(名)　地楡、蒼草、のこぎりぐさ(植物)
はこばぬ　遲延、とどこほる、滯滯、澁滯
はこばしご(名)　箱梯子、胡梯(箱の如くに作りし梯子)
はこばせる　令運、令運搬、もちゆかする、もちさたらする。又令進歩、すすめさする
はこし(名)　破胡紙、たらんだびゆ(植物)
はこし(名)　破故紙、いちびぐさ(植物)
はこひばち(名)　箱火桶(火鉢の形の箱の如くなる者)
はこびて(名)　運夫、運搬夫、もちはこぶひと、人足
はて(名)　果、極、終、端、をはり、はじ、かぎり、盡處
はで(形)　華美、華麗、美麗、りつぱ、はなやか
はてい(名)　波底、なみそこ、海底
はでい(名)　爬泥、くさかき
はてい(名)　馬丁、べつたう、うまをせわするしもべ
ばてい(名)　馬亭、うまごや、廐、うまや
ばてい(名)　馬蹄、ひづめ、うまのつめ
ばていかう(名)　馬蹄香、みやまぬかは(植物)
ばていさう(名)　馬蹄檀、ありさしのみぞ
ばていさう(名)　馬蹄草、ぬかは(植物)
ばていじゆん(名)　馬蹄筍、ありさしのはぞ
はてる(自)　果、をはる、又とげる
ばてれん(名)　伴天連(信長時代に來りし耶蘇教の宣教師をいふ、洋語パドレーの轉訛)、教父
ばてう(名)　馬蝶(動物)
はでやか(形)　華美、粲然、燦爛、はなやか
はですがた　艷容、美貌、冶艷、妖艷(美しく粧たる姿)
はあり(名)　羽蟻、白蟻、飛蟻、蟻飛、蟻(蟻の羽ある者)(動物)
はあく[する](他)　把握、にぎりつかむ、とる
ばあひ[俗](名)　場合、をり、とき、段、際會
ばさ[する](形自)　婆娑(舞ひ踊る貌)
はさい[する](他)　把採、とる、とりあげる、採取
はさい[する](他)　破碎、破摧、うちくだく、破壞

ばさばさする(自)　婆娑婆娑、物の濕り氣なくなる貌)
ばさつく(自)　婆娑然、ばさばさする
ばさらふう(名)　扱折羅風、しまりなきありさま、みだりなるかたち
はさむ(他)　夾挿、挟擶、摺、さしはさむ、あひだにいれる
ばさう(名)　馬槽、うまをいれ。うまぶね。うまをけ
はざま(名)　挟間、銃眼(塁壁の鐵砲うちだす孔。また(氏)間峽路、あはひ、かひ、やまあひみち
はさまる(自)　介、間、接、あひだにはいる、なかにいる
はざまぜせと(名)　間瀬戸、海峽(海の狭き所)
ばさける(自)　潑娑、ばさつく、みだれる(髪などが)
はさみ(名)　剪刀、夾剪、鉸刀、鋏、ものはさみきるうつは
はさみいれる(他)　挿入、はさみこむ
はさみばこ(名)　挟箱、挿箱、他出旅行の時衣類其他をいれて肩にかつぐ箱)
はさみばこ(名)　蝦蟇腫(耳の下の邊に生ずる腫物の名)
はさみむし(名)　捜夾子、蟷螂、蜈蚣、はさむむしのな(動物)
はさみうち(名)　挟撃、挟伐(両方或は前後より敵を攻撃すること)
はさみきる(名)　挟切、剪截、剪斷(はさみ等にてきる)。はさみてきりとる
はさみしやうぎ(名)　夾將棊、はさみてかつしやうぎ(將棊の一戯)
はさん(名)。—する(自)　破産、身代限、倒産。ぶんさんする、つぶれる
はき[する](他)　破毀、破棄、こぼつ、くだく。やぶる、とりけす
はぎ(名)　萩、芳宜草、胡枝子、隨軍荼(植物)
はぎ(名)　脛、骸、脚、腓、骸、すね、わし、もものした
はぎ(名)　馬蜣、うまひる(動物)
はぎはら　萩原(氏)
はきはき[俗](副)　明白、明瞭、はつきり。また速速、はやく
はぎとる(他)　剝奪、うばひとる、れひはぎする
はぎり(名)　歯切、齧、咬歯、はがみ、ばぎしり
ばぎぬ(名)　馬衣褐(馬にかける衣)
はきよせる(他)　掃寄、はきあつめる
はきだめ[俗]　掃溜、ごみため、ちりづか
はきだしもの(名)　排泄物、吐瀉物、はきたるもの(病人などが)
はきだす(他)　掃出(箒よてはきていだす)
はきだす(他)　吐出(口中よりもとず)
はきぞへ(名)　帶刕、わきざし、さしぞへ
はぎぞの　萩園(氏)
はぎのと　萩戸(天子の御殿にわりし戸の名)
はぎのもち(名)　萩餅、ぬはぎ、牡丹餅(食物)
はぎやぼん(名)　薄伽梵、佛陀(ほとけ)の一稱)
はきやう　破鏡、かたわれづき、半小夜やぶれかがみ
はきやく[する](他)　破却、やぶる、こぼつ
はきやく　跛脚、ちんば、びつこ、あしなへ
はぎやしき(名)　太眼雀、とりのな(動物)
はきふ[する](自)　波及、きたりてよぶ、たつする、とどく
はきき(形)　羽利、はねのつよき、いきほひある
はぎしり(名)　切歯、齦歯、はをかみならすこと(眠中等に)

はぎおり(名)　補襪、つぎあはせたるおり
はきもの(名)　履、靴、屣、鞋、くつ、わらじ、げた
ばきん　馬琴(近世第一の小説家簑笠翁の號)
ばきん(名)　馬斬、馬芹、まきん(香料の名)
はきん(名)　驛馬、傳馬宿次の馬)(「はいま」をみよ)
はゆま(名)　驛路、うまやぢ。しくつぎ、れはぢ
はゆまづかひ(名)　驛使(「はいまつかひ」をみよ)
はゆまづたへ(名)　驛傳、はやうまづたへ、はやびきやく
はめ(名)　羽目、壁板(壁と蔽ふ板)
ばめい(名)　馬鳴、いななき、嘶(馬のなく事)
はめいた(名)　壁板(「はめ」にれなじ)
はめる(他)　嵌、陷、入、さしいれる、鑲(また欺くの意に俗用す)だましこむ
はめつ[する](自他)　破滅、やぶれほろぶる。やぶりほろぼす
はめなほす　改嵌、ふたたびはめる、はめかへる
はめこむ(他)　嵌込、はめいれる。又[俗]あざむく
はめて(名)　嵌手(嵌る人)。又だまされるひと(俗用)
ばめん(名)　馬面、うまのめん(馬の面部に被らする面の假面。此圖なるは尾張國熱田神社飾具。又うまづら
ばめんよろひ(名)　馬面鎧(馬の面部に蒙らする甲の類上



はみ(名)　(「はめ」を見よ)
はみ(名)　蝮蛇、蝦、まむし(古語)(動物)
はみをけ(名)　秣櫃、かひばをけ(馬等の)
はみがき(名)　磨齒粉、はみがくこな
はみだす(自)　逼出、みちあまりてふきだす
はし(形)　愛、かはゆき(古語)
はし(名)　橋梁、橋梁、水梁、河橋、河梁、龍腰(河に架する者)。
はし(土橋)
はし(名)　嘴、喙、喙、くちばし(鳥の)
はし(名)　階作、きざはし、段
はし(名)　箸、樻、匙筯(飯食ふ等に用る二本の棒)
はし(名)　跛子、ちんば、あしなへ
はし(名)　端、はた、端緒、さき、端末
はし　土師(氏)
はじ　巴宇、ともゑもじ
はじ(名)　櫨、はじのき(植物)
ばし(名)　馬歯、うまぐは
ばし(名)　馬士、まご、うまかた
ばじ(名)　嫣兒、くわしや、いろざとのしんざう
はしね(名)　端居(椽側の隅などを謂ふ)。えんのかたすみ
はしいた(名)　橋板(橋の板)。はしをつくるいた
はしろ(形)　羽白、はねのしろき
はしば　羽柴(氏)(豐臣大閤秀吉此姓をなのれり)
はしばみ(名)　榛、かやのたぐひ(植物)
はしばみのみ　榛實
はしばし　四陲、よも、四境、よものさかひ
はじばし(名)　齒齦(齒に堅くつく食物の鹽分)、はにたまる

はしほそがらす(名)　嘴細鳥、慈鳥、からすのたぐひ(動物)
はしどみ(名)　半蔀(半分の蔀戸)
はしぢか(名)　端近、わがりはな
はしりね(名)　石泉、湧泉(水の湧出る井)
はしりどころ(名)　莨菪「らうたう」(植物)
はしりぢ(名)　血痔、ちのいづるぢのやまひ(病名)
ばしりかう(名)　松脂、蠟膏、かうやくのな(洋語)
はしりがき(名)　走書、はやがき、草書、くづしがき
はしりうま(名)　逸馬(いつば)、また奔馬
はしりくらべ(名)　競走、かけくらべ、はせきそふこと
はしりくさ(名)　丹遊瘡、丹毒(病名)
はしりしゆ(名)　徒歩衆、かちしゆ(舊幕の武人の行列の時歩行せし者をいふ)
はしりずみ(名)　爆炭、はらすみ、はねずみ、ばちばちいふすみ
はしる(自)　走奔、奔走、趨、奔、奚、爲馳、颯、驅、馳、驁、騁、いそぎゆく、はやくゆく
はしる(自)　爆炭のはねるをいふ、ばちばちいふ
はしをる(他)　端折、つまをる(衣服の裾を)、かかぐる
はしわたし(名)　橋渡、とりもち、周旋、せわ
はしか(名)　麻疹、麩瘡、糖瘡、身にふきでのする病)
はしか　稽蘇、あらぬか
はしか　初鹿(氏)
はしがかり(名)　橋掛、棧道、つくりかけみち
はしかの　初鹿野(氏)
はしがき(名)　端書、序文、引、まへがきぶみ

はじかみ(名)　薑、生姜、しやうが(植物)
はしかみうを(名)　鰕鰌、うをのな(動物)
はしかんぼく(名)　野海棠、きのな(植物)
ばしよ「俗」(名)　場所、ところ、ば
はしよく「する」　播植、まきうゑる
はした(名)　端下、崎零、小數、些少、奇、崎仂、端、半(少しの物又は足らぬ物にいふ)
はしたか(名)　鷂、鷹、箸鷹、めだか、をんなだか(動物)
はしたなき(形)　無端、仇魁、つまらぬ、とるにたらぬ
はしだて(名)　梯、はしご、階梯
はしため(名)　端下女、婢女、めのわらは、しもべをんな
はしたもの(名)　端下者、はしたなるもの
はしぞめ(名形)　黄櫨染、はしのきにてそめたる
はしづつ(名)　箸筒、はしいれ
はしづま(名)　愛妻、まなづま、かはゆきつま(古語)
はしづめ(名)　橋爪(氏)
はしなく(名)　無端、ゆくりなく、ゆゑなく。又なにとなく、われしらず、そぞろに
はしら(名)　柱、楹、樹榰(家屋屋根等を支ふる木)。又かひのはしら(貝の中に在る堅き筋の如き者)
はしらどけい(名)　柱時計、柱時辰盤、かけどけい
はしらぬき(名)　欄額、欄檻(柱にとほす横木)
はしらかくし(名)　柱聯(柱の前に掛垂れる飾物)
はしらよせ(名)　欄檻、はしらぬき
はしらだい(名)　柱臺、柱址、柱基、はしらのどだい
はしらだな(名)　棚(船の帆柱の横木)

はしらなしのはし　無柱橋、飛橋、虹橋(はねばしのたぐひ又鐵橋の類)
はしらみぞ(名)　柱線、はしらのすぢ
はしらせる(他)　令走、はやくすすませる
はしうど　間人(氏)
はしのき(名)　黄櫨、はぜのき、きいろにそめるきのな(植物)
はじく(他)　彈、とばせる(指尖等にて。又ちらす(水等を受つけぬ)
はしくわ(名)　齲歯花、むれすずめ(植物)
はしぐひ(名)　橋杭、橋の支柱をいふ、はしのはしら
はしや(形)　頗邪、ひがめる、よこしま
はしや　破邪(外道異端の邪説を論破する事)
ばしや(名)　馬車、うまぐるま
「ばしやう」　馬城、まき(氏)
ばしやうづつ(名)　馬上銃、馬上にて發つべき小銃)
はしやうふう(名)　破傷風(創口に風の入りたる病)
ばしやうさん(名)　馬上盞(別離出發の時等馬に乗り居て酒を酌み交すをいふ、うまのはなむけ)
はしやぐ(自)　干、燥、乾、かわく、ひる
ばしやく(名)　馬借、うまかし、借馬
はしま(名)　堰水中の小洲を云ふ)
はじまり(名)　初、始、濫觴、權輿、れこり(はじめ)をみよ)。又はじまるのこと、嚆矢
はじまる(自)　始、創、肇、はじめてれこる、そめる
はしけ(名)　艀、艀船、小艇、こぶね、ばしけぶね
はしける(他)　艀送(艀船にて貨物を運ぶをいふ)

はじける(自)　綻發、みちわれる、ひらく(菓等が)
はしげた(名)　橋桁、はしのうつばり
はしけやし(形)　可愛、可寵、かはゆき、めづべき、こころにくき
はしけぶね(名)　端船、艀船、艀艇、單舸、はしけ、にをはこぶこぶね
ばしけん(名)　馬齒莧、すべりひゆ(植物)
はしふ「する」(他)　爬集、かきあつめる
はしぶとがらす(名)　噪太烏、鴉、楚鳥、はしのふときからす(動物)
はしぶね(名)　端船、こぶね、ちひさきふね、小艇
はしご(名)　梯、梯子、階子、階梯、階段、はしだて
はしことば(名)　序、はしがき、書物の引
はしごのこ(名)　梯級、梯格、はしごだん
ばしこく　波斯國、ペルシヤ(亞細亞の一大國)
はしこさ「俗」(名)　伶俐、怜俐、かしこさ、すばやきこと
はしさ(形)　可愛、可寵、愛、かはゆき、はしけやし
はじき(名)　彈碁、はじきあそぶ
はじき(名)　彈機、はじくうつは。又指彈、はじくこと
はじきがね(名)　彈金、發軔(鐵炮其他の器に在るはじく具をいふ)
はじきゆみ(名)　彈弓(物はじく弓)
はしゆ　播種、たねをまく。たねまき
はしゆつ「する」(他自)　派出、つかはす。でばる
ばしゆつ(名)　馬術、馬藝、うまのりわざ
はしゆつじよ(名)　派出所、でばりどころ(巡査等の)
はしゆき(名)　播種器、たねまき(たねをまくうつは)

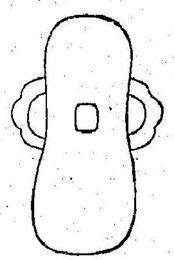
はじゆみ(名)　檀弓、はじのきのゆみ(古へ用ひし者)
はじゆん(名)　波旬(梵語にて惡魔をいふ)
はじめ(名副)　始、初、肇、創首、甫肇、元、甲、最初、いやさき。元始、權輿、濫觴、草創、はじまり。噺矢
はじめをはり　首尾、始終、あとさき
はじし(名)　元年、初年
はしもり(名)　眼肉(ぎんにく)、はぐきのにく
はしん(名)　橋梁、橋番(はしばん)
はえ(名)　把針、はりしごと、ぬひはり。ねはり
はえ(名)　蠅、蚋、蚋、蚋、蠅、うをのな(動物)
はえ(名)　暗殲、飢殲、危殲、浮殲、かくれいは
はえる[する](他)　破壞(はくわい)、やぶる、こはす。やぶれる
はえる(自)　爪、日蝕、ひがつきにかげらされてくらくなる、につしよくになる
はえる(自)　榮、さかえる、できはえある
はえなき(形)　生、生出、苗出、發生、めをだす、しやうずる
はえある(形)　無榮、無映、できばになき、さかえなき
有榮、ほまれある、さかえある、できばえある
はえざがる(自)　生下、はえたれる、ねひさがる、生垂
はえぎは(名)　髮際、かみのけのはえぎは、けきば
はえん[する](自)　把線、すがる、つかまる、とりつく
はひ(名)　蠅、はへ、うじのくわしたるもの(胡蝶動物)
はひ(名)　灰、あく、もにがら(木などの)
はび(名)　罷日、奇日、はしたび(一三五等の日をいふ)

ばひ(名)　馬糞、馬勃、めつぶれだけ(植物)
はひいろ(名)　灰色(灰の如き色)
はひいでる(自)　這出、匍匐出、はひてでる
ばびろん　巴比倫(亞細亞の舊大國の名)
はひはらひ(名)　蠅拂、拂塵、塵尾、はつすのたぐひ
ばびほう(名)　馬尾蜂、うまのをばち、此圖は馬尾蜂の雌にして雄には尾なし)
はひべや(名)　灰屋、はひいれどころ
ばひとりがち[俗](名)　奪取勝、せりあひどり
はひとりぐも(名)　蠅取蜘蛛、蠅虎、蠅豹(動物)
ばひとる(他)　奪取、うばひとる
はひちやう(名)　蠅帳、碗碟櫃、花染、はひよけとだな
はひおとし(名)　灰承、はひうけ
はひれし(名)　香鉢(火具)、はひならし
はひわたる(自)　蔓延(蔓草が)、はひのびる
はひたたき(名)　蠅拍、はひうちころす
うつは(器の名)
はひならし(名)　灰均(火鉢の具)
はひむし(名)　豕、はふむし、昆蟲、はふもの
ばびうん(名)　馬尾雲、わまぐも(雨雲)
はひのぼる(自)　這登、匍登、匍上、はひ

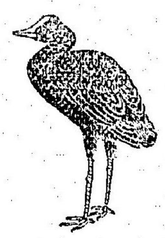
(馬尾蜂の圖)

わがる
はひのぼらず(名)　伏牛花、へびのぼらず、とげあるさのな(植物)
はひのこ(名)　蚘、はひうじ、うじ(動物)
はひのき(名)　山蠶(植物)
ばひくび(名)　奪頸、うばひくび
はひまつはる(自)　蔓纏、絡繞、蔓絡(蔓絡、からまる、蔓纏、絡繞、蔓絡(蔓絡、からみつく
はひまゆみ(名)　杜仲きのな(植物)
はひげ(名)　顋毛、頰黑毛、はひいろのけ
はひけし(名)　香鉢、火鉢、はひたし(器具)
ばひふう(名)　馬脾風(病名)
はひふき(名)　灰吹、唾壺、金餅、すひがらはたき、つばきするうつは
はひふき(名)　灰吹、再煎銀(中古通用せし貨幣の名)
はびこる(自)　橫行、わしわるく(盜賊等が)跋扈、强梁、ねばる
はびこる(自)　蔓延、ふえひろがる
はびこる(自)　漫、滔、彌漫、ひろがる、蔓延
はひこむ(自)　這込、匍入、はひいる
はひわがる(自)　這上、はひのぼる、よぢのぼる
ばひわふ　奪合、相奪、うばひわふ
はひしば(名)　黃芩、はひひらぎ(植物)
はひひらぎ(名)　黃芩、わうこん、はひしば(植物)
はひびやくし(名)　檜矮檜刺柏、ひのきのたぐひ(植物)
はひびしやく(名)　灰柄杓、灰杓子、はひしやくひ
はひずみ(名)　灰墨、掃墨、くろきねりずす(煤等にて作れる)
はも(名)　鱧、鱶鰐、海鰻、文魚、うをのな(動物)
はもと(名)　齒根、齒本、はぐき、齦
はもの(名)　刃物、釰、きれもの
はものし(名)　刃物師、きれものづくり、こがたなつくるひと
はもん(名)。—する(他)　破門(師弟の緣をきるをいふ)
はもん[する]　破悶、れもひをやる(欝を散ずる)
はせ　長谷(氏)
はせ(名)　沙魚、濱沙魚、沙溝魚、鰕虎魚(動物)
はせ(名)　葩煎、白花米糅、いりごめ、烘米糕、蒸搾、糯米花
はせ(名)　通泉草、さぎごけ(植物)
はせい　霸政(頼朝の爲せし如き武門政治を云ふ。又權道を行ふ政府)
ばせい(名)　馬鷿、ひしご、鯷(動物)
はせべ　長谷部(氏)
はせちがふ　馳違、かけちがふ(兩騎馬武者等が)
はせる(自)　馳、驟、駈、駻、かける(馬にて)
はせる(自)　走、奔、かける(足にて)
はせる(自)　爆、ひらく(米等が火にて)。罅發、爆、われる
はせを(名)　芭蕉、ばせう(植物)
はせがは　長谷川(氏)
はせかへす(自)　馳返、かけもどる(馬にて)
はせよる(自)　馳寄、かけちかづく(馬にて)。奔近
はせたま(名)　爆彈、破烈彈(大砲の)、われるたま
はせつく(自)　馳付、かけつける(馬にて)。奔到(足にて)
はせむかふ(自)　馳向、かけむかふ(馬にて)。奔向(足にて)

ばせう(名)　芭蕉子仙、甘松、線天扇、ばせを(植物)
はせうるし(名)　白膠木、ぬるで(植物)
ばせうふ(名)　芭蕉布、蕉紗、蕉褐、ばせうぬの
はせのき(名)　報馬樹、黄櫨、はじのき(植物)
はせぐさ(名)　馥精草、蕺星草(植物)
はせまはる(自)　馳廻、駈回、かけめぐる(馬にて)
はせあつまる(自)　馳集、かけよる、かけつどふ。奔集
ばせき[俗](名)　場席、場所、へや、ま
はせきたる(自)　馳来、かけくる(馬にて)。奔来(足にて)
はせめぐる(自)　馳廻、はせまはる。走廻
はせひき(名)　磬控(馬の動止を云ふ)
はせもの(名)　挟物、はさみもの
はせん[する](他)　筮占、あふりやう(押領)
はせん(名)　葩煎、はせ、いりごめ(煎米)
はせん(名)　波線、なみすぢ(波の動く形なる線)
はせん(名)。—する(自)　破船、難船、難破船の海上に破るるをいふ)
ばせん(名)　馬癬、しろなまづ
ばせん(名)　馬氈、馬幾、馬鞦、したぐら、くらしき(此圖なるは尾張國熱田社飾馬具)


(馬氈の圖)

はす(名)　鯖鮓(動物)
はす(名)　蓮、はちす、荷、芙蕖、芙蓉、れんげ、蓉芸(植物)
はす(名形)　斜、なゝめ、よこすぢかひ
はす(名)　弼、括弓の絃かくる所、ゆはず。筈、やはず、やのはずめし(名)　荷葉飯(蓮芽に和したる食物)
はずみ(名)　機(「はづみに同じ)
はん[俗](名)。—する(他)　判(印形を云ふ)印。わかつ、分別、わける、さだめる
はん[する](他)　頒、わかつ、くばる
はん(名)　料、こごめもち
はん(名)　畔、くろ、あぜ(田界をいふ)
はん(名)　丼、けがれをんな(月經の女)
はん[する](自)　反、そむく、叛、むほんする
はん(名形)　半、なかば、半分。奇(奇數をいふ)
はん(名)　飯、めし(食物)
はん(名)　蘆(諸侯大名をいふ、王室に對すれば也)
はん(名)　版(文字と刻みたる板)
ばん(名)　麺包、白麺麥粉をねりて焼たる者(食物)
ばん(名)　鷭、梅首鶏(ばいしゆけい)(鳥類動物)
ばん　伴(氏)
ばん(名)　盤、扁(平盤將棊盤の類)


(鷭の圖)

ばん(或まん)　萬、よろづ(十千をいふ)
ばん(名)　晩、日暮、ひくれ
はんね(名)　範圍、かこひがき、區域、かぎり
ばんい(名)　蠻夷、にひす、夷狄
ばんいぬ(名)　番犬、守犬、まもりいぬ
はんいつ[する](自)　般遊、あそびとる、遊般
はんいう[する](自)　煩憂、もだへうれふる

はんいん[する](自)　汎淫、ほしいままにする、をごりにふける
はんいんやう(名)　半陰陽、ふたなり、陰陽人、はにはり、をとこをんな
はんろ(名)　斑驢、しまうま(亞非利加の産)(動物)
はんろ(名)　坂路、さかみち、坂
はんろう(名)　樊籠、かご、とりかご
はんろう[する](他)　絆籠、はだす、つなぐ、縛繋
はんろさう(名)　蟠露草、落葵、つるむらさき(植物)
はんば(名)　半端、はした、なかば、半途
はんば(名)　班馬、ぶちごま(動物)
はんば(名)　斑馬、ぶちごま(動物)
はんばい[する](名)　販賣、うりひさぐ
はんばかま(名)　半袴(肩衣の下に着る服)、みじかばかま
はんばつ(名)　斑髪、しらがまじりのかみ、しもふりがみ
はんばつ(名)　藩閥(藩格の高き者を謂ふ)
はんはう(名形)　半烹、なまにえ
ばんばう　萬方、よろづのかた
はんばう(形)　繁忙、いそがはしき、多忙
はんはく[する](自)　槃礴、あぐらかく、箕坐
はんはく(形)　凡百、すべての、あべての、ねほよそ
はんばく[する](他)　反縛、うしろでにしばる
はんばく(形)　頒白、しらがまじり(頭髪の黒白相半するをいふ)
はんばく[する](他)　絆縛、つなぎしばる
ばんばく(名)　蕃舶、えびすぶね、夷國船
ばんばく(名)　蠻貊、えびす、夷狄、野蠻

はんばくさう(名)　翻白草、委陵菜、かはらさいこ、みつばさいこ、うまのみつば(植物)
はんはん(副形)　盤盤(たちもとほる貌)、ゆきかふ
はんはん(俗)　半半(物の二つ割をいふ)、藩知事
はんはん(形)　畔犯、わがまま、ほしいまま
はんはん(副形)　翻翻(鳥等のまひかける貌)
ばんばん(名)　萬般、諸般、すべての、よろづの
ばんばん(名)　晩飯、ゆふげ、ゆふめし
ばんばん(形副)　番番、たけき、いさましき
ばんばん(名)　幷轡、けがれたるをんな、めぐりあるをんな、月經婦
ばんばん　萬萬(數甚衆きをいふ)、ちよろづ(副なにとぞ、けっして
はんにち　半日(一日の半分)
はんにや(名)　般若(梵語にて知慧の意)
はんにやたう(名)　般若湯(僧家にて酒をしか名く)
はんにやのめん　般若面(或盤女面と書く、能舞に用ふる者にて其形鬼に似たり)
はんにやきやう　般若經(佛經の名)
はんにん(名)　判人(保證人を云ふ即ち判を押せし人の義)
はんにん(名形)　判任(官吏最下級の名)
はんにん　半人(工人の半日手間をいふ)
ばんにん　萬人、よろづのひと、衆人諸人
ばんにん(名)　番人看守、みはり、まもりて
はんぱ(名)　反哺(烏が食物を親烏に報い反へすをいふ)
ばんぱ(名)　蠻苺、ねらんだいちご(植物)
ばんぱ(名)　晩暮、ひくれ、ゆふがた
ばんぱう　萬邦、よろづのくに
はんぱく[する](自)　翻踣、ころぶ、たふるる
はんぱく(名)　藩牧(一藩の主をいふ)、藩知事
はんぱん(名)　板本、印本(梓に鐫めたる書籍)、すりまき
はんぱん(名)　翻本(ほりなほしぼん)、再板書
はんぺい(名)　藩屏、かき、いしがき(守護の意に用ふ)
ばんぺい(名)　番兵、守兵、哨兵、まもりのつはもの
はんべる(自)　侍陪、はべる、つかふる、さふらふ
はんべつ[する](他)　判別、わかつ、さばきわくる
はんへう[する](自)　汎漂、うかむ、かるくながる
はんへんれん(名)　半邊蓮、はたけむしろ、くさのな(植物)
はんへんさい(名)　半邊菜、かはちさ、くさのな(植物)
はんと　半途、なかばみち、中途、なかごろ、中道
はんと(名)　版圖、みづちやう、版籍、戸籍簿。又りやうぶん、りやうち
はんと[する](他)　反吐、はきもどす、はきかへす
はんと(名)　欒土(藥品)
ばんど(名)　花盆、石盆、盆窠、磁斗、陶盎、せきだい、うゑきばち、栽盆
ばんどり(名)　鸛、水鷄、方目、雁奴、骨頂、紅冠、少甲鳥(動物)
はんとりちやう(名)　判取帳(商家にて取引先の印章を取る帳簿)
はんとう(名)　反討、かへりうち(讎人を擊んとして反つて己自ら殺さるる事をいふ)
はんとう(名)　斑頭(黒白相半する頭髪)、しらがまじりのかしら
はんとう(名)　斑豆、うづらまめ(植物)

はんどう(名)　盤銅、わかがねだらひ
はんどう(名)　反動、うごきかへし、ゆりかへす、うちかへす
はんどう(名)　飯桶、めしをけ、めしびつ
ばんどう(名)　番頭、伴頭(商家の手代)
ばんどう(名)　晩冬、臘月(陰暦十二月をいふ)
ばんどう(名)　坂東、あづまぢ、關東
ばんどううち(名)　坂東打(關東にて作る打紐の名)
はんどく　梟特(釋迦の弟子にして最も愚なりし人)
はんどく(名)　煩毒、なやみ、くるしみ
はんちつ(名)　班秩、つかさぐらゐ、官位
[はんちう](名)　反忠、かへりちう(主君に反きて敵に內應する事をいふ)
はんちう[する](他)　飜注、こぼしそそぐ、そそぎかくる
はんぢう(名)　飯頭(佛家にて飯を主る者を云ふ)
はんちく(名)　斑竹、しまだけ(植物)
ばんちや(名)　番茶、めしきちや、柯茶、山茗、村茗(植物)
ばんちやう(名)　番長(番兵の長官)
はんちじ(名)　藩知事(舊大名諸藩の長官を然か呼べり)
はんちん(名)　藩鎭(昔し大名を然かいへり)
はんり(名)　藩離、まがき、かきね、又まもり
はんり[する](自他)　煩慮、わもひわづらふ
ばんりよ(名)　伴侶、とも、つれ、なかま
はんりよう　蟠龍、わだかまれるたつ
はんりやう　半両(貨幣の名)、また一兩の半(貨幣或は量目の)
ばんりやう(名)　晩涼、ゆふすずみ、ゆふくれのすずしさ
はんりふ(名)　飯粒、いひぼ、めしつぶ
はんりん　半輪、かたわれづき、半月
はんる(名)　繁縷、ひめはこべ、はこべら(植物)
はんるゐ(名)　煩累、うるさきこと、わづらひ
ばんるゐ(名)　伴類、つれ、とも、なかま
はんを[する](自)　煩嘔、むかつく、むかむかする、むねわるくわる、はきたくなる
はんれう(名)　反應、うらぎり、かへりちう
はんわけ[俗](名)　半配(物を二つ分けにすること)
はんか(名)　藥蘭、薄荷、菱蘭、はくか(植物)
はんか　半價、はんね(半直)、はんぶんのねだん
はんか(形)　半可、なかばよき、かなりの
はんか(形)　煩苛、わづらはしき
はんか(名)　藩架、ませがき
ばんか(名)　晩霞、ゆふがすみ、くれあひのかすみ
ばんか(名)　蕃瓜、おかなす(植物)
ばんか(名)　挽歌(柩を挽く時の歌)、喪歌、哀歌、のべくりのうた、とむらひうた
ばんか(名)　晩夏(酱の六月)、なつのすゑ
はんかい(形)　半開(花或國の半ば開きたるを謂ふ)
ばんがはり(名)　番代、かはりがはり
はんがりい　匈牙利(歐羅巴洲の一國にして今は墺國と合并す)
はんがわき[俗](形)　半乾、なかばかわきたる、はんひ
はんかつう(形)　半可通(稍粹なると謂ふ)、いくばくかひらけたる
はんかう[する](他)　板行、版行、印行(出板するをいふ)

はんかう[する](他) 煩行、わかつ(世の中に)
ばんかう 萬考、いろいろかんがへる
ばんがう(名) 晩稲、おくて、たそいね(植物)
はんがう(名) 番號、かずじるし
はんかうや(名) 版行屋、版木屋、はんぼるいへ、彫刻師、ほりものし
はんかく 半額、なかばのかさ、はんぶんのかさ
ばんがく(名) 晩學(年老て學問を始る事)
はんかざ 半跏坐(如來の如くにあぐらかきて坐するを云ふ)
ばんがしら(名) 番頭(昔しの役名)
はんかん(名) 藩干(かきになりてまもること)、藩屏、まもり
はんかん(名) 反間、まはしもの、離間策、てきをまどはすはかりごと
はんがん 反眼、めをむきだす(怒る貌)
はんよ(名) 板輿、いたごし
はんよう 繁用(用事の多き事)、多事、多用、多忙
はんよう(形) 凡庸(ぼんよう)、なみなみ、よのつね(人に言ふ)
はんた(形) 繁多(用の多き)、いそがしき
はんた(名) 癍痣、きづあと(腫物の痕)
はんだ(名) 徼怪我人等をのする具、かご、徼輿
はんだ 畔田(氏)
はんたい(名) 盤帶、かはねび
はんたい(名形)—する(他) 反對、敵對、さからひ。うらうへ。さからふ。あひもとる
はんだい(名) 飯臺、食臺(數人相並んで食ふ可き長き食卓)
ばんたい 萬態、さまざまのかたち、いろいろのありさま
ばんだい(名) 番臺、みはりだい(浴室等の)
[ばんだい](名) 番代(ばんがはり)。かはりがはり
ばんだい 萬代、よろづよ、萬世
ばんだい(名) 盤臺、わささかなをけ(魚屋か擔ひあるく極めて淺き桶樣の器)
ばんだいづら[俗] 盤臺面、ひらたきかほ、みにくきつら
ばんだいふへん 萬代不變、いつまでもかはらぬ、萬世不易
はんだたみ(名) 半疊、はんでふ、ちひさきたたみ
ばんたらう[俗] 番太郎(辻番人また穢多の類をいへり)
ばんたう(名) 晩稲、おくしね、おくて(植物)
はんたう(名) 半島(大陸に地續きなる島)
ばんたう(名) 伴黨、なかま、くみ、くみあひ、夥黨
ばんだて(名) 番立(順番を定め列する事)、じゅんだて
はんだん(名)—する(他) 判斷、かんがへわけ。かんがへとく、かんていする
ばんたん 萬端、よろづのはし。もろもろ萬般
はんれい(名) 凡例、おほよそのさだめ、きめ、規則
はんれい 半嶺(山の半腹を云ふ)
ばんれいし(名) 蕃茄子、おかなす(植物)
はんれつ(名) 班列、つら、くみ、ならび、くらゐ
はんれき 頒曆(曆を國中に頒つをいふ)
ばんそつ(名) 番卒(番兵に同じ)
はんぞう(名) 半盤、こだらひ、はんぎり

ばんそう(名) 伴僧(下役の僧)
はんそく(名)。—する(自) 反側、ねがへり。うらがへり。ころげる、ねがへる。うらがへる
はんぞく(名) 叛賊、むほんにん(謀叛人)
ばんづけ(名) 番附(番號の記載。また演劇、相撲等の役割書)
はんねつ(名) 煩熱、ほめき、ほとぼり。わづらひ
はんねん 翻念、れもひなほす、こころをひるがへす
はんねん(名) 煩念、れもひわづらひ
はんねん 半年、はんとし(一年の半分)
ばんねん 晩年、老年、れひたるとし
はんねんくわ(名) 半年花、さるすべり(植物)
ばんねんせい(名) 萬年青、れもと(植物)
はんながぐつ(名) 半長靴(脛なかば迄いたる靴)
はんなふ 半納(年貢等を半分納むるを謂ふ)
ばんなんくわ(名) 番南瓜、かぼちや(植物)
はんら(名) 飯羅、いがき、めしざる
ばんらい(名) 晩來、くれがた
はんらう(名) 煩勞、繁勞、ほねをり、はたらき、苦勞
はんらん(形) 斑爛、まだら、ぶち
はんらん[する](自) 氾濫、わふれる
はんむ 繁務、煩務、しげきつとめ、多用
はんう[する](自) 盤紆、まはりまつはる
はんうつ(形) 煩鬱、むなぐるしき。ねぐるしき
はんのき(名) 榛橿、榛、赤楊、はりのき(植物)
はんく 半工(大工の手間に云ふ)半人
はんくわ(形) 繁華、にぎやか
はんぐわ(名) 瓲瓦、かはら
はんくわ 晩花、れそざきばな(草木の花の)
ばんくわ 晩瓜、おをうり、れそうり(植物)
ばんくわ(名) 蠻瓜、へちま(植物)
はんくわい[する](自) 翻悔、くいあらためる悔悟
ばんくわい[する](他) 挽回、ひきかへす、ひきもどす(衰運沈淪等を)
ばんぐわい(形名) 番外(議會にて議員の番號の外の椅子に坐するを謂ふ、知事が府縣會に於て爲すが如し)
はんくわく[する](他) 盤獲、さがしとらへる
はんくわん(形) 畔換、わがまま、ほしいまま
はんくわん[する](自) 盤桓、たちもとほる
はんぐわん(名) 判官、裁判官(また昔の官名)
はんくつ[する](自) 蟠屈、わだかまる(大蛇大木等が)
はんぐつ(名) 半靴、半沓、みじかぐつ
はんくう(名) 半空、なかぞら、中天
はんぐん 班軍、いくさをかへす、班師(軍勢を還し退くるを謂ふ)
はんや(名) 半夜、よなか、中夜
ばんや(名) 斑枝花、瓊枝、朶婆(綿の如き物を出す臺草。また同草の出す綿)
ばんや(名) 麵包屋、麵包師(パンを拵へる者)、ばんやき
ばんや(名) 番屋、ばんごや、みはりどころ
[ばんま](名) 挽磨、ひきうす
はんまい 半枚(一枚の半分)
はんまい(名) 飯米、めしごめ(日用の米を云ふ)、扶食(ぶしき)

はんげ(名)　半夏、からすびしやく、ほそくみ、守田草、地文草(植物)
はんけい(名)　反景、ゆふかげ反晷、にしび
はんけい[する](他)　絆繫、しばりつなぐ
ばんけい　萬頃(田地の大なるをいふ形容の詞)
はんけい(名)　晩景、ゆふかげ、ひぐれ、たそがれ、黄昏
はんけつ[する](自)　蟠結、わだかまる、とぐろまく
はんけつ[する](他)　判決、とりさばく、さばきする
はんげつ　半月、かたはれづき、ゆみはりづき。又はにわり、ふたなり
はんけう(名)　反橋、そりはし、蹴橋、はねかへれるはし
はんげき(名)　反撃、かへりてうつこと(敵を打たんとして反つて先きを撃たるるが如き事をいふ)
はんげき(形)　繁劇、せわしき、いそがはしき、多忙
はんげしやう(名)　三白草、かたしろぐさ(植物)
はんげしやう(名)　半夏生(夏月半夏の生ずる頃の時節を謂ふ)
はんけん[する](他)　頒獻、わけてささげる
はんけん(名)　範憲、のり、おきて、さだめ
はんげん　半減(なかばへること或へらすこと)
はんふ(名)　犯婦、みだりなるをんな、まをとこするをんな
はんぷ[する](他)　頒布、わかつ(法令等を)
はんぷ(名)　帆布、ほぬの、ほもめん(帆木綿)
はんぷ(名)　叛附(貴紳等に親み依附するを謂ふ)
はんぷ(名)　斑布、さらさ

はんぷ(形)　繁廡、しげき、いそがはしき
ばんぷつ　萬物、よろづのもの、森羅萬象
はんふう(名)　癍風、なまづ(病名)
ばんふう　半風、疋、しらみ(動物)
はんふう　晩風、ゆふかぜ。よかぜ
はんぷく　半腹、半嶺、山腰、半山(山の傍の半をいふ)
はんぷく(名)。—する(他)　反復、反覆、うらがへり。ひるがへる。くりかへす
ばんぷく　萬福、多福、ほくのさいはひ
ばんぷぶたう　萬夫無當(誰も敵對し得る者なきをいふ)
はんぶん(名)　半分、なかば(物を二つ分ちたる其一半)
はんこ[する](自)　跰、跨またがる、ばだかる
はんこ[する](他)　反顧、かへりみる
はんご(名)　反語、さかごと(言語を逆に遣ふ事)。又うらうへのことば、うらをいふこと
はんご[する](他)　落護、かきになりてまもる、藩屏
ばんご[する](他)　伴護、つきそひまもる
ばんこ　萬戸、よろづのいへ、萬家。また萬の戸數
ばんこう(名)　永久
はんこう(名)　帆杠、ほげた(船の)
ばんこう(名)　欒紅、べにがら、たんがら
ばんこうくわ(名)　番紅花、さふらん(消夫藍(植物)
はんこく[する](他)　翻刻、再刻、ふたたびほる(版本に言ふ)
はんごく(名)　反獄、らうやぶり、破獄
ばんこく(名)　晩刻、ゆふこく、ひぐれ
ばんこく　萬國、よろづのくに、諸國

ばんこく(名)　番國、えびすぐに
ばんこくこうはふ　萬國公法(各國交渉を整理する一般の律法)
ばんごや[俗](名)　番小屋、ばんや、守舎
ばんこやき(名)　萬古燒(陶器の一種)
はんこん(名)　瘢痕、きずあと
はんこん(名)　盤根、いりくみたるね(樹木の)
はんごんかう(名)　反魂香(香の名)
はんごんさう(名)　反魂草、劉寄奴草、れにのしこぐさ(植物)
はんこんさくせつ　盤根錯節、いりくみたるね及くみあひたるふし(世事の困難に嘗へ用ふ)
ばんてい(名)　番隊、番人、まもりて
はんてい(名)　藩邸(舊大名のやしき)
はんてい(名)　半梯、はんばしご(小梯の名)
はんてい[する](他)　判定、わかちさだめる
はんてい(名)　板梯、はこばしご
はんでう(名)　斑條、すぢ(衣服の縞等の)。又ふ
はんでふ(名)　半疊、はんだたみ
はんてぶくろ(名)　半手袋。また半韝
はんてん(名)　半纏、半袴衣(短上衣)
はんてん(名)　半天、なかぞら、中天
はんてん[する](自)　反轉、まろぶ、ひるがへる。そりかへる
はんてん(名)　盤纏、ろよう、たびのつひえ
はんてん[する](他)　盤點、しらべる
はんわい(名)　汎愛、ひろくいつくしむこと、博愛
はんわう(名)　煩悩、わづらひ、うれへ、もだへ

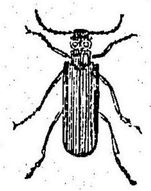
はんぶ(形)　繁廡、しげき、いそがはしき
ばんぶつ　萬物、よろづのもの、森羅萬象
はんふう(名)　癍風、なまづ(病名)
はんふう　半風、疋、しらみ(動物)
ばんふう　晩風、ゆふかぜ。よかぜ
はんぷく　半腹、半嶺、山腰、半山(山の傍の半をいふ)
はんぷく(名)。—する(他)　反復、反覆、うらがへり。ひるがへる。くりかへす
ばんぷく　萬福、多福、ほくのさいはひ
ばんぷぶたう　萬夫無當(誰も敵對し得る者なきをいふ)
はんぶん(名)　半分、なかば(物を二つ分ちたる其一半)
はんこ[する](自)　跰、跨またがる、ばだかる
はんこ[する](他)　反顧、かへりみる
はんご(名)　反語、さかごと(言語を逆に遣ふ事)。又うらうへのことば、うらをいふこと
はんご[する](他)　落護、かきになりてまもる、藩屏
ばんご[する](他)　伴護、つきそひまもる
ばんこ　萬戸、よろづのいへ、萬家。また萬の戸數
ばんこう(名)　永久
はんこう(名)　帆杠、ほげた(船の)
ばんこう(名)　欒紅、べにがら、たんがら
ばんこうくわ(名)　番紅花、さふらん(消夫藍(植物)
はんこく[する](他)　翻刻、再刻、ふたたびほる(版本に言ふ)
はんごく(名)　反獄、らうやぶり、破獄
ばんこく(名)　晩刻、ゆふこく、ひぐれ
ばんこく　萬國、よろづのくに、諸國

ばんこく(名)　番國、えびすぐに
ばんこくこうはふ　萬國公法(各國交渉を整理する一般の律法)
ばんごや[俗](名)　番小屋、ばんや、守舎
はんこや(名)　萬古燒(陶器の一種)
はんこん(名)　瘢痕、きずあと
はんこん(名)　盤根、いりくみたるね(樹木の)
はんごんかう(名)　反魂香(香の名)
はんごんさう(名)　反魂草、劉寄奴草、れにのしこぐさ(植物)
はんこんさくせつ　盤根錯節、いりくみたるね及くみあひたるふし(世事の困難に嘗へ用ふ)
ばんてい(名)　番隊、番人、まもりて
はんてい(名)　藩邸(舊大名のやしき)
はんてい(名)　半梯、はんばしご(小梯の名)
はんてい[する](他)　判定、わかちさだめる
はんてい(名)　板梯、はこばしご
はんでう(名)　斑條、すぢ(衣服の縞等の)。又ふ
はんでふ(名)　半疊、はんだたみ
はんてぶくろ(名)　半手袋。また半韝
はんてん(名)　半纏、半袴衣(短上衣)
はんてん(名)　半天、なかぞら、中天
はんてん[する](自)　反轉、まろぶ、ひるがへる。そりかへる
はんてん(名)　盤纏、ろよう、たびのつひえ
はんてん[する](他)　盤點、しらべる
はんわい(名)　汎愛、ひろくいつくしむこと、博愛
はんわう(名)　晩櫻、おそざくら(植物)
はんわん(名)　翻案(「はんあん」をみよ)
ばんわん(名)　晩晏、ひくれ、たそがれ。晩闇、ゆふまぐれ
はんさ(形)　繁瑣、くだくだしき、わづらはしき
はんさ[する](他)　盤査、しらべる
はんざ　半座、なかばのざ、ざはんぶん
はんざ[する]　反坐、かへりつみせらる(人を告訴して自ら其罪に陷るを謂ふ)
ばんさ(形副)　磐姿(をどる貌)
はんさい(名)　半齋(佛家の謎夜を謂ふ)
はんさい(名)　燔祭、やきぞなへもの(犠牲を火に燒て神に供ふる者)
はんざい　犯罪、つみ、とが
ばんさい(名)　坂西(關西に同じ)、西國
ばんざい　萬歳、よろづとし、萬年
ばんざいとよぶ　呼萬歳(帝王などよ對して祝意を表する詞)
ばんざいのはた　萬歳旗(天子の卽位にたつる旗をいふ)
はんさいのれび(名)　斑犀帶、いしのをび
はんざは　榛澤、はりさは。半澤(氏)
はんざつ(形)　繁雜、煩雜、いりくみたる
はんざつ(名)　斑霜、はだれしも
はんざう[する](自)　煩躁、もだへる、煩悶、むねくるしくれもふ
はんさうかう(名)　絆創膏、きずよはるかうやく(藥名)
はんさく[する](自)　盤錯、いりくむ
はんざふ(名)　半挿、匜、撥、嘴口盂、たらひ

はんざし(名)　箸則(小刀を謂ふ)
はんさん(名)　半産(胎児が中途よて流産すること)、小産
はんさん(形副)　槃姍(ひもとほる。たちもとほる)
はんざん　半山、やまなかば、やまはんぶん
ばんさん(名)　晩餐、ゆふめし、夕飯
はんさん(名)　晩蠶、なつご(動物)
はんき(名)　飯櫃、めしびつ、いひびつ
はんき　半期、半季(一期の半を云ふ)
はんぎ(名)　板木(字を刻める板)、梓木
ばんき　萬嬉、よろづのさいはひ、萬福
ばんき　萬機、よろづのことがら、よろづのまつりごと
はんぎり(名)　半切、半桶、こだらひ。おさきをけ、はんざふ
はんぎょ(名)　斑魚、とらふぐ(動物)
はんぎょ(名)　板魚、ひらめ(動物)
はんきよく[する](自)　反曲、そりまがる
はんきれ(名)　半切、矮紙(書簡紙をいふ)、尺牘紙
はんきゅう　半球(地球の半分)
はんきう(名)　半弓(半分の小弓)
はんきう(名)　斑鳩、いかるが、じゆずかけばと、よそじば
と、まめうまし、つちくればと(動物)
はんぎう(名)　斑牛、まだらうし(動物)
はんぎう(名)　燔牛、あぶりうし、やきうし
はんきうけい　半球形、かたわなり、半圓形
はんぎや[俗](名)　板木屋、彫工、印刻師
はんぎやう(名)　判形、印影、いんぎやう
はんきやく(他)　帆脚、ほあし

はんぎやく(名)　煩逆、むかつき、はきけ
はんぎやく(名)　叛逆(ほんぎやく)、反逆、むほん(謀反)。そむき
はんぎし(名)　板木師、はんぼり、彫刻師
はんきん(名)　煩襟、ものおもひ、煩慮
はんきん　繁勤、しげきつとめ
はんきん　半金(金高の半額)
ばんきん(名副)　輓近、ちかごろ、近時
ばんきん(名)　版金、こばん
はんめい(名)ー[する](自)　反命、かへりごとまをし復命。へんじをまうしあげる
はんめう(名)　斑猫、虻青(此蟲翼上に綠色の線有りて甚だ惡臭を帶び常に木葉を食とす)
ばんめし[俗](名)　晩飯、ゆふめし、夕飯

(斑猫の圖)



はんめん　半面、かたおもて
はんめんのしき　半面之識、すこしのしりあひ
はんみち　半里(一里の半)、また半途、中途
ばんみん　萬民、よろづのたみ、衆庶、庶民
はんし(名)　藩士(大名の家臣)、藩臣、さむらひ
はんし(名)　飯筒、めしびつ、めしかご。飯櫃
はんし[する](他)　頒賜、わかちたまふ
はんし　班師、いくさとかへす(軍勢を還し退る也)
はんし(名)　反歯、そっぱ、そりたるは
はんし(名)　板歯、むかば、まへば
はんし(名)　半紙(中形の紙の名)

はんし　半死、なかばしにたる、半生
はんし(名)　半子、むこ、婿
はんし　半時(一時間の半即ち三十分)、片時、かたとき
はんし(名)　判事、さばきやく、裁判官、判官
はんじ　半字(一字の半分)
ばんし(名)　挽詩(送葬の詩)、挽歌、ひつぎうた
ばんし(名)　蠻柿、さんごじゅなすび(植物)
ばんし　萬死(大危急を謂ふ)、九死
ばんじ　萬事、よろづのこと、諸事
はんじり(名)　半尻狩衣を謂ふ)
はんじる(他)　判、かんがへわかつ(夢等を)、とく、かんがへる
はんじょ(形副)　斑如(たちもとほりてすすまぬ貌)
ばんしょ(名)　番諸(番鶏、あかいも、さつまいも、からいも、りうきういも(植物)
ばんしょ(名)　番所、みはりどころ、見番
ばんしょ　萬緒、よろづのことがら、萬端
はんしょう(名)　半鐘、ちひさきつりがね
はんしょう(名)。ー[する](他)　反證(反對の證據)、同上する
はんじょう(名)　絆繩、たづな、つなぎなは
はんじょう(形)　繁冗、煩冗、わづらはしき、むだ
はんじょう(名)　煩擾、みだれたること。混雜
ばんしょう(名)　晩鐘、いりあひのかね
ばんじょう　萬乘(車萬輛を備ふる國の意にて王國の體を指す)
ばんじょうのきみ　萬乘君(王者を謂ふ、萬乘を見よ)
はんしょく(名)。ー[する](自)　繁殖、ふにまさり。ふにます

はんしょく(名)　斑色、ぶちいろ、まだら
ばんしょく(名)　晩食、ゆふめし、夕飯
はんした[俗](名)　伴食、しやうばん、陪食
はんしたかき(名)　版下書(版下と書く人)
はんしな(名)　名謎(隱語樣の名)
はんしょう(名)　攀薦、いねつきむし(動物)
ばんしょう(名)　挽舟、ひきふね
ばんしょう(名)　晩秋(太陰曆にて九月の時を云ふ)、わきのくれ
ばんしょう(名)　番衆、番兵(番人の徒)
はんじゅく[する]　晩熟、おそくみのる(稻等の)。晩成
はんしゅく(名)　斑枝花、ばんや(植物)
はんしゃ[する](自)　反射、てりかへる(光線が)
はんしゃ(名)　翻車、水車、みづぐるま
はんしゃ(名)　幡車、まいば
はんじゃ　判者、事物の是非良否を判つ者、かんていじや
はんしゃう(形)　半生氣息のたいだになるを謂ふ。半死
はんしゃう(名)　帆檣、ほばしら(船の)
はんしゃう[する](他)　反償、かへしつぐのふ
はんしゃう　反掌、たなごころをかへす(事の容易きを謂ふ)
はんじゃう　反狀(謀叛の摸樣)
はんじゃう(形)　凡常、なみなみの、よのつねなる
はんじゃう(名)　繁昌、にぎはひ、さかえ、繁榮
ばんしゃう(名)　番匠、大工、たくみ、いへづくり
ばんじゃう　萬狀、さまざまのかたち、千態

はんしやうてんわう　反正天皇(人皇第十九代の帝)
ばんじやく(名)　磐石、ちびきのいし、いはほ、大石
はんしやきよ(名)　翻車魚、うきき、まんぼう(動物)
はんしやきやう(名)　反射鏡、てりかへしかがみ
ばんしきてう(名)　盤渉調(音律の名にて輕儇とその體と
す)
はんしゆ　反首、かうべをめぐらす、回首、回顧
はんしゆ(名)　藩主、藩守(一藩の主即ち諸侯をいふ)
はんじゆ(名形)　判授(判任に同じ)
ばんしゆ(形)　晩種、おそまき(菜蔬等にいふ)
はんじゆく(形)　半熟、なまにに、なかばうみたる
ばんしゆん　晩春(太陰暦にて三月の節を云ふ)
はんじゑ(名)　判書、書謎、なぞゑ(一見して其意を解す可
らざる書の類をいふ)
はんじもの(俗)(名)　判物、なぞ、謎
はんしん(名)　反臣、叛臣(謀反する臣僕)
はんしん(名)　叛神、ことふれ
はんしん　反心、叛心、うらがへり、そむくこころ
はんしん　反唇口と尖らし怒り或は罵るを謂ふ)
はんしん　翻身、みをひるがへす
はんしん　半身、かたみ、半體
ばんしん(名)　蕃薯、たうがらし、蕃椒(植物)
ばんじん(名)　蕃人、えびそ、夷人
はんしんふずい(名)　半身不遂、はんしんかなはぬ、偏枯
(身体がなかばちうぶなる
ばんゑ(名)　蠻繪(俗人の服にいふ)
はんにい(形名)　繁榮、にぎやか、さかに、繁昌

はんにい(名)　反影、ゆふかげ、反晷、にしび
はんにり(名)　半襟、躰衿(衣服の外襟)
はんにだ　半衆、はんふさ(菜實などの)
はんにん[する](他)　煩雜、いとふ、いやがる
はんにん[する](自)　蟠蜿、わだかまる(龍蛇等の)
繁衍、しげくふゑる、繁殖(人口等が)
はんび(形)　凡鄙、いやしき、下賤
はんび　半臂、かたひぢ、片腕
はんび(名)　盤費、つひえ費用、いりよう
はんび(名)　飯匙、いひがひ、しやもじ、しやくし
はんび(名)　反鼻、へび(動物)
ばんび[俗](名)　番日當直日、つとめび
はんびつ　半櫃、こびつ
はんびらき(形)　半開(花が未だ開ききらぬを謂ふ)薔薇
ばんひん(名)　凡百、すべての
はんも[する](自)　變賓、えびすぐにのつかひ
[はんもつ]　繁茂、わひしげる、しげる(草木が)
ばんもつ　判物、はんじもの、なぞ
はんもく　萬物、よろづのもの、萬象、諸物
ばんもくべつ(名)　反目、めをひきだしてあらそふ
はんもく　番木鼈、まちん、馬錢子(藥材)
はんもん　半文(一文の半)きなか
はんもん(名)　斑文、とらふ、ぶちのかた、ふ
もだふる、れもひわづらふ
はんもん(名)　煩悶、煩惱、いきどほり、もだへ。
はんもん(名)　繁盛、さかん、にぎはふ

はんせい[する]　反省、かへりみる、反顧
はんせい　反正、ただしきにかへす、天下を)平定
ばんせい(名)　晩晴、ゆふばれ(天氣の)、ゆふあがり、晩霽
ばんせい　坂西(關西と同じ、足柄山より西方の諸國と總
稱す)
ばんせい　萬世、よろづよ、萬代
ばんせい(名)　萬姓(人民總体といふ)、百姓
ばんせい　番勢、番卒、番兵、みはりばん
ばんせいのしちゆう　坂西七雄(昔の三好長慶、大内義隆、
尼子晴久、島津義久、毛利元就、大友宗麟、長曾我部元
親)
はんせつ(名)　半折(紙形の名にて大唐紙半枚をいふ)
はんせつ(名)　斑雪、はだれゆき
はんせつ　汎說(一般の說)、ひろくいふこと、概說
はんせつ(名)　反切、かへし(韻鏡學の語)
はんせつ(名)　反舌、よしむしり、けけれ(動物)
ばんせつ(名)　晩節、晩年、老年をいふ、末路
はんせつか(名)　斑節蝦、くるまえび(動物)
はんせう(名)　半霄、なかぞら、中天
はんせう(名)　飯銚、いひだこ(動物)
はんせう[する](自)　反照、てりかへる、にいづる、反射
ばんせう(形)　晩哨、おそざき(花の)
ばんせう(名)　蕃椒、たうがらし(植物)
ばんせうちんき(名)　蕃椒丁幾、たうがらしの精酒(藥品)
はんせき(名)　版籍、戸籍簿、版圖(一藩の領分を謂ふ)
はんせき(名)　叛跡、むほんのしるし(反逆の證)
ばんせき(名)　礬石、みやうばん(藥品)
ばんせき(名)　板石、いたいし、版石
はんせん(名)　帆船、ほふね、帆前船(蒸氣船に非ず)、ほをも
てはしるふね
はんせん[する](自)　盤旋、ゆきめぐる。とびまはる、周旋
はんせん　半錢(一錢の半、貨幣或量目にいふ)
はんせん(名)　搬船、はしけぶね
はんせん(形副)　判然、はつきり、あきらか
はんせん(形副)　翻然(ひるがへる貌)
ばんせん(名)　晩蟬、ひぐらし、寒蟬(動物)
はんせんき(名)　半仙戲、ゆさはり
ばんすい(名)　晩炊、ゆふだき(飯の)。ゆふめし
はんすり(名)　版摺、はんをすること、印刷
はんする(自)　反、叛、そむく(君主に)謀叛

に

に　二、丹、爾　「ぬ」の父音と「い」の母韻と合して生ずる音にして五十韻中なる第五行第二段に位す、其後置詞となる時は「たいて」「よつて」「むかつて」「と」「ため」「ついて」等の意義をあらはす
に(形名)　二、弐、貳、ふたつ(是呉音也、漢音は「じ」といふ)
に(名)　土、つち、丹土、おかつち(古語)
に(名)　荷、になふべきもの荷物
に(後置詞)　於、于、おいて。へ
にい[俗](名)　兄舍兄、あに(「あに」の畧)
にゐ　二位(第二の位階)
にいら(名)　木乃伊(乾屍即ち死人の乾枯したる者又蜜人

と曰ふ「みいち」に同じ）

にいし（名）　赭石、あかいし（繪の具）

にろくをどり（名）　二六踊、また鹿島躍（かごしまをどり）

にろくじ　二六時昔の時計の晝夜十二時を云ふ）

には　丹羽（氏）

には（名）　庭、場、庭場、いへのまはりのあきち。その

にははき（名）　庭掃（庭を掃除する事又人）

にはとり（名）　庭鳥、鷄、鞠音、司晨鳥、德禽、うすべどり、かけ、くだかけ、にはつとり（動物）

にはとりのをす　雄雞、をんどり（動物）

にはとりのたまご　鷄卵、雞蛋、白團

にはとりのめす　雌鷄、牝雞、めんどり（動物）

にはとこ（名）　接骨木、かんぼく、陸英、野黄梅、地黄、たづのき（植物）

にはりんだう（名）　草龍膽（植物）

にはか（形副）　俄、倉卒、造次、遽然、卒爾、急遽、倉黄、急卒、俄然、俄頃、驟、頓、暴、たちまち、きふに

にはか（名）　俄躍、にはかをどり（舞蓙を擔ぎわるきて）

にはかかせ　暴風、あらし、はやて、颱颶風又のわき（秋の）

にはかあめ（名）　驟雨、暴雨、疾雨、はやさめ、ゆふだち

にはかじに（名）　俄死、卒死、頓死（とんし）、卽死、暴亡

にはた　庭田（氏）

にはたたき（名）　鶺鴒、いしたたき、とつぎをしへどり、にはくなぶり（動物）

にはたづみ（名）　潢潦、行潦（雨水の地にたまり流るるを云ふ）

にはそ（名）　甘遂、鬼醜草、なつとうだい（植物）

にはつく（名）　地膽、蚯蚓子、つちまだらむし、つちはんめう、おりのれやぢ（動物）

にはつくり（名）　庭作、園戸、場師、園地工、にはし、うゑきや

にはなし（名）　茨花、薔薇、いれたてのちや、新泡茶

にはうるし（名）　櫟、しんじゆ（植物）

にはうめ（名）　郁李、棠棣、金椀（植物）

にはのり（名）　場騎、庭乘（庭にて馬に乘りはしらする事）

にはのをしへ　庭訓（父が子を敎訓するを云ふ、伯魚の故事に依る）

にはのれも（名）　庭面、にはもせ、にはれもてにはくなぶり（名）　鶺鴒、にはたたき（動物）

にはくさ（名）　庭草（庭にはにたる草）

にはくさ（名）　地膚、はははきくさ、はははきぎ、ほきくさ、白地草（植物）

にはやなぎ（名）　扁蓄、粉節草、道生草（植物）

にはげた（名）　庭下駄（庭をはく木履）

にはふぢ（名）　胡豆、いはふぢ（植物）

にはこ（名）　庭子、いへのこ

にはざくら（名）　櫻桃、含桃、土滯花（植物）

にはさき（名）　庭前、庭除、にんさき、れもてさき

にはき（名）　水仙、雪中花（植物）

にはき（名）　庭樹、にはのき

にはみぐさ（名）　庭見草、をぎ（植物）

にはび（名）　庭燎（庭にてたく火をいふ）

にはもも（名）　楔（植物）

にはもせ（名）　庭迫、にはもせまきばかりのありさま。また庭面、庭上、にはのれも、には

にはん（名）　二半（疑ひ迷ひて事を決せざる狀を云ふ）

にはは（名）　鷸鴴（鳥に似て小く能く水をくぐる鳥）、にはどり、鳧鴴、鴇、かいつぶり（動物）

にはは（他）　薫、にはひをはなたしめる、暗示、はのかにしらせる

にはどり（名）　鷸鷉「にはは」をみよ

にはのうみ（名）　潮海、鳰海、みづうみ（近江の琵琶湖をいふ）

にはやか（形）　芬芳、馥郁、芬香、薫氳、かうばしき

にはふ（自）　匂、かをる。臭、くさくある

にはでり（或にはてる）（名）　潮光、鳰照（日光の潮水に映ずる輝きを言ふ者にて近江の潮水を指して用ふ）

にはひ（名）　臭鼻に感ずる所の氣、か、かをり、匂、馥、芬薫、馨香、香氣、かうばしさ、かぐはしさ、よきかをり。（煮蒿、煮肉を焼く臭氣）

にはひ（名）　脂（刀劍の刃元の光澤を言ふ）

にはひのたま（名）　佩香、にはひぶくろ

にはひやか（形）　馥郁、かうばしくある。よきかをりある。きらきらか

にはひぶくろ（名）　香嚢、衣被香、賸、匂袋、かけかう

にはひあぶら（名）　香油、麝金香、かうばしきあぶら

にはひびん（名）　香瓶（香水を入れて唎くに用ふる瓶）

にはん　二品（親王の爵位の第二）

にはん（名）　日本、やまと、ひのもと（につぽん）ともいふ）

にへ（名）　贄、犧牲、そなへもの（神に奉る。いけにへ）

にべ（名）　鰿、魚鰾、鰾の氣胞（うきぶくろ）を以て製したる膠なるが故に然か謂ふ）魚膠、うをにかは

にへどり（名）　鳰、にはどり（動物）（にはを見よ）

にへどの（名）　贄殿（贄を置く殿と云ふ）

にへびと（名）　贄人、にへにするうをとりなどをとるひと

にべん　二便（大便小便の二つをいふ）

にど（副）　二度、ふたたび、二次、二回、再、兩度

にどかり（名）　二度刈、再收（穀物を一年の中に再び刈取れる者）

にどやき（名）　復燒、やきなほし

にちゐき（名）　日域、ひのもと（日本をいふ）

にちろく（名）　日錄、につき（日記、ひびのかきつけ

にちにち（形副）　日日、まいにち、ひびにちにちか（名）　雁來紅、はげいとう（植物）

にちぼつ（名副）　日暮、くれがた、ひくれ

にちぼつ（名）　日沒、いりあひ、ひくれ

にちりん（名）　日輪、あまつひ、ひ、日天、太陽

にちよう（名形）　日用、ひびのもちひ。ひびもちふる

にちようひん　日用品、ひびにいるもの

にちれん　日蓮宗（日蓮が創立せし宗門）

にぢう（形）　二重、ふたへ、ふたかさね

にぢうぼり　二重堀、重堀、ふたへぼり

にぢうべい　二重塀、重壕、ふたへべい

にちくわ（名）　日課（日日よ修學する所を云ふ）

にちや　日夜、よるひる、晝夜

（圖のはに）

にちやにちや〔俗〕〔形〕　粘着、ねばつく
にちやこ〔俗〕〔名〕　噛紙(口中にかみたる紙)
にちけい(名)　日計、ひびのかんぢやう
にちげん(名)　日限、ひぎり、期限、日期
にちさん(名)　日參、ひまゐり(宮寺への)
にちき(名)　日期、ひぎり、日限
にちきやく(名)　日脚、ひあし、ひのかげ、日影
にちしよく(名)　日蝕(日の月にかはばるる事)、日仄、にっそく、はに
にちしん(形)　日新(にっしん)、ひびよあらたなる
にちにい(名)　日影、ひのかげ、日晷
にちえうび　日曜日(一週の初日)
にちぜん(副)　日前、いつぞや、日外
にちりん　二倫(兄弟朋友を云ふ)
にりんしや(名)　二輪車、ふたつわのくるま
にぬく〔俗〕〔他〕　煮熟、よくにる
にぬし(名)　荷主(貨主(賃貸の所有人)
にる(他)　煮、烹、煎、烹飪、煮、燖、瀹(鍋に入れて火よて熟せしむるをいふ)
にる(自)　似、肖、類似、仿佛、ねなじやうにある、につく
にを(名)　稼(穀物の束と積める者)、いなにを、いなむら
にわろし(名)　卸貨、にもつをおろすこと
にをおろす　卸荷、釋擔、にもつをとりおろす。解任(職務をやめるをいふ)
にをけ(名)　荷桶、になひをけ
にれひ(名)　荷貨、にをおふこと、負擔
にれひうま(名)　荷貨馬、駄馬(にうまを見よ)

にれひびと(名)　荷負人、よをかつぐひと、人夫、擔夫
にわ(名)　日和、ひより、ねだやかさ(海上等にいふ)、なぎ
にわう　二王(寺の山門の兩傍に立れる守護神をいふ、左輔は密迹金剛、右彌は那羅延)
にわうもん　二王門(二王を安置する寺門)
にかい(名形)　二階、樓、重屋、層樓、二層、ふたかさねなる
にかいはしご(名)　二階梯子、樓梯(にかいにわがるはしご)
にがいちご(名)　懸鉤子(植物)
にかは(名)　膠、のりのたぐひ(牛皮膠、魚膠等種種あり)〔阿膠を見よ〕
にがはだ(名)　苦膚(武等の生せぬ身休を謂ふ)
にかはづけ(形)　膠付、にかはをよてつけたる
にがにがしき(形)　苦苦敷、苦然、くるしき
にがは(名)　似顏、肖像、にたるかはのゑ或かたち、にせゑ
にがり(名)　鹽膽、滷汁、苦鹽、膽水、よがしは
にがりきつて(副)　苦苦敷、にがにがしげに
にがわらひ(名)　苦笑、冷笑、いやなわらひ。あざみわらひ
にかた(名)　煮方、庖人、烹人、膳部、割烹法、料理番。また物を煮る法)
にがたけ(名)　苦竹(植物)
にがな(名)　苦菜、のげし、けしわざみ、茶、老鸛菜、黃花菜、白菜、羊角菜、苦苣、游冬(植物)
にがなすび(名)　苦加(植物)
にがうり(名)　苦瓜、つるれいし(植物)
にがぐち(名)　苦言、にくまれぐち
にがて(名)　苦手、剛敵手、かちにくきあひて

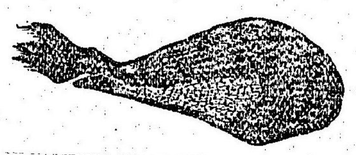
にがざけ(名)　苦酒、にがきさけ、醯、酢
にがき(形)　苦口にも心よも用ふ)、にがにがしき
にがき(名)　黃檗樹、櫰植物)
にがみ(名)　苦味、にがきあぢはひ
にがみづ(名)　膽水、にがしは
にがしは(名)　苦鹽、鹽滷汁、にがり、膽水、滷水
にがひさご(名)　苦匏、苦胡蘆、にがきゆふがほ(植物)
にがもも(名)　苦桃、毛桃、けもも(植物)
にがす(他)　令逃、にげしむる(故意よ或は不意に)
によい(名)　如意(僧徒の用ふる物)
によい(形)　如意、こころのままま、れもふごとく
によいはうしゆ(名)　如意寶珠、まにしゆ(摩尼珠)、たふときたま
によゐん(名)　女院、ねはぎさき、皇太皇后、また皇后、ささき、ひめねはきみ
によはふ(副)　如法、かたのごとく、如律令。又まつたく、ひどく

（如意の圖）

によはふわんや　如法暗夜、まつくらやみ
によにん(名)　女人、をんな、婦人
によぼん(名)　女犯、をんなをおかすこと
によとうぐう(名)　女東宮、ひつぎのひめみや、をんなたいし、皇太女
により(名)　似寄、わひにたること、近似
による(自)　似寄、相似、近似、ややにる
によわう(名)　女王、ひめねはきみ、女帝

によつきり〔俗〕〔副〕　兀突、兀兀、たかくぬきんでて
によらい(名)　如來(佛の尊稱にて梵語但多揭多)、佛陀
によばう(名)　女房、つま、妻、細君、內室、但し古は宮中女官をいへり)、みやづかへするをんな
によくわん(名)　女官、〔によくわん〕を見よ)
にようご(名)　女御(帝王の嬪妾よて親王三公の中より入る)、みめ、妃嬪
にようごだい(名)　女御代(女御の代人として天子よ侍する女を謂ふ)
にようごのしま　女護島、をんなじま(女人ばかりの島國)
によくわん　女宣宮廷に仕ふる女をなはち宮女)
によこう(名)　女工(常に〔およこう〕とよむ)、をんなのてわざ又わざするをんな
によてい(名)　女帝、をんなのみかど、めぎみ、女王
によぎ(名)　女妓、をんなのげい
によきによき〔俗〕〔副〕　如龜如龜(たかくたてる貌)
によし(名)　女子、をんなのこ又をんな
によじ(名)　女兒(およじ)、をんなのこ、めこ
によしやう(名)　女墻、ひめがき
によしやう(名)　女娼、をんな、女流
によじゆ(名)　女孺宮女の官名)
によせ(副)　如是、かくのごとく
によせい(名)　女性(男性に對する者にて文法などよも用ふ)
にようせい(名)　女壻、むこ、むすめのをつと
にたい　二諦(眞と俗の二道を云ふ佛語)

にたりがき(名)　甘熟柿(赤くうめる柿)。朱柿
にたりぶね(名)　荷垂船、にもつぶね
にたる(形)　類似、たなじさまなる
にたらがひ(名)　淡菜、いのかひ、いがひ
（動物）
にたう　二島壹岐對島を云ふ
にだう　二道文武を云ふ
にたき(名)　烹飪、にやき、薪炊、れうり
にだし(名)　煎汁にする(食物の)
にれ(名)　楡きのな、枌(植物)
にれ(名)　反芻、にげ(牛など)が再び腹よ
り出して嚙む草)
にれかむ(自)　呵、ねりかむ齝、哺嚙反
芻再嚙
にれたけ(名)　楡茸、きのこのたぐひ(植物)
にれうめ(名)　楡梅、きのな(植物)
にそう(名)　尼僧、あま、比丘尼
にそん　二尊釋尊慈尊また諸册二神を云ふ
につぱい(名)　日牌(亡靈を供養する牌)
につぱり　新堀氏)
につぽり(名)　日暮里、ひぐらしのさと(東京上野の後の地)
につぽん(名)　日本、やまと、ひのもと、にほん
につぽんのさんけい　日本三景(松島、嚴島、天橋立。また弱
浦、千賀鹽竈、切度文珠)
につぽんのじふにけい　日本十二景(田子浦、松島、箱崎、天
橋立、若浦、琵琶湖、嚴島、象潟、朝熊、松江、明石、金澤)
日東(日本の別名)



（にたらがひの圖）

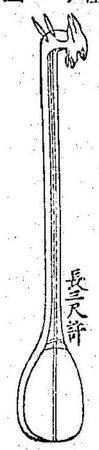
につき
につこの　入戸野(氏)
につち(名)　丹土、赭、あかつち(赤土)
につちう(名剛)　日中、ひなか、まひる、正午、亭午、卓午
「につかう」
につかん　日間、ひるのうち
につた　新田(氏)
につたう(名)　日當、ひごとのてあて、日給
につたう「する」　入唐(唐土に往くを謂ふ)
につそく(名)　日仄、日蝕(につしよく)
につつま　新妻、にひつま(氏)
にづし(名)　酋羊、みやましきみ(植物)
にづくり(名)　荷作、にもつをつくること、包裝、綑束
につくわう(名)　日光、ひのひかり
につくわうらん(名)　日光蘭、黎蘆(植物)
につくわうさん　日光山(下野國河内郡に在る山にて德
川家の靈屋あり、其莊麗日本第一と稱す)
につくわうきしやう　日光旗章、ひのまるのはた(我國旗
なり)
につくわうしだ(名)　日光齒朶、いはひとで(植物)
につけい(名)　肉桂(藥材)桂心、桂枝
につこりわらふ　莞爾笑、にこにこわらふ
につこう(名)　日工、ひようしごと、ひでま
につさい　入西(氏)
につさん(名)　日參、ひまゐり(宮寺への)
につき　仁木(氏)
につき(名)　日記、ひびのしるしがき、日錄簿
につきふ(名)　日給、ひびのてあて、日當、ひびのきふきん

につきん(名)　日勤(ひびにいでてつとめること)
につめる(他)　煎詰、にてこくする、にへらす
につし(名)　日誌、ひびのたぼにがき、日乘
につし(名)　日子、ひ(日月の日をいふ)
につし(形)　日次、ひなみ
につしよく(名)　日蝕、日食、につそく(日仄)ともいふ
につしや(名)　日者、天文者(てんもんじや)
につしやう(名)　入聲(平上去入の四聲の一)
につしやうき(名)　日章旗、ひのまるのはた(我國旗)
につしやびやう(名)　日射病、中暑、あつけあたり
につしゆつ(名)　日出、ひので、よあけ
につしゆつさう(名)　日出草、あさしらげ(植物)
につしん(形)　日新、ひびにあらた
につせいさう(名)　日精草、かわらよもぎ(植物)
にな(名)　蜷、みな、河貝子(動物)
になは(名)　荷繩、ものをせおふなは
にながは　蜷川(氏、みながはともよむ)
になふ(他)　荷擔、かつぐ、にふ、負擔、負任、擔任、擔當
になひぼう(名)　荷棒、おふこ、てんびんぼう、擔擔、棒擔棒、
圖擔、擔擔
になひをけ(名)　擔桶、たご、かつぐをけ
になひかご(名)　擔籠、になひあるくかご
にら(名)　韭、にんにくの類、懶人菜、起陽草、ふたもじ(植
物)
にらむ(他)　白眼、睚眦、睥睨、疾視、瞋目、めをいからしてみ
る、邪睨、ながしめよみる
にらのくき　韭莖、韭白、にらのしん
にらく(他)　焠淬、かたくする、きたへる(鐵等を)
にらやま　韮山(氏また地名。また仁羅山(氏)
にらみつける(名)　睥睨(にらむ)を見よ)
にう(名)　罌、ひび。ひびやき(陶器)
にういう(名)　乳油、バタ、うしのちちのあぶら
にうはち(名)　乳鉢(散藥を調のふる鉢)
にうばう(名)　乳房、ちぶさ、ちち(婦人の)
にうぼ(名)　乳母、うば、れんば、ちうば、まま
にうぼう(名)　乳棒(散藥をこなす棒)
にうぼく(名)　乳木(護摩の薪。また植物の名)
にうり(名)　乳梨、こがなし(植物)
にうりや「俗」(名)　賣買屋、食店、にうりみせ、めしや
にうりみせ(名)　烹賣店、にうりや、めしや
にうわ(形)　柔和、にこやか、ものやわらか
にうかう(名)　乳香滴乳(木より出る香ばしき液汁)。くん
ろくかう(薰陸香)
にうかん(名)　乳柑、くねんぴ(植物)
にうがん(名)　乳岩(乳癌、ちばれもの(婦人病)
にうがん(名)　乳眼、ちめ(めのやまひ)
にうよるく　紐約爾紐育、新約克(亞墨利加合衆國の一大
都會の名)
にうよう(名)　乳癰(乳の腫を云ふ)、ちばれもの、ちちのよ
う
にうないすずめ(名)　黃雀(動物)
にうなん(形)　柔輭、やはらか
にうなん(名)　乳難(乳汁かたくしぶりて不足なるを云ふ)
にうらく(名)　乳酪(牛乳よて調へたる食物)

にうう(名)　乳嫗、うば、れんば
にうやう「する」(他)　乳養、ちちのませてやしなふ、はごくむ
にうま(名)　荷馬、駄馬、こにだうま
にうめ(名)　黄梅(梅の熟たる者)
にうめい(名)　乳名、をさなな、幼名
にうみ(名)　乳味、ちちのわぎはひ
にうし(名)　乳子、ちちのみご、乳兒
にうじ(名)　乳兒、ちのみご、乳子
にうしう(名)　乳臭、ちちくさき、幼稚未熟の狀をさげしむる語
にうじやく(形)　柔弱、よわき、たよわ
にうじふ(名)　乳汁、ちしる、ちち
にうび(名)　乳糜(體中の一液)
にうびくわん(名)　乳糜管(乳糜のかよふ道)
にうせきい(名)　乳石英(鑛物)
にのまる　二之丸(第二の城)
にのまひ　二之舞(他人の覆轍をふむ事、或は眞似する事)
にのあし　二足、ためらひ、踟躕、猶豫
にく(名)　肉、ししみ(動物の)
にく(名)　羚羊、やまひつじ、かもしか(動物)
にくいろ(名)　肉色、にくしよく、肉紅
にくろめ(名)　烏銅、しやくどうのたぐひ
にくは(名)　肉波、さしみ(料理の名)
にくはく「する」(自)　肉薄、せまる
にくにくしい「名」(形)　惡惡敷、にくき、にくらしき
にくべい(名)　肉餅、かまぼこ
にくへん(名)　肉片、ししびら、にくぎれ
にくち(名)　肉池、にくつぼ、溝壑、いんにくいれ
にくりう(名)　肉瘤、こぶ
にくりん(名)　肉林(肴の澤山なるを形容する語)
にぐる(自)　逃、のがれゆく、北亡、逃亡、脫走
にぐるま(名)　荷車、にをつむくるま、輜車、役車、重車、輜車
にぐわつ　二月、きさらぎ
にくがる(他)　憎、にくむ、嫌惡、いむ
にくかう(名)　肉羹、あつもの、にくのつゆ、しる、ソップ
にくよく(名)　肉慾、からだのこのみ、情慾(飮食男女の慾などをいふ)
にくたい(名)　肉體、にくなるからだ(靈體に對す)
にくたん「する」(自)　肉袒、はだぬぐ、かたぬぐ
にくづく(名)　肉豆蔻、肉果(植物)
にくつき(名)　肉附、にくあひ、ふとりかた、肥瘦
にぐら(名)　荷駄、荷をつける馬の鞍
にくらしい「俗」(形)　惡敷、にくき、にくげなる
にくくわ(名)　肉果、にくづく(植物)
にくくわい(名)　肉塊、にくひときれ、肉片
にくや(名)　肉店、屠戶、ももんじや、にくるゐうるいへ
にくやう(名)　肉癢、かゆさ、かゆきところもち
にくまれる　被憎、さらはれる、いまれる
にくまれこ(名)　惡童、わしきわらべ
にくげ(名)　惡氣、にくらしきさま
にくけい(名)　肉桂、桂心、桂枝(藥材)
にくけい(名)　肉刑(斬絞等の死刑をいふ)

にくてい(名)　肉弟、まことのおとと、實弟
にくてい(名)　惡體、にくらしきすがた
にくてき(名)　肉笛、くちぶえ
にくてん(名)　肉店、にくや、けものだな
にくあひ(名)　肉合、にくつき、ふとりかげん
にくわん(名)　肉案、まないた、俎
にくさ(名)　肉叉、にくさし、肉鉤、食刃
にくさう「俗」(形)　惡相、にくらしげ
にくき(名)　肉机、まないた、肉案、俎
にくき(形)　惡憎、憎惡、にくむべき、いやな
にくきり(名)　截肉刀、肉切庖丁、にくきるはうちやう
にくみ(名)　肉味、にくのあぢはひ
にくし(名)　肉翅、けものだな、ももんじや、にくや
にくじる(名)　肉汁(にくじふ)、あつもの、肉羹
にくしよく(名)　肉食(肉をくらふ事)
にくしよくしや(名)　肉食者(肉を常食とするもの)、官人
にくしよくせき(名)　肉色石、ちやうせき(鑛物)
にくじうよう(名)　肉蓯蓉、きのこのたぐひ(植物)
にくしやう(名)　肉醬、ししびしほ、しほから
にくじやう(名)　肉情、ちすぢのなさけ、また肉慾
にくじき(名)　肉食「にくしよく」を見よ
にくしん(名)　肉身「にくたい」を見よ
にくしん(名)　肉親、まことのおやうみのおや
にくしん(名)　肉觜、ひらたけ、きのこのな(植物)
にくせん(名)　肉跣、すあし、はだし
にやけたる「俗」(形)　繊弱、輕佻、いろをとこじみたる
にまう(名)　二毛、しらがまじりのひと、斑白者

にまめ(名)　煮豆、にたるまめ
にげ(名)　反芻、にれ(にれ)をみよ)
にげはしる(自)　逃走、出奔、のがれはしる
にげちる(自)　逃散、ちりぢりににげゆく
にげる(自)　逃、のがれはしる、逃走、逐電、出奔、かけおちする、亡命、脫走
にげかむ(自)　反芻再嚙、にれかむ、ねりかむ
にげかくれる(自)　逃匿、しのびかくる、ひそむ
にげだす(自)　逃出、のがれでる
にげなき(形)　無似氣、につかはしからぬ
にげうせる(自)　逃亡、逃遁、脫走、にげさる、のがれうせる
にげのうま　二毛馬、れんせんあしげのうま、驒騮毛馬
にげあし(名)　逃足、にげだすあしつき、にげんとそるあしつき
にげさる(自)　逃去、のがれゆく
にげみち(名)　逃道、のがれるみち、血路、走路
にげみづ　逃水(武藏野の深草の邊に立のぼる水氣を然か云へり是れ近づくままに見ゆるのみにて又其さきに遠く同じき者が見ゆる故なり)
にげじたく「俗」(名)　逃支度、にげるよういにげんきん(名)　二絃琴(樂器)(此圖なる琴は山城の國妙覺寺藏)(圖



にふ(名)　入(平上去入の四聲の一)、入聲
にぶ(名)　丹生(氏)

にぶいろ(名)　鈍色(花田染を云ふ)、こきねずみいろ
にふゐん　入院(病院に入るを云ふ)
にふばい(名)　入梅、つゆのいり、黄梅(梅雨の時候)
にふぼつ(名)。—する(自)　入沒、しぬること、死沒、みまがる
にふやう(名)　入定(生きながら墓中に入る事)
にふかう　入校(學校へはいる事)
にふがく(名)。—する(自)　入學(學校に入る事)。いりてまなぶ、入校
にふよう[俗二](名)　入用、いりよう、いりめ
にふだ(名)　荷札、にもつにつけるふだ、荷符
にふたう[俗]　入湯、ゆあみ、入浴(温泉又は風呂に浴する事)
にふだう(名)　入道、ほとけのみちにいるもの、僧(古昔重よ祝髪僧衣の俗佛者を然か呼べり)
にふだうかつら(名)　百稜藤(植物)
にふだうむし(名)　腹蜿、うむし、にしやどち、せみのまだはねはにぬもの
にふつ[俗](名)　入津(船の港灣に入るを謂ふ)
にふね(名)　荷船、にをつむふね、貨船
にふらう　入牢、ひとやにいれる或はいる
にふくわん　入款、よしみをかよはす
にふふ　入府(諸侯等が己の領する國府に來住するを謂ふ)、入國
にふぶ(名)　入夫(いりむこ)を見よ)
にふぶつ(名)　入墨(山伏が高山にわけのぼるをいふ)
にふぶつ(名)　入佛(佛像を寺に安置する事)
にふぶせい(名)　入府稅(都府に入來る貨物に課する稅金)
にふこう　入港、みなといり(船等にいふ)、入津
にふこく(名)　入國(諸侯等が己の拜領地に移住するをいふ)、入府
にふてう[する]　入朝、さんだいする、みかどにがみにくる。又わがくにに來たる
にふさつ[俗二](名)　入札、いれふだ、また投票
にふさ(形)　鈍、僊鈍、愚昧、とからぬ、れそき、れろかずるとからぬ
にふきん(名)　入金、いりがね、入銀
にふぎん(名)　入銀、いりがね、入金
にふぶきん(名)　二分金(徳川時代の半兩金貨)
にふめつ(名)　入滅、しぬること(釋迦の死に重に言ふ)、入寂
にふめん(名)　入麪(そうめんの煑たる者)
にふめんらん(名)　屈子花、くさのを(植物)
にふしつ　入室、へやにいる(奥義を極めたる事にも喩へ用ふ)
にふじく　入塾、學塾にいること、入校
にふじやう　入城、しろにうちいること
にふしゆ[する](自)　入手、てにいる、落手
にふしん　入津、にふつ、入港、みなといり
にふひ[俗二](名)　入費、にふよう、つひえ、費用
にふもん(名)　入門、でしいり、入學
にふせき　入籍(戸籍を入れる事)、にんべつをいれる
にふせん[俗二](名)　入船、いりふね、着船
にころす(他)　煑殺、ゆでころす(湯汕などにて)
にこにこ(副)　莞爾、につこり微笑(少く笑ふ貌)

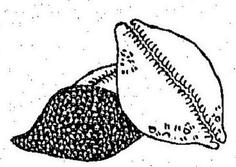
にこどう(名)　二皷胴(樂器)(大二皷胴和國信貴山藏)
にごり　濁、きよからぬこと
にごりね(名)　濁井、よごりみづのねど

(圖)
にごりぐち(名)　艙口(船中の荷物を置く處の入口)
にごりごゑ(名)　濁音だみごゑ
にごりさけ(名)　濁酒、どぶろく、醪、濁醪
にごりみづ　濁水、汚水、きよからぬみづ
にごる(自)　濁、汗濁、渾濁、汶、混、よごれる、けがれる(水が)
にこたへ(名)　和布、ほそぬの(古語)總、繐、細布
にごれる(形)　濁、きよからぬ、きたなき
にこむ[俗二](他)　煑込、いれてにる
にこう(名)　尼公、おまきみ(北丘尼の貴女)
にこやか(形)　和柔、やはらか、柔和、温和、綽約、嫣腆
にこけ(名)　毳、柔細毛、やはらかきわたげ
にこごり(名)　煑凝、煑汁の凝りかたまれる者)
にこみ(名)　煑込(鳥獸の肉を混へ煑る事)
にごひ或みごひ(名)　白魚、鮮魚、鱚魚(動物)
にごもの(名)　和物、やはらかなるもの(古語)
にごす[俗二](他)　令濁、にごらす
にごん　二言、ふたこと。いひかへし、食言
にて(後置詞)　於、れいて、于
にていをふむ　踐二庭(婦人の再嫁するを云ふ)
にでう、二條氏また地名)
にでうてんわう　二條天皇(人皇第七十八代の天子)
にてひなるもの　似而非者、にせもの、まやかしもの(偽物)
にはかからぬ(形)　不似合、不適應、ふにわひ、につかぬ
にわはしき(形)　似合敷、適應、につかはしき、ふさはしき
にわげば(名)　埠頭、はとば、ものわげば(海岸の)、わがりば
にわふ(自)　似合、適應、恰當、ふさふ、につく
にさうばい　二相倍、二倍、ふたかさねばき
にさます(他)　煑冷、煎冷、にてひやす
にき　二氣(陰陽の二氣をいふ)
にき　二季(春秋の二季をいふ)
にぎはしく(副)　賑敬、さかにて。さかんに、熾盛
にぎはしき(形)　賑敬、車馬絡繹、輻輳、さかんる、繁華、豐盛
にぎはす(他)　賑、はぶこしたすく(貧人を)、恤、饒潤、賑恤、贍給
にぎり(名)　掬、ゆづか(弓の握り所)
にぎりか[俗二](名)　握家、まひなひをとるひと
にぎりこぶし(名)　握拳、捲手、にぎれるゆびのふし、げんこつ
にぎりめし(名)　握飯、むすび、飯團
にぎりしめる(他)　握緊、かたくつかむ
にぎる(他)　握、把、掬、捏、扼、摑、拳握、得掌、とる、つかむ
にぎたへ(名)　和栲、和布(「にこたへ」を見よ)
にぎやか(形)　賑、さかんる、熱閙、雜遝。さわがしき、にぎはしき
にきやうでん　二頃田(二百畝に當るの田にて僅かなるを謂ふ)
にぎて(名)　和幣、みてぐら、御幣、幣束、ぬさ、れんべい
にぎめ(名)　和海藻、やはらかきこぶ(植物)

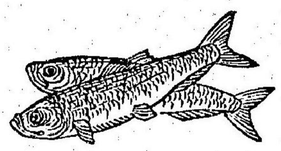
にきみ(名)　痙、にきび(面上に出る腫物)
にぎみたま　和魂(神道にて温和の神靈をいふ)
にぎしね(名)　和稻、しらげたるいね、つきごめ、白米(古語)
にきび(名)　面皰粉刺、痤顏のふきでを云ふ)
にきびばな(名)　皶鼻、ざくろばな、わかはな
にし(名)　螯螺、螯蠃、辛螺、流螺、かひのな(動物)
にし(名形)　西西方、ひのいるかた、とりのかた
にじ(名)　虹、霓、蝃蝀、氣母、天弓、玉橋、天虹、雲霓、虹橋、虹蝀、白虹、そらにはにるうるはしきあらはれ(太陽の光が水蒸氣に映じたる者)
にしぢん　西陣(氏また洛陽大宮西の地名)
にしぢんおり　西陣織(京都西陣より出る絹布の名)
にじりがき(名)　瀏書、まがりがき、よこなぐりがき、鈍書、横流書
にしる(名)　羹汁(物を煮たる汁)
にじる(他)　蹂躙、ふみつける、ふみつぶす
にしを　西尾(氏)
にしおほぢ　西大路(氏)
にしおもて　西大條(氏)
にしわき　西脇(氏)
にしかは　西川(氏)
にしかぜ　西風、泰風、にしよりふくかぜ
にしよぶ(自)　呻、うめく
にしだ　西田(氏)
にしな　仁科(氏)
にじむ(自)　鈍染入染墨等がちるをいふ)、しみうつる
にしむた　西牟田(氏)

にしむら　西村(氏)
にしのふた　海螺、かひのふたばいのふた、靨甲香(動物)
にじのござん　尼寺五山(最愛護念、檀林慧林、通玄)
にしのわるじ(名)　西主、じやうどのわるじ(彌陀佛を云ふ)
にしやどち(名)　腹蜎(蝸の未だ殼を生ぜぬ者)、にふだうむし、うむし
にしやう　二膞(頭腦三昧を云ふ)、ふたつのさはり
にじふ(名形)　廿、二十、はたち
にじふいつしち　廿一史(十七史に遼宋金元の四史を加へて云ふ)
にじふはつてん　十八天(欲界の六天、色界の十八天、無色界の四天を云ふ)
にじふはつしやう　廿八將(徳川氏の功臣にして日光山東照宮へ配祀する者松平康忠、酒井忠次、井伊直政、榊原康政、大須賀康高、大久保忠教、伊奈忠俊、伊奈忠政、大久保忠世、内藤信成、酒井正親、内藤家長、大久保忠佐、米津淨心、平岩親吉、奥平信昌、本多忠勝、鳥居元忠、菅沼定盈、渡邊守綱、岡部長成、高木性順、蜂屋貞次、服部正綱、安藤直次、本多康高、松平伊忠、水野勝成の諸將を云ふ)
にじふはつしゆく　廿八宿(恒星の名即ち東は角、亢、氐、房、心、尾、箕、北は斗、牛、女、虛、危、室、壁。西は奎、婁、胃、昴、畢、觜、參。南は井、鬼、柳、星、張、翼、軫を云ふ)
にじふにしや　廿二社(伊勢、石清水、加茂、松尾、平野、大和、梅宮、稻荷、春日、大原野、石の上、廣瀨、龍田、住吉、日吉、吉田、廣田、北野、祇園、丹生、貴船、二輪を云ふ)

にじふごぼさつ　廿五菩薩(觀音、勢至、藥王、藥上、普賢、文殊、獅子吼、陀羅尼、虛空藏、德藏、寶藏、山海慧、金剛、金藏、光明王、花嚴王、珠寶王、日照王、月光王、三昧王、誠自在王、大自在王、白寫王、大威德王、無邊身を云ふ)
にじふしかう　廿四孝(舜帝、漢文帝、曾子、閔損、仲由、董永、剡子、江革、陸績、唐夫人、吳猛、王祥、郭巨、楊香、朱壽昌、崇順、黃香、庾黔婁、老萊子、姜詩、王褒、丁蘭、孟宗、山谷等の諸賢孝子を云ふ)
にじふしせつ　廿四節(立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、立夏、小滿、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、處暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒を云ふ)
にしこり　錦織(氏)
にしき　二至規(夏至線と冬至線の二をいふ)
にしき(名)　錦、織文(美しき織物の名)、やまとにしき、からにしき
にしきべ　錦部(氏)
にしきへび(名)　錦蛇、蚺蛇、南蛇、おかきぼつぽつあるへびうはばみ、われはへび(動物)
にしきご　西城戶、錦戶(氏)
にしきどり(名)　鶺鴒、やまどりのたぐひ(動物)
にしきがひ(名)　錦貝(美しき貝の名)(動物)
にしきらん(名)　錦蘭、くさのな(植物)
にしきぐさ(名)　地錦草、馬蹄草、夜光草、血風草、地朕草(植物)
にしき(名)　錦木、衝茅、ひひらぎ、


(錦貝の圖)

鬼箭、まゆみ(植物)
にしきめがね(名)　萬花鏡(種種の色を見する眼鏡)
にしきゑ(名)　錦繪(美しく綵色したる繪)
にしゆ　二朱(徳川時代の銀貨の名として一分の半)
にじゆ　二豎、ふたりのわらべ(左傳より出づ病氣をいふ)、やまひのかみ、やまひ
にしめ(名)　烹染、煮染、よくにつけたるくひもの
にしめる(他)　烹染、よくにつける
にしび(名)　西日、ゆふひ、いりひ、夕陽、斜日(斜陽)
にしん(名)　鯡(北海道西部海岸より產し其の卵子を數の子と稱す)青魚、鰊白、黃魚、鰱
にしん(名)　二心、ふたごころ
にしん　二親、ふたおや、ちちはは、兩親
にしばな(名)　煮初、飪、にたて、いまにたるもの
にる(自)　烹、煮、ゆでられる、じゆくする
にわかへる(自)　沸却、わきかへる、にたつ
にえたつ(自)　沸立、わきあがる、にたつ
にわたぎる(自)　沸騰、わきかへる、わきたつ
にわこぼれる(自)　沸溢、わきあがりておふれる
にわゆ(名)　熱湯、沸湯、わつゆ、たぎるゆ
にひ(形)　新、あたらしき、あらたさら
にひろ　新納(氏)
にひは(名)　新葉、わかば、嫩葉
にひはり(名形)　新墾、あらたにきりひらけること


(青魚の圖)

にひがた　新潟(越後國蒲原郡に在る港にて五港の一)
にひよね(名)　新米(しんまい)、あたらしきこめ
にひなめまつり(名)　新嘗祭(十大祭の一、よして十一月に執行し此日よ新穀を神よ獻ぐ)
にひむろ(名)　新室、あたらしきいへ、新宅
にひむろほぎ(名)　新室祝、あたらしきいへをいはふこと
にひのみ　新海(氏)
にひのみ　新見、又しんみ(氏)
にひま　新今(氏)
にひまねり(名)　新參(しんざん)、いままゐり、きたて
にひまくら(名)　新枕(男女の始めて同衾するを謂ふ、はつちぎり)
にひみち(名)　新道、あたらしきみち
にもち(名)　荷持、擔夫(荷物を擔ふ人足)
にもつ〔俗〕(名)　荷物、よなふもの、はこぶべきもの、行李、運搬物。また包貨貨物
にもつあらためじょ　荷物檢査所、檢貨所
にもの(名)　煑物、あたるくひもの
にせ(形)　贋、僞、假作、いつはりなる
にせいん　僞印、謀判、にせはん
にせる(他)　贋(似る樣よする)、倣、似擬、假贋、擬
にせがね　贋金、假金、贋札、僞造貨幣、僞造紙幣、よせつくれるかね
にせさつ　贋札、贋楮幣、よせつくれるさつ
にせきちがひ　佯狂、そらだはけ
にせしようもん　贋證文、僞證、僞券、僞書
にせゑ(名)　肖繪、よせたるゑ、にがほ

にせもの(名)　贋物、贋品、僞物、僭、にせつくれるもの
にすゐ　二水(文字の「丫」此偏をいふ)
にすす(名)　煤煙、よたるすす(板等よ塗る者)
にん(名)　仁、され(菓實核中のたねを云ふ)、たね
にん(名)　人、ひと、ひとがら
にん(名)　任、やくめ、職、つとめ
にんい　任意、きまかせ、こころのまま
にんば　人馬、ひととうま
にんにく(名)　忍辱、かんにんしのびこらへ、がまん(佛經の語)
にんにく(名)　蒜ひる、小蒜、葫蒜、蒜胡、葷菜、大蒜、野蒜、植物)
にんにくのよろひ　忍辱鎧(袈裟の異名)
にんべ　鹿伏兎(氏)
にんべつ(名)　人別、戸籍(こせき)
にんべつちやう(名)　人別帳、戸籍簿、口簿、戸口册
にんべん　人偏(字形の偏即ち「亻」をいふ)
にんぢう(名)　忍冬、すひかづら(金銀花、八草(植物)
にんとうせい(名)　人頭稅、わたませい(頭數よ課する稅)
にんとくてんわう　仁德天皇(人皇第十七代の帝)
にんち〔する〕(他)　認知、みとむる、わきまへる
にんち(副)　僭地、かくのごとく(支那の俗語)
にんちう(名)　人中、はなみぞ(鼻下脣上の溝を云ふ)
にんちうはく(名)　人中白、いばりかす(小便の澱滓)
にんちうわう(名)　人皇、神武天皇より以還の天子を云ふ)
にんか(名)。—する(他)　認可、准允、ゆるし。ゆるす

にんが　人我、ひとわれ、自他(他人と我身)
にんがい(名)　人界、ひとのよ、人間
にんかうてんわう　仁孝天皇(人皇第百廿代の帝)
にんよう〔する〕(他)　任用、とりもちふる(人を)
にんよう〔する〕(自)　妊孕、はらむ、懷胎、こをやどす
にんた(名形)　任他、すておき、放任、かんせふせぬこと
にんたい(名)　人體、ひとがら。また人間の體相、ひとのかたち
にんたい(名)　忍耐、こらえ、辛抱(しんぼう)、かんにん
にんたい(名)　妊帶、ゆはたれび、はられび(孕み女がする)
にんそく(名)　人足、人夫、遞夫、擔夫、かつぎ
にんくわい　任槐(大臣に任ぜらるるを請ふ)
にんくわん(名)　任官、拜命(官職よ就く事)
にんけふ(名)　任俠、をとこだて、をとこぎ、義俠
にんげん　任限(任職の期限)
にんげん(名)　人間、よのおか、世間、又〔俗〕よのひと
にんげんかい(名)　人間界、このよのなか、人界
にんけんてんわう　仁賢天皇(人皇第廿五代の帝)
にんふ(名)　妊婦、はらみをんな、孕婦
にんぶ(名)　人夫、にんそく、擔夫、かつぎ
にんてい(名)　任國(赴任の地を云ふ)
にんてい〔する〕(他)　認定、みとめる、みなす
にんさう(名)　人相、ひとのかほかたち
にんさうか(名)　人相家、相者、にんさうみ、風鑑者
にんさうがき(名)　人相書、さうがうがき
にんき(名)　人氣、ひとごころ
にんきよ(名)。—する(他)　認許、ゆるし、許容。ゆるす

にんぎよ(名)　人魚(人頭魚身の動物よして食へば長生すと云ふ)
にんぎやう(名)　人形、ひとがた(偶人、でく、木偶、木像、土偶、塑像、泥塑、倪儡)
にんぎやうつかひ(名)　人形使、倪儡師、でくつかひ
にんぎやうしばゐ　人形芝居、倪儡戲、倪儡棚、でくしばゐ
にんめい〔する〕　任命(職よつかせる、任ずる)
にんめんじうしん　人面獸心、かほはひとこころはけもの
にんみやうてんわう　仁明天皇(人皇第五十五代の帝)
にんし(名)　任恣、わがまま、任縱、ほしいまま
にんしよ(名)　任所(管轄すべく任せられたる地方、つとめどころ)
にんしよく(名)　任職(官職につける事)
にんじやう(名)　人情、ひとのこころのつね、ひとのこころね。なさけ
にんじやう(名)　刃傷、はものざんまい、はたしあひ、きりあひ、しんけんしようぶ
にんじゆ(名)　人壽、ひとのいのち
にんじゆ〔する〕(他)　忍受、しのびうける、がまんする
にんしん(名)　妊娠、懷孕、妊身、みもち、はらみ、みれも
にんじん(名)　人參、かのにげぐさ。又胡蘿蔔、せりにんじん(植物)
にんぴにん(名)　人非人、ひとでなし。又ふたにんも(副)　恁麼、いかに(支那の俗語)
にんせん(名)　人撰、ひとをえらむこと
にんず(名)　人數、ひとかず

ほ

ほ　ホ、保、穂。ボ、菩、牡　是は「ふ」の父音と「う」の母韻と合して生ずる音にして五十韻中なる第六行第五段に位す

ほ(名)　歩、わゆみ。また一坪

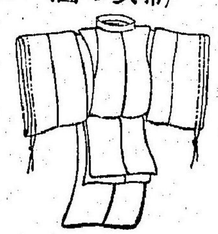
ほ(名)　火、ひ(古語)。また頂。いただき(古語)

ほ(名)　穂(稲麥等の花實)

ほ(名)　帆、幌、蓬(船にあげて風をうける具)

ほい(名)　布衣(狩衣に似て紋なし　其色多くは萌葱なり無官の者之を着せり)

ほい(名)　布衣、ふい(賤民の譬にも用ふ)


(布衣の圖)

ほい(名)　繡衣、ぬはんぞ、にしきのころものたぐひ(帝王等の)

ほい(名)　本意(ほんいの轉)

ぼい(名)　母衣(「ほろ」を見よ)

ほいろ(名)　焙爐(茶等をほうじる具)

ほいはじめ(名)　布衣始(太上皇御尊號を受て後初て御烏帽子着御せらるるを云ふ)

ほいぼん或ほゆぼん(名)　鉢盂盆、ほゆぼん(僧侶の鉢具)

ほいなく(副)　無本意、のぞみをうしなひて、ずごずごらぬ

ほいなき(形)　無本意、のぞみをうしなひたる。又こころなほいう[する](他)　輔佑、たすくる、輔佐(帝王などを)

ほいきん或ほゆきん(名)　鉢盂巾(僧侶の鉢を覆ふ巾)

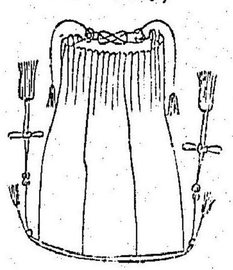
ほいしん(名)　背心、そでなしごろも(僧等の着る)

ほいん[する](自)　遁隠、のがれかくれる

ほいん[する]　歩韻、いんをおはせる、和韻(作詩の語)

ほろ(名)　浦廬、ふくべ、へうたん

ほろ(名)　母衣(往古戰時に背に掛けて用ひし者。此圖なるは大和國三輪藏大塔宮所用。縅武羅、布顱


(母衣の圖)

ぼろ(名)　繿縷、爛布、つづれ

ぼろ或ぼろぼろ(名)　暮露、梵論(盧無僧を云ふ)

ぼろぼろ(副)　發露發露(「ほろりを見よ)

ぼろぼろ[俗](形)　暴露暴露(貧窮零落の狀を云ふ)

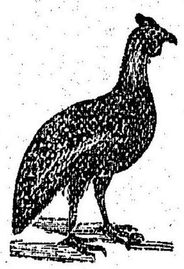
ぼろぼろ(名)　梵論梵論、こむそう

ほろほろてう(名)　珠鷄(動物)

ほろぼす(他)　亡、めつする、ふす、そこなふ、勦滅、珍滅

ほろり(副)　泣然(涙のわつる貌)

ほろがや(名)　縅蚊帳(小兒の上を覆ふかや)


(ほろうの圖)

ほろよひ(形)　微醉(少し醉ふたる事)

ほろつけ(名)　母衣附(甲冑の母衣をつける所をいふ)

ほろうつ(自)　倍雞撃、ばばたきする(野雉が)

ぼろく(名)　牡鹿、をじか(動物)

ほろぶ(自)　亡、なくなる、たおる、斃、沒、喪、滅、滅亡

ほろぎく(名)　幌菊、さくがらくさ(植物)

ほろみそ(名)　法論味噌(南都元興寺の護命僧正初てこれを製す)

ほろし(名)　白英、ひよどりじやうご(植物)

ほろし(名)　碓磑、鐵碓(下磨の眞中にありて上磨に通る鐵棒)

ぼろんじ(名)　梵論字(盧無僧をいふ)、ぼろぼろ

ほばら(名)　鰾(魚の腹の前の方を云ふ)

ほばく[する](他)　捕縛、とらへる、めしとる、からめとる

ぼはく(名)　簿箔、すだれ

ほばしら(名)　帆檣、檣竿、檣桅、檣楫、ほをたてるはしら

ぼはん(名)　模範、てほん。いがた

ぼばん(名)　暮晩、くれ、いりあひ、たそがれ

ほにう(形)　哺乳、ちちのむ(動物に云ふ)

ほにん[する]　補任(欲たる官職に任ずる事)

ほは(名)　頰、ほほぺた、ほう、顴、臉

ほは(副)　粗、あらまし、それほよそ、畧、概畧

ほはばる[俗](他)　嘯、聳、くちよいれる、くちよみたす

ほはぼね(名)　顴骨、ほうぼね、つらぼね、輔骨、顴、頰車、かまち、つらかまち

ほはかぶり(名)　頰冪、手拭等を面よかぶる事)

ほはかし(名)　厚朴、ほほのき(植物)

[ほほう](名)　蒲鋒、かまぼこ

ぼほう(名)　墓封、つかやま、つか

ほはげた(名)　輔車、牙車、頰車、つらがまち、あごぼね

ほはけたつ(自)　尨、尨毛立、けばたつ

ほはふくらす　頰脹、ほつぺたをふくらす、いかる

ほはおか(名)　頰赤、ほほのあかきとりのな、赤頰黄道眉(動物)

ほはあて(名)　頰當、頰と覆ふ兜の具)

ほはさき(名)　顬、顬顬、かはぼね

ほはじろ(名)　書眉鳥、黄道眉、ほほのしろきとりのな(動物)

ほはゑむ(自)　微笑、すこしわらふ、含笑、莞爾笑

ほはひげ(名)　頰髭、鬚、頰毛、ほつぺたひげ

ほへい(名)　歩兵、かちのつはもの、歩卒

ほへいたい(名)　歩兵隊(歩兵のくみ)

ほへいくわ(名)　歩兵科(歩兵の部)

ぼへう(名)　墓標、はかじるし、墓表、墓銘

ほど(名)　土圭兒、地栗子、土芋(芋の種類)(植物)

ほど(名及後置詞)　程、ありさま、程度、分限、くらゐ。また時、ころ、とき。又ごとく。わりよ、したがひてほど(名)　陰門、をんなのかくしどころ(古語)

ほどいも(名)　土圭兒、九羊子(植物)

ほどろ(名形)　蓬蓬、れどろ、ほうけたるさま(蕨などの)

ほどろ(名)　程、時、とき、ころ(「ろ」は助語)

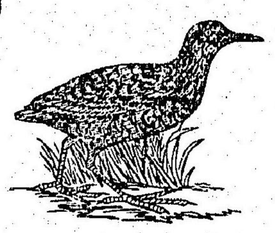
ほどばしる(自)　迸、激騰潰、ふきいでる、はしりいづ(水等が)

ほとばす(他)　潤、ほとびさする、ふやけさする、ひたす、つける、浸

ほどほど(名)　丁丁(木を伐る音、また門を叩く音)、剝啄

ほとぼり(名)　熱、あたたかさ、あつさ、火熱、ねつき

ほとぼる(自)　發熱氣、ほめく、煩熱、あつくある(金などが)
ほどへる　程經、ときをへる
ほととぎす(名)　杜鵑、蜀魂、子規、謝豹、田鵑、鶗鴂、買鏡、不如歸、別都鳥、宜壽、時鳥、郭公、杜宇、杜主、鶗鴂、周燕、陽雀、催阪、怨鳥、しでのたをさ(動物)
ほととぎすさう(名)　油點草、武建草(植物)
ほどちかき(形)　程近、ほからぬ
ほとり(名)　熱、ほとぼり、ほてり、熱氣
ほとり(名)　邊、あたり、畔、頭、次、上、涯、涘、濱、泥、澁、渡、そば、かたはら
ほどよく(副)　程善、しあはせよく、さいはひに。かつかふに、ふさはしく
ほどよき(形)　恰好、つがふよき、あひかなふ、につかはしき
ほどづら(名)　百部根、へくそかつら、さしかくし、天門冬(植物)
ほどなく(副)　無程、ぢきに、とほからず、過些時
ほどらひ(名)　適當、てごろ、ほどよき
ほどく(他)　解、とく、解放、はなつ
ほとけ(名)　牡犢、をそのこうし(動物)
ほとけ(名)　佛儞、佛陀、如來
ほとけぞう(名)　佛胴、鎧の形に云ふ)
ほとけつくり(名)　佛工、佛師、ほとけのかたちをきざむひと
ほとけづくる〔俗〕自)　佛作、しにがはになる
ほとけのをしへ　佛教、釋教、佛法、ほとけののり
ほとけのつめ(名)　佛甲草、たかのつめ、くさのな(植物)



ほとけののり　佛法、佛教、ほとけのみち
ほとけのふみ　佛典(釋教の御經)、內典
ほとけのざ(名)　佛の耳草、くさのな(植物)

ほとけのみち(名)　佛道(釋迦の教を謂ふ)
ほとけぐさ(名)　菩提草、佛面竹(植物)
ほとけぎ(名)　白楊、かどろ、きわた(植物)
ほどこす(他)　施、あたへる、施與、救與。れてなふ、施設、施行
ほどわひ〔俗〕(名)　程間、ころわひ、ほどらひ
ほどぎ(名)　筵、樂器の名)
ほどき(名)　盞、缶、ひらか、盆(瓦器也)
ほどきもめん(名)　綿散絲、まきもめん
ほとしぎ(名)　保登鷁(動物)
ほとんど(副)　殆、幾、大抵、あらかた
ぼち(名)　墓地、はかち、はかば
ほちほち(副)　鰷鰷(眠らざるの貌)、まじまじ
ほちう(名)　補註(書足せる註解)
ほぢやう(名)　圃場、はたけ、たはた、田圃
ぼちやうじ(名)　母丁子(植物)
ほちん(名)　舖賃、たなちん(店賃)、借家料

ほり　堀氏)
ほり(名)　蛤蜊、こめむし、蜘蛛、よなむし(米穀に生する小虫を云ふ)(動物)
ほり(名)　捕吏、とりて、遽捕者、
ほり〔する〕(他)　補理、つくろふ、修復、修理
ほり(名)　溝壕、隍塹、れはみぞ、城の周圍の)
ほりいりな(名)　菘菜、からしな、たかな(植物)
ほりはめる(他)　彫嵌、ゑる、さざみつける
ほりとる(他)　採掘(金銀銅鉄等を地中より)、うがちとる
ほりぬく(他)　掘抜(井戸穴等を)、ほりとほす
ほりぬきゐど(名)　掘抜井戸(地底の水脈まで掘うがちたる井)
ほりぬきみち(名)　隧道、甬道、トンチル(山などを通して掘たる孔道)
ほりを　堀尾(氏)
ほりわり(名)　堀割、溝渠、運河、ほりひらきたるかは
ほりかは　堀川(氏)
ほりかはてんわう　堀河天皇(八皇第七十四代の帝)
ほりかへす(他)　堀返、ほりてくつがへす、ほりひらく
ほりよ〔する〕(他)　捕虜、とりこにする、いけどる
ほりだす(他)　掘出、穿出、ほりあげる、ほりとる
ほりねだいこん(名)　水蘿蔔、ねだいこん(植物)
ほりう(名)　蒲柳、くまやなぎ(植物)
ほりうのしつ　蒲柳之質、すなはなるうまれつき、溫柔性
ほりのうち　堀內(氏)
ほりぐち　堀口(氏)
ほりくづす(他)　掘崩、うがちたふす
ほりくじる(他)　剔抉、くじりぬく、うがつ
ほりこむ(自)　掘込、うがちいる、ほりいる
ほりこみのいん　白文印(文字の所をくぼめたる印)
ほりこし　堀越(氏)
ほりあげ(名)　彫起、凸彫、うきあげぼり
ほりあげのいん　朱文印(文字の所を高くしたる印)
ほりいれ　堀江(氏)
ほりもの(名)　刺宇、腐蝕、刺文、文身(以上躰の上に刺せる文)、彫物、彫鏤、ちりばめもの、さざめるもの
ほりものし(名)　彫物師、彫工、彫刻師、篆刻師
ほりものじゆつ　腐蝕術、文身術(以上躰に文を刺す術)。また彫刻術
ほりす(他)　欲、ほつす、のぞむ
ほりん(名)　滑輪、まとゐ、くるまざ、圓坐、圓座
ほぬの(名)　帆布、ほもめん
ほぬひばり(名)　帆縫針、船の帆を縫ふ大針)
ほる(他)　掘(地を掘る)刻(木を刻る)、くぼめる。彫(玉石金銀等に)、きざむ
ほるとがる(名)　波爾杜瓜爾、葡萄牙(歐羅巴洲の國名)
ほるとのき(名)　膽八樹、續隨子(此實より油を製し器具等の金物を磨するの用に供す但極慨油に毒有たるも藥草にして食料に供するものに非ず、れれいふ(阿利襪)

(圖のほる)

ほる(自)　恍惚、恍惚、ぼつとする。又耄、ぼける(「ほれる」を見よ)

ぼるねを　婆羅尼、婆尼印度洋中の島名)

ほるもさ　臺灣、たかさご、東寧(支那海にある島名)

ぼをく(名)　母屋、もや、れもなるたてや

ほわう(名)　蒲黄、がまむしろ

ほか(名形及後置詞)　外、他、表、外面、そと

ほかい(名)　舗家、おきなひみせ、商店

ほかい(名)　行器(食物を入れて運ぶ器)

ぼかい(名)　模楷、いがた模型

ほかね(名)　外居、ほかのところに

ほかばら(名)　外腹、てかけばら、をんなめのはら(本腹に對す)

ほかほか(名)　所所、ところどころ

ほかほか(形副)　温温(あたたかなる貌)

ほがらか(形)　朗朗然、廓然、ひろらか。朗朗、敞明、あきらか

ほかう(名)(ーする(自))　歩行、あゆみ、歩履。あるく、あゆむ

ほかく(名)　逋客(隠者の謙稱)、よすてびと

ほかけ(名)　穂撫(稲穂を掛て干す等の事)穂紅

ほかげ(名)　火影、ひかり、ひのかげ

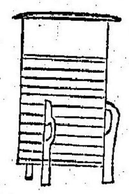
ほかける　掛帆、ほをあげる(船が)

ほかけぶね(名)　帆掛船(帆を揚たる船)

ほかけさう(名)　猪、かりがねさう、馬鞭草(植物)

ほがみ(名)　小腹、肛腹(臍下と云ふ)

ほがひ(名)　祝、かむほぎ(古語、ほぎことば、いはひことは。



ほかす[俗](他)　放下、なげすてる、すてれく、投

ほよく[する](名)　補翼、輔翼、たすける、輔佐、輔弼

ほた(名)　楫、楫柵、木株(こかぶ)、きのきりくひ、きりかぶ

ほた(名)　杼機、かせ(刑具)、桎梏

ほだ[する](他)　捕拿、とらへる、しばる

ほだ　保田(氏)

ほたい(名)　逋滯、とどこほり(借金等の)

ぼだい(名)　菩提、ほとけのみち(覺道

ぼだいよう(名)　菩提鷹、えつさい(動物)

ぼだいごえ(名)　菩提聲、ねんぶつとなふるこゑ

ぼだいさう(名)　菩提草、ほとけぐさ(植物)

ほだいし(名)　菩提子、無患子(植物)

ぼだいしよ(名)　菩提所、檀那寺、功德院、香花院、だんなでら

ぼだいじゆ(名)　菩提樹、覺樹、思惟樹(植物)

ぼだいしん(名)　菩提心、ほとけごころ

ぼだいせん(名)　菩提泉酒の一種、菩提酷

ほたはら(名)　神馬藻、なのりそ(俗よ穂俵と書く)

ほたる(名)　螢燭燭、即焔蟲、宵行、宵燭、丹鳥、夜照、ひかるとびむし(動物)

ほたるいし(名)　螢石(礦物の名)

ほたるがり(名)　螢狩、ほたるとり(遊事)

ほたるかご(名)　螢籠、ほたるをいれるかご

ほたるぐさ(名)　樟牙菜、紫宮花(植物)

ほたるぶくろ(名)　山小菜、くさのな(植物)

ほたるさう(名)　南柴胡、まるばさいこ(植物)

ほたるび(名)　螢火、ほたるがはなつひかり

ほたれり(名)　保多織(織物の名)

ほたれ(名)　襤褸、ぼつれ、つづれ

ほたう(名)　蒲桃、ふとももの(植物)

ほたう[する](自)　逋逃、のがれにげる、かけわたちする

ぼだう(名)　母堂、ははぎみ、母公、北堂、母を尊稱する詞)

ぼだう(名)　墓道、はかみち、はかばみち

ほだけ(名)　帆竿、ほざを、ほをあげるさを

ほたてがひ(名)　帆立貝、海扇、車渠、半邊蚶、いたやがひ、おふぎがひ、わげまさ(動物)

ほださるる　被囚、具罪、被絆、被踞、しばられる

ほたき(名)　火燒(十一月神の社にて陽氣を迎る爲に行ふ祭)

ほだし(名)　錠かなふくし(刑具。絆(馬犬等を繋ぐに用ふる者)

ほだえる(自)　挑、挑戯、ふざける

ほたび(名)　榾火(木株を焚く火)、たきび

ぼたもち(名)　牡丹餅、かいもち、はぎ、飯團餅

ほだん(名)　蒲團、ふとん、しきもの

ぼたん(名)　牡丹、廿日草、なとりぐさ、ふかみぐさ、百両金、富貴花、一捻紅、鹿韮木、花王、木芍藥、洛陽花(植物)

ぼたん(名)　鎖袖、とめ(衣服に用ふる物)、扣子、扣鈕

ぼたんにんじん(名)　防葵(植物)

ぼたんづる(名)　女萎、つるくさのな(植物)

ぼたんきやう(名)　巴丹杏、すもものたぐひ(植物)

ぼたんび(名)　牡丹皮、ぼたんのねのかは(藥品)

ぼれい(名)　蠔蜊、とこしより、桑蠣、晩年

ぼれいくわい(名)　牡蠣灰、かきばひ

ほれぼれする(自)　戀戀、ふかくほれる、ほれこむ、戀着、戀慕

ほれぼれする(自)　惆惆、ぼける、れいぼれる。うつとりする。おきれる。忙然、窗然、憧憧

ほれる(自)　惚、戀慕、戀想、戀着れもひとかける、ほれこむ、こひる

ほれぐすり(名)　媚藥、激淫藥、催淫藥、ほれさせるくすり、いろのくすり

ほれふだ(名)　迷魂符(人をほれさする呪符)

ほそ(名)　臍、へそ

ほそ(名)　帶、へた(菓實が莖に連なれる處)

ほそ(名)　柄、榀、枸(木の端を削て溝などに差入る所と云ふ)。柄(柱上に在る者を云ふ)

ほそね　細井(氏)

ほそばのとりかぶと(名)　細葉烏頭(植物)

ほそばのまんねんぐさ(名)　佛甲草、たかのつめ(植物)

ほそばのあきのげし(名)　山萵苣、あきのげし(植物)

ほそばしきみ(名)　細葉莽草(植物)

ほそどの(名)　行廊、廊架、わたどの、らうか、歩廊、歩廡、歩欄

ほそぬの(名)　細布、總、絺、さいみ

ほそれち(名)　寛、ほそ、へた、帶。また熟瓜

ほそをかむ　蹙臍(後悔するの深きを云ふ)

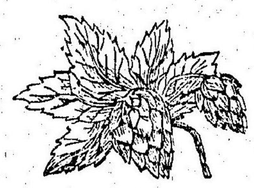
ほそれび(名)　細帶、ほそきれび

ほそわた(名)　小腸、はらわた

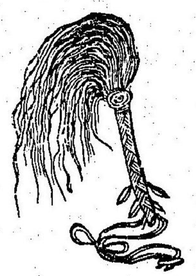
ほそかは　細川(氏)
ほそたにがは　細澤、溪流、ちひさきやまがは
ほそつ(名)　歩卒、あしがる、歩兵
ほそね　細音(ちひさきこゑ)微音
ほそね(名)　細根(大根の若く細き者)
ほそながき(形)　細長(楕圓、狹長、にびつなりの
ほその　細野(氏)
ほそのを(名)　臍帶、命帶、へそのを
ほそく[する](他)　補足、たきなひたす、補塡、補充
ほそぐみ(名)　半夏草、くさのな(植物)
ほそまゆ(名)　娥眉(三日月形の眉毛)、みかづきまゆ
ほそき(名)　草椒、きのな(植物)
ほそき(形)　細、纖微、こまかき、ふとからぬ
ほそめ(名)　細目、半開眼(ほそきめ)。又せまきあひだ
ほそめ(名)　海帶、昆布の類(植物)
ほそみち(名)　細道、徑、こみち、小蹊
ほそびき(名)　細引(微索、麻繩、しばりなは、あさなは
ほそん(名)。—する(他)　保存、たくはへたもつこと。たもた
　する。かこふ
ほつ(名)　蛤蜊、こめむし(動物)
ぼつにふ[する](自)　沒入、わちいる。しづむ
ぼつぼつ[俗](副)　黙黙、ひとつひとつ、だんだん
ぼつぼつ(副形)　勃勃(憤る貌、また盛なる貌)
ぼつぼつすぢ(名)　黙線(……此すぢ)
ほつと(副)　喟然(大息つく貌、太息、太噓
ほつとうにん(名)　發頭人、ほつきにん。又ちやうぼん、正
　犯(罪人の)
ぼつちり[俗](副)　一點、すこしばかり
ぼつちやり[俗](形副)　豊艶、豊滿、肥膩、ぼてぼて、ふとり
　てをる
ほつを(名)　末尾、すゑのを、そのすゑ(はつを」にれなど)
ほつが(名)　發駕、のりだし、發車、いでたち
ぼつかい(名)　勃海(支那直隷灣邊の海の稱)
ほつかい[俗](名)　梶手、わるもの
ほつた　堀田(氏)
ほつたい　法體、ぼうずのすがた、僧體
ほつたわす(名)　剝篤亞斯(藥材)
ほつたん(名)　發端、はじまり、れこり、起初
ほつれる(自)　紕繆、放脫、ほぐれる、とける(布絲などか)
ぼつそつ(形)　勃窣、よろめく。ばらばら
ほつそく(名)　發足、いでたち、いでゆくこと
ほづつ(名)　帆筒(帆柱の端につける筒)
ほつねつ(名)　發熱(病氣にて熱の發する事)
ほづな(名)　帆綱、綯(船の帆の繩)
ぼつら(名)　哮囉、いくさのなりもの、喇叭
ぼつらく(名)。—する(自)　沒落、ほろび、滅亡。ほろぶる
ぼつらん(名)　悖亂、さわぎ、みだれ
ほつく(名)　發句、誹諧(歌の類)
ほつくり[俗](名)　黙頭、うなづき
ほつぐわん　發願(佛道に入るの願を起す)
ぼつくわん　沒官(官府にとりわげる)、抄、もつしゆ
ほつまのくに　秀眞國(日本の一名)
ほつけ(名)　法華(法華經また法華宗)
ほつけしう(名)　法華宗(日蓮の開創せし宗門を云ふ)

ほつぷ(名)　葎草、かなむぐら、麥酒
　麵包又は菓子等種種の食品を
　製する際に加入し香氣を發生
　せしむる用に供す
ほつご(名)　發語(章句の頭に加ふ
　る語を云ふ)
ぼつご　沒後、しにたるのち、死後
ぼつこう[する](自)　勃興、いさみ
　れこる、れこりたつ
ぼつでき[する](自)　沒溺、たほれる
ぼつでん(名)　沒田(沒收せる田地)
ほつさ(名)　發作、れこり(病氣の時時激發する事)
ほつさどき　發作時、れこるとき(病氣の)
ほつさうしう(名)　法相宗(佛の宗門の名)
ほつき(名)。—する(他)　發起、發企、くはだて。くはだてる、
　はじめる
ぼつき[する](自)　勃起、れこりたつ、れこる
ほつきにん(名)　發起人、くはだてるひと、はじめるひと
ぼつきやく[名形]　沒却、ほろぼす
ぼつぎやく(名形)　悖逆(はいぎやく)、そむきもとり、よこ
　しま
ぼつめつ(名)　沒滅、ほろび、滅亡
ほつみ　八月朔日(氏)
ほづみ　穗積(氏)
ほつし(名)　法師(「ほふし」に同じ)、ばうず
ぼつし　沒歯、しぬる、いのちをはる
ぼつじかん(名)　沒字漢、あきめくら、もじしらぬひと、無
　學者
ぼつじよ(形)　勃如、むつとしたる(怒る貌)
ぼつしゆ[する](他)　沒收(もつしゆ)、とりあげる(官府へ)
ほつしもめん(名)　綿散絲(ほぐしもめん
ほつしん[する]　發心、ほとけにきするこころをれこす
ほつせ(名)　法施(僧侶に物をほどこす事)
ぼつせい(名)　哮聲(喇叭金鼓の聲、また鯨波の聲)
ぼつせん(副)　勃然、むつとして、いきまきて
ほつす(自)　欲、のぞむ、望、願望
ほつす(名)　拂子(僧徒の用
　ふる具、はひはらひ。麈
　尾
ほつすがひ(名)　拂子貝(動
　物)

（圖のぶつほ）

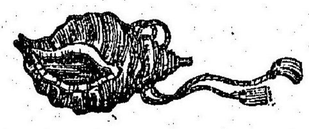


（圖の子拂）



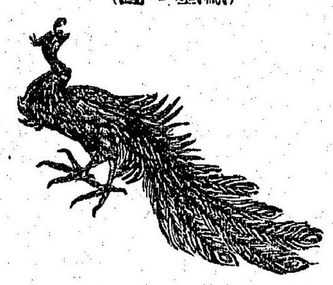
ほね(名)　骨(身體の支柱)。
　骨格(ほねぐみ)
ほねにしみる　徹骨、みにしみる
ほねちがひ(名)　骨違、脫臼、ほねのひきちがへ、ほねはづ
　れ
ほねをり(名)　骨折、はたらき、つとめ、粉骨、刻苦、勤勞、勞
　力、力役
ほねをる(自)　骨折、勞苦、力作、はたらく、つとめる
ほねがらみ(名)　骨纏、結毒(骨に毒がかかりて痛む事)
ほねつぎ(名)　接骨、ほねをつぎわはすること、整骨。接骨
　師、折傷醫
ほねなし(名形)　無骨、ほねのやはらかくてたちにぬひと、
　又かくのことき人

ほねぐみ(名)　骨組、骼、骨格、ほねづくり
ほねこそぎ(名)　刮骨刀(ほねをけづる小刀)
ぼねん(名)　暮年、おいたるよはひ、晩年
ほなみ(名)　穂並(穂の出揃たる狀)、列穂
ほなみ(名)　穂波(穂の風に靡くを波になぞらへたる者)。
　また(氏)
ほら(名)　法螺、螺、ほらがひ(動物)
ほら(名)　洞、いはあな、窟、いはや
ぼら(名)　鯔、鯔魚、いな、なよし(動物)
ほらいも(名)　螺芋、さといものたぐひ、君子芋(植物)
ほらがひ(名)　螺貝、法螺貝(往昔陣中にて號令等に用ひし者また非常と戒るため又は人を集るためなどに吹きし者)
ほらう(名)　非廊、らうか、わたりどの
ほらふき(俗)(名)　法螺吹(法螺貝を吹く者、また大言はく者)
ほらあな(名)　洞穴、いはあな、岩窟
ほらしのぶ(名)　烏韭(植物)
ほむる(他)　讃譽、たたへる、褒頌、賛稱、賞美、喝采、褒賞
ほむら(名)　炎、ほのほ、火焔、又ねたみごころ、やきもち
ほう或ほは(名)　頬、かほのよこつら(此語を以て成りたてる文字は凡て「ほほ」の下に出せり)
ほう(形)　丰、ゆたかなる、うるはしき
ぼう(名)　牟(牛の聲)、まう
ぼう(名)　鵬、おほとり、大鵬(動物)

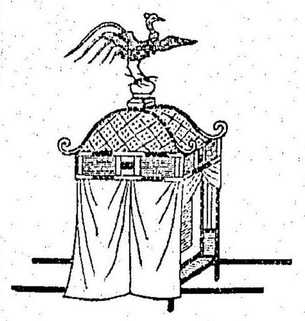

（貝螺の圖）

ぼう(名)　棒、棍棒、つゑ、椎
ほうねつつるはう(名)　忽微砲(大砲の名)
ほういう(名)　朋友、ともだち
ほういう(名)　鳳友(孔雀鳥をいふ)
ほうねてう(名)　剖葦鳥、ぎようぎようし、よしむしり、けけし(動物)
ほうねき(名)　封域、ほうせられたるくに、りやうぶん
ほうろう(名)　崩漏(婦人の病の名)
ほうろく(名)　俵祿、ふち、ろくぐつきふ
ほうは[する](自他)　剖破、われる、さける。わる、さく
ほうばい(名)　朋輩、ともだち、朋友
ほうばる　嘯、窶(「ほほばる」を見よ)
ほうはつ(名)　蓬髪、ねどろのかみ、みだれがみ
ぼうばな[俗](名)　棒鼻、まちはづれ、まちのはし
ほうばう(名)　蜂鉅、きつさき、ほさき
ほうばう(名)　蜂房、はちのす、蜂巣、蜂窩
[ほうはく](名)　縫箔、ぬひはく
ぼうはん(名)　謀判、にせはん、二重判
ぼうはん(名)　謀叛、むほん、不逞、不軌、はんぎやく
ぼうはんにん(名)　謀判人、にせはんするひと
ほうほう(形)　髴髴、かみのみだれたる(蓬髪なるを云ふ)
ぼうぼう(形副)　懵懵、にぶき、おろかならぬ、たろか
ぼうぼうまゆ(名)　黛眉、高眉、つけまゆ、つけまゆげ(普し公家衆等の爲せし者)
ほうへい(名)　泰幣、そなへものささぐること、みてくらをたてまつること
ほうべら(名)　鰾、ほばら

ほうど(名)　封土(己が封せられし地)、封國、りやうぶん
ぼうとる(名)　醨醨、しし、びしほ、しほから
ほうとう(名)　奉燈(神佛に奉る燈火)
ほうどく[する](他)　捧讀、ささげよむ
ほうちよく　奉勅、みことのりをうけたまはる
ほうちつ(名)　封秩、ふち、食祿、たか
ほうり(名)　鳳梨、あなす(元來亞墨利加熱帶中の產なりしが今は熱帶の國には何れの地にも產せり)
ぼうり(名)　牟利、むさぼること
ほうりう(形)　豐隆、むつくりしたる、もちあがれる、ゆたかなる
ぼうりやく(名)　謀略、はかりごと
ほうるゐ(名)　蓬藥、ふゆいちご、つるいちご(植物)
ほうわう(名)　鳳凰(鳥の最も靈ある者をいふ其實只想像のみ)
ほうわう(名)　蜂王(蜜を釀す蜂の首領を云ふ)(動物)
ほうわうちく(名)　鳳凰竹、鳳尾竹、たけのな(植物)
ほうが(名)　奉加、きしん、きふ(寺社への)
ほうが(名)　萌芽、めだし、めざし、わかめ
ぼうかい(名)　鵬海、うみ、大海、れ、ほうみ


（鳳凰の圖）

ほうがちやう(名)　泰加帳、きふきんひかへがき、くわんけちやう
ほうがしは(名)　厚朴、ほうのき、烈朴、朴木(植物)
ぼうがしら[俗](名)　棒頭、かごかきのかしら
ほうよ(名)　鳳輿(天子の御車と云ふ)、鸞輿、みこし
ほうよう　丰容、うるはしきかたち
ほうたい[する](他)　奉戴、いただく(君主等として)、あがめる
ほうたい(名)　細帶、帶帶、ゆはひれ、しばりれび
ほうだい　封內、りやうぶんのうち、國內、領內
ほうたう(名)　朋黨、くみをむすぶこと、とたう、むすびあひ
ほうたふ[する](自)　奉答、こたへたてまつる
ほうたん(名)　鳳團茶の異名)
ほうたん　蜂端、ほこさき、きつさき
ほうれいわた(名)　綿毳、白疊(きわた)、綿花、もめんわた
ほうれん(名)　鳳輦(天子の乘輿を云ふ)、みこし
ほうそう(形)　憔悴、かみみだれたる(亂髮の貌)
ぼうつかひ(名)　棒遣(棒をふりまはすに巧なる人)、棍手、使棒人
ほうづき(名)　酸漿、灯籠兒、苦蔵、鬼灯、金灯籠、姑茱娘(植物)


（鳳輦の圖）

ほうづきぢやうちん(名)　鬼燈提灯(小さき赤き吊し提灯)
ほうねう(形)　豐饒(ぶねう)、ゆたか、澤山
ほうねん　豐年、ゆたかのとし、豐稔、豐歲、稔歲、樂歲、有年、康年
ほうなふ(名)。—する(他)　奉納(神に物を奉ること)ささげる、をさめる
ほうらいまめ(名)　蓬萊豆、いりらんまめ、ふつきまめ
ほうらいさん　蓬萊山、ととよのくに、よもぎがしま(仙人のすむ島國なりといふ)
ほうらいじゆり(名)　天香百合、にいざんゆり、れうりゆり
(植物)
ぼうらん(名)　釵子股(圖の屬)(植物)
ほうのう(名)　蓬蘽、おしのはな(植物)
ほうのき(名)　厚朴、ほほがしは、浮瀰羅勒、柳葉(植物)
ほうぐ或ほぐ(名)　反故、すたれがみ、破故紙、かみくづ
ほうくわ(名)　烽火、のろし
ほうくわ(名)　蜂窠、はちのす、蜂巢
ほうくわい[する](自)　崩潰、くづれる
ほうくわん[する](他)　奉還、かへしたてまつる
ぼうぐひ(名)　棒杭、界牌、さかひぐひ、くにざかひのしるし
ほうやう[する](他)　奉養、やしなふ(親等を)、孝養
ほうまい(名)　俸米、ふち(扶持)、祿米
ほうげい[する](他)　奉迎、むかへたてまつる
ぼうけい(名)　謀計、はかりごと
ほうけいさう(名)　鳳頸草、馬鞭草、くまつづら(植物)
ほうけつ(名)　鳳闕(天子の宮殿)、禁闕、禁裡
ほうけづく(自)　浮屠然、ぼうずめく、ぼうずらしくなる
ほうけん　豐歉、ゆたかわるしき(年にいふ)、豐凶
ほうけん[する]　奉獻、ほうなふする(奉納)、たてまつる
ほうけん(名)　封建(諸侯大名の存在する國體)
ほうふ(形)　豐富、ゆたか、胖、豐饒
ぼうふりむし(名)　子子、蛞蝓、釘倒蟲、水蛆、釘頭虫、蛸螺、ぼうふら(夏日水中にわく虫にして蚊これより出づ)(動物)
ぼうぶら(名)　南瓜、南瓜、かぼちや(植物)
ぼうふん(名)　寧露、さり、霰
ほうこ(名)　封戸、領分、知行、所領(政府或は君王より賜はりをる領分)
ほうこう(名)　封侯、だいみやう、諸侯
ほうこう　封堠、いちりづか(一里塚)
ほうこう(名)。—する(自)　奉公、つとめ。やとひづとめにでる
ほうこうにん[俗](名)　奉公人、やとひにん
ほうこく(名)　封國(諸侯等が受領する國)
ほうこん(名)　縫痕、ぬひめ、つぎめ
ほうてい[する](他)　奉呈、たてまつる、進呈
ぼうてつば(名)　棒鐵把、くまで
ほうでう　北條(氏)
ぼうてう(名)　寢鳥(五色にて冠ある鳥)(動物)
ほうでうくだい　北條九代(時政、義時、泰時、經時、時賴、時宗、貞時、經時、高時を云ふ)
ほうでうだい　北條五代(早雲、氏綱、氏康、氏政、氏直を云ふ)

ほうてふり(名)　棒手振、よびてうりあるくあきうど、ふりうり
ぼうざたう(名)　棒砂糖、尖形糖、塔糖、かたまりざたう
ぼうざつ(名)　謀殺、はかりころすこと
ほうさう　豐草、しげりたるくさ
ほうさう[する](自)　逢遭、あふ、でわふ、遭遇
ほうさう(名)　崩糧(女院皇后の身まかりたまふを云ふ)
ほうさく　豐作(米穀のあたりといふ)、まんさく
ぼうさく(名)　謀策、はかりごと
ぼうさき[する](自)　逢遭、あふ、でわふ、遭遇
ぼうさき[俗](名)　棒先(買物等する時よ主人の金を幾分か綱む事)
ほうき[する](自)　蜂起、わきおこりたつ(一揆等が)
ぼうぎ(名)　謀議、はかりごと
ほうぎよ(名)　細魚、すずめふぐ(動物)
ほうぎよ(名)　崩御、かむあがり、晏駕、殂落、登仙、登霞、升遐(天子の死をいふ)
ほうきやう　豐凶、ゆたかとわしき、豐歉(年にいふ)
ほうきやう(名)　封境、くにざかひ
ほうきふ(名)　俸給、ふちかた、給料
ほうきん(名)　鳳巾、いかのぼり、たこ
ほうきん(名)　俸金、俸給、きふきん(官吏の)
ほうめい　奉命、たはせをうけたまはる
ほうみ　豐味、うまみ、うまさ、厚味
ほうみつ(名)　蜂蜜、はちみつ
ほうし(名)　封豕、れほぶた(動物)
ほうし(名)　法師、のりのしばうず(「はふし」を見よ)
ほうし[する](自)　奉仕、つかへまつる、奉事
ほうし[する](自)　奉事、つかへまつる
ぼうし(名)　帽子、ひとみ。めのたま
ぼうし(名)　曚昧(もうし)、ひのいるたよ(日沒の谷)
ぼうし(名)　謀士、はかりごとするひと、策士。軍士
ぼうし[俗](名)　炊夫、めしたき、料理人
ほうじる(他)　焙(茶等を火にかけるを謂ふ)
ほうしよ(名)　奉書(將軍家執事の文書を云ふ。又紙の名「ほうしよがみ」を見よ)
ほうじよ[する](他)　幇助、たすく、てつだふ、すける
ぼうしよ(名)　謀書、にせぶみ、僞書
ほうしよがみ(名)　奉書紙(越前の國より製する厚く柔き紙の名)
ほうしよつむぎ(名)　奉書紬(越前國福井より出す絹布の名)
ほうじよう(形)　丰茸、しげれる、蓊蔚
ほうしよく[する](他)　奉職、つとめる(官府よ)
ほうしつ　蓬室、よもぎふきのいへ、茅屋
ぼうしう(名)　曚臭、かびくさき
ほうしや(名)　硼砂(金屬を鎔すよ用ひ又藥品等よ用ふる者)
ほうじやう(形)　豐穰、ゆたか、みのりよき
ほうしふ[する](他)　裒輯、あつめる
ほうしてふ(名)　鳳子蝶、わげはのてふ(動物)
ほうしおい(名)　蓬子菜、かはらまつば(植物)
ほうしゆ[する](他)　裒聚、あつめる
ほうしゆ　蓬首、ちらしがみ、みだれがみ、蓬頭

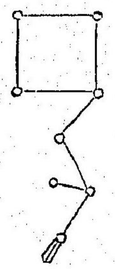
ほ　ほうしん　遂心、さたなきこころ
ほうしん(名)　鋒刃、ほこさき、きつさき
ぼうしん(名)　諫臣、はかりごとをめぐらすけらい
ほうる[する](自)　剖壊、さけやぶれる、われる
ほうにう(形)　豊盈、こえふとれる、肥満又ゆたかなる
ほうにう(名)　蜂腰、こしをれ(自詠の和歌を臭下していふ詞)、また細腰
ほうにき(名)　縫掖、逢掖(大袂の衣をいふ)、大衣
ぼうにき(名)。—する(自)　貿易、おきなひ、交易。うりかひする
ぼうえきぢやう(名)　貿易場、交易場、おきなひば
ぼうえきふう(名)　貿易風(熱帯地方にて年中一定の方向よ吹く風)
ぼうにきしやう(名)　貿易商、ふなあきんど(外國人と取引する人)
ほうにん(形)　豊衍、ゆたか、たくさん
ほうにん(形)　豊艶、ぽつちやり、ぽてぽて、むつくりふとれる
ぼうにん[する](自)　奏延、ひろがる、のびる
ほうひ(形)　豊肥、ゆたかよこにたる、ふとれる
ほうひ(名)　蓬廂、ふなやかた(舟上の屋根)
ほうび(形)　豊美、ゆたかよ、うるはしき
ほうび(名)　鳳尾、とらのを(植物)
ほうびちく(名)　鳳尾竹、ほうわうちく、どようちく、くわんれんちく(植物)
ほうひつ(名)　蓬蓽、わらや、いやしきいへ、蓬室、蓬門、蓬戸、蓽戸
ほうびらん(名)　鳳尾蘭、かやむしろ(植物)
ほうしん(名)　鳳尾草、はながくさ、うらじろ、やまわらび、きにのをしだ(植物)
ほうび[する](自)　剖壊、さけやぶれる、われる
ほうにい(形)　豊盈、こえふとれる、肥満又ゆたかなる
ほうにう(名)　蜂腰、こしをれ(自詠の和歌を臭下していふ詞)、また細腰
ほうにき(名)　縫掖、逢掖(大袂の衣をいふ)、大衣
ぼうにき(名)。—する(自)　貿易、おきなひ、交易。うりかひする
ぼうえきぢやう(名)　貿易場、交易場、おきなひば
ぼうえきふう(名)　貿易風(熱帯地方にて年中一定の方向よ吹く風)
ぼうにきしやう(名)　貿易商、ふなあきんど(外國人と取引する人)
ほうにん(形)　豊衍、ゆたか、たくさん
ほうにん(形)　豊艶、ぽつちやり、ぽてぽて、むつくりふとれる
ぼうにん[する](自)　奏延、ひろがる、のびる
ほうひ(形)　豊肥、ゆたかよこにたる、ふとれる
ほうひ(名)　蓬廂、ふなやかた(舟上の屋根)
ほうび(形)　豊美、ゆたかよ、うるはしき
ほうび(名)　鳳尾、とらのを(植物)
ほうびちく(名)　鳳尾竹、ほうわうちく、どようちく、くわんれんちく(植物)
ほうひつ(名)　蓬蓽、わらや、いやしきいへ、蓬室、蓬門、蓬戸、蓽戸
ほうびらん(名)　鳳尾蘭、かやむしろ(植物)
ほうしん(名)　鳳尾草、はながくさ、うらじろ、やまわらび、きにのをしだ(植物)
ほうび[する](自)　剖壊、さけやぶれる、われる
ほうにい(形)　豊盈、こえふとれる、肥満又ゆたかなる
ほうにう(名)　蜂腰、こしをれ(自詠の和歌を臭下していふ詞)、また細腰
ほうにき(名)　縫掖、逢掖(大袂の衣をいふ)、大衣
ぼうにき(名)。—する(自)　貿易、おきなひ、交易。うりかひする
ぼうえきぢやう(名)　貿易場、交易場、おきなひば
ぼうえきふう(名)　貿易風(熱帯地方にて年中一定の方向よ吹く風)
ぼうにきしやう(名)　貿易商、ふなあきんど(外國人と取引する人)
ほうにん(形)　豊衍、ゆたか、たくさん
ほうにん(形)　豊艶、ぽつちやり、ぽてぽて、むつくりふとれる
ぼうにん[する](自)　奏延、ひろがる、のびる
ほうひ(形)　豊肥、ゆたかよこにたる、ふとれる
ほうひ(名)　蓬廂、ふなやかた(舟上の屋根)
ほうび(形)　豊美、ゆたかよ、うるはしき
ほうび(名)　鳳尾、とらのを(植物)
ほうびちく(名)　鳳尾竹、ほうわうちく、どようちく、くわんれんちく(植物)
ほうひつ(名)　蓬蓽、わらや、いやしきいへ、蓬室、蓬門、蓬戸、蓽戸

ほうびらん(名)　鳳尾蘭、かやむしろ(植物)
ほうびさう(名)　鳳尾草、はながくさ、うらじろ、やまわらび、きにのをしだ(植物)
ほうび[する](自)　剖壊、さけやぶれる、われる
ほうにい(形)　豊盈、こえふとれる、肥満又ゆたかなる
ほうにう(名)　蜂腰、こしをれ(自詠の和歌を臭下していふ詞)、また細腰
ほうにき(名)　縫掖、逢掖(大袂の衣をいふ)、大衣
ぼうにき(名)。—する(自)　貿易、おきなひ、交易。うりかひする
ぼうえきぢやう(名)　貿易場、交易場、おきなひば
ぼうえきふう(名)　貿易風(熱帯地方にて年中一定の方向よ吹く風)
ぼうにきしやう(名)　貿易商、ふなあきんど(外國人と取引する人)
ほうにん(形)　豊衍、ゆたか、たくさん
ほうにん(形)　豊艶、ぽつちやり、ぽてぽて、むつくりふとれる
ぼうにん[する](自)　奏延、ひろがる、のびる
ほうひ(形)　豊肥、ゆたかよこにたる、ふとれる
ほうひ(名)　蓬廂、ふなやかた(舟上の屋根)
ほうび(形)　豊美、ゆたかよ、うるはしき
ほうび(名)　鳳尾、とらのを(植物)
ほうびちく(名)　鳳尾竹、ほうわうちく、どようちく、くわんれんちく(植物)
ほうひつ(名)　蓬蓽、わらや、いやしきいへ、蓬室、蓬門、蓬戸、蓽戸

ほうびせう(名)　鳳尾蕉、鐵蕉、火蕉、そてつ、からなづき(植物)
ほうもつ[俗](名)　捧物、ささげもの
ほうもん(名)　蓬門、よもぎのかど、蓽門
ほうもんしやうはい(名)　鳳紋賞牌(鳳凰のつきたる賞牌
ほうせつ(名)　封舌、くちどめ、封口
ほうせう(名)　鳳詔、みことのり、勅諚
ほうせう　奉詔、みことのりうけたまはる
ほうせき(名)　鳳烏(天子の御車を云ふ)
ほうせん(名)　奉饌(神に供する食物を云ふ)、みけ、御供
ほうせん(形)　豊羨、ゆたか、さは、れはき、澤山
ほうせん(名)　鋒尖、ほこさき
ほうせん(名)　俸錢(俸金に同じ)、きふきん
ほうせんくわ(名)　鳳仙花、つまくれなゐ、きんぽうくわ、菊婷、小桃紅(植物)
ほうそ(自)　崩、かむあがりする(崩御に同じ天子の死をいふ)
ほうずい(名)　烽燧、のろし
ほうずね(名)　鳳髄(八珍美味中の一)
ほうすげ(名)　綾、かぶりもののひも、れひかけ
ほのほ(名)　火焔、ほむら、燄、焔
ほのぼのと(副)　朝朝、黎明、昧爽(夜のあけかかれる貌)、う

すあかるく
ほのぼし(名)　焚惑、あかりぼし火星
ほのかに(副)　側(聞)、仄聞)、かすかに、うすうそ。ちらりと
ほのぐれ(名)　曉晩、ゆふぐれ、曛黒、薄暮、ひぐれ
ほのぐらき(形)　昧爽、昧爽、うすくらき
ほのめかす(他)　風諭、よはは、それとなくしらせる
ほのめく(自)　髣髴、ほのかにある、うすうすみゆる。發微光、かすかよひかる
ほのみえる(自)　髣髴見、うすうすみえる
ほぐ(他)　祝、いはふ、しゆくする(人または新築などと、はがひする(古語)
ほぐ(名)　反古、「ほうぐ」を見よ)
ぼく(名)　墨、すみ、てがみ(書翰)
ぼく(名)　僕、やつがれ、こもの、しもべ
ぼく[する](他)　卜、うらなふ。えらぶ(居所を)
ほくろ(名)　痣、黒子、黶子、黒痣、あざ
ほくろ(名)　幽蘭、米米香、しゆんらん(植物)
ぼくろ[する](他自)　暴露、さらす(曝)。さらさるる、あらはにある
ほくろくだう　北陸道(越路一般の稱、若狭、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡を含む)
ぼくは(名)　木把、さらひ、きのくまで
ぼくば(名)　木馬、きのうま(玩具)
ぼくば(名)　牧馬、うまをかふこと。又(琵琶の名)
ぼくばい(名)　北焙(火の異名)
ぼくばい(名)　木牌、きふだ
ぼくばうい(名)　木防已、つづらふぢ(植物)

ぼくはく(名)　牧伯、つかさ、をさ、かしら、侯伯
ぼくばん(名)　木盤、きばち
ぼくぼく(形)　穆穆(威徳盛んなる貌。また深く敬ふ貌)
ぼくぼん(名)　墨本、いしずり(石上の文字を紙にれしたる者)
ほくと(名)　北斗(「ほくとう」をみよ)
ぼくと(名)　墨斗、すみつぼ、やだて(大工の用ふる)
ぼくと(名)　木兎、づく、みみづく、きず(動物)
ぼくと(名)　木蠹、きくひむし(動物)
ほくとかう(名)　北斗香、めぐすりのな
ぼくとつ(形)　木訥、ぶこつ、かざりなき(田舎人の如く)
ぼくとう(名)　北斗(即ち遁甲の一)
狼、巨門、祿存、文曲、廉貞、武曲、破軍の七星)



ぼくとう(名)　木頭、きぎれ、(圖きころ
ぼくとう(名)　僕頭、かうぶり、づきん、まつかふ
ぼくどう(名)　牧童、うしかひわらべ、くさかりわらは
ぼくどう(名)　僕僮、こもの、わらは
ほくち(名)　火口、黒消、引火木、火絨、引火薬、ひをとるわた、ひをうちつけるわた
ほくちばこ(名)　火絨盆、ほくちといれるはこ、ひうちばこ
ぼくちく(名)　牧畜(家畜とかふ事)、うしひつじなどかふこと
ぼくぢやう(名)　牧場、まき、まきば、くさち
ぼくちやく[する](自)　僕着、かびつく、かびてくつつく
ぼくり(名)　木履、からぼけ、楦攄(木瓜の類にして其果味

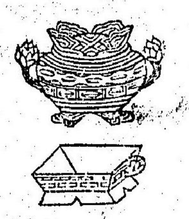
しぶし)(植物)
ぼくり(名)　木履、げた、きのはきもの
ぼくり(名)　木理、きのめ(木の文理)
ぼくりう(名)　木痂、ふしこぶ
ぼぐわ(名)　牡瓦、をがはら(上にかぶせる屋根瓦)
ほくわう(名)　蒲黄、かつみ(植物)
ほくわく[する](他)　捕獲、とらへる、めしとる
ほくわん[する](他)　補完、ねぎなひたす
ぼくが　木芽、きのめ
ほくかい　北海、きたのうみ、北洋
ほくかいだう(名)　北海道(日本八道の一にして蝦夷地の稱)
ぼくかうたう(名)　木鉸刀、きばさみ
ぼくかく(名)　墨客、文人騷人、みやびびと(文事を業とする人)
ほくだう(名)　北堂、ははぎみ、はは、さま、母堂
ぼくたう(名)　木桃、こぼけ(木瓜の類にして其實味酸し)(植物)
ぼくたう(名)　木刀、きだち、こだち
ぼくたく(名)　木鐸(木舌の鈴をいふ。警醒者、よをみちびくもの
[ぼくたん](名)　木淡、きざはしがき、きざらしがき、きざがき(植物)
ほくれい　北嶺、比叡山を云ふ)
ぼくれい(名)　僕隷、しもべ、ぬぼく
ほぐれる(自)　解放、とける、ほどける
ほくそ(名)　火滅、ほくち
ほくそわらひ(名)　北叟笑、すこしくわらふこと、にこにこわらひ
ほくそがほ(名)　北叟顔、わらひがほ、にこにこがほ
ほくそづきん(名)　北叟頭巾(宗十郎頭巾の類)。茅屑頭巾
ぼくそく(形)　僕遬、ちゐたらぬ、やくにたたぬ
ぼくぞく(名)　木賊、とくさ(植物)
ほくそゑむ(自)　北叟笑、微笑、にこにこわらふ、すこしくわらふ
ぼくつゐ(名)　木槌、さいづち、きづち
[ぼくない][する](名)　木乃伊、みいら、にいら
ほくら或ほこら(名)　社、祠(小き宮)、こみや
ぼくら(名)　木蜃(動物)
ぼくぐわ(名)　墨畫、すみゑ、すみにてかきたるゑ
[ぼくぐわんじゆ](名)　木櫬樹、もくげんじ、つぶのき(植物)
ぼくぐう(名)　木偶、きにんぎやう。きぼとけ
ぼくやう[する](他)　牧養、かひやしなふ(家畜等を)
ぼくまく(名)　蹼膜、みづかき(水鳥海獣等の跗の)
ぼくけい(名)　墨刑、いれずみ
ほくけつ(名)　北闕(禁裏をいふ。宮闕
[ぼくげつ](名)　睦月、むつき(正月の異名)
ぼくけん(名)　木劍、きだち
ぼくふ[する](自)　踣斃、ころぶ、つまづきたふる
ぼくふう(名)　木佛、たちすくみ
ほくふう(名)　北風、きたかぜ、かへしつ
ぼくふやう(名)　木芙蓉、きばちす(植物)
ほくこく　北國、きたぐに

ほくぐみし(名)　北五味子、まつぶさ(植物)
ぼくこじゆ(名)　木箘樹、つぶのき(植物)
ぼくてい(名)　木梃、きのてこ
ぼくてい(名)　木釘、きくぎ
ぼくでふ(名)　木碟、きざら
ぼくでふ(名)　墨帖、いしずりのてほん
ほくてき(名)　北狄、きたえびす、北夷、北胡
ぼくてき(名)　牧笛、うしかひぶえ(牧者の吹く笛)
ぼくさつ(名)　木札、きふだ
ぼくさつ[する](他)　撲殺、うちころす、たたきころす(犬等と)
ぼくさう(名)　牧草、牛馬を放し飼ふ所の草)
ぼくき(名)　卜龜、うらなひ龜筮
ぼくきよ　卜居、をりどころをみたてる。いへとさだむる
ぼくぎよ(名)　墨魚、いか、すみうを、烏賊(動物)
ほくきよく(名)　北極、きたのはて
ほくきよくせい　北極星、北辰(北極の上よ現るる星)、天極、紫微宮
ぼくぎう(自)　牧牛、うしとかふこと(野よて)
ぼくぎうぢやう(名)　牧牛場、うしかひば
ぼくきやう(名)　木梗、きわく
ぼくきやう(形)　木彊、ぶこつ、かざりなき、木訥
ぼくきやう[する](他)　撲滅、うちけそ、たやす(火惡疫等を)
ほくめん(名)　北面(禁庭院中宿直の士をいふ。臣下、けらい(帝王の)
ほぐみ(名)　穂組、つみたるいね、いなむら、いなづみ
ぼくみん　牧民、たみををさむる(知事などが)
ほぐし(名)　火樞、火害(松明をはさむ木或は松明自身。又はなびづつ
ぼくし(名)　牧士、うまかひ
ぼくし(名)　牧師(教會の長)、教師
ぼくし(名)　木脂、きのやに
ぼくじ(名)　木耳、さるのこしかけ、きくらげ、みみたけ(植物)
ぼくしつ(名)　木虱、きじらみ
ぼくしつ(名)　木櫛、きぐし、きのくし
ぼくじつ　木實、きのみ、このみ、くだもの
ぼくじつ　卜日、ひどりそる、ひをえらぶ、選日
ぼくじう(名)　僕從、しもべ、ともびと
ぼくしや(名)　牧者、ひつじかひ、牧畜者、牧師
ぼくしや(名)　卜者、うらなひし、占考者
ぼくしやう(名)　木匠、だいく、たくみ、番匠
ぼくしやう(名)　木廠、きごや
ぼくしやう(名)　撲傷、うちきず、うちみ
ぼくしゆ(名)　木株、きりかぶ、こかぶ
ほくしん(名)　北辰(北極星よ同じ)
ぼくじん(名)　卜人、うらなひし、卜者
ぼくじん(名)　牧人(牧者よ同じ)
ぼくにい(名)　木蘗、ふしこぶ木瘤、きこぶ
ほくえつ(名)　北越、きたごし(越後の國をいふ)
ほくえつのしてん　北越四天(直江實綱、甘糟景持、宇佐神良勝、柿崎景家を云)
ぼくにき(名)　木液、きのやよ、きのしる
ぼくひ　僕婢、ぬひ、下男下女

ほくひようや(名)　北氷洋、きたのこほりうみ
ぼくせい(名)　卜筮、うらなひ、卜
ほぐす(他)　解、とく、ほごす
ぼくすみ(名)　墨水(東京隅田川を云ふ)
ぼくん(名)　諫訓、をしへ、訓誡、いましめ
ほや(名)　寄生木、宿木、やどりき(植物)
ほや(名)　穂屋(稲等を入るる納屋)。いなづみ。かりや
ほや(名)　海鞘、石蜐、紫蛤、龜脚、老海鼠(海中の生物よして他物に寄生すやどかり(動物)
ほや(名)　燈筒、燈籠(ランプのほや)
ほやかうろ(名)　寶屋香爐(香爐の名)
ほやう(名)。—する(他自)　保養、なぐさみ。やすめやしなふ、養生
ほやく(名)　補藥、たぎなひぐすり
ほやけ(名)　火燵(火ようかるる事)、やけど
ぼや(名)　牡麻、あさ(植物)
ほやへせん(名)　帆前船(帆よてはしる船舶をいふ)、ほふね
ほまち[俗](名)　私得、まうけ、わたくしのまうけ、役徳
ほまれ(名)　譽、名譽、名聞、名聲、榮譽、よきな
ほめ(名)　炎氣、あつさ、熱氣、ほとぼり
ぼめ(名)　水瓜、鐵脚梨、擔子、きのな(植物)
ほめい(名)　圖畦、はたけのうね
ぼめい(名)　謨計、はかりごと、計畧
ぼめい(名)　模形、ひながた。かた
ぼめい(名)　牡荊、いばら(植物)
ぼめい(名)　模型、いもののかた、いかた
ほめほめ(形副)　恍惚、こどもらしき、ぐよかへれる(老人等が)
ぼめる(自)　老耄、惚耄、れいぼれる、ほれぼれする
ほめた(名)　帆杠、帆架(帆檣の横木)
ほめつ　神閼、かけたるをねぎなふ
ぼめつ(名)　墓碣、はかじるし、石碑、つか
ほめつち(名)　墟土、くろつち
ほめん(名)。—する(他)　保險(非常の時の損害の償ひをうけわふ事)。うけわふ
ほめんれう(名)　保險料(保險するためよ取る金)
ほめんくわいしや　保險會社(保險する會社)
ほふ(名)　捕夫、とりて
ほふい(名)　逋負、ひきれひ
ほふい(名)　法衣(僧徒の服)、法服
ほふりば(名)　屠場、うしころしば(牛豚などを屠る場處)
ほふる(他)　屠、ころす、屠殺(重よ獸を)、ばげしくころす
ほふね(名)　帆船(ほまへせんよ同じ)
ほふく[する](自)　匍匐、はらばふ、はふ
ぼふせつ[する](自)　乏絕、とぼしくなる、つきる、たえる
ほこ(名)　戟、戈、矛、ほこ。槍、やり、槊。架鷹の架)の鋒(圖)
ほこ(名)　反故(ほうぐ)を見よ、ほぐかみ

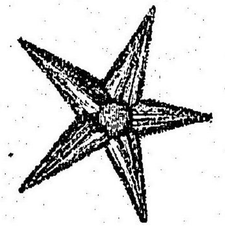
ほころぶ(自)　綻、やぶれる、きれる、さける
ほころび(名)　綻、破綻、やぶれ、ぬひめざけ
ほこほこ(形)　熾熾、ほかほか、あたたか
ほこり(名)　埃、ちり、流塵、纖塵、ごみ、塵埃
ほこり(名)　零餘(算數よ言ふ)、畸零、はした
ほこりがほ(名)　誇顏、ほこれるももち、ほこらしくなるかほつき
ほこりたけ(名)　馬勃、まぐそたけ、めつぶれたけ、みみつぶし(植物)
ほこる(自)　誇、傲、矜、誇稱、矜慢、夸大、たかぶる
ほこだち(名)　棖(門の左右の柱を謂ふ)、ほうだて
ほこだて(名)　棖、ほこだち、ほうだて
ほこつ(名)　輔骨、つらぼね、つらかまち
ほこら(名)　叢祠、神殿、祠廟、やしろ
ほこうにい(名)　蒲公英、たんぽぽ、ふぢな、つつみくさ(植物)
ほこさき(名)　鋒、ほこのきつさき
ほごす(他)　解、とく、ほぐす解放
ぼこん(名)　暮昏、ひくれ、たそがれ、黄昏
ほて(名)　蒲搭(火を消す具)
ほて(名)　帆手(帆を上ぐる綱)。又ほて(名)　最手(相撲の第一なる者)、れほせき
ほていばら(名)　布袋腹、ふくればらほていをしやう　布袋和尚(七福神の一)
ほていちく(名)　人面竹、たけのな(植物)
ほてばら(名)　肥腹、ふくればらほてり(名)　炎熱、あつさ、熱氣
ほでり(名)　颱風、おかぜら、海上よて空赤くなる事よて颱風の起る徴。又ゆふやけ
ほわし(名)　帆脚(帆の下の縁をいふ)
ほさ[する](他)　輔佐、補佐、たすくる(君等を)、ほよく」を見よ
ほさい(名)　補劑、ねぎなひぐすり
ほざを(名)　帆竿、ほばしら(船の)
ほさか　穂坂(氏)
ぼさつ(名)　菩薩(佛陀の如き者)
ぼさつ(名)　簿册、帳面、賬記、ちやうめん
ぼさつかし(名)　菩薩石(井泉石に同じ)
ぼさつまめ(名)　菩薩豆、縮隨子、こはづ(植物)
ぼざう[する](他)　模造、もざう、まねつくる、擬作
ほざく(他)　言、いふ、いひいだす
ぼさく[する](他)　摸索、もさく、さがす、たづぬる、さぐりたづぬる
ほさき(名)　鉾鋒、さつさき
ほさき(名)　頴、のげ(穂の尖の刺そところ即ち穂の芒)、のげ
ほさきいかりさう(名)　淫羊藿(植物)
ほさき(名)　蒲葵、びろう(植物)
ぼさつ[する](自)　模擬(もぎ)、まねる、擬作
ぼぎ(名)　母儀、はは、ははそや
ぼきはふ(名)　記簿法、帳記法、ちや

（圖の簞笥）



うつけはふ
ぼきぼき〔俗〕(副)　簡簡脆く折れる音また貌
ぼきがく(名)　簿記學(簿記法の學)、ちやうつけがくもん
ほぎよ(名)　鯖魚、はりわし(動物)
ほきふ〔する〕(他)　補給、わぎのひあたふ
ほきん〔する〕(他)　捕擒、とらへろ、いけどる
ほゆる(自)　哮(虎狼の)。吠(犬の)。咆哮、たける、嘷、嘷號
ほめはやす(他)　喝采、やんやとほめる
ほめそやす(他)　褒奨、ほめたてる、喝采
ほめられる　被譽、被稱讃、ほめをうける
ほめく(自)　發煩、あつくある、煩熱、燠、燥、熇、ほとぼる
ほめことば　讃詞、賞譽之語
ほめん〔する〕(自)　遁免、にげまぬかる。のがる、にげのびる
ほし(名)　星、星辰、めぐらぬほし、星宿。また遊星、めぐるほし
ほし(名)　星翳、くもり、めぼし(眼中の陰影)
ほし(名)　點(てん)、めあて、づぼし
ほじ(名前)　哺時、ゆふどき、ゆふかた、ななつさがり
ぼし(名)　墓誌、はかじるし、墓銘
ぼし　母子、元利、もとさんとりそく
ぼじ(名)　母字、ははじ
ほしいを(名)　乾魚、ひもの、干魚、鮑魚
ほしいまま(形)　恣、わがまま、放縦、放肆、滋肆、私擅、放恣
ほしいひ(名)　乾飯、ほしめし、挽飯、糒糗
ほしにく　乾肉、かわきたるにく、ほしし
ほじる(他)　掊、くじる、抉、挖

ほしか(名)　乾鰛干鰯、ほしいわし
ほしかは　星川(氏)
ほしがる(他)　欲、ほしくれもふ
ほしがれい(名)　星鰈鰨、星比目魚(体上に星點ある比目魚)(動物)
ほしがひ(名)　海燕、たこのまくら(形五稜にして背面の中央に口有る貝類)
ほじよ(名)　補助、たすけ、てつだひ
ぼしよ(名)　簿書、ちやうめん、賬記
ほしよう(名)。—する(他)　保證、うけあひ。うけあふ
ほしようにん(名)　保證人、うけにん
ほしようきん(名)　保證金、みもときん
ほしだいこん　乾蘿蔔、ほしからせるだいこん
ほしつきよ(名)　星月夜、ほしこぼれのよ、星夜
ほしつきげのうま　星月毛馬騮、落星馬(白額の馬をいふ)
ほしな　保科(氏)
ほしな(名)　乾菜、ひば
ほしう〔する〕(他)　補修、つくろふ、修復
ほしう〔する〕(他)　補充、たす、わぎなふ
ぼしう(名)　暮秋、おきのすゑ
ほしうどん　乾饂飩、かわかしたるうどん
ほしうり(名)　乾瓜、ひうり(食物)
ほしうめ(名)　干梅、うめぼし
ほしのり(名)　乾海苔、あさくさのり


(圖のひがし)

ほしのやどり(名)　歳次、歳舍龍集、(二十八宿と十二に分ちて歳星の宿處となせる者)、辰次、躔
ほしくさ(名)　穀精草、みづたまさう(植物)
ほしぐさ(名)　乾草、かれくさ、かひば
ほしくや(名)　輔車、ほほぼね、つらかまち、ほほげた、頰車
ほしや(名)　歩射、かちゆみ
ぼしや〔する〕(他)　摸寫(もしや)、うつしとる
ほしやどり(名)　星宿(恒星の一群)、又歳次(ほしのやどり」をみよ)
ほしやう(名)。—する(他)　輔相、たすけびと、ほさのをみ(君王の)。たすける、ほさそる
ほしやう(名)　歩障、ついたて
ほしやく(名)　保釋金を預りて罪囚を暫く家に還へす事)
ほしまだら(名)　星點、斑點、ぼつぼつ、てん
ほしまつり(名)　星祭、牽牛織女を祭る事。また年を主る星を祭る事)
ぼしふ〔する〕(他)　募集、つのりあつめる
ほしぶだう(名)　乾葡萄、かわかしぶだう
ほしわひ　星合(氏)
ほしわひのそら(名)　星會天、七夕、たなばた
ぼしさう(名)　母子草、ははこぐさ(植物)
ほしき(形)　欲、ほつする、のぞましき、えたき
ほしゆ(名)　鋪首、ひきて(障子唐紙等の)
ぼしゆん(名)　暮春、はるのすゑ
ほしみせ(名)　露店、干店、大道店、みちにひろげたるみせ、てんたうぼし
ほじし(名)　乾肉、腊脯、ほしたるにく

ほえる(自)　吠(「ほゆる」の下を見よ)
ほにづら(名)　哭顔、なきがほ、なきつら
ほえき〔する〕(他名)　補益、わぎなふ。わぎなひ、たし
ほえん(名)　歩廊(長廊下をいふ)
ほゑん(名)　圃園、はたけ、田圃
ぼひ(名)　墓碑、つかいし、石碑
ほひつ(名)　輔弼、たすけて、ちからぞへ(「ほさ」を見よ)
ほもめん(名)　帆木綿、ほぬの、帆布
ほせい〔する〕(他)　輔成、贊成、たすけなす
ほせい(名)　輔星、そへぼし、衛星、また金輪星
ほせつ〔する〕(他)　補綴、とぢくる、ぬひつづる、補綻
[ほせう]〔俗〕(名)　蒲燒、かばやき(蒲色に燒たる魚)
ぼせう〔する〕(他)　摸抄、うつしとる
ほせき(名)　哺夕、ゆふがた、ゆふぐれ
ほせき(名)　蒲席、がまむしろ、ござ
ぼせき(名)　墓石、はかいし
ほせん(名)　歩戰、かちたちのいくさ
ほす(他)　乾、かわかす。暴晒、干、曝、晒、さらす
ほすいし〔俗〕(名)　蒲穗子、かまぼこ
ぼすぼる　燐素(骨脂にして陰火を生ず)
ほすう(名)　歩趨、あゆみ
ほん(名)　本(書籍、冊子、青史、ふみ
ぼん(名)　盆(物を載する器)、ほとぎ
ぼん(名)　盆(盂蘭盆、鬼節、中元節、たままつり、招靈祭、陰暦七月十五日)
ぼん(形)　凡、なみ、よのつね、尋常
ほんい(名)　本意、ほい、まことのねもひ

ほんいつ[する](自)　奔逸、はしりすぎる、かけだす(馬が)
ほんゐん　本院、わもるいへ。このいへ
ぼんばい(名)　本場、まことのところ、ほんばしよ
ほんばつ　本末(ほんまつ)、もとすゑ、始末
ほんぱう　本邦、わがくに、このくに。本國
ほんばう(名)　本坊、本院、かしらのてら
ほんばこ(名)　本箱、書函、書棚、しよもつばこ
ほんに[俗](副)　本、眞、ほんまに、じつに
ぼんにん(名)　本人、當人、そのひと
ぼんにん(名)　凡人、なみのひと、ただびと
ぼんぱち(名)　廩庫人(粳米の久しく倉中に在て陳くなるを云ふ)、陳廩米
ぼんぼり(名)　梢燧子、鎗穗子、みみはらひ(耳の垢を除くものを云ふ)
ぼんぼり(名)　雪洞、行燈、えつきぢやうちん
ぼんぼん(名副)　鑿鑿(鼓の音)
ぼんど(名)　本土、ほんごく、生國、うまれどころ
ぼんど(名)　砂(英國貨幣の名わが四圓八十錢餘にあたる)
ほんち(名)　本地、ほんごく、本土、うまれぐに
ぼんち　凡智、なみのちゑ
ほんぢよ(名)　奔女、いたづらむすめ
ほんぢすいじやく(名)　本地垂跡(神佛の假に現はるるを云ふ)
ほんぢん(名)　本陣、牙營、大將の居る處)
ぼんりよ　凡慮、なみのかんがへ

ほんりやう　本領、わのれのりやうぶん、領地
ぼんりん(名)　梵輪、ぶつせんのかがみ
ほんをつくる　作本、著書、著述、述作、著作
ほんをあむ　編本、纂修、編纂、編輯、編集
ぼんわん(名)　梵音、佛音、ほとけのこゑ
ほんわうきう(名)　梵王宮(天上梵天王の宮殿)
ぼんかく(名)　本郷(氏)また地名、町名
ぼんよう[する](自)　梵閻、てら、佛寺
ぼんよう(形)　凡庸、よのつね、なみなみなみある
ほんだ　本多(氏)
ほんたい　本體、まことのすがた
ほんだい(名)　本臺、書架、けんだい
ぼんたい(名)　梵臺、てら、梵刹
ほんだはら(名)　神馬藻、海藻の名(植物)
ほんだな(名)　本棚、書棚(しよだな)
ほんたな　本店、正店、老行、もとのみせ
ほんたう[俗](形)　本當、まこと、眞實
ほんたう　奔濤、はやなみ、われなみ
ほんだう(名)　本道(內部の病を治する醫を云ふ)
ほんだう(名)　本堂、寺院のれもや)
ほうだうか(名)　本道家、ほんだういしや
ほんたく(名)　本宅、まことのいへ
ほんだんす(名)　本簞笥、書厨、ほんばこ
ほんそう[する](自)　奔走、はしりまはる。ほねをる
ぼんそう　凡僧、よのつねのばうず

ぼんそう(名)　梵嫂、だいこく、梵妻、僧侶の妻をいふ)
ほんぞく(形名)　凡俗、よのつね。ただびと
ほんぞん(名)　本尊、れもなるほとけ
ほんつつみ(名)　書袋、書囊、ほんぶろしき
ほんねだん　本直段、正價、實價、定價、まことのあたひ
ぼんねん　本年、ことし、今年、當年
ぼんなう(名)　煩惱、わづらひ、なやみ、よのわづらひ
ほんらい(形副)　本來、もとより、生來
ぼんう(名)　盆雨、れはあめ、れはぶり
ほんのう(名)　本能、能力、ちから、才能
ぼんのくぼ[俗](名)　頸凹、頸窩、ちりげ
ほんのこ　實子、うみのこ、まことのこ
ぼんく(名)　盆供(盆祭のそなへもの)
ほんくわい(名)　本懷、本意、まことのねがひ、もとよりのぞみ、本望
ぼんくわにん(名)　犯科人、とがにん
ほんくわさう(名)　反花瘡(女陰病の名)
ほんくわん(名)　本貫、本籍(己れの籍の在る地)。うまれどころ、こきやう
ほんぐわんじ　本願寺(眞宗の本山にて東西兩寺あり)
ほんぐう　本宮、本殿、れもなるみや
ほんや(名)　本屋、書肆、書店、書林、しよもつや。ほんうり
ぼんやり[俗](副)　漠然、朦昧(おきらかならぬ貌)。又愚魯、れろからしき、かしこげあらぬ
ほんやく(名)。—する(他)　翻譯、うつす、やくする(他國の語を別の國語になほすを云ふ)
ほんま[俗](形)　眞實、眞正、正實、正眞、誠實、ほんたう

ほんま　本間(氏)
ほんまる(名)　本丸、中城、牙城、內城、ねじろ
ぼんまつり(名)　盆祭、ぼん、ぼんのいはひ、たまよびまつり
ほんまう(名)　本望、本懷、かねてののぞみ、宿願
ほんみやう(名)　本家、宗家、本宗、正統、もとのいへ
ぼんみやう(形)　凡下、いやしき、なみなみなる
ほんみやう(名副)　本月、このつき、今月、當月
ほんもと(名)　本源、みなもと。もと
ほんぷ[する](自)　奔赴、はしりれもむく、ゆきむかふ
ほんぶ(名)　本部、もとのば
ぼんぷ(名)　喞筒、みづあげさかい、龍吐水
ぼんぶ(名)　凡夫、よのつねのひと
ほんぷく[する](自)　本復、いゆる、なほる
ほんこ(名)　噴壺、みづふき、じやうろ
ぼんご(名)　梵語(天竺の古語)
ほんこく[する]　翻刻、ふたたびほる(書物を板に。再版
ほんごく(名)　本國、うまれぐに、故郷
ほんこん　香港(支那國開港場の地今英國に屬す)
ほんてい(名)　本邸、かみやしき、れもなるやしき(貴人の)
ほんてう　本朝、わがくに
ほんてう(名)　奔潮、はやなみ、はやしほ
ほんてうし(名)　本調子(音樂の調子の名)
ほんてん(名)　本塵、本店(「ほんだな」をみよ)
ぼんでん(名)　梵天(惡魔と攘ふ所の物)
ぼんてん(名)　梵天(梵天王に同じ)
ぼんてんわう　梵天王、色界天王(天竺八が最尊の神とし

造化主宰とせし者）
ぼんでんうり(名)　白卧瓜(植物)
ぼんでんくわ(名)　小槿花(植物)
ぼんでんごめ(名)　梵天米(植物)
ぼんわん(名)　翻案(舊案を翻して新様に易へる事)
ぼんさい(名)　本妻、嫡妻、正室、まことのつま
ぼんさい(名)　盆栽、はちうゑのき、はちのき。はちうゑもの
ぼんざい(名)　犯罪、とが、つみ
ぼんざう(名)　本草、植物、くさき
ぼうざうか(名)　本草家、植物學者
ぼんざうがく(名)　本草學、赭鞭學、植物學
ぼんさん(名)　本山、ほんもとのてら、本寺
ぼんぎ　本義、まことのいみ、本解
ぼんきょ(名)　番茗、ふご
ぼんぎょ(名)　盆魚、金魚に同じ(動物)
ぼんきやう(名)　本郷、ふるさと、舊郷、故郷
ぼんぎやく(名)　叛逆、むほん、そむくこと
ぼんきん　本金、まことのこがね
ぼんめい(名)　奔命、ほんそう(奔走)
ぼんめつ[する](他自)　滅滅、やきほろぼす
ぼんみやう(名)　本名、實名、まことのな
ぼんみん(名)　凡民、なみのたみ
ぼんし　本子、元利、もとでとりそく
ぼんし(名)　本始、もはもと
ぼんし　本支、もとにだ。もとのいへ及わかれのいへ

ぼんじ(名)　本寺、もとでら(末寺に對す)
ぼんじ(名)　梵字、しつたん(天竺の字)、サンスクリタもじ
ぼんしょ(名)　本署、ほんもとのやくしょ
ぼんじょ(名)　本所、ほんもとのところ、もとのところ
ぼんしょう(名)　梵鐘、てらのかね
ぼんしょく　本色、もちまへ、眞面目
ぼんしょく　本職、もちまへのつとめ。われ(官吏が自ら言ふ詞)
ぼんじつ(名)　本日、今日、けふ、このひ
ぼんしや(名)　本社、もとみや(神社の)。又本會社(會社の本店を謂ふ)
ぼんしやう(名)　本性、まことのこころね。本體、まことのかたち
ぼんじやう　本城(氏)
ぼんじやう　本莊(氏)
ぼんじやう(形)　凡常、よのつね、なみ、凡庸
ぼんしき(名)　本式、まことののり(略式に反對す)
ぼんしゅ(名)　本主、もとのぬし、もちぬし
ぼんしん(名)　本心、もとのこころ。また眞心、是非之心、よしあしをしるこころ
ぼんしん　凡身、よのつねのからだ
ぼんない(名)　本營、ほんぢん(本陣)、たいしやうのぢんしょ
ぼんひ(形)　凡卑、いやしき
ぼんもん(名)　本文(書物の本文にて註脚に非るをいふ)、梵文、ぼんじ(梵字)。又てんぢくことば
ぼんもん(名)　奔星、ながれぼし、よばひぼし
ぼんせい(名)　本支、もとにだ。もとのいへ及わかれのいへ

ぼんせつ(名)　梵刹、てら、寺觀
ぼんせん(名)　本膳、羅宴の時に出す第一の膳)
ぼんせん(形)　本然、もとのままなる。自然、天然、れのづからなる
ぼんせんしゅ(名)　本錢主、金主、かねぬし、しほんぬし
ぼんすゐき(名)　噴水器(ふんすゐき)、みずふきじかけ

へ

へ　閉、邊。べ、辨。べ　是は「ふ」の父音と「え」の母韻と合して生ずる音にて五十韻の中にありては第六行第四段に位す
へ(名)　舳(舟の前頭をいふ)、へさき、みよし、艏
へ(名)　芟、かめ、やきものどくり(古代の)
へ(名)　邊、ほとり、ちかま
へ(名)　部、わかち、ぶ
へ(名)　屁、竅屁より出る風、れなら
へ(名)　戸、いへ。ひとかず
へ(名)　重、かさね、かさおり(常に「え」と響かす)
へ(後置詞)　方、かたに、に
へい(名)　兵、つはもの、兵卒
へい(副)　唯(人の言に答ふる詞)、はい
へい(名)　丙(十干の第三)、ひのえ
へい(名)　璧、さにいり
へい(名)　塀、塀墻、塀壁、かきね、かこひ
へい(名形)　弊、つひに、おしさくせ。又いやしき、わが、われらの(謙遜の詞)
へい(名)　幣、たから、ささげもの
へい(名)　丙、うをのを、さかなのしりを
へい[する](他)　聘招聘、まねきよする。たのむ
へい(名)　米、こめ。又アメリカの器に用ふ)
へいい　弊衣、やぶれごろも
へいい(名)　秉彝、うまれつき、天性、道徳性
へいい[する](他)　平夷、たひらげる
へいい(形)　平易、やさしき、たやすき。わかりやすき
へいね(名)　兵威、つはもののいきほひ、兵力
へいいう[する](他)　併有、あはせたもつ、かねわはせる
へいいう(名)　悒憂、れはいなるうれひ
へいいふ　弊邑、わがくに(弊を見よ)
へいいん[する](他)　蔽陰、蔽隱、れはひかくす
へいいん(名)　兵員、つはもの、兵士
へいいん(名)　米飲、れもゆ
へいろう[する](自他)　閉籠、とぢこもる。とぢこめる
へいば(名)　兵馬、いくさ(軍旅の事をいふ)、軍事
へいはい[する](自)　弊敗、やぶれる
へいはい[する](自)　病憊、やみつかれる
へいはう(名)　平方(平らなる者の面積)
へいはう(名)　米俵、米俵、こめだはら
へいはく(名)　幣帛、ぬさ、みてぐら。ささげもの
へいはふ(名)　兵法、いくさのみち
へいはん　弊藩、わがはん(謙遜して云ふ詞)
へいはん(形)　平板、さまりきつたる、へんくわなき、れもしろからぬ(文章に謂ふ)
へいはん[する](他)　平反、平翻(訴訟を再び審理するをい

ふ)しらべなほす
へいにん(名)　平人、おみのひと、ただのひと
へいほ　弊舗、わたくしのいへ、わがや(謙遜の詞)
へいほ　閉舗、みせをしまふ、閉店
へいほう　兵鋒、つはものの ほこさき
へいほうさう(名)　萍蓬草、かはほね(植物)
へいぼく[する](自)　斃踣、たふれしぬる
へいぼん(形)　平凡、なみなみの
へいへい(形副)　萃萃、萍萍(草のあつまりはえたる貌)
へいへい(名)　聘幣、進物、れくりもの
へいへう(名)　柄瓢、ひしやく
ぺいとるすばるぐ　彼得堡(露西亜の首都の名)
へいとう(形)　平等、たいらかにひとしき、ひとなしき
へいとう(名)　弊竇(弊害に同じ)、わしきところ
へいどん[する](他)　幷呑、のみほろぼす(國國と)
へいち　平地、たひらち、ろくぢ
へいぢ[する](他)　平治、をさめる(天下を)
へいぢよ(名)　壁女、たもひもの、そばめ、さにいりをんな
へいちやう(名)　閉帳、かいちやうのをはり
へいぢやう(名)　兵杖(刀剣弓箭を帯する護衛者)
へいぢやうしき　閉場式(ばをとづるしき(博覧會等の)
へいちん[する](他)　平鎮、たいらげしづむる
へいり(名)　薜荔、こづた(植物)
へいりよく(名)　兵力、つはものの ちから
へいりつ[する](自)　並立、ならびたつ
へいりく　平陸、平地、たひらち、ひらち

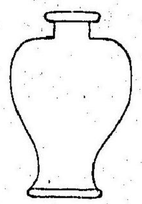
へいたん(名)　平旦、よあけ、平明、よのひきあけ
へいだん(名)　餅餤(菓子の名)
へいれい(名)　聘禮、結納、れくりもの(婚姻等の)
へいれつ[する](自)　並列、ならぶ、そろふ
へいそ(副)　平素、ふだん、つねづね、平常
へいそつ(名)　兵卒、つはもの
へいそう(名)　平僧、ひらばうず(教導職以下の僧)、なみのばうず
へいそく[する](他自)　閉塞、とぢふさぐ、ふさがる
へいそく[する](他)　拝束、よせたばねる
へいそく(名)　幣束、みてぐら、御幣
へいぞく(名)　弊俗、あしきさしくせ、わしきさしきたり
べいぞく　米粟、こめあわ
へいら(名)　薜蘿、つたかづら(植物)
べいなうくわ(名)　米囊花、けしのはな
べいなうし(名)　米囊子、けし(植物)
へいく(名)　病苦(びやうく)、やまひ、いたづき
へいぐ(名)　海牙(和蘭の都府)
へいぐ(名)　兵具、軍器、いくさのうつは
へいくわ(名)　兵火、兵燹、いくさのひ
へいくわ(名)　萍果、われんだりんご(植物)
へいぐわ[する](自)　平臥、たひらにふす、よこにねる
べいくわ(名)　米粿、こめつぶ
べいくわ(名)　米果、たこし、こめねこし
へいくわつ(形)　平潤、たひらにひろき
へいくづし(名)　牆壁車、しろくづし、れほづち
へいぐう[する](自)　萍寓(萍託を見よ)

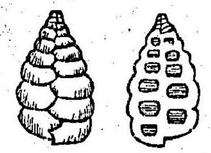
へいやく(名)　兵厄、いくさのわざはひ
へいまん(名)　屏幔、とばりまく
へいけい(形)　炳烱、あきらか、かがやく
へいげい(名)　埤堄、こまがき
へいげい[する](他)　睥睨、みさげる
へいけがに(名)　平家蟹、車蟹、しまむらがに、きよつねがに(動物)
へいげき(名)　陛戟(階下に戟を持て警護する者)
へいけん(名)　平穩、たひらなること
へいけん(名)　兵權、いくさをいだすちから
へいけん(名)　平絹(濃花色の絹)
へいげん(名)　平原、のはら、ひらの
へいふ[する](自)　斃仆、たふれふす
へいふつ[する](他)　屏拂、追放、れひはらふ
へいぶつ(名)　幣物、しんもつ、れくりもの、つかひもの
へいふう(名)　弊風、わしきならはし
へいふう(名)　屏風、びやうぶ
へいふく[する](自)　平伏、ひれふす
へいふく[する](自)　平復、ほんぷくする、病氣が
へいふく(名)　平服、つねぎ、ふだんぎもの
へいぶん[する](他)　平分、たひらにわける
へいふん(名)　米粉、こめのこ
へいこ(名)　病故、やまひ
へいこ(名)　蹩躠、いくさつづみ
へいこ(名)　兵庫(武具兵器を入置く所)武庫、ぶきぐら
へいご(名)　屏語、私語、ささやき、ひそひそばなし
へいこ(名)　米糊、こめのり

へいこう[する](自)　閉口、だまる、へこむ、まける
へいこく　弊國、わがくに(弊をみよ)
べいこく　米國(亜米利加國)
べいこく(名)　米穀、こめ、こくもつ
へいてい[する](他)　平定、たひらげさだむる
へいでい(名)　薇泥、わふり(馬具)
へいてん　閉店、みせをしまふ、閉鋪
へいてん　弊店、わたくしのみせ、弊鋪(卑下する詞)
へいあ(名)　病痾、いたづき、やまひ
へいあん(名形)　平安、やすきこと、れだやか。きげんよう
へいあんじやう　平安城(山城國愛宕郡よ在りし都府、ならのみやこ
へいさ(名)　平沙、すなはら
へいざ[する](自)　平坐、ろくゐゐる、したよすわる
へいさん(名)　平産、安産、たやすきさん
へいき(名)　兵器、もののぐ、いくさのうつは、武器
へいき(名)　兵機、いくさのはづみ
へいき(名)　平氣、きをたひらかよすること。又[俗]たちつき、むとんぢやく
へいきよ[する](自)　屏去、しりぞさる
へいきよ[する]　屏居、隠居、こもりをる
へいきよ[する](自)　閉居、とぢこもる
へいきよ[する](自)　並居、なみゐる、ならびをる
へいきん(名副)　平均、ならし。ひきならす
へいきん[する](他)　平愈、平復、反常、快復、本復、なほる、いへいめい(名副)　平明、あけぼの、あくるころ、よあけ

へいみやく　平脈、つねにかはらぬみやく
へいみん　平民、つねなみのたみ(華士族にあらぬ)、白民
へいし(名)　兵士、つはもの、いくさびと
へいし　開肆、みせをしまふ閉店
へいし[する](自)　斃死、たふれしぬる
へいじ(名)　瓶子(酒を入れる器、とくり(大和國東大寺八幡宮藏胡徳樂に用ふる所)
へいじ　平時、れだやかのとき。つねのとき
へいしよ　兵書、軍書、兵法の書)
へいじよ(副形)　炳如、あきらか、燦然
へいしよく(名)　兵食、軍餉、ひやうらう
へいしよくちう(名)　併織蟲(貝類の動物)
へいしつ(名)　薇膝、ひざかけ
へいじつ　平日、つねのひ、ふだん
へいじう(名)　陪從、そもびと(貴人のぐうたひど(令人の屬)
へいしや(名)　兵車、いくさぐるま
へいしや[する](他)　薇遮、さへぎりとむる
へいしや　弊社(吾が會社といふ事)
へいしや(名)　餅炙、かまぼこ
へいしやう[する](他)　薇障、れはひさへぎる
へいじやう(形副)　平常、ふだん、つねづね、平素、居常、平生
へいじやう　平城、なら(奈良)

へいせふ(名)　斃妾、てかけ、そばめ、きにいりのをんな
へいせき(名)　兵籍、つはもののなふみ
へいせん(名)　兵船、いくさぶね
へいせん(名)　兵燹、兵火、いくさのひ
へいせん(副形)　炳然、炳焉、いちじるく。あきらか
へろへろや(名)　弱矢、よわきや
へばりつく(自)　粘着、こびりつく、ねばりつく
べに(名)　紅花、胭脂、臙脂、紅粉、あかきゑのぐ(唇等につくる)
べにばな(名)　紅花、紅藍花、呉藍、さふらん(植物)
べにかは　紅革、あかきかは
べにがら(名)　礬紅、べにのこな
べにかのこ　紅鹿子、ひがのこ
べにたけ(名)　胭脂蕈、しもこし、葛花蕈、紅菇(植物)
べにぞめ(名形)　紅染、あかぞめ
べにつけゆび(名)　無名脂、なしゆび、くすりゆび
べにうこん(名)　紅鬱金(植物)
べにくりげ(名)　紅栗毛、驊、紅梅栗毛(馬の毛色の名稱)
べにくわんざう(名)　紅蒿、くさのな(植物)
べにまして(名)　実厥雀(動物)
べにざら(名)　洋紅、たうべに
べにさし(名)　紅皿、べにつけたるさら、べにおよく
べにさしゆび(名)　無名指、ななしゆび、くすりゆび
べにしぼり(名形)　紅絞、あかきしぼり
べにすずめ(名)　紅雀、梅花雀(動物)
へぼがや(名)　粗樋、いぬがや(植物)


（圖の瓶子）


（圖の蠟繊併）

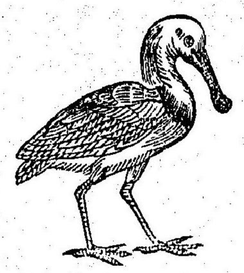
べべ〔俗〕〔名〕　衣服、きもの（小兒の語）
へどはく　嘔吐、えづく、反吐、もどす、へどつく
へちま〔名〕　絲瓜、魚鰹、洗鍋羅瓜（蠻瓜、植物）
へり〔名〕　繰、ふち
へりどる〔自〕　緣綴、ふちつける
へりぬり〔名〕　端塗、茶の異名）
へりくだる〔自〕　謙、謙遜、ひげする（卑下）、みづからひくくする
へる〔自〕　經歷、とほる、すぐる、よぎる
へる〔他〕　綜いとをまく
へる〔自〕　減、耗、すくなくなる
べるりん　百爾靈（伯倫普魯西の都府）
べるうこく　百露國（秘魯、俾路國（南米の一國）
べるけい〔名〕　百露雞、七面鳥、からくんてう（動物）
べるぎい〔名〕　比利時、白耳義（歐羅巴洲の國名）
べるしや　比耳西亞、波斯（亞細亞洲の一古國）
へを〔名〕　經緯、足繰、足緒（鷹の足に附くる糸を謂ふ）
べからず　不可、よろしからず
へた〔俗〕〔形〕　下手、拙工、つたなき
へた〔名〕　褥、ほぞ（菓實の莖に附く處）
へた〔名〕　靨、かひのふた（貝蓋）
へたいしや　肺醫（凡醫數醫者（やぶいしや）
へたばる〔俗〕〔自〕　低身、ひれふす、拜伏、俯伏
へだへだ〔副形〕　隔隔、遠滑、糢糊、ばらばら
へだたる〔自〕　隔、隔離、はなれる、とほざかる
へだてる〔他〕　隔、介、阻、間、隴隔、はなす、離隔、とほざくる
へだてごころ〔名〕　隔心、うちとけぬこころ、うときこころ

べたきん〔俗〕〔形〕　總金、そうこがね
べれんす〔名〕　洋青洋靛、わたりあゐ、あゐらふ
へそ〔名〕　臍、ほぞ（腹外の小穴）
へそ〔名〕　卷子、綵繩、緒環、とだまき、いとまき
へそのを〔名〕　臍帶（生れ兒の胞衣の緒）
へそのした〔名〕　臍下、小腹、丹田、したはら
べそくち〔名〕　歷口（泣く如き口の形を云ふ）
へそくりがね〔俗〕〔名〕　私房銀、たくはへがね（老婆等の）
べつ〔名〕　鼈、うみがめ（動物）
べつ〔形名〕　別、ことなる、ほかの。わかち、區別
べつい　別意、ほかのこころもち
べつろ　別路、ことみち、ほかみち、他道
べつろう〔名〕　蔑籠、めかご
べつぱ　別派、ことわかれ（異なる流派）、別流儀
べつぱい　別杯、わかれのさかづき、離杯
べつばら　別腹、はらがはり、異腹、ことばら
へつべ〔名〕　海濱、うみべ、海岸
べつべつ〔副〕　別別、各自、おのおの
べつべき〔形〕　鱉鼈、あしなへ、びつこ
べつどう〔名〕　蔑胴、をけがはどう、桶皮胴（鎧胴の形狀の名）
べつち〔名〕　鷩雉、鷩雞、錦鷄、金鷄（雉の如き美き雞）（動物）
べつり〔名〕—する〔自〕　別離、わかれ。わかれはなるる
へづる〔他〕　折、斫、けづる、そぐ
べつか〔名〕　別家、わかれいへ（分家（ぶんけ）、支流
べつがう〔名〕　別號、ほかのな、あだしとなへ
べつかく　別格（他に異なる格式、格段

べつかふ〔名〕　鎧甲、瑠璃、かめのかふ、黑龍衣
べつたう〔名〕　別當、監督、つかさ、まもるもの。〔俗〕馬を牧ふ人）、馬夫、厩願管厩夫、馬丁
べつたく　別宅、わかれずまひ、別居。ことへ、別室、別屋、別家
べつだん〔俗〕〔副形〕　別段、とりわけ、格段、ことに
べつそく〔名〕　箴束、たが（桶の）、かつらだけ
へつつい〔俗〕〔名〕　竈、かまど、壁吹、土竈
へつらふ〔自〕　諂諛、佞、こびる、つゐしようする
べつくわ〔名〕　別火、ことなるひ（神佛へ供する爲に別に打出せる火）
べつくわ〔名〕　別課、べつのくみ（本課に對す）
べつぎょう〔名〕　別業、しもやしき、別莊（べつさう）
べつけん〔する〕　瞥見、ちらりとみる
べつふ　別府（氏）
べつこう　別項（別に掲げたる箇條）
べつこん〔俗〕〔形〕　別魂、入魂、懇意、したしき、なかよき、懇親
べつてい　別邸、しもやしき、別莊
べつでう〔名〕　別條、別儀、ことなること、異變
べつさつ　別冊、別卷、ほかのかきほん、ほかのまき
べつさう〔名〕　別莊、わそびいへ、別業
べつきょ〔する〕〔自〕　別居、わかれすむ、別宅
べつし　別紙、つきそひてがみ、副書、添簡
べつし〔する〕〔他〕　蔑視、さげすむ、みさげる、貌視
べつしょ　別所（氏）
べつじょ〔する〕〔他〕　蔑如、かろんずる、蔑視

べつしつ〔名〕　蔑櫛、たうぐし、たけぐし
べつじゃく〔名〕　轍雀、えなか（動物）
べつして〔俗〕〔副〕　別而、とりわけて、ことに
べつしん　別心、異心、ことなるこころ。ふたごころ
べつじん　別人、ことびと、餘人、他人
べつえん〔名〕　別宴、わかれのさかもり、離宴、祖宴
へつぴりむし〔名〕　氣鑿、へこきむし、くさきむし（動物）
べつぴん　別品（別して善き品）。また美女、美婦
べつもう〔名〕　蠟蠟、かつほむし、まくなぎ（動物）
べつせつ〔形〕　鱉鼈、あしおへたる。よろける
べつす〔名〕　襪子、たび、したぐつ、足衣
へなは〔名〕　綜繩、綜、はたのなは、はたをあやつるなは
へなたり〔名〕　海螺、甲螺、甲香、蠃、ばい、つぶ（香と共に焚きて香氣を增さしむる者にて海辛の如き貝）（動物）
へなつち〔名〕　埴、はに、ねばつち、粘土
へら〔名〕　篦（竹にて作れる）。胞刀（產の時に臍緒を切る者）
へらもだか〔名〕　牛舌魚（動物）
へらさぎ〔名〕　篦鷺、漫畫其體灰色を帶びて羽冠なく形狀鷺に同じく嘴稍大きく嘴頭區圓にして佝もヒの如し）
へらも〔名〕　苦草、せきしやうも（植物）
へらす〔他〕　減、減小、すくなくする

（篦鷺の圖）

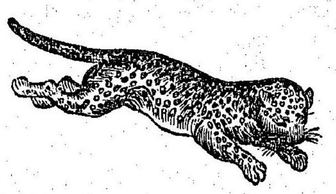


へう(名)　豹、なかつかみ(印度及亜非利加の地方に多く産する獣なり其毛色黄にして脊より両脇に黒色の斑文あり)

へう[する]　表、あらはす

へう(名)　俵、たはら(米穀等を藏むる物)

へう(名)　雹、にはあられ(雨の寒凝せる者)


豹

べう(名)　廟、たまや、やしろ

べう(形名)　眇、すがめ、偏盲、斜視

べう(名)　鉋、鏢、砲頭丁、鉚釘、飾釘

へうい(名)　表衣、はたり、うはぎ、上衣

へうはい(名)　褾褙、へうぐ(書畫巻軸を貼て仕立る事)

へうはう(名)　標榜、ふだ、めじるしふだ

べうばう(形副)　渺茫、はるかにかすむ(大洋の如く)

へうはく[する](自)　漂泊、さまよふ。ただよふ、飄泊

へうはく[する](他)　表白、あらはしまうす。のべたつる、表明

へうはふ[する]　表法、のつとる、ならふ、てほんとする

へうほう(名)　標峰、のろし

へうぼく(名)　標木、しるしぎ、めじるし

へうへつ(形)　剽撇、そよふく(風が)

へうべつ(形)　影撇、とびちる(綿等が)

へうへう(副)　飄飄、ひらひら、ひるがへりて、翻翻

べうべう(形副)　猋猋大水の溢るる貌)

べうべう(形副)　渺渺、かぎりなく ひろき、かすみわたる、渺茫、はるかにはてしなく

べうべう(形副)　眇眇、ささやか、ちひさき微微

へうとう(名)　標燈、めじるしのともしび

べうとうよう(名)　猫頭鷹、みみづく、みみあるふくろ(動物)

べうとうてう(名)　猫頭鳥、みみづく(動物)

へうちう(名)　標註、かしらがき、諸頭(書物の)

へうちう(名)　標柱、はうじぐひ、しるしぐひ

へうちう(名)　鏢蟲、くつわむし(動物)

へうちやく[する](自)　漂着、ただよひつく(難破船等が)

へうり　表裏、うちそと、うらはら、うられもて。又(互に相持し相待つを謂ふ)

へうりう[する](自)　漂流、ただよひながれる(海上等に)

へうりやく[する](名)　剽掠、かすめとる。ころしかすめる

へうりもの(名)　表裏者、うらはらもの。うちまたもの

べうか(名)　苗蝦、あみ、ぬかえび(動物)

へうかう(形)　僄佼、わるがしこき。かるがるしき

へうがう(名)　表號、めじるし。また表題

へうかく(名)　嫖客、あそびひと(女郎や藝妓を買ふ事を常にする人)

へうかん(形)　剽悍、わるくたけき、たけだけしき

べうがんせき(名)　猫眼石、猫睛石(鑛石の名)

へうだ(名)　豹駝(また駝馬ともいふ、亞非利加の産にて麒麟といふ者は之れに類す)(動物)

へうだい(名)　表題、うはがき(書籍の)

へうたう(名)　剽盗、ぬすむこと。ぬひはぎ

へうたう[する](自)　漂倒、たちぶるる、漂倒

へうたう[する](自)　漂蕩、ただよふ、もまれる(波に)

べうだう(名)　廟堂、政府をいふ、まつりごとどころ。又たまや

へうたん(名)　瓢箪、匏瓜、瓠盧、胡盧、ふくべ(植物及其果)

べうだん　廟壇、たまやのつくゑ

へうれい[する](自)　飄零、零落、たちぶれる

へうそ(名)　瘭疽、ゆびばれもの(病名)

へうそう(名)　表層、うはべ、うはかは

へうそく(名)　秉燭、手燭の類、ひやうそく

へうらく[する](自)　漂落、たちぶれる

べうら(名)　廟宇、やしろ、神社

へうぐ(名)。—する(他)　表具(書畫を貼り粧ふ事)、褾裝、表補、標褙、へうはい

べうくつ(名)　廟窟、いはあなやしろ

へうぐや(名)　表具屋、褾匠、褾裝師、裝潢師、大經師、きやうじや

へうぐし(名)　褾匠、きやうじや、大經師

へうやう(形)　飄颺、ひるがへる、まひわがる

べうまん(名副)　渺漫、かすみわたる(海洋の澗き等に謂ふ)

へうけい(形)　剽輕、みがる、かるがるしき。又へうきん

へうけい[する](他)　表揭、あらはしかかぐる

へうげる[俗](自)　漂蕩、せうだんする、とぼけごとする

へうげき[する](他)　擊撃、はやくうつ(颶風の如くに速に撃つ)

へうけん[する](自他)　表顯、あらはるる。あらはす

へうふう(名)　飄風、つちかぜ

べうこつ[にする](名)　貌忽、ゆるかせにする

へうこう[する](他)　剽劫、かすめうばふ

へうてい　豹蹄、へうのつめ(八珍味の一品)

へうてき(名)　表的、めあて、標的

へうでき[する](自)　漂溺、おぼれただよふ

へうてん(名)　標點、めじるし

べうさ(名)　錨鎖、いかりづな

へうさつ(名)　標札、ふだ、かどふだ、いへのなふだ

へうさう(名)　褾裝、へうぐ裝潢

べうさん(名)　廟算(廟堂の算定)

へうさん(名)　廟參、はかまゐり

へうき(名)　標旗、はたじるし

へうぎ(名)　剽戯(へうげごと)、たはむれ、せうだん

へうきよ[する]　漂去、ただよひさる、流失

へうきやく(名)　豹脚、やぶか[殿蚊](動物)

へうきん[俗](形)　剽輕、とぼけた、れかしげな

べうきん(名)　描金、きんまき絵(金捲畫)

へうめん(名)　表面、うはべ、うはつら、れもて

へうし(名)　褾紙、標紙、うはれはひ

へうし(名)　標紙、ふだがみ

へうし(名)　票子、かきつけ、券、單、きつて

へうし(名)　拍子(音曲に合せて拍つ所)

へうじ[する](他)　表示、あらはししめす

へうじ(名)　瓢兒、てんとうむし(動物)

へうし[する](他)　貌視、かろしめみる、みさぐる

べうしよ(名)　苗緒、由緒(ゆゑしよ)、いへすぢ

べうしよ(名)　廟所、はかどころ、墓所

へうしつ(形)　剽疾、すばやき、てばやき
へうしう[する](他)　剽襲、ぬすむ(他人の著書等を)
へうしや(名)　廟社、やしろ(神の)
へうしや[する](他)　描寫、ゑがきうつす、かきあらはす
へうしや[する](他)　表彰、はめあらはす(善行等を)
へうしき(名)　表式、かたぎしき儀禮
へうしき(名)　標識、しるし、みわぼえ、めじるし
へうしぎ(名)　拍子木、柝、蝦蟇更、擊擊て事を報ずる木)
へうしゆつ(名)　表率、てほん。また標準
へうしゆく(名)　廟祝、みやもり、はふり、神主
へうじゆん(名)　標準、ぢやうぎ。めじるし
へうえい[する]　漂泳、たたよひ、およぐ
へうえい(名)　苗裔、しそん、すゑ、末裔
へうえう(副形)　飄颻、ひるがへる風に
へうえう[する](自)　飄搖、ふるひまはる。ひるがへる
へうひ(名)　表皮、うはかは
へうび(形)　渺微、すこし、わづか
へうび(形副)　渺微、ひろくゆきわたれる(大水の充わたる貌)
へうもつ(名)　俵物、たわらもの
へうもく(名)　表目、めじるし、目錄
へうもく　眇目、かため、一眼
へうもん(名)　表文、みかどにたてまつるふみ
へうもん　表門、おもてもん
へうせい[する](他)　表旌、あらはす
へうせいせき(名)　猫睛石(猫眼石に同じ)
へうせつ　氷雪、こほりゆき

へうせつ[する](他)　剽竊、ぬすむ(他人の著書の言等を)
へうせう(名)　蠸蛸、わしたかぐも(動物)
へうせう(形)　眇少、ちひさき、わづか
へうせき(名)　標石、たていし、しるしのいし
へうせき(名)　飄石、づんばい、礫濟、ふりづんばい、いしなげ
へうぜん(副形)　飄然、ひらひら、ひるがへる
へうせん(副)　渺然、海上の景色の遠く遙かなる貌)
へうずりば(名)　豹摺矢(矢の一製)
へのこ(名)　男根、男陰、外腎、玉莖、陰莖、屌、屄
へぐ(他)　擗、批、へがす、はがす。そぐ、捕剝
へぐり　平郡(氏)また(地名)
へくそかつら(名)　百部根、天門冬、ほどつら、きじかくし(植物)
へや(名)　部屋、部家、ま、ざしき。又女の室、局、つぼね、長局(ながつぼね)
へやすみ(形名)　部屋住、房住(父母の手の下に在る。また嘗司(未だ出て仕へざる人)
へご(名)　杪欏(莎羅樹の如き樹)(植物)
へこぼり　背評(氏)
へこれび(名)　平胡帶(布絹等の一幅にて縫はぬ帶)
へこむ(自)　陷窪、くぼむ、凹下(れされて)
へこきむし(名)　行夜、へひりむし、屎盤蟲、氣蟞、負蟞(動物)
へこみ(名)　耗入、へり、めり、減

へわがる(自)　經上、なりあがる
へさき(名)　艦舳、船的、船首、みよし
へき(名)　壁壁宿(二十八宿の一にして西方にあり)
へき　日置(氏)
へき(名)　癖、くせ
へき(形)　僻、かたよれる、かたゐなかの。ひがめる、かたずんだる
へぎ(名)　樋、片木、歷木、そぎ(木等の)
へぎ、べく、べし(助語)　可、宜、應、當、合(須要適當の義又將來の意を示す)
へきいう(名)　碧友(酒を謂ふ)
へぎいた(名)　薄板、へぎたるいた、うすいた
へきいふ(名)　僻邑、ゐなかむら
へきろ(名)　碧蘆、うどのよし(植物)
へきろう(形)　僻陋、いやしき、ひなびたる
へきろん(名)　僻論、ひがごと、偏屈の談
へきはう(名)　僻邦、ゐなかぐに、僻陬之邦國
へきち(名)　僻地、かたゐなか
へきちう(名)　壁廚、れしいれ、とだな(戶棚)
へきるり(名)　碧瑠璃、あをるりだま
へきかい(名)　碧海、あをうみ、青海
へきかい　僻街、うらまち、うらどほり(市街の)
へきかう(名)　碧杳酒を謂ふ)
へきかう(名)　癖好、くせ、このみ
へきがう　僻鄉、かたゐなか
へきたい(名)　碧苔、青苔、あをごけ

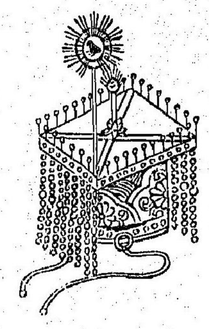
へきたう(名)　碧桃、白桃、しらもも(植物)
へきたん(名)　碧潭、ふかきふち、あをぶち
へきれい(名)　靡莠、やませり(植物)
へきれき(名)　霹靂、はたたかみ、かんだち、かむとき、かみとけ
へきそん　僻村、かたゐなか
へきら(名)　薜蘿、つたかつら、まさきかつら(植物)
へきらく(名)　碧落、あまつそら青空、あをぞら
へきむ(名)　碧夢、茶の異名)
へきくう　碧空、あをぞら
へきぐう(名)　僻隅、すみ、かたすみ
へきやうこう(名)　僻陽公、密夫、まをとこ、いろをとこ、かくしづま
へきけん(名)　壁蹯、ひらくも(動物)
へきこ(名)　壁虎、やもり(家屋の內に棲み壁天井等にとまる蟲)(動物)
へきこつ(名)　壁骨、こまへ(壁の)
へきこう(名)　僻巷、うらまち
へきこぎよ(名)　壁虎魚、くもがひ(動物)
へきこん[する](他)　闢墾、ひらきはる(土地を)
へきてい(名)　鵰鶚、いよめ、にはかいつぶり(動物)
へきでい(名)　壁泥、かべつち
へきてん(名)　碧天、あをぞら
へきでん(名)　霹電、いなびかり
へきあん(名)　僻案、ひがかんがへ、謬見
へきかう[する](自)　僻在、かたゐなかにをる
へきがう　僻居、ゐなかずまひ、僻住

へきぎょく(名)　碧玉、青玉、青琅玕、あをだま
へきぎょくちく(名)　僻鏡、ひらぐも、ひらたぐも(動物)
へきぎょう(名)　僻境、僻郷、かたゐなか
へきめい(名)　辟命、めし(官府君王の)召命
へきじ(名)　僻事、ひがごと
へきじ(名)　僻耳、ひがみみ
へきしょ　辟暑、あつさをさくる(涼き地に)
へきしょ(名)　壁書、いましめがき(父が子に與る如き)
へきしょく(名)　碧色、みどりいろ、あをいろ
へきしつ(名)　壁蝨、だに(動物)
へきしゃ(名)　蹙脊、こしぬけ、いざり
へきしゅう(名)　癖習、くせ、ならひ
へきじん(名)　壁人、かげばふし
へきじん(名)　碧潯、あをぶち、碧潭
へきえき[する](自)　辟易、たぢろぐ、よわりかへる
へきえん(名)　壁燕(暗褐色にして頷白く壁間巌穴等に巣ふ鳥)(動物)
へきえん(名)　碧淵、あをぶち、深淵
へきえん(形)　僻遠、とほきゐなか(都會より)
へきもく(名)　僻目、ひがめ
へきせい　辟世、よをさくる遁世
へきせい(形)　僻靜、さびしくものしづかなる
へきせい(名)　壁星(二十八宿の一也壁を見よ)

（壁の燕の圖）

へきせいさう(名)　壁生草、いつまでぐさ(植物)
へきせつ(名)　僻説、ひがごと、僻論
へきせう(名)　辟召、めし(君王等の)召命
へきせう(名)　碧霄、そらはだら、碧空
へきせき(名)　壁積、ひだ、そり
へきせん(名)　壁錢、ひらくも(動物)
へきすゐ　碧水、みどりのみづ(深淵等の如く)
へききん　北京(ほくきん)(支那の帝都北境に在るを以て然か名く)
へめぐる(自)　經回、ゆきめぐる、歴回、遍歴
へみ　逸見、へんみ(氏)
へしをる(他)　拗折、れしくじく
へしつける(他)　壓着、れしつくる
へしあふ　壓合、れしあふ(多人數)
へしみ(名)　壓面(假面の制に云ふ詞)、しやくみがほのめん
へび(名)　蛇、くちばみ、反鼻(動物)
へびいちご(名)　蛇苺、蔕、地苺(植物)
へびと(名)　戸人、戸口、ひとかず
へひる　放屁、ならする、へをひる
へびつかひ(名)　弄蛇者、蛇を使ふ藝人
へびのぼらず(名)　大黄蓮、また伏牛花、わりとほし(植物)
へびのだいはち(名)　斑杖、まむしぐさ(植物)
へびのあを(名)　曲節草(植物)
へす(他)　壓、れず、れしくぼめる
へす(他)　減、へらす
へん(名)　偏(漢字の左方を謂ふ)

へんぱう(名)　返報、むくい、あだかへし。かへす、むくいる
へんぱう(名)　偏房、てかけ妾、めかけ
へんぱう(名)　邊防、くにざかひのまもり(敵の侵入をふせぐ爲の國境の守備)
へんぱく(名)　扁柏、ひのき(植物)
へんぱく[する](他)　辯駁、いひせめる(他人の所論を)
へんにん[する](他)　編入、あみこむ、くみこむ
へんぱく(名)　扁蒲、ゆふご(植物)
へんぽく(名)　駢拇、むつゆび(大指の幷生せる者)
へんぽく(名)　編木、ささら
へんぼく[する](他)　鞭撲、うつ、むちうつ
へんぼん(副)　翩翻、ひらひら、ひるがへるかたち(旗鳥等が)
へんへい　便閉(大小便のつまり)、大小便閉塞
へんべつ[する](他)　辨別、わきまへわかつ、辨知
へんへき(形)　偏僻、かたづむ、ひがむ
へんぺき(名)　便僻、れもねるひと、へつらふもの
へんへん(名)　偏貶、かたにとし
へんぺん　片片、きれぎれ。ひらひら(一片一片)
へんぺん(副)　翩翩、ひらひらまひかける(鳥等が)
へんべん(形)　片跛、偏跛、あしなへ、かたちんば
へんべん[する](他)　返辨、わきまへかへそ
へんべん(副)　勉勉(つとめはげむ貌)
へんべん(副)　便便、ことこまかに又むなしくわそびて
へんべん(形)　滾滾(水流るる貌)
へんぺ(名)　邊土、ゐなか、邊鄙之處
へんとう(名)　蠻豆、かきまめ、わしまめ、ふぢまめ、ひらまめ
へんぱつ(名)　洋筆、鐵筆(英語)
へんぱつ(名)　辯(言談の巧なるを謂ふ)
へんぱつ(名)　冕、かんむり(是は支那上世の冠)
へんぱつ(名)　瓣、はなびら、の(圖)



へんぱつ(名)　花片
へんぱつ(名)　辨、わきまへ、分別。また官名、大中小あり)
へんい(名)　鞭、むち
へんい(名)　變異、あやしきこと、奇怪
へんい(名)　偏意、かたいぢ。かたよりごころ
へんい[する](自)　偏倚、かたずむ、かたよる
へんい(名)　邊夷、とほきくにのえびす
へんい(名)　便衣、ふだんぎ、褻衣
へんいふ(名)　邊邑、むらざと、ひな、僻邑
へんろ(名)　便路、ちかみち
へんろう(形)　褊陋、いやしき
へんろん(名)。—する(自)　辯論、いひあらそふこと、議論
へんぱ(形)　偏頗、かたわれ
へんぱ(形)　片跛、偏跛、あしなへ、かたちんば
へんぱ(名形)　偏頗、かたより
へんばい　返杯、さかづきをかへす(我にさしたる人に)
へんばい[する]　朴拜、てとうちをがむ
へんぱつ　編髪、あめるかみ。かみをあむ
へんぱつ(名)　辮髪、くみがみ(支那人の頭髪の如き)

め(植物)
へんとう(名)　籩豆(祭品を載る器也、方形を籩と云ひ圓形を豆と云ふ)
へんどう(名)　遍道、わうらいみち、往還道
へんどう(名)ー[する](自他)　變動、かはりうごき。うごきかはる
へんとうせん(名)　扁豆腺(咽喉の內の肉塊)
へんとく(形)　偏特、ひとへ。かたより
へんとく(名)　篇牘、てがみ、尺牘、書翰
べんどくさう(名)　便毒瘡、よこね(病名)
べんち(名)　便地、便利之地、かつてよきばしよ
べんち[する](他)　鞭笞、むちうつ
へんちよう(形)　偏重、片重、かたかたにもき
へんちつ[する](他)　貶黜、しりぞけおとす(官位を)
へんちつ(名)　篇帙、とぢまき、書册、ふみまき
へんちく(名)　篇蓄、にはやなぎ(植物)
べんり[する](他)　辨理、とりわつかふ(事務を)
べんり(形)　便利、つがふよきてがる
べんりよく[する]　勉力、つとめはげむ
べんりう(名)　晃旒、かんむり(王者等の)
べんりこうし(名)　辨理公使(外國公使但し全權よ非ず)。代辨公使
へんるうだ(名)　芸香(うゐきやう)(植物)
へんとく(名)　偏屋、さしかけや、かたびさし
へんか(名)　返歌、かへしうた
へんかい　遍界、世界中、遍地
へんかい[する](他自)　變改、かへあらたむる
べんかい[する](他)　辨解、いひとく、いひひらく
へんかつ[する]　片割、そぎわる
へんかつ(形)　偏闊、かためくら
へんかう(形)　偏向、かたむき、ひとむき
へんかう[する](他)　變更、あらたむる、かふる
へんかく(名)ー[する](他)　變革、かへあらためること、かへあらたむる
へんがく(名)　扁額(額面を謂ふ)、かけがく
べんがく[する]　勉學、勤學、つとめまなぶ
へんかん(名)　返簡、返翰、へんじてがみ
へんかん(名)　篇簡(書册をいふ)
べんよ(名)　便輿、かご、わんだ、わじろごし
へんたい(名)　邊帶、ささべり、へり
へんだい(名)　篇題、題號、題名
べんたい(名)　冕帶(冠の紐)、かむりひも
べんたつ[する](他)　鞭撻、むちうつ、たたく
へんたう(名)　扁桃(桃の類)(植物)
へんたう(名)　匾條、ひらうちひも
べんたう(名)　便當、行厨(行先に食ふ飯)
べんたうばこ(名)　便當箱(便當を運ぶ箱)、めしいればこ
へんたうゆ(名)　扁桃油(扁桃より取る油)
へんたく[する](他)　貶謫、れとしうつす(官人を官位より貶して他の地方に移す)
へんたく(名)　泛宅(舟を云ふ)
へんたふ(名)ー[する](自)　返答、こたへ、こたふる
へんたん[する](自)　偏袒、かたはだぬぐ(天竺人の如く)

へんれい(名)　返禮、かへすれいごと
べんれい[する](自)　勉勵、つとめはげむ
へんれき[する](自)　遍歷、へめぐりわたる
へんそく　變則(正則に非ざる捷徑をいふ)
へんづ　蔓豆(へんとう)、おぢまめ、ひらまめ(植物)
へんつくり　偏傍(漢字の左右を謂ふ)
へんつき(名)　偏突(漢字の傍を見せて偏を當さする戲)
べんねい(形名)　便佞(口才あつて人に取りいると謂ふ)
へんねん　偏念、かたよりれもひ
へんなう(名)　片腦(藥品)
へんなふ[する](他)　返納、かへしをさむる
へんら[する](自他)　駢羅、並列、ならぶ、ならぶる
へんら(名)　扁螺、しじみ(動物)
べんらい　便賴、たよりよる、よりたのむ
へんらん(名)　變亂、さわぎみだれ
へんらん(名)　篇籃、よつでかご
へんうん(名)　片雲、むらくも
へんくわ(名)ー[する](自他)　變化、かはり。かはる、かはらす
[へんくわい](名)　片回、かたかへり(鷹の二歳なる者)(動物)
へんくわん[する](自他)　變換、かはる。かふる
へんくわん(名)　邊關、くにざかひのせき(國境の關門)
べんくわん[する](自)　扑歡、てうちよろこぶ
べんくわん(名)　辨官、古の大政官の次官を謂ふ)
へんくつ(形)　偏屈、かたくるしき、ひがみたる、拘泥、拘執
へんぐう(名)　片隅、邊隅、かたすみ
へんやく[する](他)　編譯、あみうつす(他國の書物等を我に)
へんやく　變約、やくそくをかへる
べんやく[する](自)　扑躍、てうちをどる
へんまう(形)　偏盲、かためくら
べんまく(名)　辨膜、うもかは
へんまん[する](自)　徧滿、あまねくみつる
へんまん[する](他)　嘸瞞、だましあざむく
へんげ(名)　變化、妖精、妖怪、ばけもの
へんけい　邊警、くにざかひのそなへ、邊境警備
へんけい(形)　偏輕、かたがる
べんけいさう(名)　景天草、いきくさ(植物)
べんけいじま(名)　辨慶縞、碁盤目形の模様)
べんけつ　便血、大小便に血の交れるを云ふ)
へんけふ(形)　褊狹、せまき、ちひさき
へんけふ(名)　駢脅、いちまいあばら、晋文公の如く肋骨の只一枚なるを謂ふ)
へんけん(名)　偏見、ひがみ、かたよりかんがへ
へんげん　片言、かたこと、ことなかば
べんぶ[する](自)　扑舞、てうちまふ、およいによろこぶ
へんぶつ(名)　偏物、かたくなもの、へんじん
へんぷく(名)　蝙蝠、伏翼、かはほり、かうもり(動物)
へんこ(名)　編戸、あみど
へんこ(形)　偏固、かたいぢ偏屈
へんこ(名)　變故、かはりごと、事變
べんご(名)ー(他)　辯護、かばひいひとく(代言人が囚徒の爲に)。いひたすくる
へんこう(名)　邊寇(國境に攻入る敵)